

# 病院年報

第24卷「2014」



愛知県 豊橋市民病院

「病院年報」

表紙題字 名譽院長 故 森 泰 樹



# 序



病院長 岡村 正造

2014年版の病院年報をお届けさせていただくに当たりご挨拶申し上げます。

年報は私たちの1年間の各部署での業績を整理して院外の多くの方々にお示しすると同時に、私たち職員自身が年報に示された成績をもとにこの1年間を振り返り、翌年への抱負に思いを馳せ、その達成に向けて改善に取り組むための記録誌です。

当院の医療経営は職員一同のたゆまぬ努力により年々着実に改善し、平成26（2014）年度も4年連続の黒字決算となりました。しかし、今後は消費税増税に伴う支払い額が診療報酬による穴埋め額を大きく上回ることが病院経営に甚大なる悪影響を及ぼす可能性があり油断できない状況です。最近の健全経営体質を何としても維持し、今後も積極的に最先端医療に取り組み、職員の皆さんが生き生きと働ける病院、これからも働き続けたいと思う病院にするべく院内の環境整備に力を注ぎます。平成28（2016）年8月には最新の放射線治療機器を集約した新棟とその周囲に安らぎの空間などの環境整備が完成する予定です。同時に、職員の学会や研修会などへの参加機会の増加などに努め、当院の診療の質の向上に繋げたいと思っています。

ところで、医療情報課の皆様のご尽力により2012年版の年報から診療実績や医療の質を評価する各種臨床指標、各科別の検査ならびに治療実績などを表やグラフ化し、目を通しやすい冊子にするために改善を重ねつつあります。その中で、残すべき大事な記録と、逆に削除できる記録の拾い上げに頭を悩まされます。今後の年報のさらなる改善に向けて、忌憚のないご意見、ご感想を医療情報課までお寄せ下されば幸いです。

最後に、当院のこんなにも多くの部署の膨大な業績をまとめ、この分厚い年報を作成するために惜しみない努力を払われた編集委員の皆さんに深く感謝いたします。そして、職員一同は編集委員の皆さんの努力に報いるべく本誌を最大限に活用し、今後の活動の改善に役立てるよう切に願って筆を擱きます。



## 豊橋市民病院の理念

信頼に応える技術、人に優しい思いやりのある心、  
地域に開かれた安らぎのある病院

## 豊橋市民病院の基本方針

1. 地域に開かれた信頼のある病院、患者に優しい思いやりのある医療を目指します。
2. 地域の基幹病院としてふさわしい高度な医療を提供するとともに、特殊医療、救急医療等を積極的に受け持ちます。
3. 基幹病院としての役割を担いながら、他の医療機関との間の有機的な連携のもとに当院の行うべき医療活動を推進します。
4. 医学及び医療技術の研鑽に努めるとともに、医学・医療の進歩に寄与します。
5. 研修医、医学部学生、看護学生、コメディカル、救急救命士などの教育を積極的に行います。
6. 地域住民の保健知識の普及に努め、健康増進活動に参加します。
7. 公共性と経済性を考慮し、健全な病院経営に努めます。
8. 安全医療の推進に努めます。

## 患者の権利と責任

豊橋市民病院は、十分に説明され、理解し納得した上での同意を基本姿勢として、患者さんと信頼関係で結ばれた医療を目指しています。ここに患者さんの権利と責任について明らかにし、病院と患者さんが協力して理想的な医療を行うために以下のことを確認します。

### 1. 最善の医療を受ける権利

患者さんは、生命の尊重と人間愛に基づいた最善の医療を受ける権利を有します。

### 2. 知る権利

患者さんは、病名、症状、予後、検査と治療の内容と危険性、薬の効果と副作用などについて十分に理解できるまで説明を受けることができます。医師は、薬の治験など、研究途上にある医療行為を行う場合には事前に患者さんに説明をする義務があります。患者さんは、治療に要する見込みの費用や、要した費用の明細について説明を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によりご家族、代理の方に説明することがあります。

### 3. 自己決定の権利

患者さんは、緊急時などの場合を除き、十分な情報と医療従事者の助言を得た上で、ご自分の意志により、検査、治療などの医療行為に同意、選択或いは拒否する権利を有し、その場合に医学的にどのような結果になるかを知らされる権利を有します。

また、患者さんは担当医などの医療従事者を選択すること、紹介状を請求して別の病院にかかわること及び患者さんの求める他の医師の意見を聞くことができます。

### 4. プライバシーが保護される権利

患者さんは、個人の情報を直接医療にかかわる医療従事者以外の第三者に開示されない権利を有します。また、私的なことに干渉されない権利を有します。

### 5. 参加と共同の責任

これらの権利を守るため、患者さんは医療従事者と力を合わせて医療に参加、協力する責任があります。

# 目 次

I	沿革	1
II	現況	3
	1. 施設の概要	3
	2. 承認事項・診療科の状況	4
	3. 病床の状況	4
	4. 機構図	5
	5. 職員数	6
	6. 病棟別病床数	6
	7. 施設案内	7
	8. 指定医療機関及び専門医研修施設等	8
III	患者動向	11
	1. 入院科別患者数	11
	2. 外来科別患者数	12
	3. 病棟別患者数	13
	4. 救命救急センター患者数	14
	5. 地域別患者割合	14
	6. 紹介・逆紹介患者数及び率	14
	7. 手術件数	15
	7-2. 腹腔鏡・胸腔鏡・関節鏡手術件数	15
	8. 分娩件数	15
IV	疾病統計	17
	1. 入院患者の疾病分類別（大分類）患者数	17
	2. 年代別年間死亡患者数	17
	3. 悪性新生物新患者数	18
	4. 死亡要因上位件数	18
	5. 24時間以内死亡患者数	19
V	診療業務概要、活動報告	21
	総合内科	21
	呼吸器内科・アレルギー内科	22
	消化器内科	24
	循環器内科	26
	腎臓内科	28
	血液浄化センター	29
	糖尿病・内分泌内科	30
	神経内科	31
	血液・腫瘍内科	32
	一般外科・小児外科・肛門外科	34
	呼吸器外科	38
	心臓外科・血管外科	39
	移植外科	40
	整形外科	41



リウマチ科	43
脊椎外科	45
形成外科	46
脳神経外科	47
小児科	49
小児科（新生児）・周産期母子医療センター（新生児部門）	50
産婦人科・周産期母子医療センター（母体・胎児部門）	52
産婦人科（生殖医療）・総合生殖医療センター	56
女性内視鏡外科	57
耳鼻いんこう科	58
眼科	59
皮膚科	62
泌尿器科	63
放射線科	64
こころのケア科	65
麻酔科	66
リハビリテーション科・リハビリテーションセンター	68
病理診断科	69
臨床検査科	70
歯科口腔外科・口唇口蓋裂センター	72
救急外来センター	73
救急入院センター	74
集中治療センター	75
予防医療センター	76
輸血・細胞治療センター	78
感染症管理センター	79
外来治療センター	81
手術センター	83
患者総合支援センター	84
卒後臨床研修センター	86
医療安全管理室	87
診療技術局	88
放射線技術室	89
中央臨床検査室	94
リハビリテーション技術室	105
臨床工学室	108
栄養管理室	117
薬局	120
看護局	126
事務局	127
ドクタークラーク	135
VI 研究・業績	139
VII 院内委員会の活動記録	191

# I 沿 革



# I 沿 革

明治21 (1888) 年	6月	私立豊橋慈善病院として開業
明治35 (1902) 年	6月	社団法人豊橋病院と改組
昭和7 (1932) 年	6月	社団法人豊橋病院を買収して、市立豊橋病院を開院
昭和21 (1946) 年	7月	豊橋市立豊橋市民病院と改称
昭和26 (1951) 年	7月	豊橋市民病院改称 (医療法による総合病院に指定)
昭和46 (1971) 年	3月	人工腎臓センター新設
昭和57 (1982) 年	3月	救命救急センター完成 (地下1階、地上6階)
	3月	リハビリテーションセンター完成 (地下1階、地上3階)
平成5 (1993) 年	4月	「臨床研修病院」の指定
平成8 (1996) 年	5月	豊橋市民病院桜ヶ岡分院を統合し、青竹町地内に移転
	5月	健診センター新設
	6月	病診連携室新設
	11月	「地域災害医療センター」の指定 (災害拠点病院の指定)
平成9 (1997) 年	12月	(財)日本医療機能評価機構より「病院機能評価」の認定を受ける
平成10 (1998) 年	4月	輸血センター新設
	7月	「地域周産期母子医療センター」の認定を受ける
平成11 (1999) 年	4月	「第2種感染症指定医療機関」の指定
	4月	不妊センター新設
平成12 (2000) 年	8月	許可病床数 910 床に変更
平成13 (2001) 年	4月	人工腎臓センターを血液浄化センターに変更
平成14 (2002) 年	4月	「へき地医療拠点病院」の指定
	4月	未熟児センターを新生児医療センターに変更
	8月	治験管理センターを設置
平成15 (2003) 年	2月	(財)日本医療機能評価機構より2回目の「病院機能評価 (一般病院)」の認定を受ける
	4月	感染症管理センターを設置
	8月	「地域がん診療拠点病院」の指定
平成16 (2004) 年	4月	健診センターを予防医療センターに変更
平成17 (2005) 年	4月	機構改革により医療安全管理室の設置
	6月	「DPC (診断群分類による包括医療制度) 調査協力病院」の認定を受ける
平成18 (2006) 年	4月	院内保育所開設
	5月	外来治療センターを設置
	6月	「DPC対象病院」に認定されDPC制度による診療報酬請求の開始
平成19 (2007) 年	12月	(財)日本医療機能評価機構より3回目の「病院機能評価 (審査体制区分4)」の認定を受ける
平成20 (2008) 年	2月	「地域がん診療連携拠点病院」の指定 (2回目)
平成21 (2009) 年	2月	「豊橋市民病院改革プラン」を策定
平成22 (2010) 年	4月	患者総合支援センター開設
	5月	病院総合情報システム (電子カルテシステム) 稼働

	7月	「7対1看護基準」の取得
平成23（2011）年	2月	「豊橋市民病院改革プラン（改訂版）」を策定
	12月	「NPO法人卒後臨床研修評価機構」の認定を受ける〔認定期間 2011.12.1～2013.11.30〕
平成24（2012）年	4月	許可病床数836床に変更（一般病床811床・結核病床15床・感染症病床10床）
	12月	（財）日本医療機能評価機構より4回目の「病院機能評価（審査体制区分6）」の認定を受ける
平成25（2013）年	10月	手術支援ロボットシステム「ダヴィンチ」を導入
	11月	救命救急センターを、救急外来センター、救急入院センター及び集中治療センターに変更
	12月	地域連携登録医制度の導入
	12月	「NPO法人卒後臨床研修評価機構」の更新認定〔認定期間 2013.12.1～2017.11.30〕
平成26（2014）年	2月	「第2次豊橋市民病院改革プラン」を策定
	4月	許可病床数820床に変更（一般病床800床・結核病床10床・感染症病床10床）
	4月	総合周産期母子医療センター及びバースセンター開設
	7月	輸血センターを輸血・細胞治療センターに変更
	9月	「地域医療支援病院」の名称承認を受ける
平成27（2015）年	3月	「地域がん診療連携拠点病院」の指定（3回目）

## Ⅱ 現 況



## Ⅱ 現 況

(平成27(2015)年3月31日)

### 1. 施設の概要

所在地	豊橋市青竹町字八間西50番地	
施設規模	敷地面積(企業会計財産)	92,204.52㎡
	建物延面積	57,083.18㎡
	建物	地上9階 鉄骨・鉄筋コンクリート造
	診療部門	13,621.75㎡
	病棟部門	21,376.79㎡
	(感染症病床422.78㎡を含む)	
	救命救急センター	2,620.90㎡
	(集中治療室1,451.72㎡を含む)	
	新生児医療センター	525.55㎡
	リハビリテーションセンター	818.97㎡
	血液浄化センター	418.03㎡
	予防医療センター	199.15㎡
	外来治療センター	257.60㎡
	患者総合支援センター	235.15㎡
	サービス部門	10,946.79㎡
	管理部門	6,062.50㎡



## 2. 承認事項・診療科の状況

### (1) 承認事項

開業開始年月日	法適用年月日	法適用区分	救急告示の有無
昭和7年6月1日	昭和39年4月1日	当然財務	有(30床) (平成23年7月5日)

### (2) 診療科

内 科	呼 吸 器 内 科	消 化 器 内 科	循 環 器 内 科
ア レ ル ギ ー 科	感 染 症 内 科	腎 臓 内 科	糖 尿 病 ・ 内 分 泌 内 科
神 経 内 科	血 液 ・ 腫 瘍 内 科	外 科	呼 吸 器 外 科
心 臓 外 科	血 管 外 科	小 児 外 科	肛 門 外 科
移 植 外 科	整 形 外 科	リ ウ マ チ 科	形 成 外 科
脳 神 経 外 科	小 児 科	小 児 科 ( 新 生 児 )	産 婦 人 科
産 婦 人 科 ( 生 殖 医 療 )	耳 鼻 い ん こ う 科	眼 科	皮 膚 科
泌 尿 器 科	放 射 線 科	精 神 科	麻 酔 科
救 急 科	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科	病 理 診 断 科	歯 科 口 腔 外 科

## 3. 病床の状況

許 可 病 床 数	一 般	精 神	結 核	感 染 症	合 計
	800床	—	10床	10床	820床

特 定 入 院 料 算 定 病 床	救 急 入 院	I C U	M F I C U	N I C U	小 児 ( N M C )	小 児 ( 東 2 )
	24床	6床	6床	12床	23床	43床



## 5. 職員数

平成27(2015)年3月31日

区 分		人数(人)
医 師 職	医 師	175
	歯 科 医 師	5
医療技術職	薬 剤 師	40
	診療放射線技師	36
	臨床検査技師	42
	理学療法士	19
	作業療法士	8
	言語聴覚士	4
	臨床工学技士	10
	管理栄養士	4
	視能訓練士	3
	歯科衛生士	3

区 分		人数(人)
看護保健職	助産師	25
	看護師	650
	准看護師	3
一般行政職	管理課	23
	医療情報課	7
	医事課	16
	医療安全管理室	2
	栄養管理室	1
	医局(臨床心理士)	1
	看護局(保健師)	1
	技能労務職	管理課
医事課	1	
合 計		1,080

※ 研修医及び臨時職員は除く。

## 6. 病棟別病床数

平成27(2015)年3月31日

区 分	許可病床(床)	病 床 内 訳(床)
東病棟 2階	43	小児科35 小児外科4 耳鼻いんこう科(小児)4
〃 3階	50	循環器内科28 呼吸器外科8 心臓・血管外科9 腎臓内科5
〃 4階	26	産婦人科26
〃 5階	50	一般外科39 消化器内科7 形成外科2 移植外科2
〃 6階	52	消化器内科47 呼吸器内科5
〃 7階	51	呼吸器内科36 耳鼻いんこう科15
〃 8階	51	整形外科・リウマチ科48 産婦人科(生殖医療)3
〃 9階	49	糖尿病・内分泌内科11 産婦人科22 眼科16
西病棟 2階	46	脳神経外科28 神経内科10 腎臓内科8
〃 3階	30	全科30(集中治療6 救急入院24)
〃 4階	24	産婦人科24
〃 5階	50	一般外科37 皮膚科10 消化器内科3
〃 6階	52	消化器内科49 糖尿病・内分泌内科3
〃 7階	52	呼吸器内科44 歯科口腔外科8
〃 8階	48	泌尿器科35 整形外科13
〃 9階	51	血液・腫瘍内科51
南病棟 1階	40	神経内科24 整形外科・リウマチ科16
〃 2階	20	結核10 感染症10
新生児医療センター	35	小児科(新生児)35
計	820	

### 診療科別病床数

呼吸器内科	85床	小児外科	4床	眼 科	16床
消化器内科	106	移植外科	2	皮 膚 科	10
循環器内科	28	整形外科	77	泌 尿 器 科	35
腎臓内科	13	形成外科	2	歯科口腔外科	8
糖尿病・内分泌内科	14	脳神経外科	28	集中治療センター	6
神経内科	34	小児科	35	救急入院センター	24
血液・腫瘍内科	51	小児科(新生児)	35	感染症病棟	10
一般外科	76	産婦人科	72	結核病棟	10
呼吸器外科	8	産婦人科(生殖医療)	3	計	820
心臓・血管外科	9	耳鼻いんこう科	19		

## 7. 施設案内

平成27(2015)年3月31日

名称	各階	主な施設
診療棟	1階	総合内科 呼吸器内科・アレルギー内科 消化器内科 循環器内科 腎臓内科 神経内科 血液・腫瘍内科 整形外科 リウマチ科 形成外科 産婦人科（生殖医療）・総合生殖医療センター 脊椎外科 移植外科 放射線科 一般外科 小児外科 呼吸器外科 心臓外科・血管外科 肛門外科 麻酔科（ペインクリニック） 脳神経外科 泌尿器科 救急外来センター 救急外来・入院受付 外来治療センター エックス線撮影室 CT室 テレビカメラ室 MRI室 内視鏡・エコー室 アイソトープ室 放射線治療室 薬局 医事課 総合案内所 防災センター
	2階	糖尿病・内分泌内科 こころのケア科 皮膚科 耳鼻いんこう科 産婦人科 小児科 病理診断科 臨床検査科 歯科口腔外科・口唇口蓋列センター 眼科 血液浄化センター 予防医療センター 中央臨床検査室 感染症管理センター 輸血・細胞治療センター 薬局 臨床工学室 中央滅菌材料室 中央倉庫 カルテ室 中央監視室 レストラン 売店
	3階	新生児医療センター 手術センター 院長室 医療安全管理室 副院長室 医 局長室 医局 看護局長室 人事科 管理科 業務科 教育科 事務局長室 管理課 医療情報課 医学情報室 診療記録管理室 講堂 応接室 会議室 当直室 仮眠室 更衣室 電話交換室 サーバ室 職員食堂
管理棟	1階	院内保育所
	2階	情報研修室 レセプト点検室
	3階	研修医室
更衣棟	1階	清掃控室 委託業者用更衣室
	2階	組合事務所 更衣室
東病棟	1階	給食調理室 栄養管理室 理容室
	2階	小児科 小児外科 耳鼻いんこう科（小児）
	3階	呼吸器外科 心臓外科・血管外科 循環器内科 腎臓内科
	4階	産婦人科・バースセンター
	5階	一般外科 消化器内科 形成外科 移植外科
	6階	消化器内科 呼吸器内科
	7階	呼吸器内科 耳鼻いんこう科
	8階	整形外科 産婦人科（生殖医療） リウマチ科
	9階	糖尿病・内分泌内科 産婦人科 眼科
西病棟	1階	リハビリテーションセンター 栄養指導室 解剖室 霊安室 患者総合支援セ ンター・がん相談支援センター 喫茶室
	2階	脳神経外科 神経内科 腎臓内科
	3階	集中治療センター（ICU）・救急入院センター
	4階	産婦人科・母体胎児集中治療室
	5階	一般外科 皮膚科 消化器内科
	6階	消化器内科 糖尿病・内分泌内科
	7階	呼吸器内科 歯科口腔外科
	8階	泌尿器科 整形外科
	9階	血液・腫瘍内科
南病棟	1階	整形外科 神経内科 リウマチ科
	2階	結核病床 感染症病床

## 8. 指定医療機関及び専門医研修施設等

### (1) 機関指定

- ・ 保険医療機関
- ・ 労災保険指定病院
- ・ 更生医療指定病院
- ・ 育成医療指定病院
- ・ 母体保護法指定医
- ・ 被爆者一般疾病医療機関
- ・ 児童福祉施設(助産施設)
- ・ エイズ治療拠点病院
- ・ 日本病院会・優良短期人間ドック施設
- ・ 救命救急センター
- ・ 地域がん診療連携拠点病院
- ・ 総合周産期母子医療センター
- ・ 不特定不妊治療指定医療機関
- ・ 難病指定医療機関
- ・ 救急病院
- ・ 生活保護指定病院
- ・ 養育医療指定病院
- ・ 結核指定医療機関
- ・ 身体障害者福祉法指定医
- ・ 公害医療機関
- ・ 基幹型臨床研修病院
- ・ 単独型臨床研修施設(歯科)
- ・ 災害拠点病院
- ・ 第二種感染症指定医療機関
- ・ へき地医療拠点病院
- ・ DMAT指定医療機関
- ・ 地域医療支援病院
- ・ 指定小児慢性特定疾病医療機関

### (2) 施設基準届出事項

#### ○基本診療料

- ・ 一般病棟入院基本料(7対1入院基本料)
- ・ 結核病棟入院基本料(7対1入院基本料)
- ・ 総合入院体制加算2
- ・ 臨床研修病院入院診療加算(医科・歯科)1
- ・ 救急医療管理加算
- ・ 超急性期脳卒中加算
- ・ 妊産婦緊急搬送入院加算
- ・ 診療録管理体制加算2
- ・ 医師事務作業補助体制加算2(30対1)
- ・ 急性期看護補助体制加算(50対1)
- ・ 重症者等療養環境特別加算
- ・ 無菌治療室管理加算1
- ・ がん診療連携拠点病院加算
- ・ 栄養サポートチーム加算
- ・ 医療安全対策加算1
- ・ 感染防止対策加算1・感染防止対策地域連携加算
- ・ 患者サポート体制充実加算
- ・ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ・ ハイリスク妊娠管理加算
- ・ ハイリスク分娩管理加算
- ・ 退院調整加算
- ・ 新生児特定集中治療室退院調整加算1及び2
- ・ 新生児特定集中治療室退院調整加算3
- ・ 救急搬送患者地域連携紹介加算
- ・ 救急搬送患者地域連携受入加算
- ・ 総合評価加算
- ・ 呼吸ケアチーム加算
- ・ データ提出加算2
- ・ 救命救急入院料1
- ・ 救命救急入院料注3に掲げる加算
- ・ 救命救急入院料注7に掲げる小児加算
- ・ 特定集中治療室管理料4
- ・ 特定集中治療室管理料注2に掲げる小児加算
- ・ 新生児特定集中治療室管理料1
- ・ 総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児集中治療室管理料)
- ・ 小児入院医療管理料2
- ・ 地域歯科診療支援病院歯科初診料
- ・ 歯科外来診療環境体制加算
- ・ 歯科診療特別対応連携加算

#### ○特掲診療料関係

- ・ 高度難聴指導管理料
- ・ 糖尿病合併症管理料
- ・ がん性疼痛緩和指導管理料
- ・ がん患者指導管理料1
- ・ 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
- ・ 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
- ・ 網膜再建術

- ・がん患者指導管理料 2
- ・がん患者指導管理料 3
- ・移植後患者指導管理料(臓器移植後)
- ・糖尿病透析予防指導管理料
- ・院内トリアージ実施料
- ・外来放射線照射診療料
- ・開放型病院共同指導料
- ・地域連携診療計画管理料(大腿骨頸部骨折・脳卒中)
- ・がん治療連携計画策定料
- ・がん治療連携管理料
- ・肝炎インターフェロン治療計画料
- ・薬剤管理指導料
- ・医療機器安全管理料 1
- ・医療機器安全管理料 2
- ・医療機器安全管理料(歯科)
- ・歯科治療総合医療管理料
- ・持続血糖測定器加算
- ・造血器腫瘍遺伝子検査
- ・H P V 核酸検出
- ・H P V 核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
- ・検体検査管理加算(Ⅳ)
- ・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- ・植込型心電図検査
- ・時間内歩行試験
- ・ヘッドアップティルト試験
- ・皮下連続式グルコース測定
- ・長期継続頭蓋内脳波検査
- ・神経学的検査
- ・小児食物アレルギー負荷検査
- ・内服・点滴誘発試験
- ・センチネルリンパ節生検(併用)
- ・C T 撮影及びM R I 撮影
- ・大腸C T 撮影加算
- ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- ・外来化学療法加算 1
- ・無菌製剤処理料
- ・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・歯科口腔リハビリテーション料 2
- ・透析液水質確保加算 1
- ・一酸化窒素吸入療法
- ・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
- ・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
- ・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
- ・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
- ・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
- ・経皮的冠動脈形成術
- ・経皮的冠動脈ステント留置術
- ・経皮的中隔心筋焼灼術
- ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
- ・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
- ・経皮的大動脈遮断術
- ・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
- ・腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
- ・ダメージコントロール手術
- ・腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術
- ・体外衝撃波胆石破碎術
- ・腹腔鏡下肝切除術
- ・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
- ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- ・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
- ・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
- ・腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
- ・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
- ・同種死体腎移植術
- ・生体腎移植術
- ・腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術
- ・膀胱水圧拡張術
- ・腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
- ・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
- ・人工尿道括約筋植込・置換術
- ・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
- ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
- ・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6 歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
- ・輸血管管理料Ⅰ
- ・輸血適正使用加算
- ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
- ・内視鏡手術用支援機器加算
- ・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
- ・麻酔管理料(Ⅰ)
- ・麻酔管理料(Ⅱ)
- ・放射線治療専任加算
- ・外来放射線治療加算
- ・高エネルギー放射線治療
- ・1回線量増加加算

組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)  
 脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術

・ 定位放射線治療  
 ・ 病理診断管理加算 1  
 ・ 口腔病理診断管理加算 1  
 ・ クラウン・ブリッジ維持管理料

(3) 専門医研修施設等

・ 日本内科学会認定教育病院  
 ・ 日本消化器内視鏡学会認定指導施設  
 ・ 日本消化器集団検診学会認定指導施設  
 ・ 日本呼吸器内視鏡学会認定医認定施設  
 ・ 日本腎臓学会研修施設  
 ・ 日本消化器外科学会専門医修練施設  
 ・ 日本整形外科学会専門医研修施設  
 ・ 日本手外科学会手外科認定研修施設  
 ・ 日本小児科学会専門医研修施設  
 ・ 日本眼科学会専門医研修施設  
 ・ 日本泌尿器科学会専門医教育施設  
 ・ 日本病理学会認定施設  
 ・ 日本救急医学会認定医指定施設  
 ・ 日本神経学会認定教育施設  
 ・ 日本血液学会認定医研修施設  
 ・ 日本口腔外科学会認定専門医研修施設  
 ・ 日本乳癌学会研修認定関連施設  
 ・ 日本臨床腫瘍学会専門医研修認定施設  
 ・ 日本脳卒中学会認定研修教育病院  
 ・ 日本周産期・新生児医学会周産期(新生児)専門医基幹研修施設  
 ・ 日本周産期・新生児医学会周産期(母体・胎児)専門医基幹研修施設  
 ・ 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設  
 ・ 日本高血圧学会専門医認定施設

・ 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設  
 ・ 日本消化器病学会認定医認定施設  
 ・ 日本呼吸器学会認定医認定施設  
 ・ 日本アレルギー学会認定教育施設  
 ・ 日本外科学会認定医修練施設  
 ・ 日本呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設  
 ・ 日本形成外科学会認定医教育関連施設  
 ・ 日本脳神経外科学会専門医訓練施設  
 ・ 日本産科婦人科学会認定医卒後研修施設  
 ・ 日本産科婦人科学会生殖補助医療実施登録施設  
 ・ 日本婦人科腫瘍学会専門医制度規則指定修練施設  
 ・ 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設  
 ・ 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設  
 ・ 日本皮膚科学会認定専門医研修施設  
 ・ 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関  
 ・ 日本麻酔科学会麻酔科認定病院  
 ・ 日本透析医学会認定施設  
 ・ 日本リウマチ学会教育施設  
 ・ 日本大腸肛門病学会専門医修練施設  
 ・ 日本静脈経腸栄養学会NST実地修練認定教育施設  
 ・ 日本精神神経学会精神科専門医研修施設  
 ・ 日本総合病院精神医学会専門医研修施設  
 ・ 日本生殖医学会生殖医療専門医制度認定研修施設

(4) 研修施設等(名称・認定団体)

①放射線技術室

マンモグラフィ検診施設認定  
 日本消化器がん検診学会認定指導施設

マンモグラフィ検診精度管理中央委員会  
 日本消化器がん検診学会

②中央臨床検査室

日本臨床検査標準協議会精度保障施設  
 日本臨床細胞学会認定施設  
 認定臨床微生物検査技師制度研修施設  
 認定輸血検査技師制度指定施設

日本臨床検査標準協議会  
 日本臨床細胞学会  
 日本臨床微生物学会  
 日本輸血細胞治療学会

③栄養管理室

NST(栄養サポートチーム)稼働施設  
 「栄養サポートチーム専門療法士」認定教育施設  
 NST 稼働施設

日本静脈経腸栄養学会  
 日本静脈経腸栄養学会  
 日本栄養療法推進協議会

## Ⅲ 患者動向





### Ⅲ 患者動向

#### 1. 入院科別患者数

区 分	平成26(2014)年度			平成25(2013)年度			平成24(2012)年度		
	延患者数 (人)	1日平均 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	1日平均 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	1日平均 (人)	構成比 (%)
内 科	119,018	326	46.0	123,276	338	46.4	114,158	313	43.4
総合内科	0	0	0.0	0	0	0.0	2	0	0.0
呼吸器内科	28,152	77	23.7	31,189	85	25.3	24,599	67	21.6
消化器内科	40,222	110	33.8	40,391	111	32.8	38,965	107	34.1
循環器内科	10,155	28	8.5	10,811	30	8.8	9,602	26	8.4
アレルギー内科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染症内科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
腎臓内科	6,779	19	5.7	5,264	14	4.3	5,051	14	4.4
糖尿病・内分泌内科	3,964	11	3.3	3,545	10	2.9	3,321	9	2.9
神経内科	14,190	39	11.9	14,337	39	11.6	12,967	36	11.4
血液・腫瘍内科	14,022	38	11.8	15,956	44	12.9	17,383	48	15.2
結 核	1,534	4	1.3	1,783	5	1.4	2,268	6	2.0
外 科	25,004	68	9.7	27,003	74	10.2	28,773	79	10.9
呼吸器外科	4,032	11	1.6	3,476	9	1.3	2,873	8	1.1
心臓・血管外科									
移植外科	627	2	0.2	490	1	0.2	170	0	0.1
整形外科	24,319	67	9.4	26,729	73	10.1	26,484	73	10.1
形成外科	207	1	0.1	334	1	0.1	425	1	0.1
脳神経外科	10,691	29	4.1	10,910	30	4.1	12,841	35	4.9
小児科	20,739	57	8.0	20,710	57	7.8	22,010	60	8.4
産婦人科	19,936	55	7.7	19,349	53	7.3	22,151	61	8.4
耳鼻いんこう科	6,675	18	2.6	6,612	18	2.5	7,312	20	2.8
眼 科	6,326	17	2.5	5,388	15	2.0	4,933	13	1.9
皮 膚 科	4,033	11	1.6	3,516	10	1.3	5,311	15	2.0
泌尿器科	14,217	39	5.5	14,626	40	5.5	13,242	36	5.0
放射線科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
麻 酔 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
こころのケア科	-	-	-	-	-	-	-	-	-
歯科口腔外科	2,668	7	1.0	3,066	8	1.2	2,453	7	0.9
計 ①	258,492	708	100	265,485	727	100	263,136	721	100
前 年 度 ②	265,485	727	-	263,136	721	-	268,809	734	-
比 較 (① - ②)	△ 6,993	△ 19	-	2,349	6	-	△ 5,673	△ 13	-

## 2. 外来科別患者数

区 分	平成26(2014)年度			平成25(2013)年度			平成24(2012)年度		
	延患者数 (人)	1日平均 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	1日平均 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	1日平均 (人)	構成比 (%)
内 科	163,083	668	33.7	160,409	657	33.1	157,277	642	31.7
総合内科	10,436	43	6.4	10,306	42	7.3	11,484	47	7.3
呼吸器内科	24,417	100	15.0	22,773	93	13.2	20,751	85	13.2
消化器内科	50,799	208	31.2	48,245	198	30.1	47,346	193	30.1
循環器内科	17,446	72	10.7	17,267	71	10.7	16,857	69	10.7
アレルギー内科	166	1	0.1	1,098	5	1.3	1,975	8	1.3
感染症内科	41	0	0.0	43	0	0.0	19	0	0.0
腎臓内科	12,794	52	7.8	12,056	49	6.9	10,851	44	6.9
糖尿病・内分泌内科	20,343	83	12.5	21,680	89	13.9	21,915	89	13.9
神経内科	12,127	50	7.4	12,511	51	7.6	11,880	49	7.6
血液・腫瘍内科	14,514	59	8.9	14,430	59	9.0	14,199	58	9.0
外 科	34,081	140	7.0	34,383	141	7.1	33,684	137	6.8
呼吸器外科	4,772	20	1.0	4,835	20	1.0	4,597	19	0.9
心臓・血管外科									
移植外科	1,120	5	0.2	971	4	0.2	737	3	0.1
整形外科	46,591	191	9.6	47,174	193	9.7	45,966	188	9.3
形成外科	6,565	27	1.4	7,102	29	1.5	6,766	28	1.4
脳神経外科	13,043	53	2.7	14,626	60	3.0	15,949	65	3.2
小児科	32,050	131	6.6	33,833	139	7.0	38,311	156	7.7
産婦人科	48,302	198	10.0	46,161	189	9.5	53,666	219	10.8
耳鼻いんこう科	23,351	96	4.8	25,674	105	5.3	28,633	117	5.8
眼 科	28,321	116	5.8	28,571	117	5.9	28,861	118	5.8
皮膚科	24,637	101	5.1	23,075	95	4.8	23,088	94	4.7
泌尿器科	27,152	111	5.6	26,316	108	5.4	24,805	101	5.0
放射線科	10,778	44	2.2	11,467	47	2.4	13,114	53	2.6
こころのケア科	1,502	6	0.3	1,747	7	0.4	1,890	8	0.4
麻 酔 科	237	1	0.1	216	1	0.0	221	1	0.0
リハビリテーション科	5,572	23	1.2	5,229	22	1.1	5,658	23	1.1
歯科口腔外科	13,192	54	2.7	12,716	52	2.6	13,263	54	2.7
計 ①	484,349	1,985	100	484,505	1,986	100	496,486	2,026	100
前 年 度 ②	484,505	1,986	-	496,486	2,026	-	495,484	2,031	-
比較(①-②)	△156	△1	-	△11,981	△40	-	1,002	△5	-

### 3. 病棟別患者数

(人)

区 分	平成26(2014)年度		平成25(2013)年度		平成24(2012)年度	
	延患者数	1日平均	延患者数	1日平均	延患者数	1日平均
東 病 棟 2 階	12,485	34	11,786	32	11,298	31
西 病 棟 2 階	16,253	45	15,472	42	15,412	42
東 病 棟 3 階	16,980	47	17,607	48	17,311	47
西 病 棟 3 階	5,296	14	5,339	15	5,508	15
東 病 棟 4 階	6,655	18	4,922	13	11,876	33
西 病 棟 4 階	6,854	19	5,392	15	13,446	37
東 病 棟 5 階	15,904	44	16,801	46	16,235	44
西 病 棟 5 階	16,588	45	16,699	46	16,878	46
東 病 棟 6 階	18,622	51	18,987	52	18,170	50
西 病 棟 6 階	18,304	50	18,450	51	17,449	48
東 病 棟 7 階	17,470	48	17,954	49	16,256	45
西 病 棟 7 階	17,464	48	18,908	52	16,811	46
東 病 棟 8 階	16,626	46	17,466	48	17,153	47
西 病 棟 8 階	17,295	47	17,332	47	16,763	46
東 病 棟 9 階	16,451	45	16,697	46	5,453	15
西 病 棟 9 階	14,513	40	16,221	44	17,118	47
新生児医療センター	9,536	26	10,699	29	10,438	29
南 病 棟 1 階	13,662	37	16,970	47	17,293	47
南 病 棟 2 階	1,534	4	1,783	5	2,268	6
計	258,492	708	265,485	727	263,136	721

#### 4. 救命救急センター患者数 平成26(2014)年度

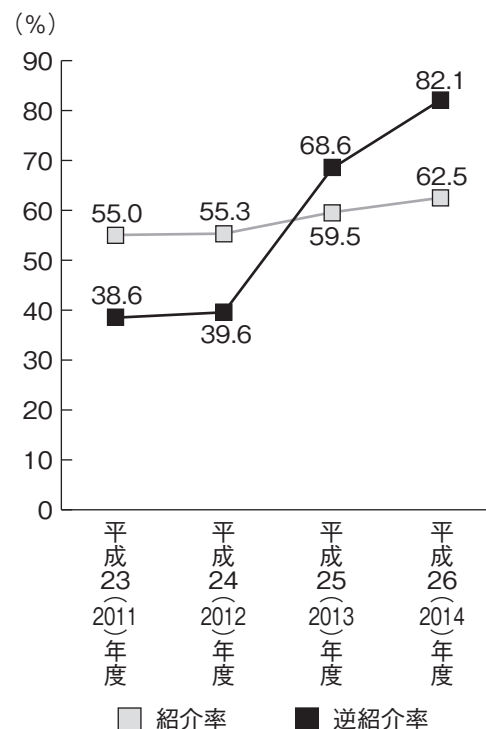
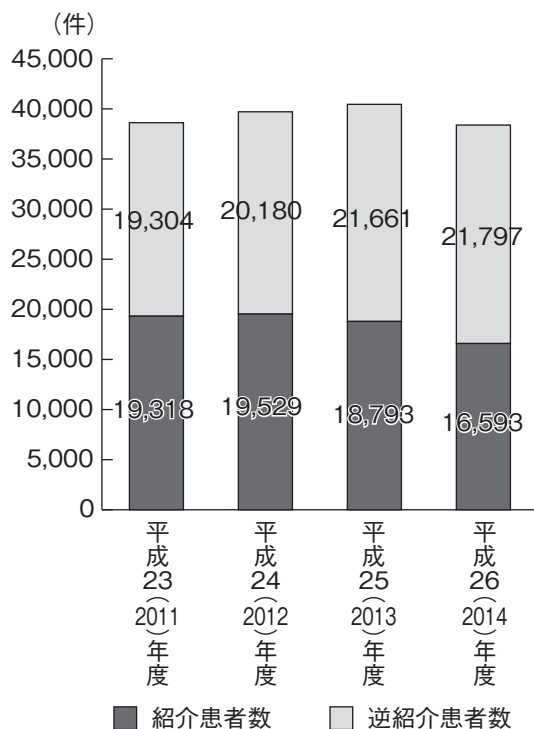
区 分	病床数 (床)	実患者数 (人)	延患者数 (人)	平均在院日数 (日)	1日当たり患者数 (人)
内 科	11	1,455	2,733	1.9	7
外 科	11	480	740	1.5	2
心臓血管・呼吸器外科	3	164	478	2.9	1
脳 神 経 外 科	5	425	992	2.3	3
そ の 他	-	263	569	2.2	2
計	30	2,787	5,512	2.0	15
内訳:集中治療センター	6	615	1,675	2.7	5

#### 5. 地域別患者割合

(%)

区 分	入 院			外 来		
	平成26(2014)年度	平成25(2013)年度	平成24(2012)年度	平成26(2014)年度	平成25(2013)年度	平成24(2012)年度
豊 橋 市	72.0	70.9	70.0	71.1	71.3	70.8
豊 川 市	10.2	12.1	12.8	11.8	12.3	13.2
蒲 郡 市	4.0	4.0	4.0	3.7	3.4	3.4
田 原 市	6.6	6.3	6.1	7.0	6.8	6.5
新 城 市	2.8	2.8	3.1	2.6	2.6	2.6
その他	県内	2.1	1.8	2.2	2.0	1.6
	県外	2.3	2.1	1.8	1.8	2.0
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

#### 6. 紹介・逆紹介患者数及び率



## 7. 手術件数

区 分		平成26(2014)年度		平成25(2013)年度		平成24(2012)年度	
		件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)
外科	一般外科	1,448	95.6	1,514	101.3	1,495	99.8
	心臓血管・呼吸器外科	244	122.0	200	118.3	169	82.0
	小児外科	130	87.8	148	93.1	159	91.4
	肛門外科	16	61.5	26	113.0	23	39.7
整形外科		1,470	99.5	1,477	125.0	1,182	97.8
リウマチ科		26	78.8	33	103.1	32	106.7
形成外科		67	85.9	78	90.7	86	138.7
脳神経外科		326	110.5	295	84.3	350	125.9
産婦人科		1,736	105.9	1,640	91.5	1,792	97.9
耳鼻いんこう科		376	119.0	316	88.8	356	90.6
皮膚科		84	98.8	85	70.8	120	111.1
泌尿器科		555	109.7	506	103.9	487	113.5
眼科		1,089	123.9	879	110.0	799	136.1
歯科口腔外科		387	104.9	369	102.8	359	109.8
その他		159	126.2	126	163.6	77	120.3
計		8,113	105.5	7,692	102.8	7,486	103.2

### 7-2. 腹腔鏡・胸腔鏡・関節鏡手術件数

区 分		平成26(2014)年度		平成25(2013)年度		平成24(2012)年度	
		件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)
外科	一般外科	370	121.7	304	120.6	252	109.1
	(内:ダヴィンチ)	3	-	-	-	-	-
	心臓血管・呼吸器外科	112	95.7	117	134.5	87	59.6
	小児外科	58	305.3	19	950.0	2	66.7
整形外科		103	81.1	127	104.1	122	122.0
リウマチ科		-	-	1	-	-	-
産婦人科		440	194.7	226	1,255.6	18	78.3
(内:先進医療、自費診療)		16	200.0	8	-	-	-
(内:ダヴィンチ)		8	-	-	-	-	-
泌尿器科		116	110.5	105	97.2	108	133.3
(内:ダヴィンチ)		28	186.7	15	-	-	-
その他		7	100.0	7	700.0	1	50.0
計		1,206	133.1	906	153.6	590	100.7

## 8. 分娩件数

区 分		平成26(2014)年度		平成25(2013)年度		平成24(2012)年度	
		件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)	件数(件)	前年度対比(%)
産婦人科		958	103.1	929	87.4	1,063	91.0



## IV 疾病統計





## IV 疾病統計

### 1. 入院患者の疾病分類別（大分類）患者数

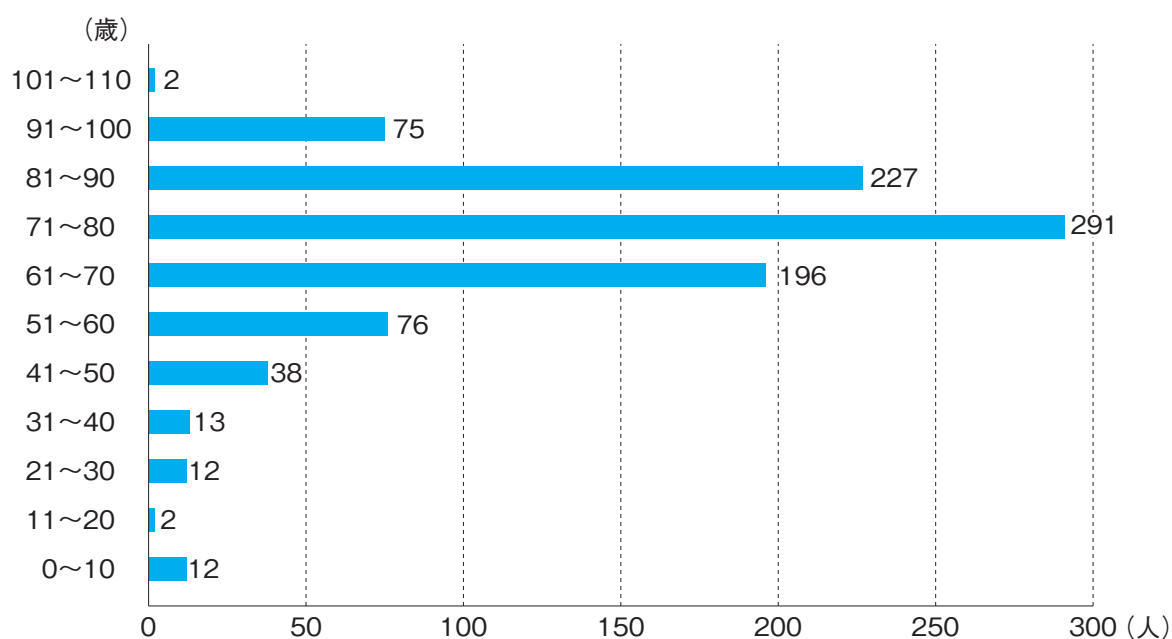
(人)

MDC2桁	疾患名	2014年	2013年	2012年
01	神経系疾患	992	847	1,006
02	眼科系疾患	459	656	686
03	耳鼻咽喉科系疾患	485	434	520
04	呼吸器系疾患	2,075	1,908	1,975
05	循環器系疾患	1,063	1,018	819
06	消化器系、肝臓・胆道・膵臓疾患	3,384	3,387	3,747
07	筋骨格系疾患	656	516	700
08	皮膚・皮下組織の疾患	203	253	222
09	乳房の疾患	124	93	134
10	内分泌・栄養・代謝に関する疾患	408	416	434
11	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	1,202	1,310	1,422
12	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	1,641	1,575	1,977
13	血液・造血器・免疫臓器の疾患	635	592	694
14	新生児疾患、先天性奇形	566	501	513
15	小児疾患	222	176	250
16	外傷・熱傷・中毒	969	861	866
17	精神疾患	2	3	11
18	その他	210	182	255
	計	15,296	14,728	16,231

※DPC対象患者より集計しています。

### 2. 年代別年間死亡患者数

総数：944人



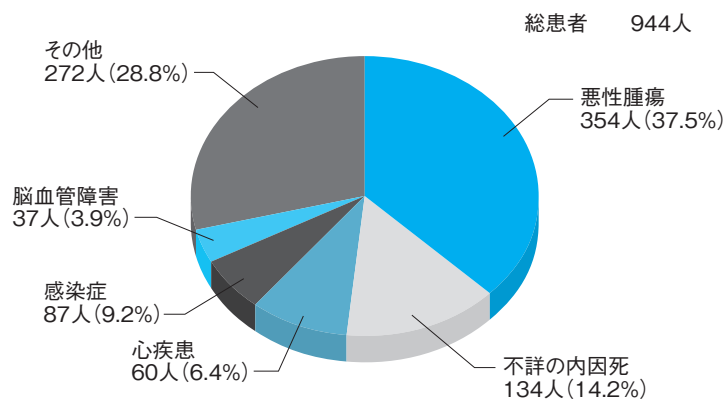
※死亡診断書・検案書より集計

### 3. 悪性新生物新患者数

部 位	診断年症例(件)		
	2014年	2013年	2012年
口腔咽頭	63	51	61
食道	56	33	43
胃	275	239	226
大腸	339	322	307
(結腸)	(216)	(208)	(204)
(直腸)	(123)	(114)	(103)
肝臓	73	73	85
胆嚢胆管	37	46	30
膵臓	87	66	54
喉頭	24	16	28
肺	246	232	245
骨軟部	1	3	4
皮膚	79	76	78
乳房	137	128	162
子宮頸部	87	105	102
子宮体部	61	48	59
子宮	2	0	0
卵巣	32	30	39
前立腺	177	148	156
膀胱	93	84	75
腎尿路	73	65	65
脳神経	36	44	49
甲状腺	31	31	31
悪性リンパ腫	85	82	127
多発性骨髄腫	28	28	33
白血病	41	46	42
他の造血器腫瘍	30	43	30
その他	60	49	59
総 数	2,253	2,088	2,190

※がん診療連携拠点病院院内がん登録全国集計への報告件数

### 4. 死亡要因上位件数



※死亡診断書・検案書の「直接死因」より集計

5. 24 時間以内死亡患者数 ..... 101 人  
(DPC 様式 1 より集計)



# V 診療業務概要・ 活動報告

## 疾患別頻度について

第24巻では、診療録に新たに疾患登録した件数を円グラフで掲載しています。

1. 抽出条件：①2014年1月1日～2014年12月31日に受診した患者。  
②診療科別で対象患者に登録した疾患名（疑いは除外）を抽出。
2. 留意事項：①複数の疾患名が登録されている患者については、疾患名ごとに集計。  
②比率については小数点第2位 四捨五入。
3. その他：診療科の個々の事情により、掲載していない場合があります。

## V 診療業務概要、活動報告

### 総合内科

#### 1. 概要

高血圧症、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病は増加している。これらは狭心症・心筋梗塞など虚血性心疾患の強力な危険因子であり、総合内科ではとくに糖尿病をメインテーマとして、さらには内臓脂肪の過剰蓄積・耐糖能障害・高血圧・高中性脂肪血症を併せもつメタボリックシンドロームも含めて診療を行ってきた。

総合内科では長らく糖尿病/耐糖能障害、高血圧症、脂質異常症などの外来診療と糖尿病体験入院を行ってきたが、2010年4月より糖尿病・内分泌内科新設に伴い総合内科の入院病床は無くなった。現在、糖尿病外来や教育入院などの糖尿病診療は主に糖尿病・内分泌内科にて行われている。

2010年4月以降、新規を除く糖尿病、高血圧症、脂質異常症、肥満症などの外来診療を継続するとともに、原因不明の発熱、専門科に振り分けられない初診患者の診療を行っている。

(部長 鳥居 俊男)



# 呼吸器内科・アレルギー内科

## 1. 概要

2014年は、専任スタッフ8名（鈴木呼吸器内科部長、権田アレルギー内科部長、竹山副部長、菅沼副部長、真下副部長、安井、三竹、高橋医師）で入院と外来患者の診療を行った。日本呼吸器学会、日本アレルギー学会、日本呼吸器内視鏡学会の教育認定施設として、専門医の育成に努めているとともに、地域がん診療拠点病院として東三河地区での医療を行っている。

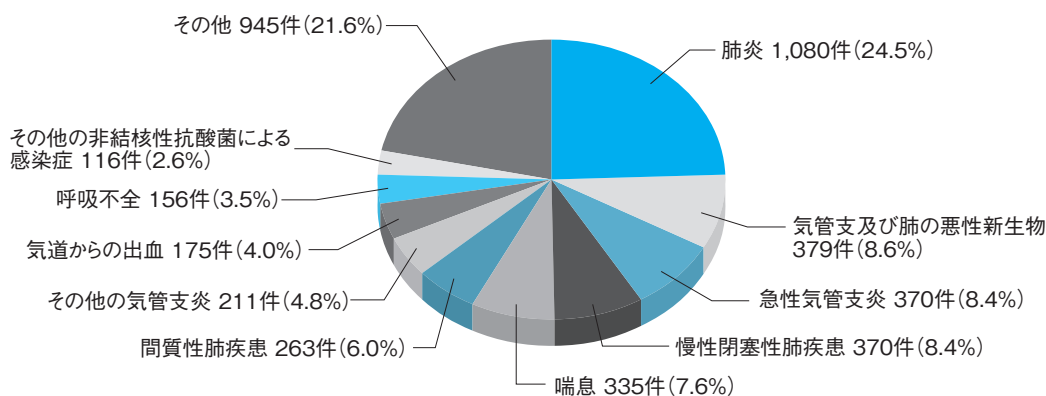
患者のQOLや満足度を重視し、エビデンスに基づいた治療に心掛けて、定期的に、呼吸器外科、放射線科とのカンファレンスを行い、診断や治療の検討をしている。

スタッフ一同、関連学会の指導医、専門医の資格を有し、認定施設として、後輩の育成にあたるばかりでなく、診断能力や治療成績の向上を目指して、名古屋大学呼吸器内科と密接に連携し、教育や研究に努めている。

（部長 権田 秀雄）

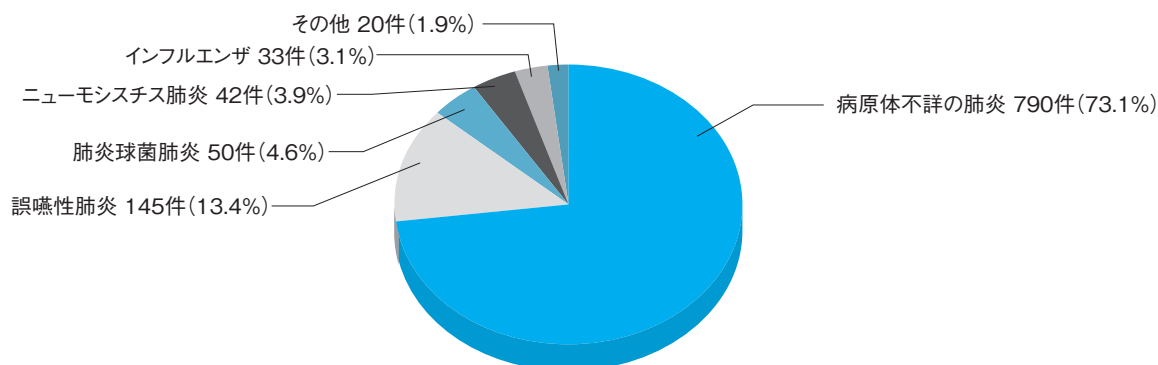
### ●疾患別頻度

総件数：4,400件



### ●疾患別頻度(肺炎)

総件数：1,080件



●科指定5疾患

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	肺炎	1,080	4	間質性肺炎	259
2	気管支喘息	357	5	慢性閉塞性肺疾患	192
3	肺癌	339		計	2,227

# 消化器内科

## 1. 概要

岡村院長を筆頭に8名のスタッフと、専攻医5名、後期研修医1～2名で診療にあたっている。岡村、山田、山本が上下部消化管、浦野、内藤が肝臓、藤田、松原が胆道・膵を担当し、

- ① 消化器癌のX線・内視鏡・US診断
- ② 食道・胃・大腸腫瘍に対する内視鏡的治療の検討、
- ③ IBDに対する内科的治療
- ④ 胆道・膵疾患におけるEUS、IDUS、CEUSの検討
- ⑤ 閉塞性黄疸に対するEST、EPD、ERBD、EMSなどの経乳頭的内視鏡治療と、EUS下胆道・膵嚢胞ドレナージ術、経皮経肝胆道ドレナージ術の治療成績の検討
- ⑥ ウイルス性肝炎の治療と長期経過観察
- ⑦ 肝癌の画像診断と内科的治療 - TACE、RFA、リザーバーを用いた化学療法など

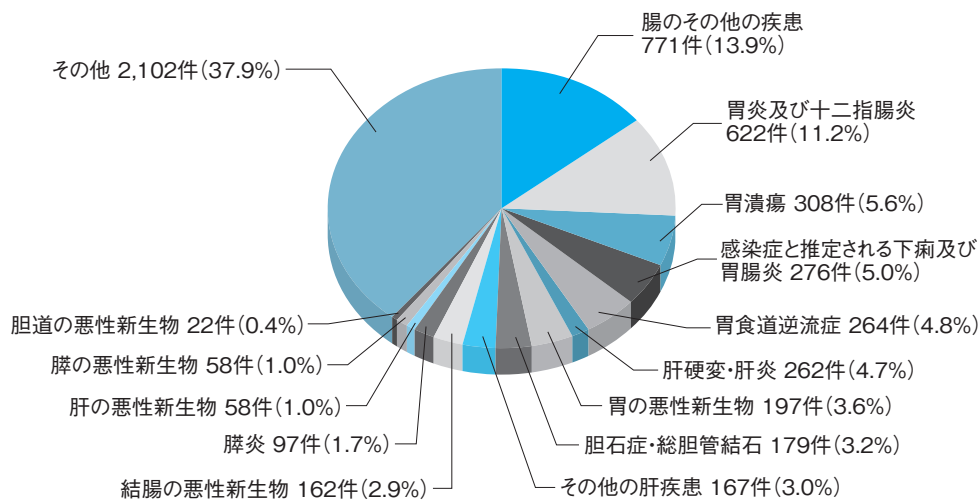
を研究テーマとして診療に従事している。

この他、食道静脈瘤に対してはEISとEVL、胃・十二指腸潰瘍の出血に対してはクリッピング止血法を積極的に行い救命救急医療に貢献しているほか、脳血管障害などによる嚥下困難患者に対する内視鏡的胃瘻造設術の依頼にも随時対応している。

(部長 浦野 文博)

### ●疾患別頻度（1人1病名）

総件数：5,545件



## 2014年度

---

### 当科で経験した主な疾患の新規症例数

---

胃癌	233例
大腸癌	296例
(深達度分類 ssないし a1以深 : mp : sm : m 146 : 28 : 34 : 88)	
肝細胞癌	51例
(進行度分類 I : II : III : IV 16 : 16 : 9 : 10)	
(JIS 0 : 1 : 2 : 3 : 4 : 5 14 : 17 : 7 : 4 : 6 : 3)	
膵癌	59例
胆管癌	30例
クローン病	12例
潰瘍性大腸炎	48例

---

### 主な検査治療実績

---

胃内視鏡検査	6,866件
大腸内視鏡検査	4,090件
造影エコー検査	209件
消化管超音波内視鏡検査	82件 (うち穿刺生検 14件)
内視鏡的粘膜炎下層切開剥離術	胃121件、大腸41件
胆膵超音波内視鏡検査	396件 (うち穿刺生検 52件)
PTCDならびに関連手技	27件 (PTBD 7件、PTGBD 20件)
内視鏡的逆行性胆管膵管造影	551件
うち ERBDあるいはENBD	262件
内視鏡的金属ステント留置術	29件
管腔内超音波検査	50件
腹部血管造影検査	150件
うち 動脈塞栓術	112件
動注化学療法	20件
リザーバー留置による動注化学療法	4件
ラジオ波焼灼術	77件

# 循環器内科

## 1. 概要

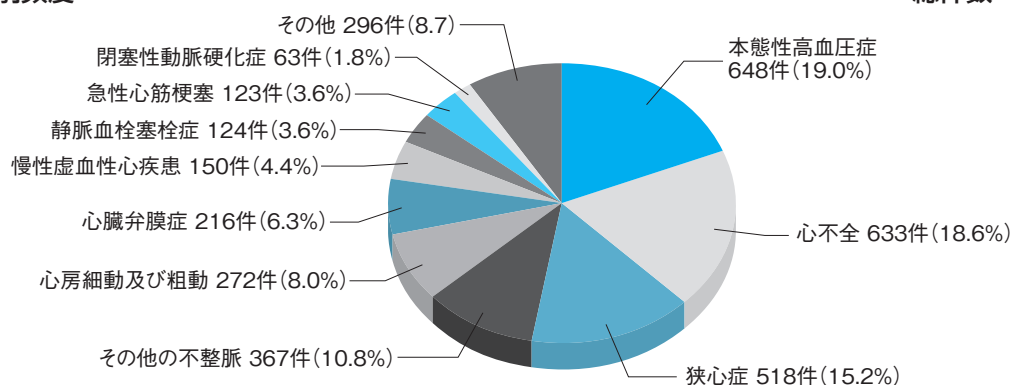
2014年は、心血管/造影カテーテル検査を775件（うち緊急検査166件）に施行した。経皮的冠動脈インターベンションは285例（成功率96.1%）で、その内、血管内超音波を273例に、ステント留置術は249例に施行した。再狭窄防止のための薬剤溶出性バルーンが使用可能となり、11件に使用した。また、血行動態の悪い症例には、大動脈内パンピングを31例に施行した。心原性ショック例・心停止例（来院時心肺停止も含む）には、経皮的な心肺補助装置を装着した（5例）。一方、不整脈診断の為の心臓電気生理学的検査を46例に、カテーテルアブレーションを24例に施行した。64列多列検出器CTによる冠動脈CT検査を141例に施行した。

2014年4月1日付で名古屋第一赤十字病院から下方茂毅が赴任したが、2015年3月31日付で名古屋大学大学院医学系研究科病態内科学講座循環器内科学に入学のため、退職した。

（第二部長 成瀬 賢伸）

### ●疾患別頻度

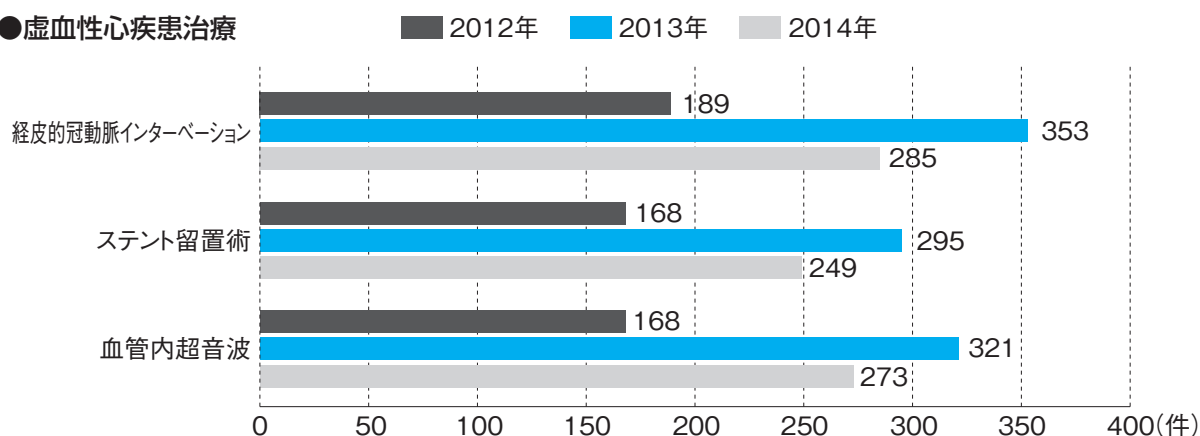
総件数：3,410件



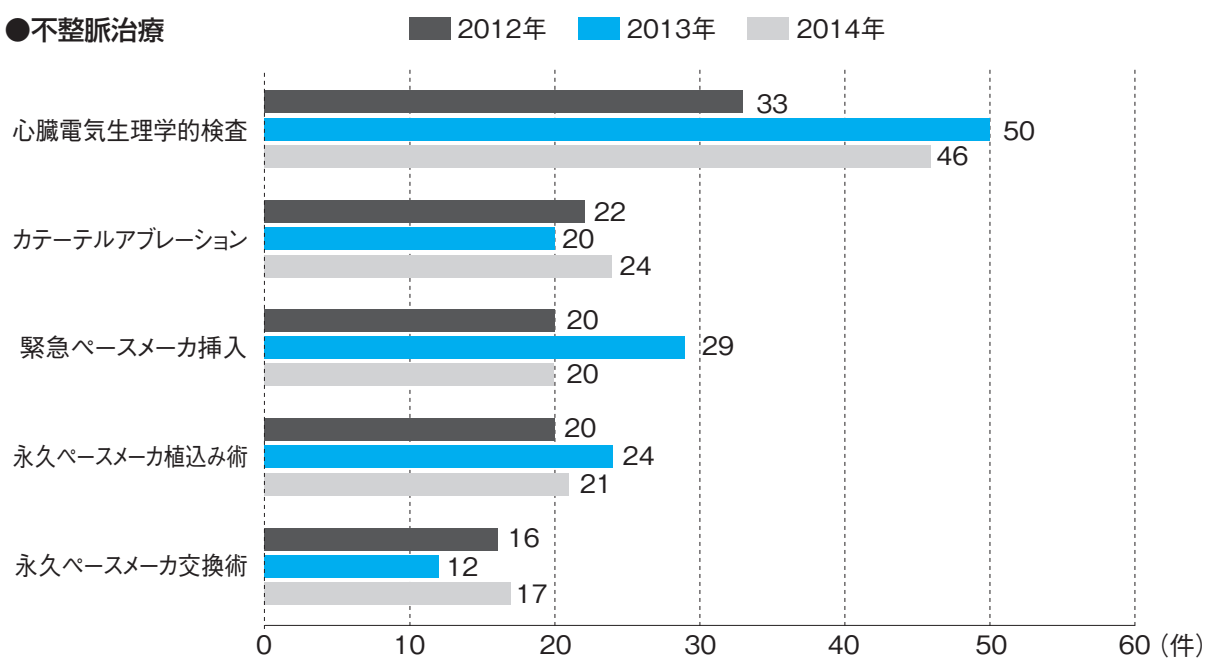
### ●科指定4疾患

疾患名	件数(件)	疾患名	件数(件)
1 心不全	633	4 肺血栓塞栓症	19
2 狭心症	518	計	1,293
3 急性心筋梗塞	123		

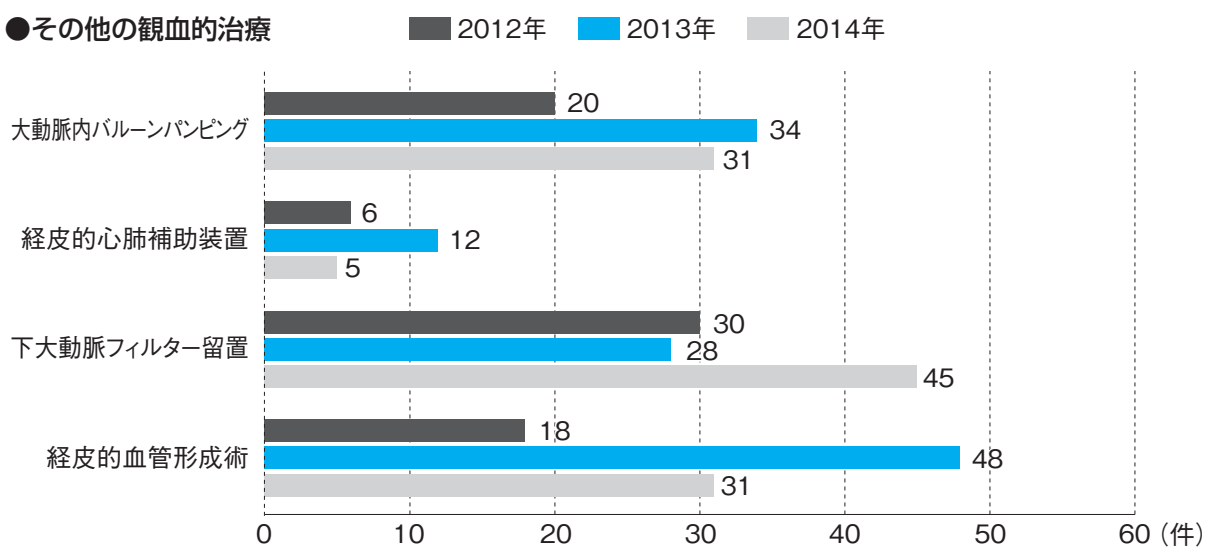
### ●虚血性心疾患治療



●不整脈治療



●その他の観血的治療



# 腎臓内科

## 1. 概要

当科の主な診療領域は、腎炎・ネフローゼ症候群・腎不全（腎後性以外）など、内科的腎臓病一般である。尿路結石や腫瘍は取り扱っていない。また、透析患者のシャントトラブルも扱っていない。

豊橋市民病院は東三河地域の基幹病院であり、その中で当科は医師がわずか4人という内科の中で一番小さな科であるが、多種多様な病態の診療に携わっている。実際、急性腎不全（AKI）を始めとする重症患者の血液浄化の依頼やコンサルトは多く、慢性腎不全（CKD）や維持透析患者の合併症の治療にも関わっている。

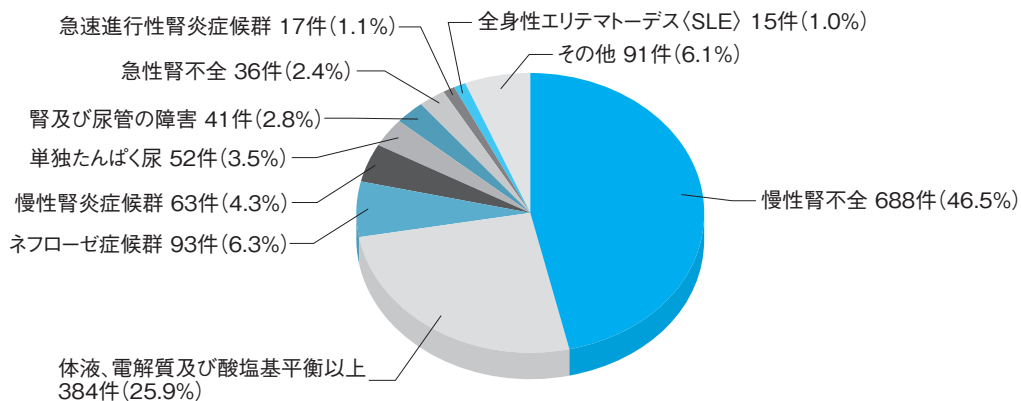
腎炎やネフローゼ症候群には、名古屋大学腎臓内科の御支援の下、積極的に腎生検を行い、診断・治療に役立っている。末期慢性腎不全に対しては、血液透析を導入するのみならず、院内の移植外科とも連携し、腎移植にも対応している。また一昨年度、腹膜透析（CAPD）も、小規模であるが再開にこぎつけた。

その他に、MEや看護師の協力により、血漿交換・免疫吸着・持続的血液ろ過透析（CHDF）などを病態に応じて施行している。

（部長 山川 大志）

### ●疾患別頻度

総件数：1,480件



### ●科指定5疾患

1	疾患名	件数(件)	4	疾患名	件数(件)
1	慢性腎不全	688	4	急性進行性糸球体腎炎	17
2	ネフローゼ症候群	93	5	IgA腎症	15
3	急性腎不全	36		計	849

# 血液浄化センター

## 1. 概要

当センターの診療の対象は、末期慢性腎不全の透析導入・様々な疾患で当院入院中の維持透析患者の透析・急性腎不全の透析、のみではない。血漿交換・免疫吸着等も病態に応じて行っている。最近では、腎不全以外のSLE・TTP・ギランバレー症候群・炎症性腸疾患・関節リウマチ等で、院内の多くの科から血液浄化の依頼が増えている。

当然、少人数の腎臓内科だけでは業務を遂行できず、移植外科の御支援を頂いている。また、MEや看護師（血液浄化センターのみならず、ICUを始めとする病棟や外来も）等のコメディカルの協力なくしては、当センターの運営が成り立たない事は言うまでもない。

最後に、重症透析患者は外来維持透析患者に比し膨大な医療資源を費やすことから、現状では受け入れに限界があることは認めざるを得ないが、基幹病院としてその責務を果たすべくスタッフ一同最善を尽くす所存である。

(センター長 山川 大志)



# 糖尿病・内分泌内科

## 1. 概要

当科の診療内容は糖尿病と各種内分泌・代謝疾患である。日本糖尿病療養指導士15名他の協力で、糖尿病教育入院の他、療養指導外来、フットケア外来、糖尿病透析予防指導外来を設置している。また、インスリンポンプ療法（CSII）、CGM（持続血糖測定）も引き続き運用している。

患者会として日本糖尿病協会の支部があり、11月の全国糖尿病週間に合わせて講演会と院内での啓発活動を実施した。6月には歯科・口腔外科とともに豊橋市歯科医師会主催の「歯の健康フェスティバル」に出展した。

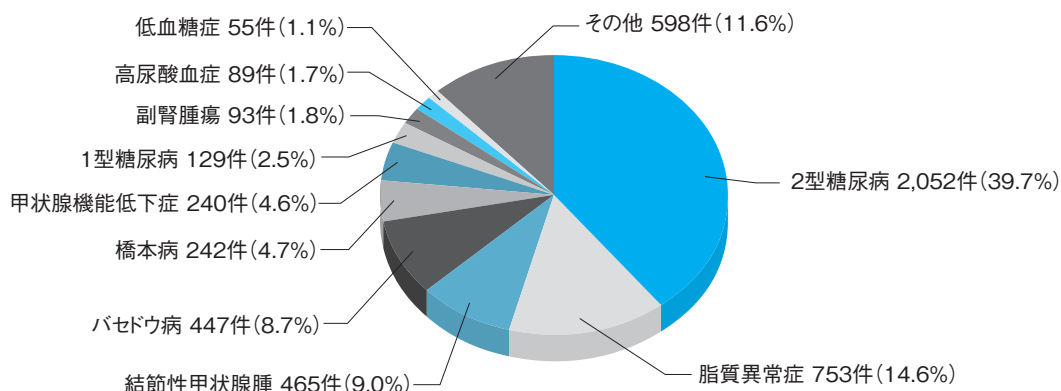
各種内分泌疾患に対しては各種負荷試験、画像診断を元に正確な診断を行い、一般外科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科などとの密接な連携の元に治療を行っている。なお、放射線科には原発性アルドステロン症に対する選択的副腎静脈サンプリングも依頼している。

人事面では3月末で前川龍也医師、笠井貴敏医師が退職し、4月に村瀬正敏医師と山守育雄部長が赴任した。

(部長 山守 育雄)

### ●疾患別頻度

総件数：5,163件



# 神経内科

## 1. 概要

2014年のスタッフは、年初の1～3月と産休のための1名減でかなり厳しい状況でしたが、4月からは4名にもどりました。しかしながら、現状4名では需要に十分対応できていません。

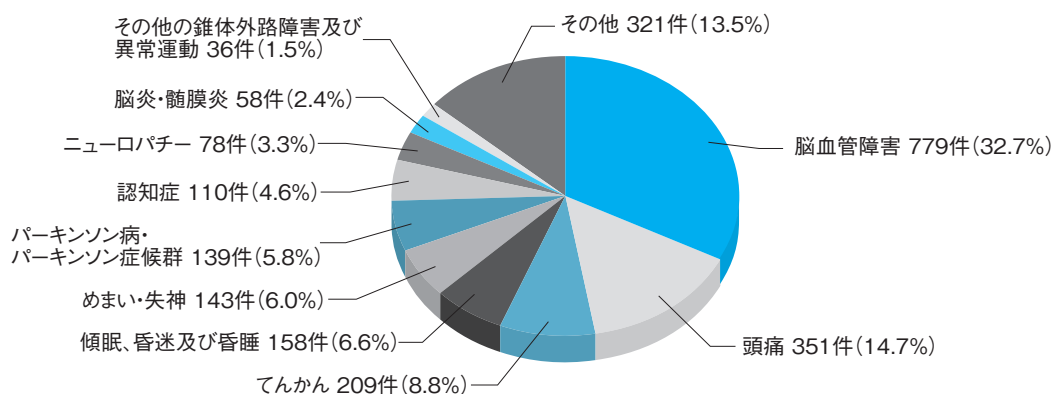
入院診療：2014年の総入院患者数は昨年同様600人弱でした。入院患者の疾患の内訳は、例年通り、脳血管障害が約60%を占め、超急性期脳梗塞のtPA治療例もtime windowが4.5時間になり少し増え13人でした。最近の傾向としては高齢者のてんかんが増えております。治療後の退院・転院は、患者総合支援センターにより、随分スムーズになりましたが、転院先の混雑具合、老老介護、独居老人などの家族背景が難しくなり、とても月日のかかる例が多くなっています。

外来診療：年間の総数は8,550名で、その内初診者数は1,332名でした。また初診者の366名（約28%）が市外の方でした。相変わらず当科に、周辺地域を含め、あらゆる神経疾患が集中しています。

(部長 李野 謙次)

### ●疾患別頻度

総件数：2,382件



### ●神経難病6疾患

	疾患名	件数(件)
1	パーキンソン病・パーキンソン症候群	139
2	多系統萎縮症	2
3	脊髄小脳変性症	4
4	筋萎縮性側索硬化症・球脊髄性筋萎縮症	12
5	重症筋無力症	12
6	多発性硬化症	19
	計	188

# 血液・腫瘍内科

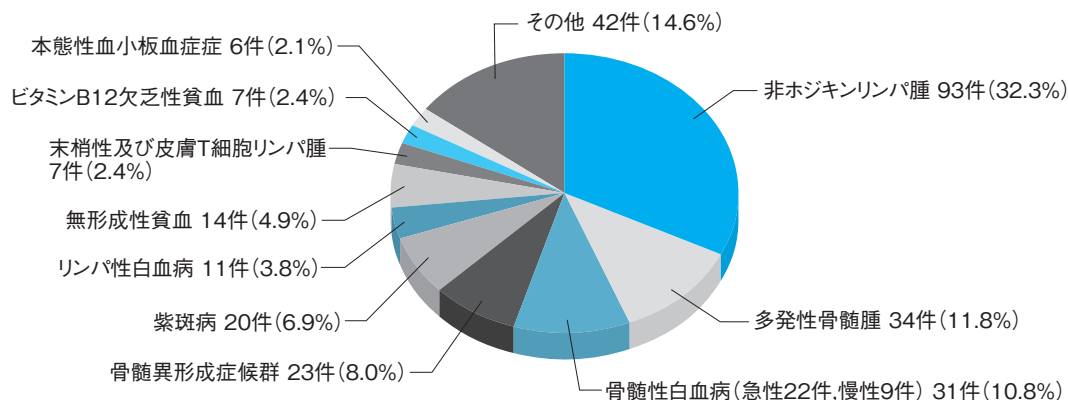
## 1. 概要

当科は、1997年に専門医1名で開設、2001年に単独の病棟（西9階）を持ち独立した。スタッフの充実とともに患者数も増えた。大量化学療法は日常診療として実施してきたが、患者団体からの陳謝を受けるも、同種移植が必要な患者は初期には名鉄病院、最近では安城厚生病院、名古屋第一赤十字病院へ紹介してきた。しかし、2013年度から東三河地区における同種移植療法の機能充実を目指す方針をたて、本年度に4床の新たなクリーンルームを増設し、名古屋大学医学部附属病院、名古屋第一赤十字病院から移植専門医の派遣支援を受けて、同種移植を本格化させた。血縁者間の移植のみでは移植件数は限られ2015年度には骨髄バンク、さらには臍帯血バンクを利用した移植が可能な認定施設となることを目指している。

（部長 杉浦 勇）

### ●疾患別頻度

総件数：288件



### ●感染症

延べ総件数：253件

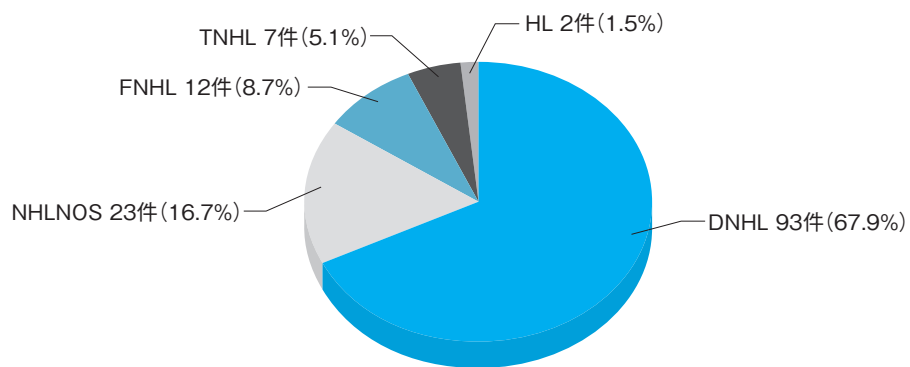
疾患名	件数(件)	疾患名	件数(件)
敗血症	91	ヘルペス感染症	27
カンジダ症	40	ニューモシスチス症	19
真菌症	37	アスペルギルス症	19
サイトメガロウイルス病	20	計	253

### ●造血幹細胞移植（末梢血幹細胞移植）

種類	件数(件)
自家移植	9
同種移植	2

●疾患別頻度 (ICD-10 C81-85)

総件数：137件



# 一般外科・小児外科・肛門外科

## 1. 概要

### (1) 一般外科・小児外科

2014年の手術総数は1,581件で、そのうち15歳以下の小児手術は175例。緊急手術は337件（21%）。対象疾患は、虫垂炎やヘルニアといった日常的な疾患から消化器・乳腺の悪性腫瘍まで幅広い。腹腔鏡下手術は、胃癌切除125件中18件、大腸癌切除201件中72件、肝部分切除27件中11件に対し行われた。2014年11月より直腸癌に対するロボット支援下手術を臨床研究として開始し、3件行った。乳癌手術は100件で、乳房温存手術は38例、センチネルリンパ節生検陰性は53件であった。肝切除は37件で、疾患別内訳は、原発性肝癌 19、転移性肝癌 13、胆道癌 1、その他 6。臍頭十二指腸切除は28例で、疾患別内訳は、臍腫瘍 15、胆嚢・胆管癌 6、乳頭部癌 7。上部消化管潰瘍穿孔25例のうち非手術的保存療法は7例だった。腸閉塞入院は165例のうち56例（34%）に手術が施行された。小児外科手術は名古屋大学小児外科と連携し治療にあたっており、新生児手術は4例であった。

（第一部長 加藤 岳人）

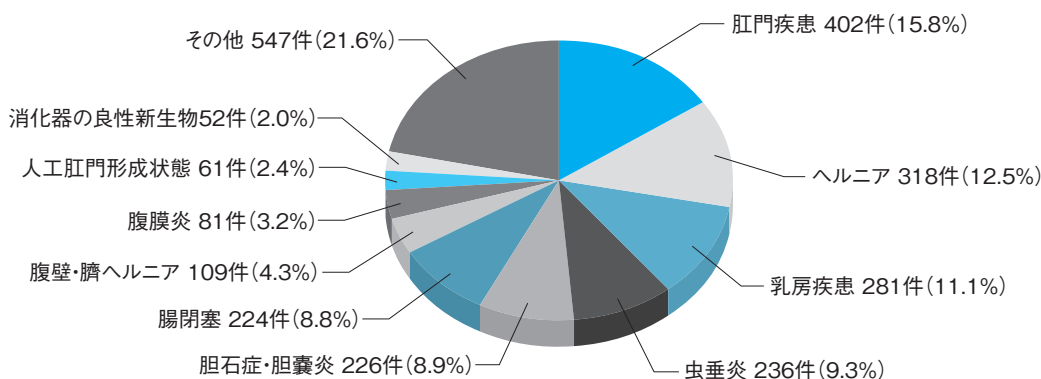
### (2) 肛門外科

“肛門外科”は当院移転新設に伴い一般外科から離れ単科（こう門科）と標榜されたが、診療・治療は一般外科と共同で運営している。痔疾患など一般的な疾病を対象とするが、専門性を必要とした治療においてはやはり専門家での診療・治療を希望される患者様も多い。そのため肛門疾患のみならず、関連した直腸や大腸の病気に関する他医からの紹介もあり、日々肛門外科として診察や治療に当たっている。外来受診の際は、患者様が安心して受診できるような応対・環境整備を心掛け、特にプライバシーの面から診察で患者様に不自由・不快な思いを持たれないように努力している。良性疾患であり、治療後も日常生活に密接にかかわることから、外来処置や生活指導・薬物療法など保存治療に重きを置き、患者様の症状によってよく話し合った後に手術適応を決めている。“ストーマ外来”併設で人工肛門患者様のサポートを行っている。

（部長 柴田 佳久）

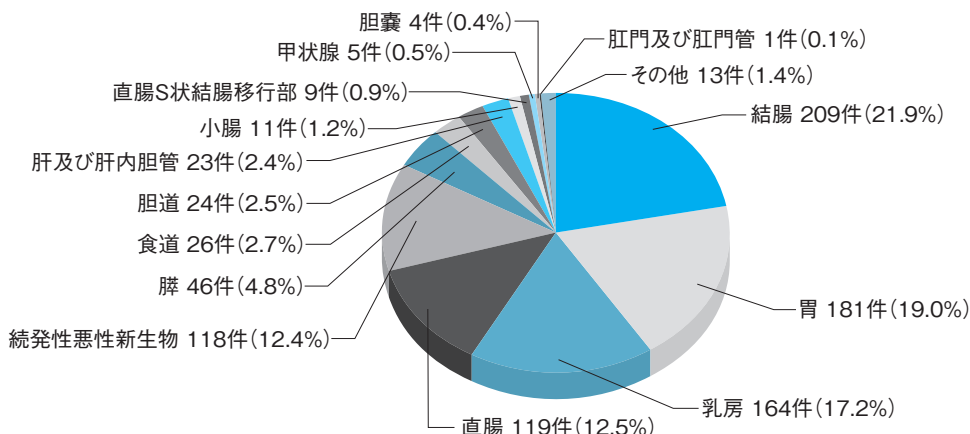
### ●疾患別頻度（悪性新生物を除く）

総件数：2,537件



●疾患別頻度（悪性新生物のみ）

総件数：953件



一般外科・小児外科手術数(2014年) (例)

①一般外科	1,406
全身麻酔	1,078
腰部麻酔	72
局部麻酔	256
(ア)甲状腺	
a 良性疾患	
(a)部分切除	0
(b)葉切、亜全摘	13
b 悪性疾患	
(a)部分切除、亜全摘、他	13
(b)全摘	6
(イ)乳 腺	
a 良性疾患	8
b 悪性疾患	
(a)定型乳切	0
(b)非定型乳切(Bt+Ax)	29
(c)Bt(+SLNB)	31
(d)乳房温存手術(+SLNB)	38
(e)単純乳房切除・他	4
(ウ)食 道	
a 良性疾患	0
b 悪性疾患	
(a)胸部食道切除	5
(b)その他	1
(エ)胃十二指腸	
a 良性疾患	
(a)胃切除	0
(b)充填／その他	18

b 悪性疾患

(a)幽門側胃切除	65
(b)胃全摘	44(2)
(c)噴門側胃切除	0
(d)腹腔鏡下胃切除	16
(e)胃腸吻合	0
(f)楔状切除／十二指腸切除	9(4)
(g)PD	0
(h)単開腹／その他	1

(オ)小腸／大腸

a 良性疾患

(a)小腸切除	24
(b)腸瘻造設	5
(c)腸瘻閉鎖	18
(d)腸吻合	5
(e)結腸・直腸切除	14(5)
(f)大腸亜全摘	2
(g)癒着剥離	24
(h)経肛門／経仙骨的切除	1
(i)単開腹／その他	6

b 悪性疾患

(a)腸瘻造設	20
(b)腸吻合	2
(c)結腸切除	84
(d)腹腔鏡下結腸切除	45
(e)直腸切除	56(22)
(f)直腸切断	14(5)
(g)小腸切除	6
(h)経肛／経仙的切除	0
(i)骨盤内臓器摘出	1

(j)大腸亜全摘	1
(k)単開腹／その他	1
(カ)虫垂炎（虫垂／回盲部切除）	117(39)
(キ)肝/胆/膵/脾	
(a)肝部分切除	27(11)
(b)肝区域／葉切除	12
(c)肝床切除	3
(d)開腹胆摘	21
(e)開腹胆摘、胆管	5
(f)ラパコレ	137
(g)胆管消化管吻合	4
(h)胆管切除	0
(i)PD	0
(j)SsPPD/PPPD	29
(k)膵尾部切除	14
(l)膵全摘	1
(m)膵管空腸吻合	0
(n)脾摘	8(6)
(o)胃腸吻合	0
(p)単開腹／その他	4
(ク)内分泌	
(a)副甲状腺	1

(b)副腎	1
(ケ)ヘルニア	
(a)鼠径大腿	187
(b)腹壁、臍、ほか	17
(コ)痔核痔瘻	5
(カ)局麻手術	
(a)摘出、生検	32
(b)その他	61
(シ)外傷／医原性	8
(ス)腹膜炎	24
(セ)腹腔内癌再発	17
(ソ)その他	41
②小児外科(全例全身麻酔)	175
(ア)新生児手術	3
(イ)そけいヘルニア	61(52)
(ウ)虫垂切除	44(20)
(エ)その他	67

※複数の術式が行われた症例では、1症例で複数件としてカウント

( )内は、腹腔鏡手術

一般外科 疾患・治療法別入院患者数・平均入院日数（2014年）

入院患者総数 2,105人、平均入院日数12.2日、中央値7日

疾患名	治療法	患者数	平均入院日数
イレウス	手術	56	18.1日
	保存療法	109	8.5日
外傷	手術	5	16.2日
	保存療法	17	9.1日
合併症治療・抗腫剤有害事象	保存療法	54	12.1日
その他	手術	26	16.1日
	保存療法	51	12.1日
その他／悪性	手術	13	33.1日
	保存療法	3	7日
甲状腺／良性	手術	13	5.5日
	保存療法	0	-
甲状腺／悪性	手術	19	5.9日
	保存療法	1	3日
内分泌	予定手術	1	6日
非新生児	手術	150	8.2日
	保存療法	13	3.2日
腹腔内癌再発	手術	2	1.5日
	保存・緩和療法	1	21日
腹膜炎	手術	19	34.1日
	保存療法	24	12.2日
ヘルニア	手術	198	3.3日
	保存療法	5	3日
痔核・痔瘻	手術・保存療法	7	6.1日
虫垂	手術	119	4.4日
	保存療法	29	7.3日
胃十二指腸／良性	手術	18	29.2日
	保存療法	7	12.7日

疾患名	治療法	患者数	平均入院日数
胃十二指腸／悪性	手術	141	17.8日
	化学療法	24	4日
	放射線療法	1	12日
	緩和療法	29	26.8日
	保存療法	29	12.1日
肝胆膵脾	手術	251	13.5日
	保存療法	54	10.7日
	緩和療法	23	18.5日
	化学療法	3	4.7日
小・大腸／悪性	手術	241	17.6日
	化学療法	25	6.1日
	緩和療法	43	16日
	保存療法	46	15.3日
小・大腸／良性	手術	34	18.4日
	保存療法	13	6日
食道／悪性	手術	6	36.3日
	保存療法	2	8.5日
	化学/放治	8	10日
	緩和療法	5	19.6日
食道／良性	手術	0	-
	保存療法	1	21日
乳腺	手術	7	2.7日
乳腺／悪性	手術	107	8.4日
	保存療法	26	12.3日
	緩和療法	16	18.9日
	化学/放治	7	21.6日



# 呼吸器外科

## 1. 概要

心臓と食道、乳癌を除く胸部疾患を対象としています。主対象の肺癌は死因の第1位で増加の一途をたどっています。ヘビースモーカーの多い団塊の世代が肺癌好発年齢の中心を占め、今後しばらく減少する気配がありません。

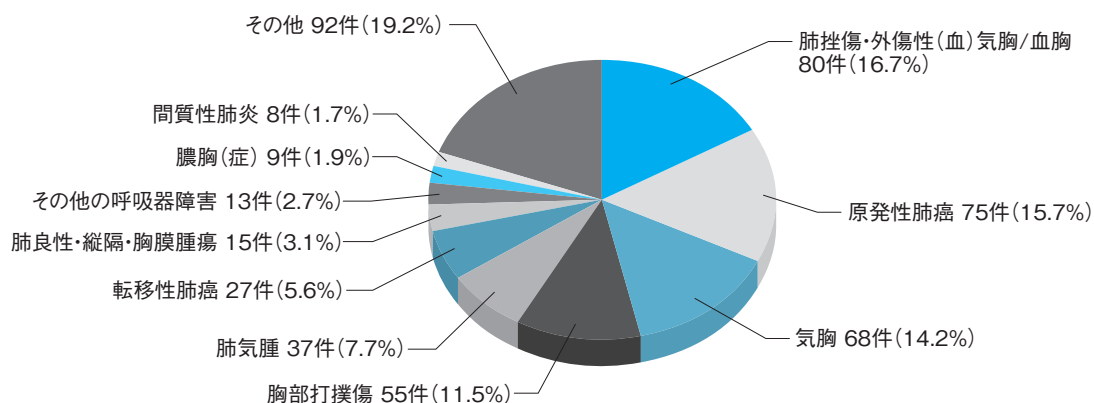
近年では胸腔鏡を用いて開胸創をより小さく、手術侵襲を軽減することで、標準的な肺癌手術でも、手術前日の入院から退院まで5～7日間の治療が可能です。残念ながら、定期健診を受けずに進行癌となってから来院されるケースもあり、すでにリンパ節や他臓器に転移していることも多く、再発の危険が増すばかりか抗癌剤投与や放射線治療の追加を要します。早期発見のため、無症状のうちに受ける住民検診等による定期的なスクリーニングが極めて重要です。

毎週定期的に呼吸器内科・放射線科と合同カンファレンスを行って、個々の症例についての治療方針を検討しており、各科と共同で治療にあたっています。

(部長 成田 久仁夫)

### ●疾患別頻度

総件数：479件



## 心臓外科・血管外科

### 1. 概要

先天性心疾患：NMCにおいて1kgに満たない小さな子たちに救命的な手術を行っています。以前より一貫して将来を見越した胸筋温存による手術を行っています。この術式を取り入れている施設は全国でもごくわずかです。それ以外の症例については他院へお連れして手術を行っています。

後天性心疾患：10月より手術を再開しています。しかしまだまだ手術症例数は少なく、コメディカルの教育にかなりの労力を必要としているのが現状です。

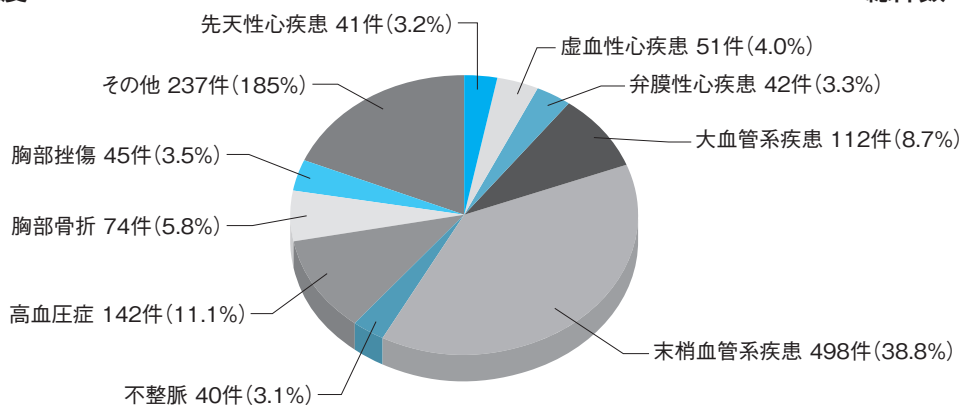
血管外科：閉塞性動脈硬化症の方や下肢静脈瘤手術が増えてきています。特に下肢静脈瘤に対して7月に血管内焼灼手術を導入してからかなり著しいものがあります。術後疼痛がほぼないことが患者さんの満足度を上げているようです。

現在心臓外科医は2名で日常診療を行い血管外科は私が兼任で診療しています。多くの方々の協力を得て日常診療ができています。この場を借りてお礼を申し上げます。

(部長 中山 雅人)

#### ●疾患別頻度

総件数：1,282件



# 移植外科

## 1. 概要

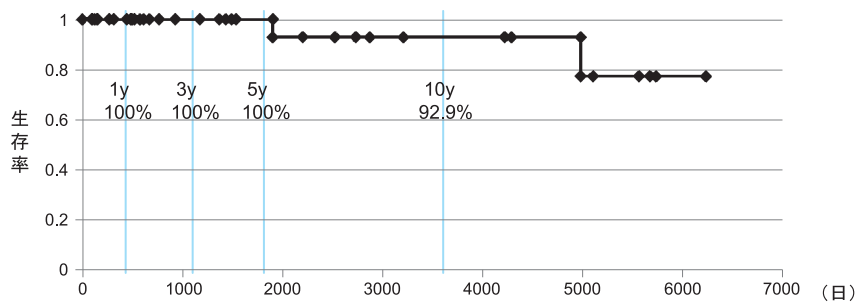
2010年4月より移植外科が標榜されて以来、移植外科医2人体制であったが、2012年5月に大塚聡樹医師（15年間勤務）が異動となり、移植外科医は1名となった。また2012年10月からは東三河において唯一の腎移植認定施設となってしまった。このため当地域の献腎移植登録患者の待機期間中のフォローアップは当院のみで行っている。また他病院で移植された腎移植患者や肝移植患者の定期通院も受け入れており、東三河だけでなく全国の移植施設との間で病診連携がなされている。2014年の腎移植症例は生体腎移植7例であったが、生体腎移植目的の紹介患者は年々増加しており、今後、腎移植症例はさらに増えてゆくものと思われる。また、長期透析に伴う二次性副甲状腺機能亢進症に対する副甲状腺手術も年々増加しており、近隣透析施設との病診連携も密に行われている。

（部長 長坂 隆治）

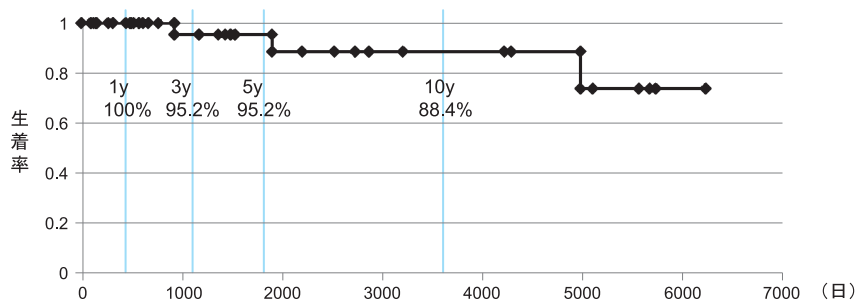
### ●外来患者の状況

	疾患名	件数(件)		疾患名	件数(件)
1	腎移植後	51	4	献腎移植登録外来	105
2	肝移植後	6	5	副甲状腺手術後	14
3	膵移植後	1		計	177

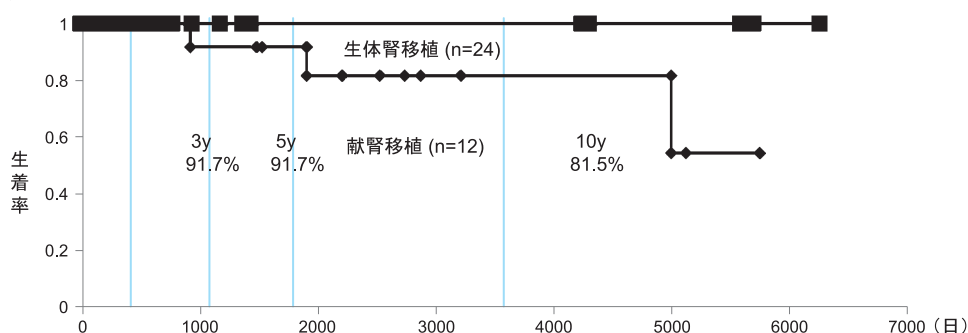
### ●生存率



### ●生着率



### ●生体腎移植 vs 献腎移植



# 整形外科

## 1. 概要

2014年12月31日のスタッフは、常勤医【三重野琢磨（小児）、山内健一（関節、外傷）、藤田護（膝肩、外傷）、三矢聡（手外科、外傷）】で専攻医【岡田貴士、磯野正晶、尾島未来、宮入祐一、長谷川純也、福井順】である。専攻医は、6か月毎に整形外科、脊椎外科、リウマチ科をローテートしており、名大整形外科と人事交流を行っている。

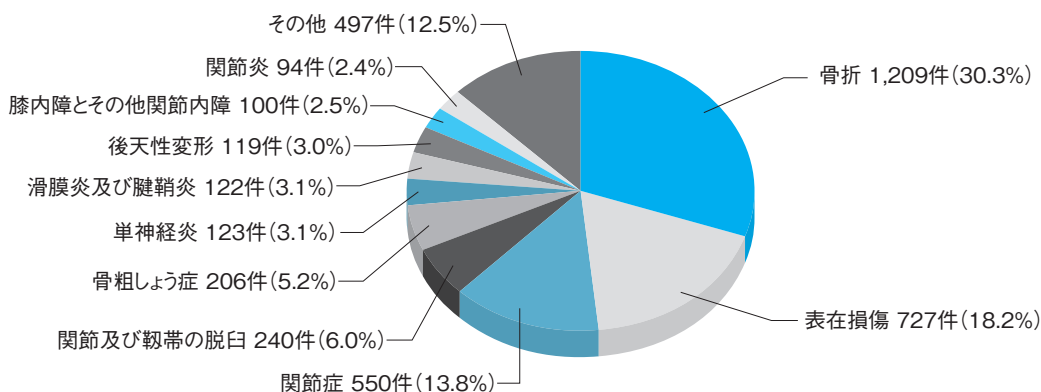
専門外来は、小児整形（名大整形鬼頭准教授）、骨軟部腫瘍（名大整形外科腫瘍グループ）が月1回である。手足の先天異常の手術は、井上五郎先生や申正樹先生の指導を受けている。また、大腿骨頸部骨折地域連携パスを運用し、市内の急性期・回復期病院と連携しているほか、豊橋市こども発達センター（ほいっぷ）に三重野が週1回出張している。

豊橋整形外科研修セミナーを主催し、2月は名大整形の小澤英史先生、8月は名大整形の関泰輔先生に講演して頂いた。東三整会、三河関節、三河骨軟部、名静会などの研究会に参加し、近隣の整形医療機関との交流も行っている。

（第一部長 三重野 琢磨）

### ●疾患別頻度

総件数：3,987件



### ●骨折

病名	件数(件)	疾患名	件数(件)
1 下腿（足首を含む）	244	5 手首及び手	76
2 大腿骨	223	6 その他	255
3 肩及び上腕	211	計	1,209
4 前腕	200		

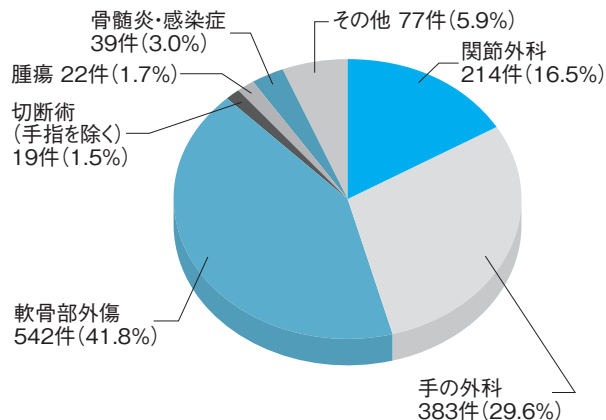
患者状況

年間外来患者数 46,591人 (リウマチ科・脊椎外科を含む)  
 年間入院患者数 1,193人 (リウマチ科・脊椎外科を含まない)

手術症例 1,296件

麻酔別症例件数

名 称	件 数 (件)
全身麻酔	285
腰椎麻酔	506
伝達麻酔	322
局所麻酔	147
その他	12
計	1,272



①関節外科 (ア+イ) 214件

(ア)人工関節

名 称	件 数 (件)
股関節	101
膝関節	33
肩関節	1
計	135

(イ)関節鏡視下手術

名 称	件 数 (件)
肩関節	10
膝関節	44
手関節	23
足関節	2
計	79

②手の外科 (重複あり)

名 称	件 数 (件)
(ア) 肘・前腕	157
(イ) 手関節	13
(ウ) 手指	186
(エ) マイクロサージャリー	0
(オ) 手指、足趾、多合指(趾)	27
計	383

③骨軟部外傷

名 称	件 数 (件)
(ア) 鎖骨-上腕	69
(イ) 骨盤-大腿骨頸部	43
(ウ) 大腿-膝	180
(エ) 下腿	78
(オ) 足関節-足	42
(カ) 抜釘	130
計	542

- ④切断術 (手指を除く) 19件
- ⑤腫瘍 22件
- ⑥骨髄炎・感染症 39件
- ⑦その他 77件

# リウマチ科

## 1. 概要

当科は整形外科から発展したが内科的治療を基本とし、外科的治療もおこなっている。現在は平野、平原の2人のリウマチ科常勤医を中心に、研修中の整形外科若手医師の助けも借りて診療にあたっている。当科の診療の4本柱について以下に記す。

- (1) 関節リウマチ (RA) の薬物治療：MTXを中心とした古典的抗リウマチ薬を早期から使用し、効果不十分例には生物学的製剤を導入し関節破壊の防止に努めている。新薬の治験も行っている。
- (2) 各種リウマチ性疾患（強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、リウマチ性多発筋痛症、SAPHO症候群）：比較的珍しい疾患群であるが、対応し疾患ごとの適切な治療を行っている。
- (3) 骨粗鬆症の診療：古典的薬剤に加え、新規薬剤（テリパラチド、デノスマブ）が出現し、パラダイムシフトが起こっている。骨折診療の潮流は治療から予防に向かっている。
- (4) RAの外科的治療：長期罹病 RA 患者には外科的治療が必要であり、薬物治療とのコンビネーションこそが最高の結果をもたらす。人工関節置換術、関節固定術、関節形成術を行っている。

(部長 平野 裕司)

2014年度関節リウマチ患者背景		
通院症例数(件)		891
新患者数(人)		108
性別	男(人)	221
	女(人)	670
	女性率(%)	75.2
平均年齢(歳)		64.6
平均罹病期間(年)		13.3
罹病期間分類(%)	2年以下	15.3
	3年～9年	30.2
	10年以上	54.5
Stage(%)	I	21.4
	II	15.4
	III	24.1
	IV	39.1
Class(%)	1	19.0
	2	51.0
	3	25.5
	4	4.5
RF陽性率(%)		77.8
ACPA陽性率(%)		79.1

2014年度関節リウマチ薬物治療	
MTX投与者(人)	585
MTX投与率(%)	65.7
投与例の平均MTX投与量(mg/w)	5.8
アザルフィジン投与者	211
アザルフィジン投与率(%)	23.7
プログラフ投与者	224
プログラフ投与率(%)	25.1
PSL投与率(%)	26.9
投与例の平均PSL投与量(mg/day)	1.0
生物学的製剤経験者	290
通院患者における過去も含む生物学的製剤経験率(%)	32.5
通院患者における現在の生物学的製剤投与率(%)	27.7

2014年度関節リウマチ臨床成績		
平均CRP(mg/dl)	0.68	
平均DAS28(ESR)	2.95	
DAS28(ESR)疾患活動性分類(%)	High	7.4
	Moderate	31.8
	Low	22.2
	Remission	38.6
平均SDAI	7.2	
SDAI疾患活動性分類(%)	High	3.2
	Moderate	16.6
	Low	44.4
	Remission	35.8
Boolean4(%)	28.7	
平均mHAQ	0.457	
mHAQ<0.5(%)	64.2	

2014年リウマチ科手術(件)	
合計手術件数	30
人工膝関節置換術	10
人工股関節置換術	4
足趾形成術	2
RA手関節手術	0
足関節固定術	3
その他	11

## 脊椎外科

### 1. 概要

脊椎外科は2005年4月1日より院内標榜科として新設された。現在、脊椎外科医は吉原永武（部長）、富田浩之の2名であり、整形外科スタッフの協力を得ながら診療を行っている。年間200件ほどの手術治療を行っているが、頸髄症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアが脊椎外科における3大疾患であり、手術例のほとんどを占める。稀な疾患においては、名古屋大学整形外科脊椎グループと連携をとりながら、できるだけ当院内で高いレベルでの治療が行えるよう対処している。

脊椎疾患の治療には、保存的治療と手術的治療を病態に応じて選択し、的確に実施して行くことが重要である。保存的治療もさることながら、とりわけ手術的治療が必要な方に対する十分な治療の提供が当院の使命と考えている。当院での治療成績より得られた貴重な医学的知見について、脊椎外科の発展に寄与すべく国内外の学会および医学雑誌上での発表も行っている。

（部長 吉原 永武）

#### ●主な対象疾患

腰椎椎間板ヘルニア 腰部脊柱管狭窄症 頸椎症性頸髄症 腰椎圧り症・分離症 頸椎椎間板ヘルニア  
後縦靭帯骨化症・黄色靭帯骨化症・黄色靭帯石灰化症 リウマチ脊椎 透析脊椎 脊髄腫瘍・脊椎腫瘍  
脊椎感染症 脊椎外傷 その他



# 形成外科

## 1. 概要

診療内容は、皮膚外傷、指尖部切断、熱傷、瘢痕形成、皮膚良性腫瘍、あざ、顔面骨骨折、悪性腫瘍切除後再建、褥瘡、先天奇形などである。一部の皮膚良性腫瘍、母斑などに対してはQスイッチルビーレーザー、炭酸ガスレーザーによるレーザー治療も行っている。血管腫に有効なレーザーは当院には導入されていないが、レーザー専門医の代務医師による血管腫外来を月2回行っている。

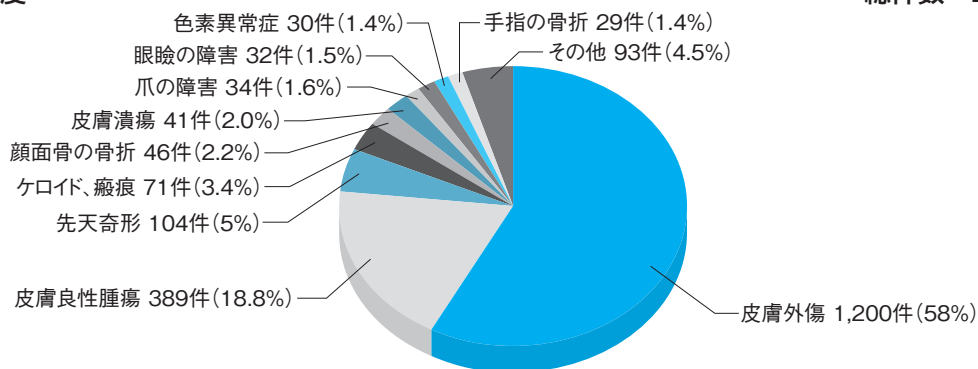
最近の傾向としては創傷に対する湿潤療法を積極的に行うことにより、従来手術を要していた熱傷、外傷性皮膚欠損、指尖部損傷、褥瘡なども多くが保存的治療のみで治癒するようになってきており、それに伴い手術件数はやや減少している。

当院では対応できない手術症例では大学病院（名大、愛知医大）とも連携して常に最新、かつ高度な治療が提供できるように心がけている。

(柏崎 喜宣)

### ●疾患別頻度

総件数：2,069件



# 脳神経外科

## 1. 概要

2014年は、1,702例の疾患を治療し、うち398例の手術を施行した。頭頸部外傷、急性期脳血管障害等、急性期疾患に即座に対応できるよう努力しており、それに加え脳腫瘍、未破裂脳動脈瘤、慢性期の虚血性病変等にも、腰を据えてじっくりと対応している。各種疾患に対して偏りなく、安全かつ確実に手術を行うことを心掛けている。

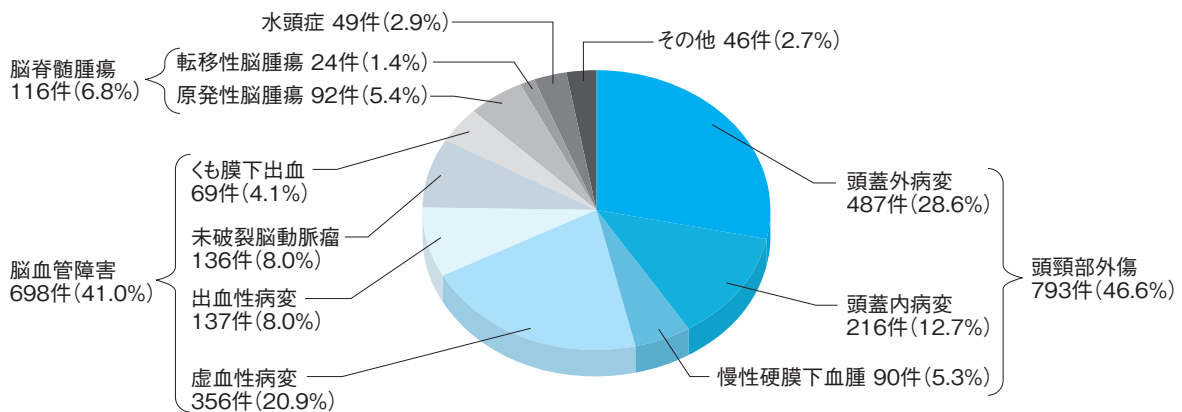
脳神経外科専門医、神経内視鏡技術認定医、脳神経血管内治療専門医、脊髄外科専門医、麻酔科標榜医、脳神経外傷評議員が揃っており、専門性のある治療を行っている。中でも頻度の高い脳梗塞の急性期の治療（血栓溶解療法及び血栓回収の血管内手術）に力を入れているほか、低出生体重児を含む小児の水頭症の治療も数多く行っている。

2015年、患者様のご厚意により脳死下臓器移植を行うことができました。患者様にとりましては誠に不幸な事ではありましたが、臓器移植を待たれる患者様に対しましては大いに貢献できたものと考えます。

(第一部長 雄山 博文)

### ●疾患別頻度

総件数：1,702件



●2014年の代表的な手術の件数（計398件）

【脳腫瘍】	件数(件)
摘出術	38
経蝶形骨洞手術	6
計	44

【脊椎脊髄の手術】	件数(件)
変形性脊椎症	2
後縦靱帯骨化症	1
計	3

【脳血管障害】	件数(件)
破裂動脈瘤	26
未破裂動脈瘤	18
脳動静脈奇形	1
頸動脈内膜剝離術	11
バイパス手術	14
高血圧性脳内出血（顕微鏡下及び内視鏡下による血腫除去術）	13
計	83

【感染】	件数(件)
脳膿瘍排膿術	3
その他	1
計	4

【外傷】	件数(件)
脳内血腫	14
急性硬膜外血腫	6
急性硬膜下血腫	4
減圧開頭術	1
慢性硬膜下血腫	90
その他	1
計	116

【血管内手術】	件数(件)
動脈瘤塞栓術（破裂動脈瘤）	9
動脈瘤塞栓術（未破裂動脈瘤）	23
脳動静脈奇形及び硬膜動静脈瘻	3
閉塞性脳血管障害の総数 （上記のうちステント使用例 17件）	25
その他	4
計	64

【奇形】	件数(件)
脊髄髄膜瘤閉鎖術	1

【その他】	件数(件)
脳梗塞等に対する減圧開頭術	8
頭蓋形成術	9
髄液漏閉塞術	3
気管切開術	18
その他の手術	3
計	41

【水頭症】	件数(件)
脳室腹腔シャント術	26
穿頭脳室ドレナージ術	11
その他	3
計	40

【機能的手術】	件数(件)
三叉神経痛、顔面痙攣に対する脳神経減圧術	2

# 小児科

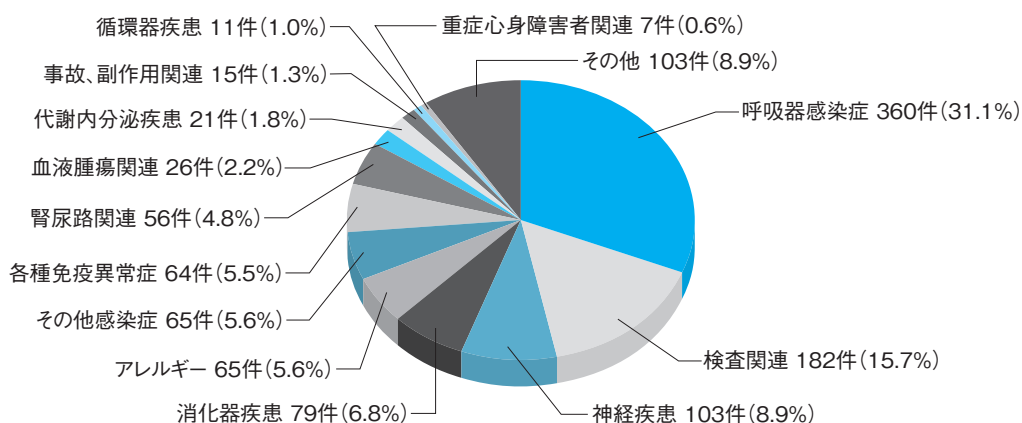
## 1. 概要

当小児科病棟スタッフは皆、東三河地域の最後の砦を担うという誇りと緊張感を持って日夜対応している。サブスペシャリティとしてはアレルギー疾患、神経疾患、循環器疾患、腎疾患、内分泌疾患、血液腫瘍疾患をカバーし、高度特殊医療を除けば各分野ともに専門施設と比べても引けを取らない医療レベルを提供できている。また、患者さんには最善の医療を提供すべく、各分野で対応困難な症例については惜しみなく専門施設との連携をとって対応している。このような体制を維持する意義は、極力地域で医療が完結することが患者さんご家族への最高のサービスの一つとなることにある。特に長期入院を必要とする場合、月に何度も専門外来にかかる必要がある場合には切実な問題である。一方で、周囲の一次医療、二次医療、休日夜間診療所の業務、健診医療の充実に支えられてこそ当院が二次、三次医療に集中することが可能であるということも忘れてはならない。

(第二部長 伊藤 剛)

### ●疾患別頻度

総件数：1,157件



## 小児科（新生児）・周産期母子医療センター（新生児部門）

### 1. 概要

豊橋市民病院新生児医療センターは、2014年4月より愛知県周産期母子医療システムの中で総合周産期母子医療センターに指定された。

2014年の入院数は431例で内322例は院内出生であった。院外出生例においては医師が救急車に同乗して搬送に対応しており、東三河の新生児集中治療を担う唯一の病院として、24時間体制で高度な医療を迅速に提供している。一部の外科的治療が必要な例は他施設への搬送を要する例もあるが、その場合も医師が同乗し責任をもって搬送にあたっている。

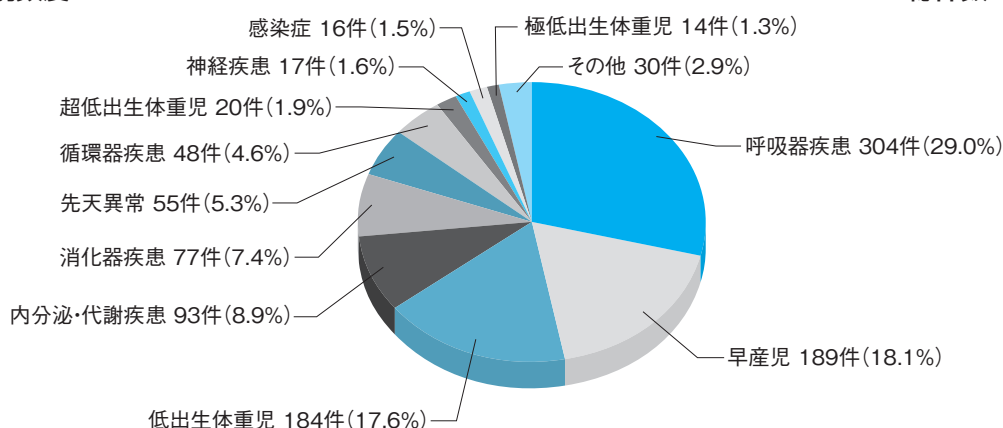
NO吸入療法や低体温療法など最先端の医療技術を提供し、東三河地区の新生児救命率の向上に貢献すると同時に、命の誕生に際して直面する困難な状況に対して、医師、看護師、理学療法士、臨床心理士が中心となり、様々な患者家族支援も提供している。

臨床面のみでなく学術面においても、当センターで得られた貴重な医学的知見を学会及び医学誌で積極的に発表している。

（第二部長 幸脇 正典）

#### ●疾患別頻度

総件数：1,047件



①入院患者分娩施設

分娩施設	症例数(件)
豊橋市民病院	3 2 2
小石マタニティ&チルドレンクリニック	3 9
パークベルクリニック	1 6
マミーローズクリニック	1 3
中岡レディースクリニック	1 1
愛知厚生連 渥美病院	7
豊川市民病院	7
ジュンレディスクリニック豊橋	6
渡辺マタニティークリニック	4
今泉産婦人科医院	2
ふたば助産院	1
静岡厚生連 遠州病院	1
名古屋大学病院	1
病院外出産	1
計	4 3 1

②出生在胎週数別入院患者数

出生在胎(週)	症例数(件)
22～23	4
24～26	8
27～29	1 7
30～32	1 3
33～36	1 4 7
37～41	2 4 1
42～	1
計	4 3 1

③出生体重別入院患者数

出生体重(g)	症例数(件)
～499	1
500～749	9
750～999	1 0
1000～1249	8
1250～1499	6
1500～1999	5 3
2000～2499	1 3 1
2500～	2 1 3
計	4 3 1

④死亡症例・・・4例

疾患名	出生在胎	出生体重(g)
新生児慢性肺疾患、心不全	23週3日	5 7 4
13トリソミー	28週6日	9 4 6
超早産児、超低出生体重児	23週6日	6 5 0
カンガルーケア中の心肺停止	38週1日	2, 7 9 0

# 産婦人科・周産期母子医療センター（母体・胎児部門）

## 1. 概要

周産期関係では2014年4月よりの総合周産期センターが開設された。常時緊急時には30分以内の帝王切開を可能にするため当直2人体制を施行し、センター開設以降15例の超緊急帝王切開が行われた。うち12例で30分以内の娩出が可能であった。バースセンター分娩の受け入れも開始し12月に1例目が無事出産に至った。母体・産褥搬送は全例応需を原則とし前年より増加した。

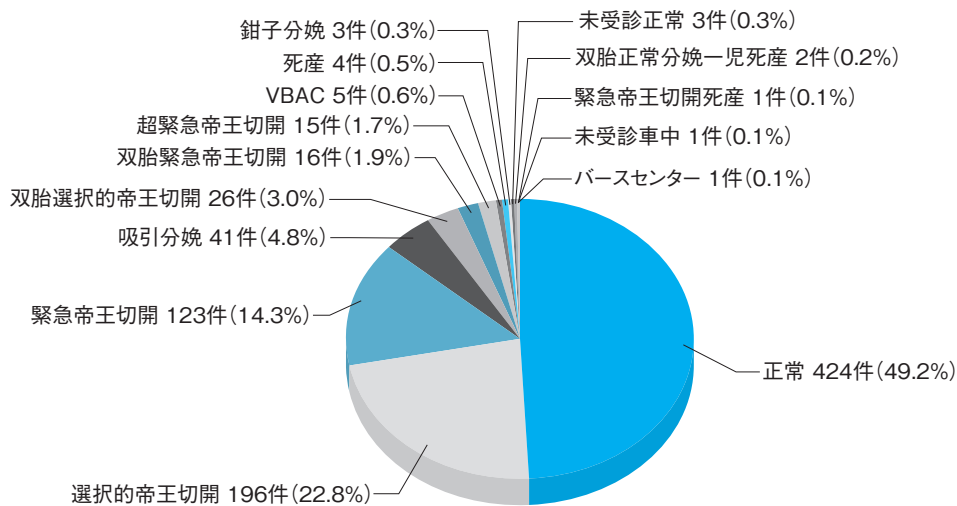
婦人科悪性腫瘍の治療では患者の状態や進行期を考慮した上で、手術、化学療法、放射線療法を組み合わせることであり、成績は全国的にも高いレベルを示している。腹腔鏡下の手術へのシフトが著しく保険適応となった子宮体癌はもとより、子宮頸癌の腹腔鏡下手術（保険適応外）、ロボット手術も導入した。

子宮筋腫をはじめとする良性疾患に対しても腹腔鏡下手術が主流となり、低侵襲で入院期間も短縮された。

（第二部長 岡田 真由美）

### ●分娩統計

総件数：861件



分娩統計(2014.1-12) (件)

正常	424
選択的帝王切開	196
緊急帝王切開	123
緊急帝王切開死産	1
超緊急帝王切開	15
鉗子分娩	3
吸引分娩	41
VBAC	5
未受診正常	3
未受診車中	1
死産	4
双胎選択的帝王切開	26
双胎緊急帝王切開	16
双胎正常分娩一児死産	2
パースセンター	1
計	861
中期中絶	16
中期流産	3
中期中絶帝王切開	1
双胎中期中絶	1
中期中絶緊急帝王切開	1
計	22
母体搬送	211

産婦人科悪性腫瘍治療症例数(2014.1-12) (件)

◎子宮頸部CIN2	計15
円錐切除	13
腹腔鏡下子宮全摘術	2
◎子宮頸部CIN3	計65
円錐切除	53
レーザー蒸散	1
腔式子宮全摘	4
複式単純子宮全摘	1
腹腔鏡下子宮全摘術	6
◎子宮頸癌	計38
①子宮頸癌腹腔鏡下手術	11
1A	1
1B1	9
1B2	1
②子宮頸癌開腹手術例	10
1A	2
1B1	7
1B2	1
③子宮頸癌ロボット支援手術	2
1A	1
1B1	1
⑤子宮頸癌化学放射線療法(放射線科と共同治療)	8
2A	1
2B	6
4B	1
⑥子宮頸癌放射線療法(主に放射線科)	7
1B1	1
2B	3
3A	2
4A	1
◎子宮体癌(肉腫含む)	計54
①手術	51
1A	31
1B	9
2	4
3A	2
3C	3
4B	2



うち腹腔鏡手術	33
開腹手術	16
ロボット支援手術	2
②子宮体癌放射線治療	3
1A	2
1B	1
◎子宮内膜増殖症	計3
①手術	3
うち腹腔鏡手術	1
◎卵巣境界悪性腫瘍	計7
1A	2
1C	5
◎卵巣悪性腫瘍	計21
1A	3
1B	2
1C	5
3A	2
3B	3
3C	5
4	1
◎卵管癌	計1
◎転移性卵巣癌	計3
◎腔癌化学放射線治療	計1
◎化学療法	
子宮頸癌	33人 のべ111コース
子宮体癌	31人 のべ133コース
卵巣癌	49人 のべ293コース
絨毛性疾患	3人 のべ13コース
その他	4人 のべ18コース
計	120人に対して、のべ468コースを 施行した。

---

産婦人科当直帯救急患者数(夜間休日)(2014.1-12) (件)

---

経膈分娩	342
緊急帝王切開	86
その他緊急手術	44

救急外来患者数再診

8:30-17:00 (休日のみ)	143
17:00-0:00	248
0:00-8:30	103
計	494

救急外来患者数初診

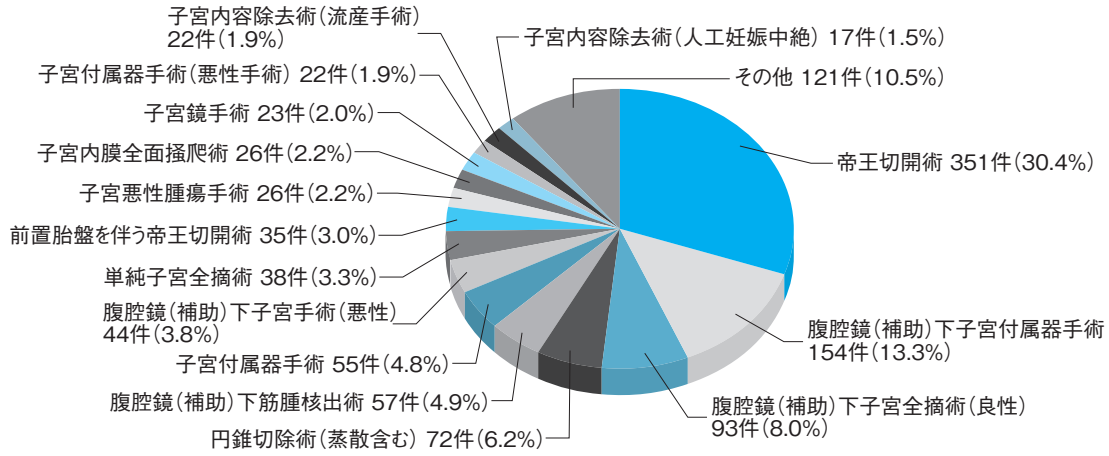
(カッコ内は本来他の施設で診察すべき患者数)

8:30-17:00 (休日のみ)	69(8)
17:00-0:00	170(13)
0:00-8:30	96(18)
計	335(39)

救急外来患者総数 829

●手術件数

総件数：1,156件



## 産婦人科（生殖医療）・総合生殖医療センター

### 1. 概要

世界に先駆けて全受精卵への臨床応用を開始したタイムラプス胚培養も8年目となり、多胎防止を含む生殖補助医療の質的維持を今年も達成できた。国内外の学会での新知見発表には聴衆も多く集まり、若手産婦人科医師や臨床検査技師のモチベーションを高めている。北見和久医師が、日本不妊カウンセリング学会で優秀賞を受賞した。

2014年は、外来・手術室・病棟にまたがる関連看護スタッフや事務職員等、院内全体の患者ケアが洗練されたものになったことを確認できる1年でもあった。難治性の患者さんが当院に集中するという理想的な傾向は続いている。このような患者さんが繰り返し治療を行い、見かけ上の数値を低く抑えているが、他院での反復不成功例がすんなり成功するなど、スタッフが技術の高さを確認できる機会も多かった。頻回不成功例に肥満や痩せが多いことにも着目し、妊娠分娩の安全性や生涯の健康増進にもつながる“妊活”の先をめざす健康な体づくりを推進した1年でもあった。

(部長 安藤 寿夫)

#### ●生殖補助医療

(件)

2014年	刺激周期数	体外受精数	内、顕微授精	新鮮胚移植	妊娠	融解胚移植	妊娠
1月	23	20	16	14	4	14	5
2月	18	15	10	13	2	7	1
3月	22	18	12	9	1	8	3
4月	25	24	13	16	4	8	4
5月	22	18	14	6	2	13	3
6月	19	16	13	9	3	12	4
7月	22	19	10	12	4	10	2
8月	22	21	16	15	3	7	2
9月	19	14	11	9	1	9	1
10月	35	33	25	18	6	10	4
11月	21	20	16	18	1	8	0
12月	19	16	6	6	1	11	6
計	267	234	162	145	32	17	35
妊娠率					22.0%		30.0%

多胎は0例。異所性妊娠1例。

生殖医療の成績データは、症例背景など医療機関により異なる要素が多いことから、他の医療機関との単純な比較をすべきではないと付記することが、米国では義務付けられています。

#### ●不妊症妊娠例（カッコ内は多胎妊娠例） (件)

体外受精－新鮮胚移植	31 (0)
融解胚移植	34 (0)
排卵誘発	6 (0)
人工授精	3 (0)
習慣流産	1 (0)
タイミング法・その他	39 (0)
計（重複例を除く）	105 (0)

## 女性内視鏡外科

### 1. 概要

産婦人科の中で、主に腹腔鏡下手術と子宮鏡下手術全般に関わる手術を担当している。

東三河においては、婦人科手術に関してこれまで開腹術が中心であったが、良性疾患のほとんどで腹腔鏡下手術が可能のため今後置き換わっていく予定である。この手術は傷も小さく、早期退院、社会復帰可能な手術で患者さんに負担が少ない手術である。2013年5月1日に着任して以来、順調に手術件数を伸ばし、2014年度は腹腔鏡下手術と子宮鏡下手術合わせて400件となり、愛知県内でも有数の手術件数を誇るまでになった。主な適応疾患は、子宮筋腫、卵巣腫瘍、子宮内膜症、子宮外妊娠である。入院期間は腹腔鏡下手術で5日間前後、子宮鏡手術では3日間である。退院後特に制限なく活動が可能となるので、とても有効な治療法である。現在、子宮体がんに対しても保険適応となったので、ますます患者さんに優しい治療として広がっていく予定である。豊橋市民病院ではさらに子宮頸がんに対して腹腔鏡下手術やロボット手術を導入した。また高齢化に伴い、子宮脱や膀胱脱といった骨盤臓器脱の患者さんが増えている。臓器脱に伴い社会活動の低下や膀胱機能障害が出現するために、その治療法として腹腔鏡による最新式のメッシュ手術を導入した。今後ますます低侵襲化手術に向けて展開していく。

(部長 梅村 康太)

# 耳鼻いんこう科

## 1. 概要

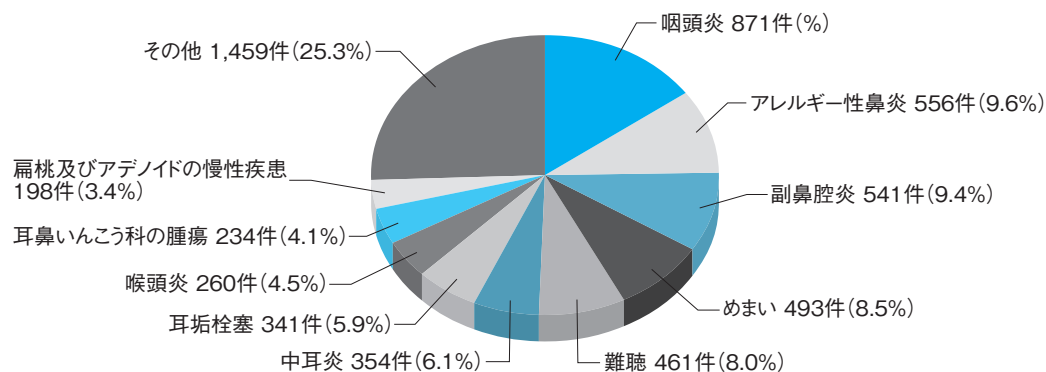
1日の外来受診患者数は約100～110人であった。年間の入院患者数は482人であった。手術室を使用した手術療法は年間347件であった。

中耳炎、めまい、難聴、顔面神経麻痺に対して投薬治療を行い、改善を認めない場合は当院にて外科的治療を行った。また、耳鳴り専門外来を新設し、専門的な治療を開始した。アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、鼻中隔湾曲症に対して、患者さまの病態や希望にあった治療（手術療法や投薬治療）を行った。慢性扁桃炎や睡眠時無呼吸症候群に対して、口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術を行った。また鼻出血、急性扁桃炎、喉頭蓋炎などの救急疾患については、重症度に合わせて入院治療を行った。咽頭・喉頭・甲状腺・唾液腺などの良性腫瘍に対しては、適応を定めて手術療法を行った。悪性腫瘍に対しては、それぞれの患者の状況に合わせて、根治と機能温存のバランスを取り、手術療法、化学療法、放射線療法の3者を組み合わせて治療を行った。再建を必要とする様な症例も積極的に当院で行った。

(部長 小澤 泰次郎)

### ●疾患別頻度

総件数：5,768件



### 入院患者

主な救急疾患(入院加療を要した)	件数(件)
めまい	11
突発性難聴	9
顔面神経麻痺	10
急性扁桃炎・扁桃周囲の腫瘍	20
急性喉頭蓋炎・喉頭炎	9
鼻出血	11

主な手術療法(手術室使用)	件数(件)
口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術	119
内視鏡下副鼻腔手術	40
リンパ節摘出術	31
甲状腺腫瘍手術	18
鼓膜チューブ留置術	18
気管切開術	21
喉頭微細手術	13
耳下腺腫瘍手術	18
頸部郭清術	16
顎下腺摘出術	10
喉頭全摘術	7

# 眼科

## 1. 概要

外来患者数は1日約120～150人（特殊検査・外来治療含む）で、初診が1～2割を占める。常勤5人、非常勤1人、常時5人で外来を担当している。うち5人は日本眼科学会認定専門医である。積極的に逆紹介を行っており、外来患者数は前年と比較して横ばいであるが、緊急手術等が必要な重症例が増加し一人当たりの患者にかかる時間が増加している。また、抗VEGF抗体硝子体注射の適応疾患拡大に伴い、注射件数が大幅に増加していることも外来業務を圧迫している。非常に待ち時間が長い状態が続いており、さらに逆紹介を増やす必要がある。

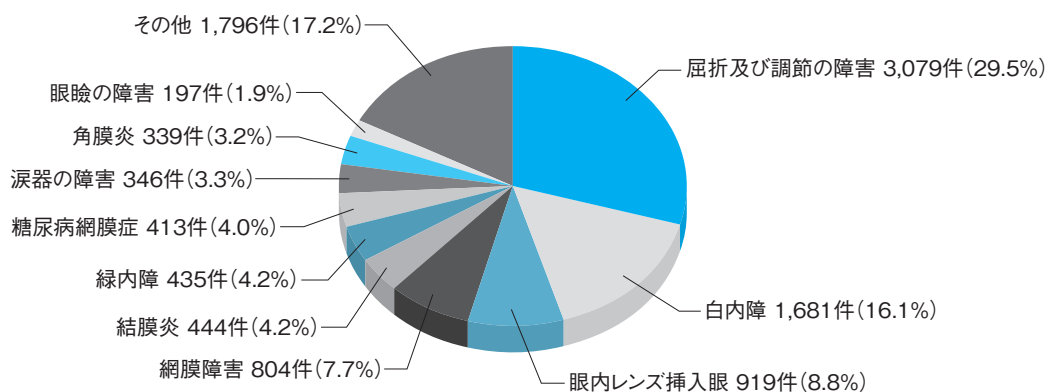
年間の手術室を使用した手術件数は約1,200件で、昨年よりも約200件増加している。白内障手術時、適応症例に乱視矯正用のトーリック眼内レンズの使用が進んだ。25G&27G硝子体手術システムにより手術時間短縮、手術件数の増加になった。緑内障手術時、適応症例にインプラント挿入術の使用が進んだ。

大学病院等とも連携し最良の治療が提供できるようにしている。

（部長 西原 裕晶）

### ●疾患別頻度

総件数：10,453件



### (1) 入院患者

入院時疾患名	(人)
白内障	534
網膜剥離	87
糖尿病網膜症	59
黄斑上膜	35
緑内障	33
硝子体出血・混濁	28
黄斑円孔	28
硝子体脱出	12
角膜潰瘍・角膜炎	8
硝子体黄斑牽引症候群	8
網膜下出血	6
視神経症	6
外傷・眼球破裂	5
眼内異物	4
内反症	4
角膜穿孔	4
斜視	3
眼内炎	2
水晶体偏位	2
増殖硝子体網膜症	2
黄斑変性	1
眼内レンズ脱臼	1
急性網膜壊死	1
結膜癬痕	1
眼窩蜂窩織炎	1
結膜腫瘤	1
無水晶体眼	1
網膜動脈閉塞症	1
計	878

## (2) 手術数

### ①外来手術数

手術名	(件)
硝子体注射・テノン嚢下注射	469
網膜光凝固術(PHC)	397
レーザー後発白内障切開術(YAG)	85
レーザー虹彩切開術(LI)	29
涙点プラグ挿入	7
レーザー線維柱帯形成術(LTP/SLT)	6
霰粒腫摘出術	4
計	997

### ②外来特殊検査件数

検査名	(件)
光干渉断層撮影(OCT)	6,881
動的量の視野検査	1,241
静的量の視野検査	885
蛍光眼底撮影	621
眼鏡処方	384
計	10,012

### ③手術センター手術数

手術名	(件)
白内障手術	766
硝子体茎顕微鏡下離断術	223
眼瞼下垂症手術	62
網膜復位術	34
翼状片手術	23
内反症手術	18
濾過胞再建術	23
流出路再建術	14
硝子体切除術	11
斜視手術	9
縫着レンズ挿入	4
前房、虹彩内異物除去術	4
眼瞼腫瘤切除術	3
虹彩整復・瞳孔形成術	3
眼瞼腫瘍切除術	2
結膜嚢形成手術	2
硝子体注入・吸引術	2
増殖性硝子体網膜症手術	2
霰粒腫摘出術	2
角膜・強膜異物除去術	1
角膜・強膜縫合術	1
結膜下異物除去術	1
結膜肉芽腫摘除術	1
涙嚢瘻管閉鎖術	1
瞼縁縫合術	1
計	1,213



# 皮膚科

## 1. 概要

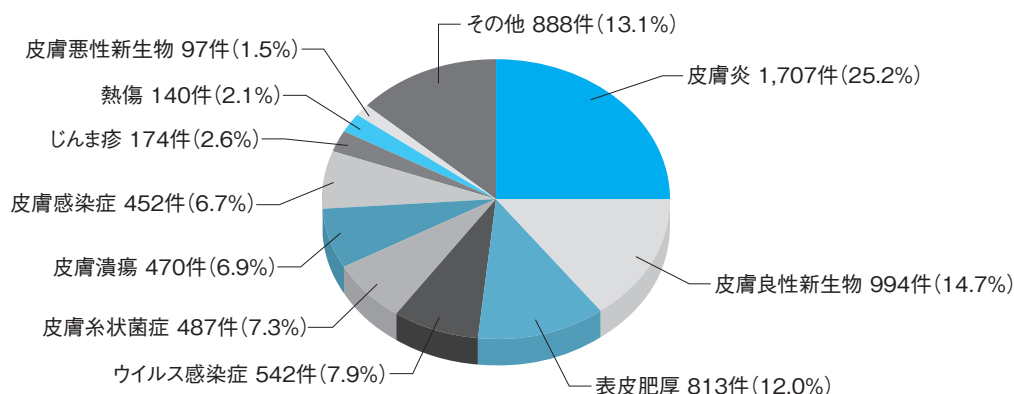
2014年の当科の診療の最大の変化は、常勤が従来の4名から5名体制となったことである。これにより毎週金曜午後に行っている褥瘡回診がスムーズに行われるようになった。

また、2014年は春から夏にかけて工場での火炎による事故が多く、当科の入院も重症熱傷が多かった。手術も従来の悪性腫瘍に加えて熱傷の手術を多く行った。

(部長 山田 元人)

### ●疾患別頻度

総件数：6,764件



### ●悪性新生物

疾患名	件数 (件)	疾患名	件数 (件)
1 有棘細胞癌	31	5 肉腫	1
2 基底細胞癌	25	6 その他	23
3 転移性皮膚腫瘍	9	計	97
4 悪性黒色腫	8		

### ●良性腫瘍、熱傷、膠原病

疾患名	件数 (件)	疾患名	件数 (件)
1 良性腫瘍	994	5 全身性エリテマトーデス	6
2 熱傷	140	6 皮膚(多発性)筋炎	6
3 血管炎	38	計	1,200
4 全身性硬化症(強皮症)	16		

# 泌尿器科

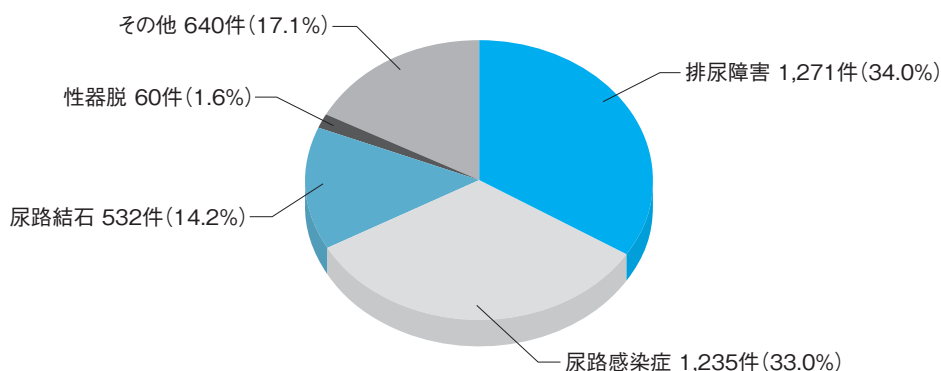
## 1. 概要

2014年度は長井、田中両部長、荒木副部长、寺島医長、石塚、内藤医師の6人体制で始まったが、がん専門医としての栃木県立がんセンター、国立がんセンター中央病院で1年間のトレーニングを終えた山本医師が7月から帰院したことにより、質、量ともにこれまでで最も充実した泌尿器科医療の体制を築くことができた。とは言え、東三河地区における当院への一極集中の傾向は年々強くなり、繁忙の程度は増すばかりである。当科の柱である泌尿器悪性腫瘍に対する小切開手術は全国のトップクラスを維持し、さらなる発展が期待されている。また、da Vinci Siによるロボット支援前立腺全摘術が軌道に乗ったことにより、ロボット手術目的の紹介患者が当初の予想を大きく上回るほどに増加した。さらに、女性骨盤外科領域の手術件数は増加の一途をたどり、尿路結石治療においても、fTUL手術も順調に症例を重ねており、ここ数年の様々な試みが実を結び始めていると感じている。

(第一部長 長井 辰哉)

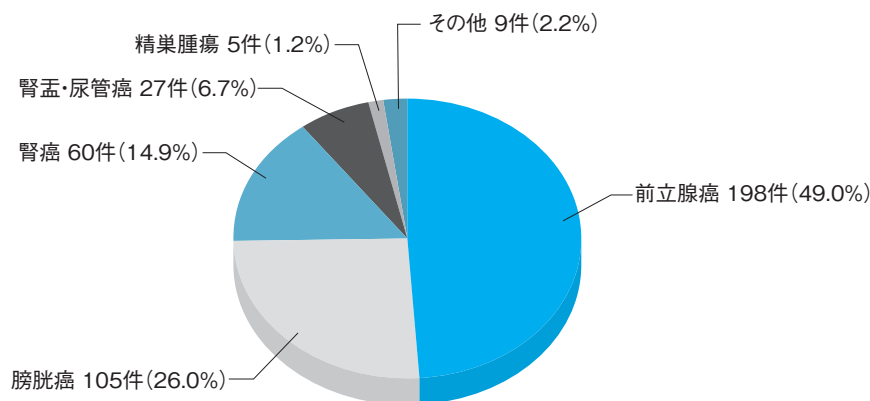
### ●疾患別頻度（悪性新生物を除く）

総件数：3,738件



### ●疾患別頻度（悪性新生物のみ）

総件数：404件



# 放射線科

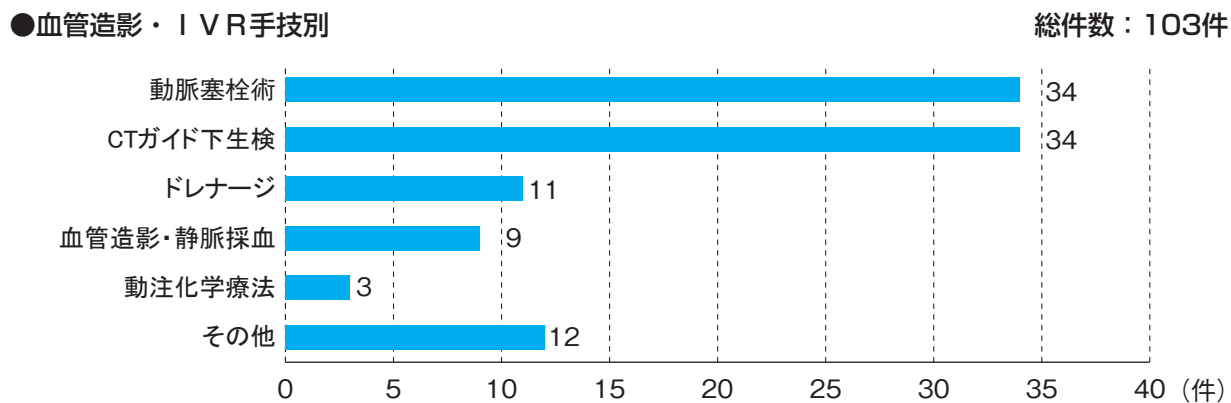
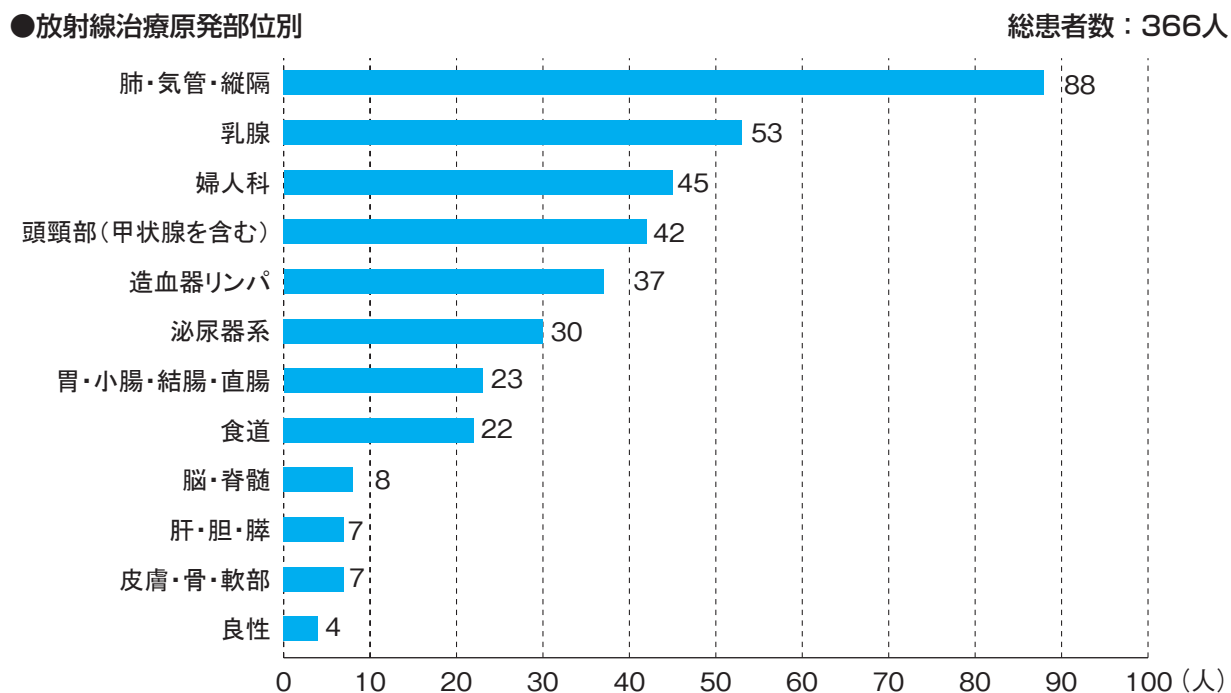
## 1. 概要

2014年1月には石原部長、高田副部長、太田医長の3人であったが、4月に後期研修医として澤田先生の加入、9月に人事異動があり、2014年12月には、石原、高田、中道医員、澤田医員で診療している。

この1年間の業務実績は、読影が29,178件（CT 20,260件、MRI 7,788件、アイソトープ 1,130件）、このうち病診連携室経由の検査はCT 408件、MRI 287件、アイソトープ 23件であった。その他、血管造影・IVR 103件、甲状腺機能亢進症に対するヨード内用療法 5件、骨転移に対するストロンチウム治療 3件、放射線治療の新患 367件であった。

2015年以降に向けての活動としては、放射線治療装置の更新・増設やPET/CT、SPECT/CT導入の準備の詰めを行った。

(部長 石原 俊一)



# こころのケア科

## 1. 概要

2014年1月から12月までの患者数は281人。副科初診患者数は268名であった。

外来は11人で、依頼元は耳鼻科と外科が3人ずつ、神経内科2人などであった。依頼理由は、精神面の緩和ケア外来、患者家族からの診察の希望、精神病患者の眼科の入院での手術の可否、心身症的な身体症状での精神科治療の可能性、精神的な葛藤の相談などであった。

救急外来は統合失調症の2人で、頻回の受診と入院適応での治療の説得である。

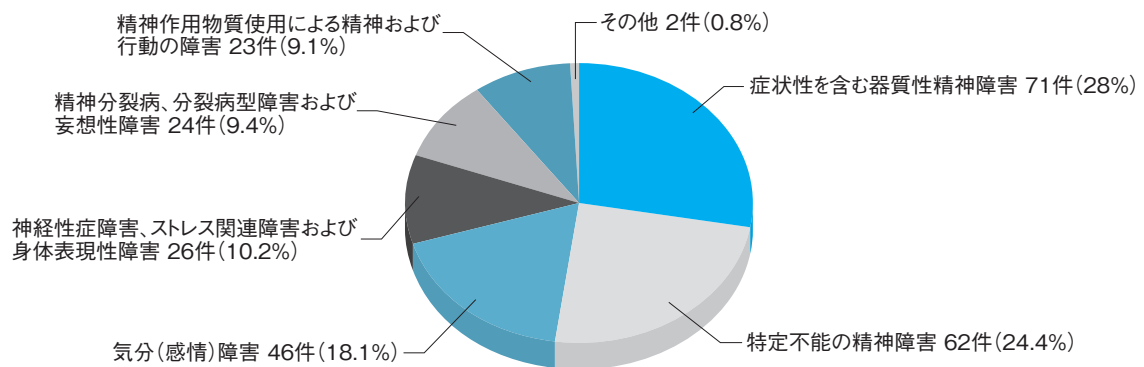
緩和ケアチーム症例数は13名であった。依頼理由の内訳は、疼痛緩和が13人中11人、腹部膨満と嘔気と嘔吐が2人であった。

副科の268名の内訳は、1番目と2番目が、神経症圏の症例とせん妄がそれぞれ40人（14.9%）ずつ。3番目は自殺企図の症例で32人（12.0%）。4番目、5番目は脳器質的精神障害あるいは生体腎移植患者の精神科的評価が20人（7.4%）ずつであった。この5種類の状態が、268人中152人で全体の56.7%になる。あとは精神病圏15人、認知症圏14人、不眠症11人、気分障害圏10人、アルコール症10人と続く。

（竹谷 一雄）

### ●疾患別頻度

総件数：254件



# 麻醉科

## 1. 概要

2014年は他院への異動が3月末に1名あったため、麻醉科医は7名歯科麻醉科医1名まで減少した。4月に当院研修医から2名入局し、7月より1名他院より帰局した。最終的には麻醉科医10名、歯科麻醉科医1名の体制となった（ただし産休育休取得者が1名）。

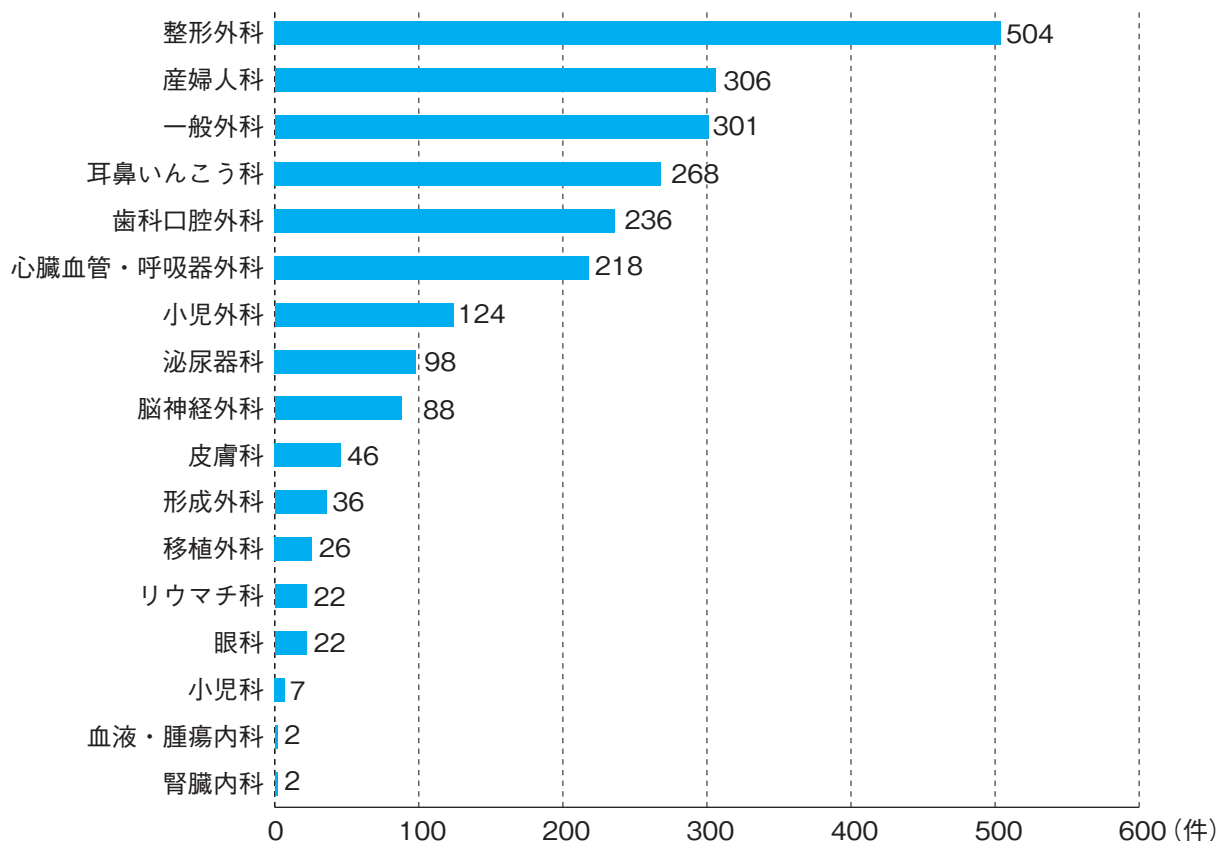
年間の総手術件数は7,931件であり、全身麻醉件数は3,646件であった。麻醉科管理症例は2,306件であり、そのうち麻醉科管理の全身麻醉は2,152件であった。麻醉科管理の緊急症例は471件あった。麻醉科医の人数が減った分、麻醉科管理症例が若干減少した。

新たに、挿管用気管支ビデオスコープを購入し、McGRATH MACが6台に増え、挿管困難対策が増々充実した。デスフルラン気化器が6台に増えた。現在、麻醉関連機器や薬剤を整備でき、全国的にも誇れる麻醉環境が整いつつある。幸いにも2015年には、副部長1名、医長1名の赴任予定があり、将来に向け明るい光がさしてきている。

(第一部長 寺本 友三)

### ● 麻醉科管理件数

総件数：2,306件



---

## ●主要備品 (2015年分も含む)

---

### 1. 患者監視装置

#### ①Philips社製セントラルモニター

IntelliVueインフォメーションセンタ …… 1式 (2画面)

#### ②Philips社製IntelliVue MP 50、70、90 …… (13台)

MX700 …… (3台)

MX800 …… (1台)

### 2. 手術部門システム Philips社ORSYS-TETRA 電子カルテと連動

術前術後診察機能、同意書作成機能、血中濃度シュミレーター付、縦型19インチタッチパネルモニター14台、看護端末14台とデータ連係、ステータスマニタ5台、管理端末6台、Web機能によりすべての電子カルテ端末より参照可

### 3. 超音波診断装置

①心臓麻酔用GE社製 Vivid i …… 1台

②中心静脈穿刺用GE社製 Venue40 Anesthesia …… 1台

③神経ブロック用ソノサイト社製 S-Nerve …… 1台

④神経ブロック用GE社製 LOGIQ e Premium …… 1台

### 4. 静脈麻酔システム

①テルモ社製ディプリバン専用TCIポンプ …… 16台

②テルモ社製シリンジポンプ …… 67台

(手術室内麻酔科専用分のみ)

③集中電源装置と架台 …… 14式

(手術室6部屋分が最新型、手術室8部屋分が通常型)

### 5. 挿管支援器具

①ペンタックス社製 エアウェイスコープ …… 10台

②McGRATH MAC …… 14台

# リハビリテーション科・リハビリテーションセンター

## 1. 概要

リハビリテーション科の診療はリハビリテーションセンターと、院内各病棟のベッドサイドで行っている。

外来診療は、市内の病院・医院では行っていない小児の運動・言語発達遅滞、神経難病を中心として、また当院退院後の短期間のリハビリを行っている。

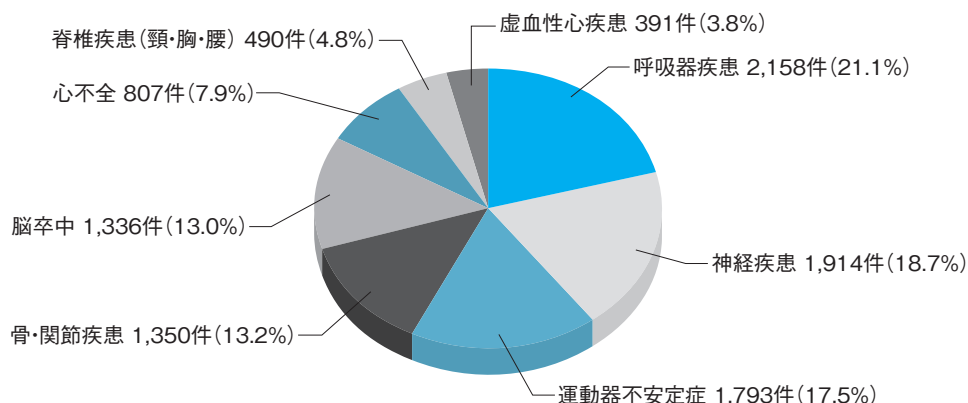
入院診療は、脳卒中や頭部外傷、脳神経や脊髄神経の疾患に対する脳血管リハビリ、骨・関節の外傷や疾患への運動器リハビリ、心筋梗塞・狭心症や心不全の心大血管リハビリ、肺炎や慢性閉塞性肺疾患などの呼吸器リハビリ、また、嚥下障害に対する嚥下リハビリを行っている。当院では急性期リハビリが中心であり、地域連携パスを通じて回復期リハビリ病棟を持つ病院に転院できるシステムが整えられている。

2014年には、がん治療のために入院されている方への個別療法であるがん患者リハビリに対応可能なスタッフを増員した。また、入院患者の日常生活動作を維持・向上するためのリハビリ体制構築を準備している。

(部長兼センター長 石川 知志)

### ●疾患別頻度

総件数：10,239件



### ●リハビリテーションセンター利用状況

区分	平成26(2014)年度	平成25(2013)年度	平成24(2012)年度
延患者数(人)	92,919	93,191	83,998
1日平均(人)	380.8	381.9	341.5
外来開院日数(日)	244	244	246

※病院事業収支及び活動状況(報告)

## 病理診断科

### 1. 概要

病理診断科は、生検や手術検体の病理組織診断、術中迅速診断、細胞診検査、病理解剖を行っている。また、病理診断科を選択した研修医の実習・教育および臨床各科から依頼された学術報告への協力、院内カンファレンスへの参加も同時に行っている。

2014年の病理組織検査の依頼件数は11,572件で、そのうち術中迅速診断は403件であった。病理解剖は25件で、定期的にCPCを開催し、臨床各科を交えて、症例の診断・治療、病態・死因についての詳細な検討を行った。

さらに豊橋市立看護専門学校の講義を要請され、52時間担当した。

(部長 前多 松喜)



# 臨床検査科

## 1. 概要

2012年8月より臨床検査科が開設された。以来、検体検査管理加算（Ⅰ）・（Ⅳ）算定の許可を受けている。2014年度は、日本臨床検査医学会臨床検査管理医を取得している。

検体検査に基づいたパニック値や、重大な結果などは直ちに臨床側に報告され、迅速な対応に協力している。当院は、東三河地区の急性期を担う病院であり、症例数が多く、なおかつ重症例も多いため、パニック値報告数等も増加傾向にある。

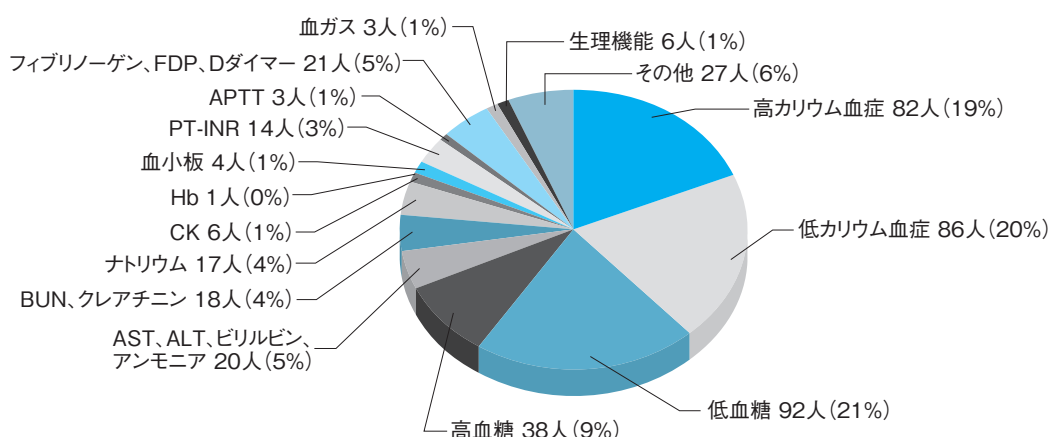
また、症例検討を含む勉強会を定期的に行い、中央臨床検査室の臨床的知識・能力の向上のため、尽力している。内部精度管理と外部精度管理の充実を目標にしており、臨床検査の正確度の維持向上のため、日本医師会・日本臨床衛生検査技師会・愛知県臨床検査技師会の精度管理調査に参加しており、2014年度も優秀な成績をおさめている。

精度の高い検査結果を出し、診断、治療効果の判定や予後の指標の手助けに協力している。

(副部長 出井 里佳)

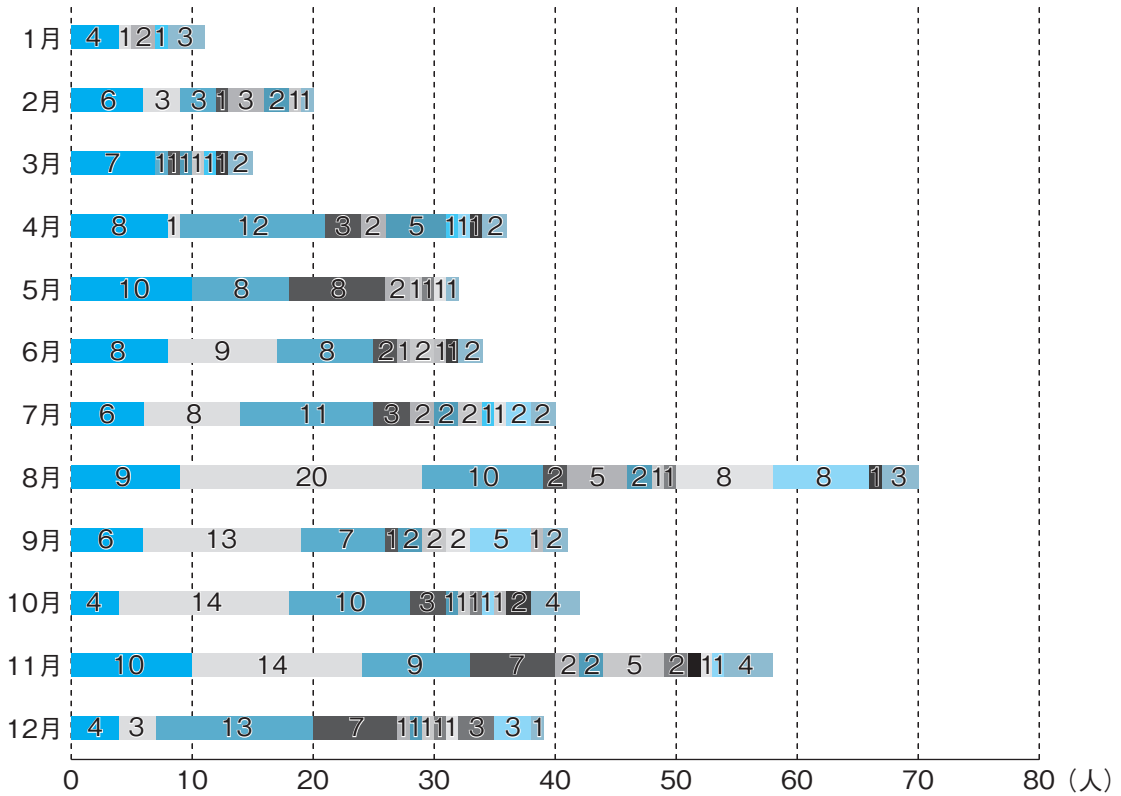
### ●2014年パニック値頻度

総件数：438人



●2014年 月別パニック値報告

■ 高カリウム血症    ■ 低カリウム血症    ■ 低血糖    ■ 高血糖  
■ AST、ALT、ビリルビン、アンモニア    ■ BUN、クレアチニン    ■ ナトリウム  
■ CK    ■ Hb    ■ 血小板    ■ PT-INR    ■ APTT  
■ フィブリノーゲン、FDP、Dダイマー    ■ 血ガス    ■ 生理機能    ■ その他



●中央臨床検査室勉強会

開催月	議 題
2014年 1 月	髄膜炎
2014年 2 月	CK
2014年 4 月	アンモニア
2014年 5 月	AST、ALT
2014年 6 月	甲状腺クリーゼ
2014年 7 月	甲状腺クリーゼ
2014年 9 月	熱中症
2014年10月	甲状腺機能低下症
2014年11月	低血糖症
2014年12月	高血糖症

## 歯科口腔外科・口唇口蓋裂センター

### 1. 概要

外来初診症例においては、2012年度からの周術期口腔管理の保険導入以後、院内医科との連携を着実に取りながら進めたため、昨年に比較して入院中の口腔管理目的の院内紹介患者の増加がみられる。初診症例でも豊橋市内外の医科や歯科から多くの紹介をいただき、各疾患分野においてほぼ例年通りの安定した患者数を維持している。

入院症例ではその多くが埋伏智歯の抜歯症例で昨年よりもわずかに減少したが、それ以外の分野の入院症例に増加があり、結果として昨年よりも全体の入院症例数が増加している。

口唇口蓋裂センターは、豊橋市内外から多くの患者の紹介を頂いており、院内の産婦人科、小児科からの紹介も多い。対象症例の手術入院も安定した患者数がみられる。

(部長兼センター長 嘉悦 淳男)

(文責 医長 寺沢 史誉)

#### ●外来初診症例数 2014年

疾患名	計 (件)
一般歯科疾患	460
口腔歯の形態異常	789
顎顔面の形態異常	17
口唇口蓋裂	12
炎症感染症	169
顎関節疾患	124
粘膜疾患	165
外傷	197
嚢胞	75
良性腫瘍	73
神経疾患	15
唾液腺疾患	24
悪性腫瘍	29
口腔機能疾患	41
口腔管理	183
その他	55
計	2,428

#### ●入院症例数 2014年

疾患名	計 (件)
嚢胞	25
外傷	26
炎症感染症	27
悪性腫瘍	54
口唇口蓋裂	29
顎変形症	3
良性腫瘍	43
唾石	4
埋伏歯等抜歯	216
その他	1
計	428

# 救急外来センター

## 1. 概要

当院の救命救急センターは、東三河地区唯一の救命救急センターとして、1次から3次までのあらゆる救急患者に対応している。主に救急外来部門（ER）と重症患者が入院する救命救急センター・ICU部門に分かれ、24時間体制をとっている。

当直は12名体制で、内訳としては、管理直1名、内科医師1名、ICU医師1名、ER直1名、研修医5名、産婦人科医師1名、小児科医師2名だが、週末や長期休暇時には、増員体制を組んでいる。当院は災害拠点病院であるため、日頃より災害訓練等を行い、万全の体制をとっている。

また、ヘリポートを併設しており、東三河全域よりドクターヘリまたは防災ヘリにて重症救急患者を受け入れている。

月1回、日本救急医学会認定ICLSコース、豊橋外傷初療セミナー、院内BLS/AEDコースを開催し、Medical controlの一環としての双方向性の情報交換カンファレンスを行っており、院内医療スタッフ、地域救急隊ともに質の向上を目指している。

（センター長 鈴木 伸行）

### ●年齢別患者数 平成26(2014)年度

区分	内科		外科		心臓血管・呼吸器外科		脳神経外科		その他		計	
	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)	延患者数 (人)	構成比 (%)
80歳以上	816	29.8	134	18.1	49	10.3	173	17.4	73	12.8	1,245	22.6
70～79歳	782	28.5	240	32.4	225	47.1	209	21.1	74	13.0	1,530	27.7
60～69歳	490	17.9	175	23.6	90	18.8	282	28.4	110	19.3	1,147	20.8
50～59歳	303	11.1	80	10.8	41	8.6	128	12.9	40	7.0	592	10.7
40～49歳	128	4.7	57	7.7	60	12.6	58	5.8	101	147.8	404	7.3
30～39歳	127	4.6	28	3.8	3	0.6	29	2.9	42	7.4	229	4.1
20～29歳	82	3.0	9	1.2	2	0.4	32	3.2	20	3.5	145	2.6
10～19歳	14	0.5	10	1.4	6	1.3	54	5.4	19	3.3	103	1.9
0～9歳	0	0.0	7	0.9	2	0.4	27	2.7	90	15.8	126	2.3
計	2,742	100	740	100	478	100	992	100	569	100	5,521	100

# 救急入院センター

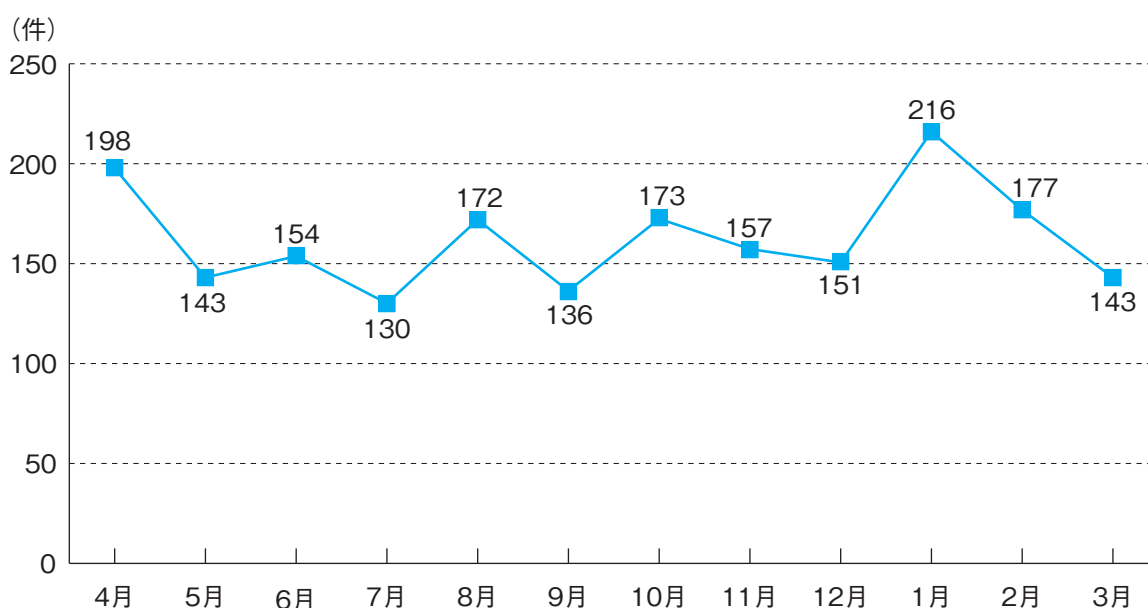
## 1. 概要

救急入院センターは2013年度より設置され、センター長 平松和洋（外科兼任）、副センター長 中島基晶（麻酔科兼任）、菅沼伸一（呼吸器内科兼任）で開始した。

当センターはICUに隣接し、ICU適応以外の夜間・休日の救急入院患者の受け皿として機能している。基本的に各科主治医が患者の診療を行い、センターメンバーは主に本センターの管理・運営を主体として活動している。実働病床は昨年同様本年も12床で、2013年度の特命救命救急病床加算算定件数は2,713件であったのに対し2014年度は1,950件とやや減少した。2014年4月～2015年3月までの各月の推移は以下のグラフのごとくである。加算の多くは3日以内で、昨年の統計と比較すると7月と9月の減少が著しく、これが減少の主因と考えられた。また当直体制はセンターのメンバーだけでなく各科部長にも委託して行い、夜間入院患者の救急処置に当たってきたが、2014年度は特に大きな問題なく経過した。

（センター長 平松 和洋）

### ●救命救急入院料算定件数



### ●算定件数の内訳

	2014年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2015年 1月	2月	3月	総計
救命救急入院料1 (3日以内)	136	122	136	114	139	115	143	117	119	138	134	129	1,542
救命救急入院料1 (4日以上7日以内)	41	16	16	16	23	11	22	24	25	46	28	13	281
救命救急入院料1 (8日以上14日以内)	21	5	2	0	10	10	8	16	7	32	15	1	127
計	198	143	154	130	172	136	173	157	151	216	177	143	1,950

## 集中治療センター

### 1. 概要

集中治療の現場では、常に重症な患者さんと向き合い、ときに急変といった短い時間で多くの対処が必要となる場面にあひます。さらに点滴ポンプや人工呼吸器だけではなく、IABP や人工心肺装置、血液浄化装置など多くの医療器械が使用され、煩雑さを増しています。非常に緊張を強いられるこの場で、日々の診療を皆で続けていくには何が必要なのか、いつも考えます。でも、結局は患者さんに対する気持ちとそれを実現させる知識と技術、なのだと、いつも同じ結論に達します。急変した患者さんに対して瞬時に的確な対処ができ、なんの併発症もなくリカバーできたとき、スタッフ同士お互いにふと目が合ってニコッとする瞬間、いいと思いませんか。こんなことを考え日々 ICU にいます。

(センター長 中山 雅人)

## 予防医療センター

コース名	受診者数 (人)
二日ドック (旧 一泊)	78
日帰り人間ドック	2,856
脳ドック	437
肺がん検診	24
女性の健康ドック	36
個人健康診断	512
全国健康保険協会生活習慣病予防健診 (旧 政府管掌生活習慣病予防健診)	1,757
原爆被爆者健診	71
企業団体健診 (注1)	970

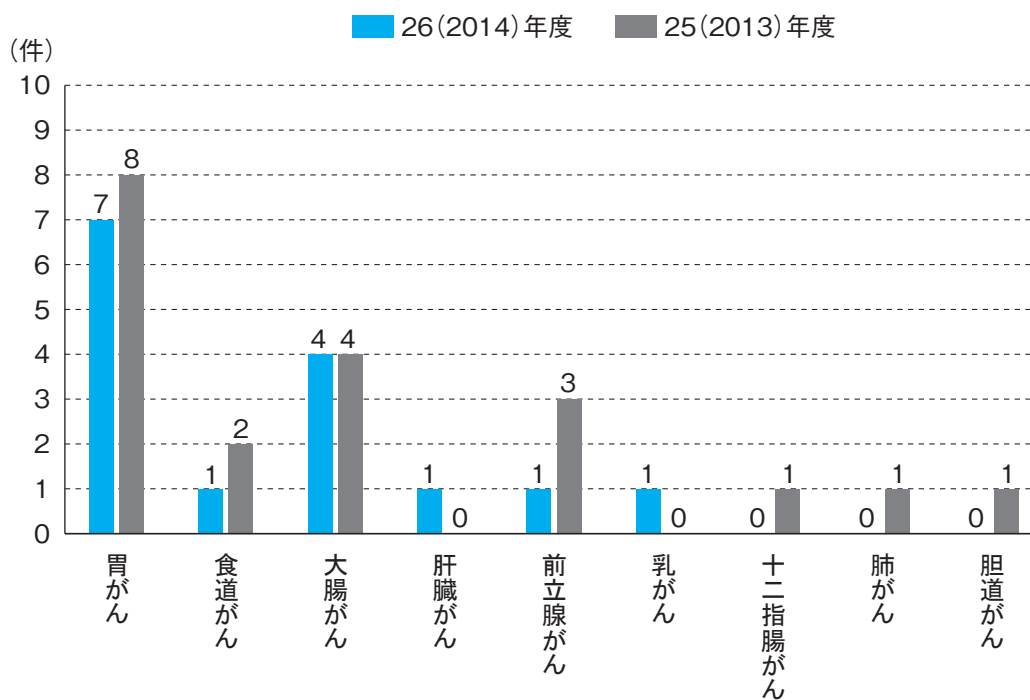
注1：企業団体契約、その他を含む。

検査項目	二日ドック (旧一泊) (人)			
	対象者数	要精密検査対象者数	精密検査受診者数	要治療者数
眼底	78	8	4	1
胸部X線	78	0	0	0
胃部X線	18	1	0	0
腹部エコー	78	4	0	0
安静時心電図	78	6	4	0
負荷心電図	76	2	1	0
便潜血	77	2	1	1

検査項目	日帰り人間ドック (人)			
	対象者数	要精密検査対象者数	精密検査受診者数	要治療者数
眼底	2,844	399	190	23
胸部X線	2,852	86	22	0
胃部X線	2,049	219	108	40
腹部エコー	2,643	54	41	2
安静時心電図	2,855	125	55	7
便潜血	2,794	131	41	13

検査項目	生活習慣病予防健診 (人)			
	対象者数	要精密検査対象者数	精密検査受診者数	要治療者数
眼底	107	14	6	0
胸部X線	1,682	62	11	0
胃部X線	1,538	189	58	21
腹部エコー	91	1	0	0
安静時心電図	1,692	76	27	5
便潜血	1,629	81	25	12

●悪性疾患発見件数



●メタボリック判定実施者

(人)

区分	平成26(2014)年度	平成25(2013)年度
①基準該当	643	680
②予備軍該当	596	639
③非該当	4,776	4,865



## 輸血・細胞治療センター

### 1. 概要

本年度から血液・腫瘍内科の造血幹細胞移植の本格的実施に備えて、幹細胞処理、保存体制を管理支援する業務を実施することになり、「輸血・細胞治療センター」と改組し、医師として従来のセンター長に加えて副センター長1名を増員した。今後も輸血療法が安全性・適切性を保ちながら迅速に実施できるように検査業務と血液製剤の管理業務を継続する。また、幹細胞凍結保存手技を修得するとともに、そのための機器の整備維持、管理を行っていく。その他、アルブミン製剤の使用状況一元管理だけでなく、2014年4月から輸血システムを利用して、その使用オーダー、製剤管理、出庫を含めての一元管理を開始した。2015年には輸血細胞治療学会の外部委員によるI（inspection 監査）& A（accreditation 認証）を受審する。

（センター長 杉浦 勇）

#### ●検査件数

2014年	総数(件)
血液型	17,330
不規則抗体スクリーニング	12,050
交差適合試験	5,676

#### ●製剤使用状況

2014年	総数(単位)
赤血球液(RBC)	11,318
新鮮凍結血漿(FFP)	3,392
濃厚血小板(PC)	21,025

#### ●製剤廃棄率

2014年	廃棄率(%)
赤血球液(RBC)	0.41
新鮮凍結血漿(FFP)	1.53
濃厚血小板(PC)	0.05

#### ●アルブミン製剤

2014年	本数(本)
25%アルブミン	1,653
5%アルブミン	993

#### ●副作用集計報告

2014年	副作用報告数(件)	実患者数(人)
赤血球液(RBC)	96	67
新鮮凍結血漿(FFP)	34	17
濃厚血小板(PC)	176	49

# 感染症管理センター

## 1. 概要

感染防止対策加算の算定要件を満たし、手厚い診療報酬点数を得て3年目となった。当院の責務は地域連携と感染対策レベルの向上と捉え、年に4回以上の合同カンファレンスを開催し、同規模病院と相互施設の訪問評価を実施している。

院内では『院内感染対策マニュアル第6版』、『抗菌薬使用ガイドライン第3版』の改訂を行い6月に発行。また、医療関連感染情報などの配信ツールとして院内感染対策委員会のもと院内感染対策チームから『ICT News』の定期発行を行った。

感染症、感染対策に関連する法律、法令、告示、通達などは変化、更新されるもので適宜情報を入手している。69年ぶりのデング熱国内流行、西アフリカのエボラ出血熱の対応について厚生労働省や愛知県からの通達を受け豊橋市保健所と連携を図り、院内の対応を指示し情報の提供を行っている。『豊橋市民病院新型インフルエンザ等発生時における診療継続計画（BCP）』も策定した。

(センター長 権田 秀雄)

### ●感染症発生動向調査

#### ①全数報告

(件)

類型	疾患名	2014年度	2013年度	2012年度	2011年度
二類	結核	42	29	62	42
三類	細菌性赤痢	0	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	3	2	1	0
	パラチフス	0	1	0	0
四類	A型肝炎	1	0	0	0
	つつが虫病	0	1	1	0
	デング熱	1	0	0	0
	マラリア	0	1	0	0
	レジオネラ症	3	1	4	2
五類	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)	1	0	0	0
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	0	0	0
	急性脳炎	1	2	1	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	1	0
	後天性免疫不全症候群	2	0	1	4
	侵襲性髄膜炎感染症	1	0	0	0
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	2	0	0
	梅毒	1	0	1	0
	破傷風	0	0	0	1
	風しん	1	6	1	0
	麻しん	0	2	0	1

## ②小児科定点報告

(件)

	疾患名	2014年度	2013年度	2012年度	2011年度
週報	RSウイルス	108	108	118	106
	咽頭結膜熱	1	0	2	0
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	20	24	17	16
	感染性胃腸炎	176	257	435	382
	水痘	13	16	17	27
	手足口病	2	16	2	42
	伝染性紅斑	0	0	1	0
	突発性発疹	2	3	6	6
	百日咳	2	4	2	1
	ヘルパンギーナ	18	14	5	5
	流行性耳下腺炎	2	4	0	1

## ③基幹定点報告

(件)

	疾患名	2014年度	2013年度	2012年度	2011年度
週報	細菌性髄膜炎	2	7	3	10
	無菌性髄膜炎	1	1	4	12
	マイコプラズマ肺炎	29	185	465	254
	クラミジア肺炎	0	0	1	0
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	8	0	0	0
月報	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	195	196	204	282
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0	0	0
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	1	1	1
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0

## ④インフルエンザ定点報告

(件)

	疾患名	2014年度	2013年度	2012年度	2011年度
週報	インフルエンザ	916	526	768	351

## ⑤インフルエンザによる入院患者報告

(件)

	疾患名	2014年度	2013年度	2012年度	2011年度
週報	インフルエンザ（入院患者）	115	83	115	-

## ⑥職員の感染曝露

(件)

	2014年度	2013年度	2012年度	2011年度
針刺し・切創（EPI-Net A）	54	48	52	47
皮膚・粘膜汚染（EPI-Net B）	6	12	5	9
院内結核曝露	3	6	7	3

## ⑦職員健康外来

(件)

	2014年度	2013年度	2012年度	2011年度
延べ受診者数	136	199	138	111

## 外来治療センター

### 1. 概要

外来治療センターは、2006年5月より20床で運用を開始した。治療件数の増加に伴い、2013年1月に2床増床し、現在は22床で運用している。乳がん、消化器がん、悪性リンパ腫、肺がん、前立腺がん、婦人科がん、頭頸部がんなどの化学療法のほか、リウマチやクローン病、尋常性乾癬などに対する生物製剤の治療を提供している。また、多発性骨髄腫の治験も実施している。平成26年4月の診療報酬改定により、皮下注射、腫瘍用薬以外の薬剤は外来化学療法加算の対象外となったため、これらの薬剤は2014年6月に各科外来に移行した。

安全な治療を提供するため、治療レジメンは化学療法部会で承認されたものを医師がオーダーし、薬剤師による薬剤監査を経て実施される。有害事象に対しては、治療中に薬剤師、看護師が問診でスクリーニングを行い、薬剤師による薬剤指導や看護師によるケアを実施することで、患者のQOLの向上に努めている。2014年4月にがん患者指導管理料が新設され、専門・認定薬剤師による薬剤指導についてはがん患者指導管理料Ⅲを算定している。一部のレジメンにおいては受け持ち看護師が継続して患者を受け持ち、有害事象に対する生活面の支援を行っている。一般外科においては週1回、医師、薬剤師、看護師が参加する多職種カンファレンスで治療レジメンや支持療法の検討を行い、主治医にフィードバックしている。

(センター長 杉浦 勇)

●外来治療センター 治療実績 月別集計表

項目	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	
平均年齢(才)		66.7	66.6	59.8	63.6	62.9	63.4	63.9	63.4	62.8	64.1	64	63.3		63.7	
男(人)		438	455	251	300	282	302	306	290	257	322	311	345	3,859	321.6	
女(人)		388	408	364	385	349	338	377	328	322	317	318	313	4,207	350.6	
がんに関する治療	内科	275	309	217	261	242	237	279	253	209	306	269	256	3,113	259.4	
	外科	点滴	213	207	231	231	206	212	232	192	196	197	189	190	2,496	208.0
		皮下注	34	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69	5.8
	泌尿器科	点滴	22	24	5	6	9	7	8	9	8	7	11	9	125	10.4
		皮下注	152	157	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	310	25.8
	耳鼻いんこう科	4	5	12	7	12	8	1	0	0	0	3	8	60	5.0	
	婦人科	28	32	31	35	34	29	42	32	28	36	35	38	400	33.3	
	小児科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
	その他	8	9	21	12	11	20	14	18	13	21	12	16	175	14.6	
	小計	736	778	517	553	514	513	576	504	454	567	519	517	6,748	562.3	
	初回	66	56	43	47	39	50	54	43	30	44	38	49	559	46.6	
	内訳	乳腺	142	159	133	124	117	122	129	100	100	106	92	94	1,418	118.2
		大腸	80	76	83	89	81	79	97	74	78	67	80	85	969	80.8
		血液	176	203	130	146	118	120	140	136	101	170	139	149	1,728	144.0
		肺	59	51	45	61	62	55	58	50	45	72	67	52	677	56.4
		胆膵	41	38	34	47	47	48	63	59	61	63	59	50	610	50.8
胃		23	22	24	23	23	22	20	21	24	25	21	12	260	21.7	
前立腺		176	182	5	7	9	7	8	9	6	8	11	9	437	36.4	
その他		37	49	56	56	57	60	62	53	41	53	50	62	636	53.0	
がん以外の治療	内科	26	28	34	38	34	42	24	41	31	23	31	53	405	33.8	
	整形外科	2	2	2	0	2	3	1	3	0	3	2	2	22	1.8	
	リウマチ科	61	52	67	85	74	78	73	67	84	41	70	88	840	70.0	
	皮膚科	1	0	4	8	6	4	5	3	6	4	4	6	51	4.3	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0.2	
	小計	90	82	107	131	116	127	103	114	122	72	107	149	1,320	110.0	
合計(人)	826	860	615	684	630	640	679	618	576	639	626	666	8,059	671.6		
1日平均(人)	39.3	43	29.3	31.1	30	32	30.9	34.3	28.8	33.6	32.9	30.3	396	33.0		
1日平均(分)	120.5	129.2	130	126.1	124.8	128.2	126.3	124.4	127	132.8	130.5	124.2	1,524	127.0		

# 手術センター

## 1. 概要

手術センターは、一人一人の患者さんに最良の手術が行なわれるよう各診療科・麻酔科医・病棟および手術センター看護師が連携を図っている。当センターは、地域や患者のニーズに応えるべく以下の特徴を備えている。

- ①高度先進医療（内視鏡下手術、移植手術、顕微鏡下手術、ロボット支援下手術、脳死臓器提供手術）の施行
- ②総合周産期母子医療センターの要望に応じ、超緊急手術に対応している。
- ③ハイリスク患者手術に応じている。
- ④研修機関病院として、研修医、医学生、看護学生、救命救急士などの見学や実習

### 【設備概要】

手術診療科 15

手術室 13（バイオクリーンルーム1室、採卵室1室）

空気清浄度 クラス100（1室）、クラス1000（1室）、クラス10000（10室）

スタッフ 看護師48名（2交代制で、夜勤者2名、自宅待機2名体制）

（センター長 加藤 岳人）

### ●手術件数【2014年度】

麻酔別	件数(件)
全身麻酔	3,688
静脈麻酔	292
腰椎麻酔	1,375
局所麻酔	1,882
伝達麻酔	377
無麻酔	498
その他	1
計	8,113
（うち緊急手術）	1,267
割合	15.61%

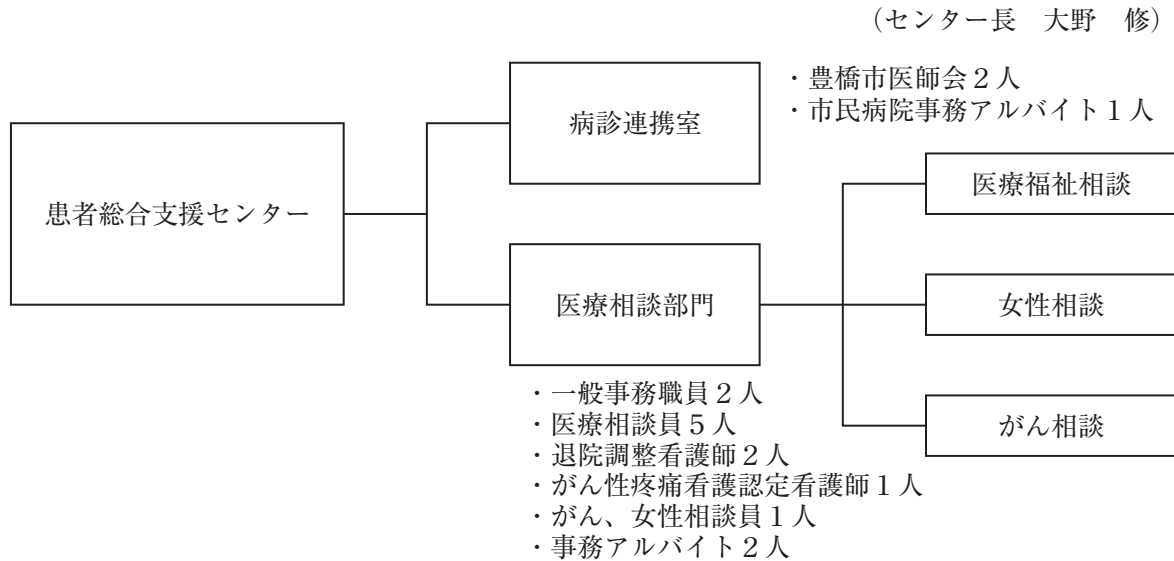
### ●腹腔鏡、胸腔鏡、関節鏡手術件数【2014年度】

診療科	件数(件)
一般外科	370
ロボット支援下直腸腫瘍手術	3
呼吸器外科	112
小児外科	58
整形外科	103
産婦人科	440
腹腔鏡下子宮頸がん根治手術	12
ロボット支援下子宮悪性腫瘍手術	8
腹腔鏡下広汎子宮全摘術	3
腹腔鏡下子宮がん手術	1
泌尿器科	116
ロボット支援下前立腺全摘術	28
その他（移植外科）	7
計	1,206

# 患者総合支援センター

## 1. 概要

地域の医療機関が相互連携を図ることにより、患者さんに対して効率的で質のよい医療を提供することを目的とした「病診連携室」と、患者さんの医療を通じて発生する種々の問題に対して、安心して治療に当たってもらうことを目的とした「医療相談部門」があります。患者さんに効率的な連携支援を行ない、利便性の向上を図るため、2010年4月1日、副院長をセンター長として、2部門をまとめた「患者総合支援センター」を開設しました。



## 2 活動報告

### (1) 病診連携室

#### ①豊橋市医師会・豊橋市民病院病診連携協議会

委員 13人 (豊橋市医師会 2人、豊橋市民病院 11人)

事務局 3人 (豊橋市医師会 1人、豊橋市民病院 2人)

#### (ア) 病診連携協議会

- ・第75回病診連携協議会 平成26(2014)年5月13日開催
- ・第76回病診連携協議会 平成26(2014)年9月2日開催
- ・第77回病診連携協議会 平成26(2014)年11月4日開催
- ・第78回病診連携協議会 平成27(2015)年2月3日開催

#### (イ) MCRフォーラム

- ・第35回MCRフォーラム 平成26(2014)年6月4日開催 参加人数 57人  
「日々の診療に必要な精神科の知識」
- ・第36回MCRフォーラム 平成26(2014)年11月26日開催 参加人数 52人  
「小児内視鏡手術の現状と未来」

#### (ウ) 病院・転床施設連携懇談会

- ・第19回病院・転床施設連携懇談会 平成27(2015)年3月27日開催 参加：17施設 51人  
平成26(2014)年度の転床入院実績報告  
入院・在宅における病態受入れの可否と条件について  
転院時の退院時処方算定について

②実績 [平成26(2014)年4月～平成27(2015)年3月]

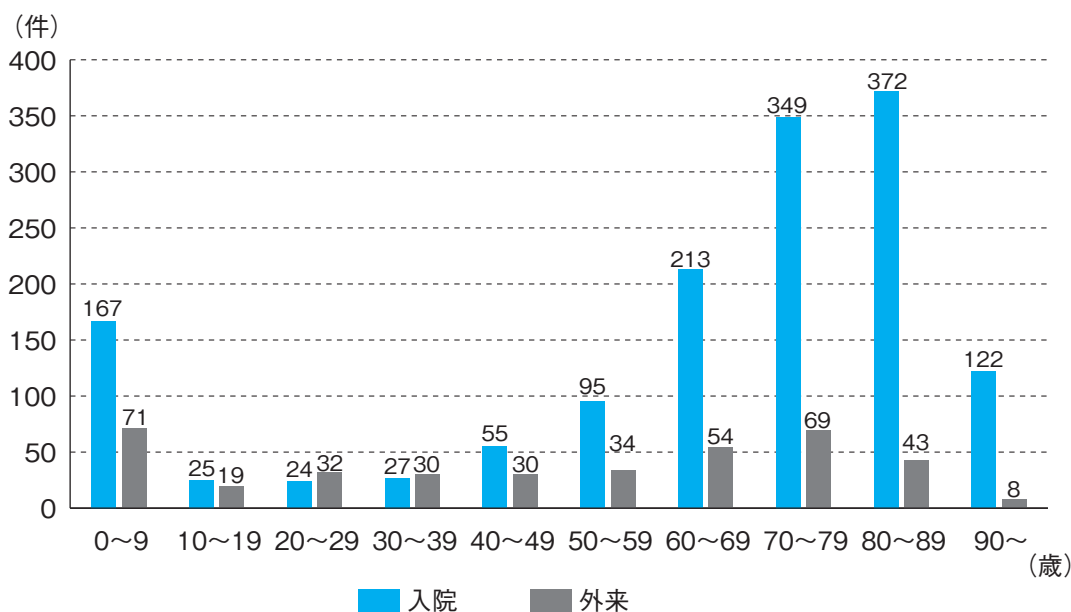
内訳			件数(件)	
病診連携室経由の受診予約数	医 科	市 内	9,305	
		市 外	2,612	
	歯 科	市 内	964	
		市 外	146	
	保 健 所 保 健 セ ン タ ー			345
	そ の 他			45
	キ ャ ン セ ル			△ 444
	合 計			12,973
時 間 外 ( 再 掲 )			820	
病診連携室経由の転院先状況	申 込 数		1,124	
	内 訳	有 床 診 療 所	7	
		病 院	901	
		キ ャ ン セ ル	210	
		転 院 予 約 中	6	

(2) 医療相談部門

①医療福祉相談件数 [平成26(2014)年4月～平成27(2015)年3月]

(ア) 新規相談患者数 入院 1,449件 外来 390件 合計 1,839件

年齢別新規相談患者数



(イ) 延べ相談数 入院 10,521件 外来 4,890件 合計 15,411件

②女性相談件数 面接 25件 電話 60件 合計 85件

③がん相談件数 面接 242件 電話 100件 合計 342件



## 卒後臨床研修センター

### 1. 概要

卒後臨床研修センターは、指導体制・評価体制などシステムを充実させるとともに研修医確保の広報活動も強化した。まず、医学生向けの病院説明会を開催。また、当院での初期研修の魅力のひとつとなっている救急研修に関して、上級医が現場に常駐する仕組みを取り入れた結果、2年ぶりに定員を満たすことができた。

2015年度も引き続き定員を満たせるよう広報活動に力を入れることに努め、救急研修の改善を定着させる事を目標としていく。

(センター長 杉浦 勇)

## 医療安全管理室

### 1. 概要

医療安全管理室は、2005年4月、医療安全の推進を図るため院長直属の専門部署として設置された。医療の基本条件・最優先課題とされる「患者の安全を確保すること」の実現に向け、副院長を室長として、6名の専従職員と4名の兼務職員による11名で組織されている。

患者さんが安心して安全で質の高い医療を受けられる環境を整備することを目標として、医療事故の発生原因を発見し、不断に改善することによって発生を未然に防ぐ取り組みを行っている。

目標の達成に向け、インシデント報告の内容を検討・分析し、医療安全対策等に反映させ、医療事故発生防止のための講習会を開催している。

また、発生した医療事故については、原因究明・解決のため「事例検討会」を開催し、患者・家族への説明を行うほか、医療訴訟事案への対応などの業務を行っている。

(主幹 梅藤 茂敏)

## 診療技術局

### 1. 概要

診療技術局には、放射線技術室、中央臨床検査室、リハビリテーション技術室、臨床工学室、栄養管理室の5部門があり、各部門では専門の知識や技術で医療に参画している。私達は、いろいろな場面で患者さんに直接または間接的に関わりを持っている。現在の医療では、「チーム医療」が必要不可欠となっており、患者さんを中心に医師、看護師、そして他の病院職員を含む私たちが一丸となって病態の改善に努めている。特に私たち診療技術局では、5部門が協力し合って勉強会を開催しており、それぞれの知識を互いに生かし、より良い医療が提供できるように切磋琢磨の精神を大切にしている。また、院内での業務の他にも東三河地域における役割として様々な勉強会や研修会を積極的に開催し、地域医療にも貢献している。

治療方法や医療技術は常に進歩し続けている。私達は、常に新しい知識や技術を習得し、地域基幹病院としての使命を果たすべく努力していくことが重要ととらえ、そのためには、各種の認定制度に積極的に取り組む必要があると考える。既に多数の認定を習得しているが更なる習得を目指している。

なおも、病院を取り巻く環境や医療制度は日々変化している。常にあるべき姿を模索、検証し、前進するため一層の努力をしていく所存である。

(診療技術局長 田中 規雄)

## 放射線技術室

### 1. 概要

豊橋市民病院は、2014年9月地域医療支援病院として愛知県より認定を受けた。認定の取得には、放射線技術室も病院の一部門、一員としてできる限りの協力をする覚悟で取り組んだ。その一環として、年度当初から「豊橋市民病院放射線技術研修会」を一般撮影、CT、MRI、血管撮影、核医学、X線TV、エコー、放射線治療の8部門でそれぞれ企画し、20回の研修会を実施することができた。それぞれのスタッフの努力により、地域の診療放射線技師だけでなく、医師、臨床検査技師など他職種の方も研修に参加して頂き、成功を取めたと考えている。

医療環境は年とともに著しく変わっていくが、放射線技術室としては豊橋市民病院に貢献し、市民から信頼される技術部門を目指し、何が望まれているか、何をすべきかを常に考えていく所存である。

(放射線技術室長 三浦 俊一)

#### 「在籍技師が取得している認定資格等」

資格	認定団体	資格	認定団体
放射線治療専門放射線技師	日本放射線治療専門放射線技師認定機構	放射線管理士	日本放射線技師会
放射線治療品質管理士	放射線治療品質管理機構	放射線機器管理士	日本放射線技師会
医学物理士	医学物理士認定機構	胃がん検診専門技師	日本消化器がん検診学会
医療情報技師	日本医療情報学会	第1種放射線取扱主任者	原子力安全技術センター・文部科学省
核医学専門技師	日本核医学専門技師認定機構	γ線透過写真撮影作業主任者	安全衛生技術試験協会・厚生労働省
核医学専門技術者	日本核医学技術学会	X線作業主任者	安全衛生技術試験協会・厚生労働省
超音波検査士(消化器)	日本超音波医学会	日本磁気共鳴専門技師	日本磁気共鳴専門技術者認定機構
超音波検査士(健診)	日本超音波医学会	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師	日本血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師認定機構
超音波検査士(体表臓器)	日本超音波医学会	臨床実習指導教員	日本診療放射線技師会
乳腺甲状腺超音波診断委員会認定技師	日本乳腺甲状腺超音波診断会議	X線CT認定技師	日本X線CT専門技師認定機構
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師	マンモグラフィ検診精度管理中央委員会	医療安全管理者	日本病院会

## 1. 放射線技術室実績

(件)

区分		平成26(2014)年度	平成25(2013)年度	平成24(2012)年度
一般撮影	頭部	9,769	9,523	9,599
	胸部	62,769	62,132	61,193
	腹部	14,085	13,988	15,943
	四肢	50,254	50,393	47,498
	その他(椎体)	22,547	21,746	21,903
	計	159,424	157,782	156,136
	内、ポータブル	29,563	24,694	21,872

血管撮影	頭頸部	181	209	224
	心臓・胸部	939	1,040	661
	腹部	266	308	313
	その他	126	149	81
	計	1,512	1,706	1,279

C T	頭頸部	9,553	9,718	9,856
	全身	27,545	25,962	24,554
	計	37,098	35,680	34,410

M R I	頭頸部	7,127	6,723	6,747
	全身	6,589	6,040	5,634
	計	13,716	12,763	12,381

X線T V	胃透視	4,064	4,155	4,569
	注腸透視	281	320	348
	その他	2,704	2,772	2,693
	計	7,049	7,247	7,610

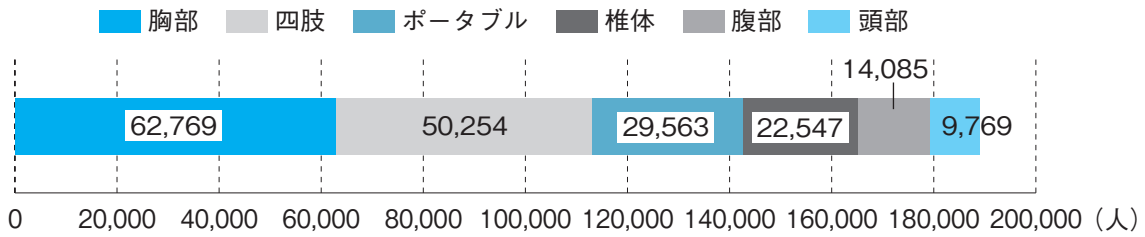
放射線治療	リニアック	8,340	9,185	11,189
	集光照射	9	10	29
	体腔内照射	106	97	97

核医学(R I) (人)	1,635	1,623	1,641
--------------	-------	-------	-------

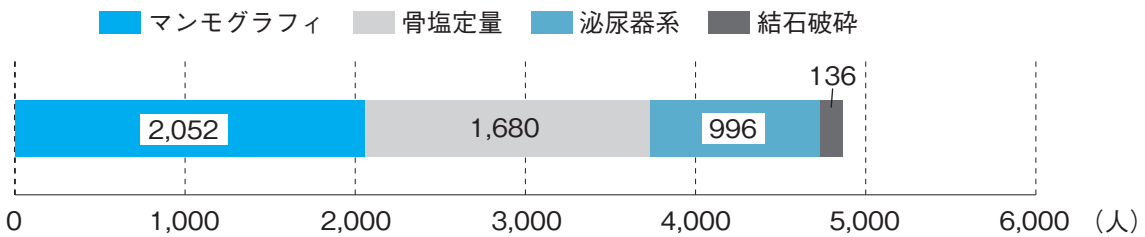
泌尿器検査 (人)	996	914	793
骨塩量測定 (人)	1,680	1,429	1,109
結石破砕 (件)	100	112	161

超音波診断検査 技術室担当(人)	9,636	9,213	9,304
------------------	-------	-------	-------

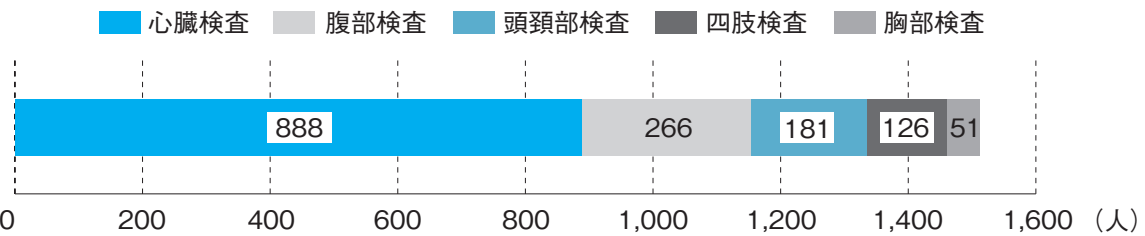
【一般撮影部門】



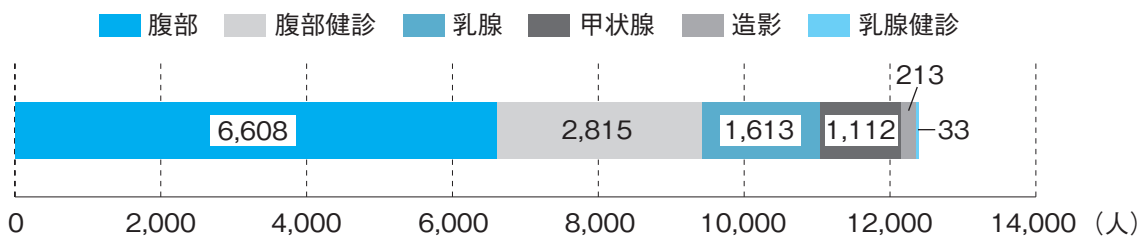
【その他】



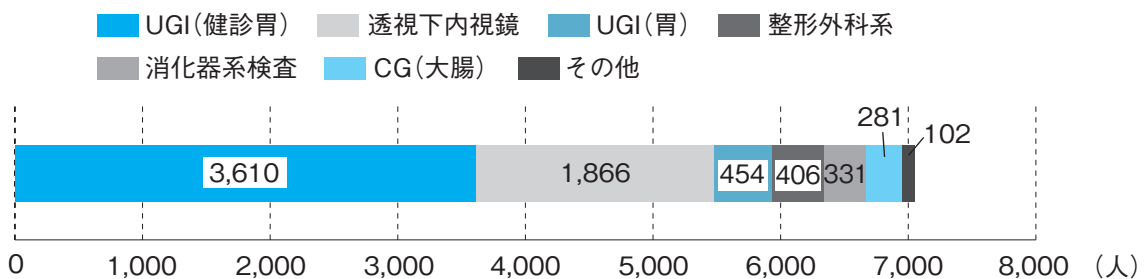
【血管撮影部門】



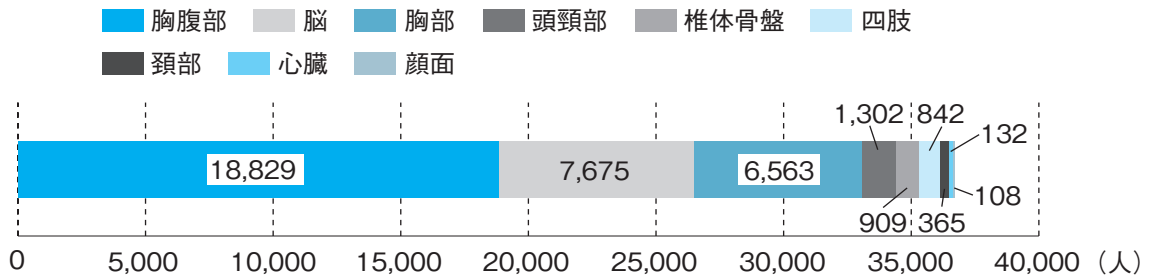
【超音波検査部門】



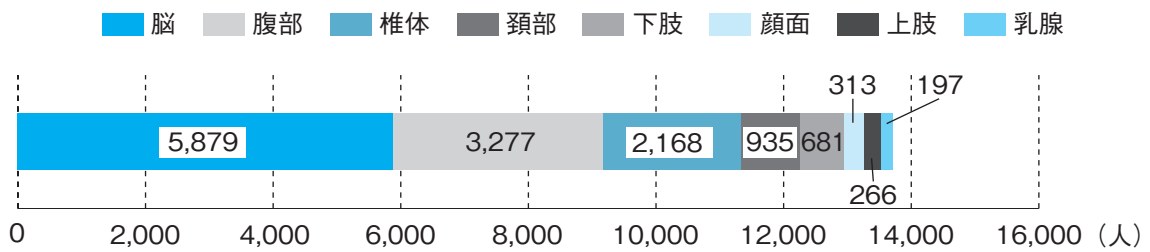
【X線TV部門】



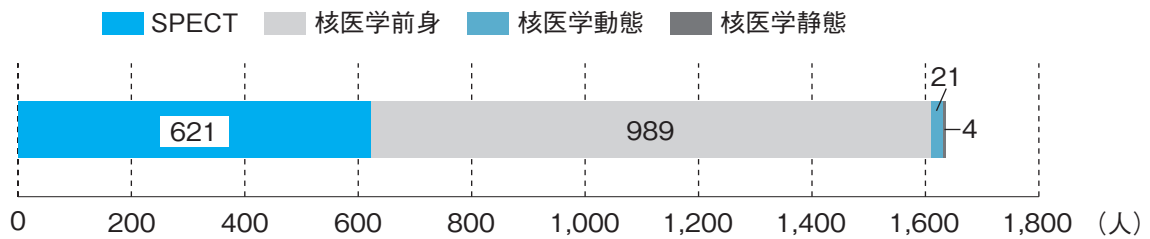
【CT部門】



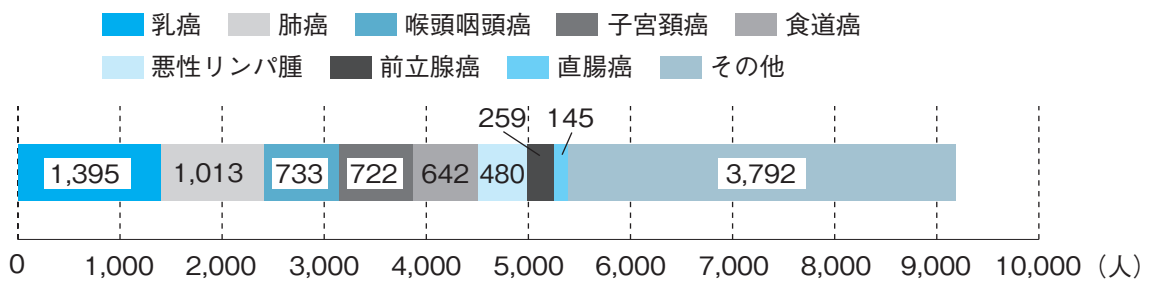
【MRI部門】



【アイソトープ検査部門】



【放射線治療部門】



●豊橋市民病院放射線技術研修会

	演題名	演者名	年月日
第1回	ファントムを使用した上腹部US検査(実習)	安井 美和	2014/6/26
第2回	I V R検査時の被ばく線量の測定(実習)	大井 康弘	2014/6/26
第3回	一般撮影における被ばく線量の測定(実習)	島田 秀樹	2014/6/27
第4回	電離箱線量計による水吸収線量計測(実習)	島田 秀樹	2014/6/27
第5回	C T装置の簡単な性能評価(実習)	磯部 晃	2014/6/27
第6回	「新・胃X線撮影法の基準」について(実習)	山口 稔	2014/7/3
第7回	ガンマカメラのQA・QCについて(実習)	加藤 豊大	2014/7/3
第8回	撮像条件によるS/Nの変化(実習)	喜多 和真	2014/7/4
第9回	I V R検査時の被ばく線量の測定(実習)	澤根 康裕	2014/9/3
第10回	ファントムを使用した上腹部US検査(実習)	安井 美和	2014/9/17
第11回	一般撮影における被ばく線量の測定(実習)	市川 肇	2014/10/9
第12回	C T装置の簡単な性能評価(実習)	磯部 晃	2014/10/23
第13回	電離箱線量計による水吸収線量計測(実習)	島田 秀樹	2014/11/5
第14回	豊橋市民病院における胃透視撮影法のポイント(実習)	鈴木 資巳	2014/11/20
第15回	ガンマカメラのQA・QCについて(実習)	加藤 貴明	2014/12/3
第16回	撮像条件によるS/Nの変化(実習)	喜多 和真	2014/12/18
第18回	一般撮影における被ばく線量の測定(実習)	市川 肇	2015/2/12
第19回	C T装置の簡単な性能評価(実習)	磯部 晃	2015/2/26
第20回	豊橋市民病院における胃透視撮影法のポイント(実習)	澤根 康裕	2015/3/17

●受賞

技術奨励賞 …………… 市川 肇 日本放射線技術学会 中部部会



## 中央臨床検査室

### 1. 概要

中央臨床検査室では、分析（血液・臨床化学・一般）検査をはじめとして、微生物検査、輸血検査、病理検査、生理機能検査を実施している。検査件数は全部門で増加しており、前年比4.4%であった。血液検査では委託検査項目であったフローサイトメトリーを院内導入し、成果を上げた。病理検査においては遺伝子検査、生理機能検査では動脈硬化関連の血管超音波検査の依頼件数が増加し、検査全体の業務量も比例して増加してきた。検査件数の増加に対して各業務の標準化と作業の効率化を推進し、新しい検査項目にも対応すべく機器の更新も進めている。また、チーム医療にも積極的に参画し、感染対策チーム（ICT）や栄養管理チーム（NST）の一員として活動している。迅速で精確なデータを臨床に報告するために外部精度管理調査に参加し良好な結果を得ている。

専門性を高めるために超音波検査士や骨髄検査技師などの各種資格取得に積極的に取り組み、多数の資格取得者が在籍しており、臨床に貢献していると自負している。

（中央臨床検査室室長 山口 育男）

#### 「在籍技師が取得している認定資格」

資格	認定団体	資格	認定団体
認定血液検査技師	日本検査血液学会	超音波検査士（体表臓器領域）	日本超音波医学会
骨髄検査技師	日本検査血液学会	認定心電検査技師	日本心電学会
認定臨床微生物検査技師	日本臨床微生物学会	緊急臨床検査士	日本臨床検査医学会
感染制御認定臨床微生物検査技師	日本臨床微生物学会	栄養サポートチーム専門療法士	日本静脈経腸栄養学会
細胞検査士	日本臨床細胞学会	遺伝子分析科学認定士	日本臨床検査医学会
超音波検査士（循環器領域）	日本超音波医学会	体外受精コーディネーター	日本不妊カウンセリング学会
超音波検査士（健診領域）	日本超音波医学会	認定臨床エンブリオロジスト	日本臨床エンブリオロジスト学会
超音波検査士（消化器領域）	日本超音波医学会	生殖補助医療胚培養士	日本哺乳動物卵子学会
超音波検査士（血管領域）	日本超音波医学会		

●中央臨床検査室 実績

検査実施件数

(件)

区 分	平成26(2014)年度	平成25(2013)年度	平成24(2012)年度
院内検査実施件数	4,971,751	4,763,421	4,503,883
委託検査件数	111,255	110,480	102,526
検査判断料件数	393,050	377,608	361,005
輸血管理料 1	2,577	2,786	2,380
外来迅速検体検査加算件数	201,581	184,051	157,316
病理診断管理加算	14,557	14,116	13,790
検体検査管理料加算 I 件数	109,059	105,532	97,701
入院時初回加算件数	10,827	10,877	10,405
時間外緊急院内検査加算件数	12,356	11,814	11,521
採血加算件数	111,539	108,585	106,854

検査判断料件数

(件)

区 分		平成26(2014)年度	平成25(2013)年度	平成24(2012)年度
尿・糞便等検査判断料	外来	16,660	15,796	15,570
	入院	3,484	3,111	3,256
血液学の検査判断料	外来	93,353	91,214	89,243
	入院	16,789	16,567	16,131
生化学の検査 (I) 判断料	外来	91,983	89,768	87,568
	入院	16,807	16,603	16,0098
生化学の検査 (II) 判断料	外来	22,617	20,926	19,991
	入院	4,271	3,577	3,446
免疫学の検査判断料	外来	68,561	63,127	60,411
	入院	15,515	15,264	14,537
微生物学の検査判断料	外来	11,644	10,805	10,208
	入院	7,428	7,181	7,080
病理学の検査判断料	外来	2,530	2,789	2,811
	入院	41	49	40
呼吸機能検査等判断料	外来	3,286	3,083	2,953
	入院	714	662	589
脳波検査判断料	外来	1,081	1,130	1,196
	入院	1,278	1,245	1,175
神経・筋検査判断料	外来	409	414	483
	入院	147	142	84
組織診断料	外来	6,384	6,125	6,036
	入院	4,510	4,264	4,028
細胞診断料	外来	2,517	2,684	2,698
	入院	1,041	1,082	1,005

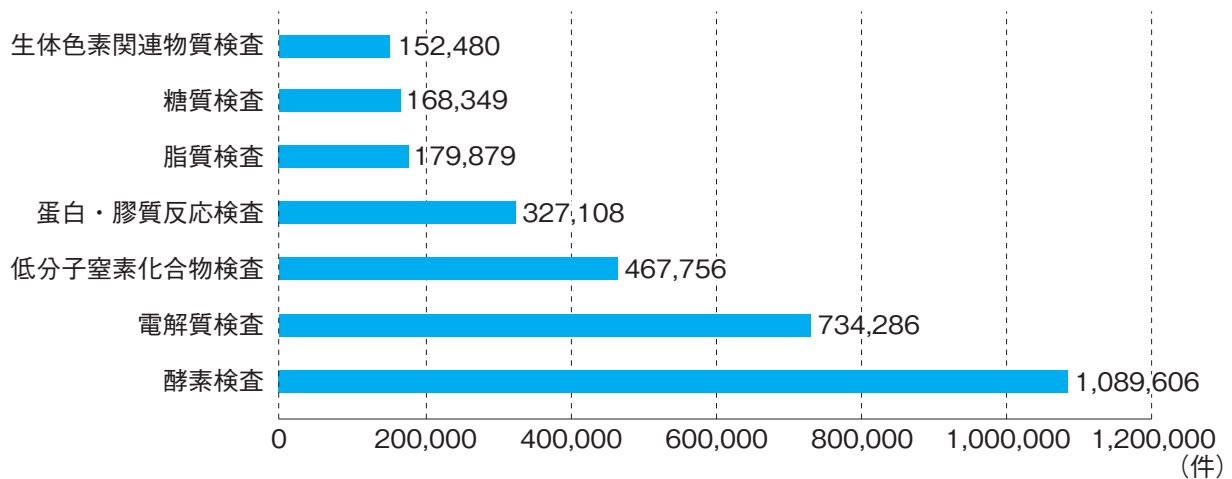
## 部門別実績

(件)

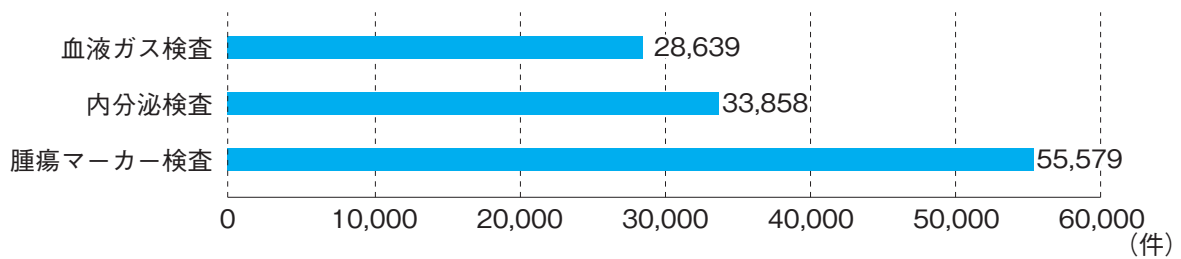
区 分	平成26(2014)年度	平成25(2013)年度	平成24(2012)年度
尿・糞便等検査	113,944	104,599	103,309
血液学的検査	624,352	626,912	598,305
生化学的検査	3,640,362	3,478,731	3,256,603
免疫学的検査	359,597	333,298	338,643
微生物学的検査	91,393	86,499	79,050
輸血関連検査	54,687	50,819	47,018
生理機能学的検査	60,545	59,165	56,586
病理学的検査	25,391	22,024	22,355
生殖医療学的検査	1,480	1,374	2,014

(1) 生物化学分析検査

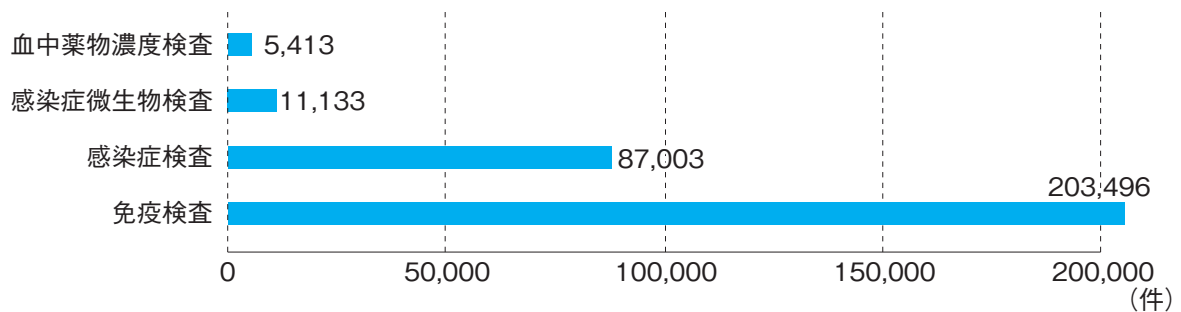
① 生化学検査（Ⅰ）検査実績



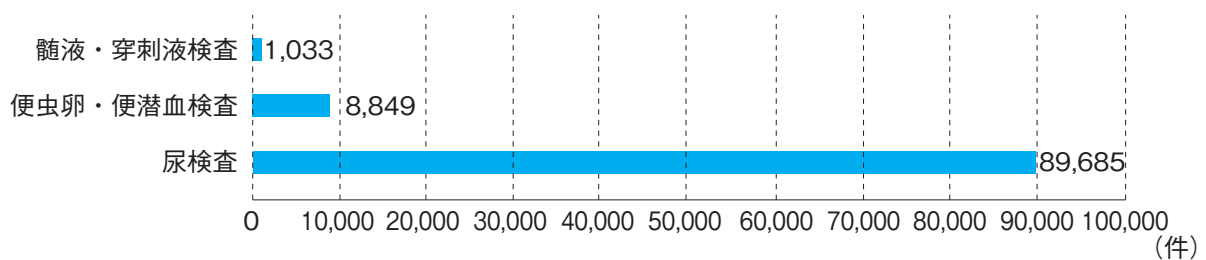
② 生化学検査（Ⅱ）・血液ガス 検査実績



③ 免疫学的・薬物検査 検査実績



④ 一般検査 検査実績



⑤患者検査説明業務 実績

(件)

区 分	平成26(2014)年度	平成25(2013)年度	平成24(2012)年度
患者検査説明業務	1,018	1,186	2,246

患者説明業務とは、蓄尿、糖負荷検査（OGTT）、生理検査などの検査方法を患者に対して説明する業務である。

●説明検査項目

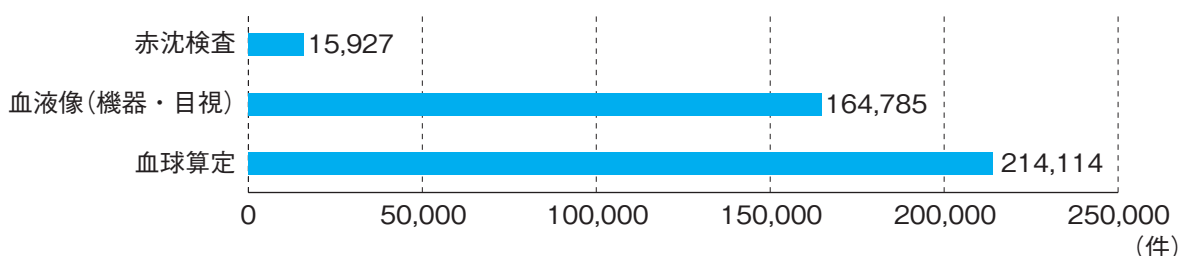
尿検査など：蓄尿・酸性蓄尿・糖負荷検査 OGTT・クレアチニンクリアランス・早朝尿

生理検査：超音波検査・ホルター心電図・トレッドミル・24時間血圧測定・負荷サーモグラフィー・

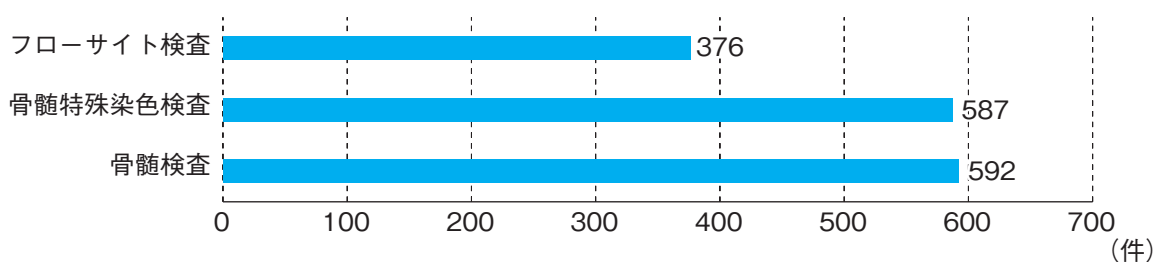
吸入誘発試験・脳波・聴性脳幹反応・終夜睡眠ポリグラフィー

⑥ 血液学的検査 検査業績

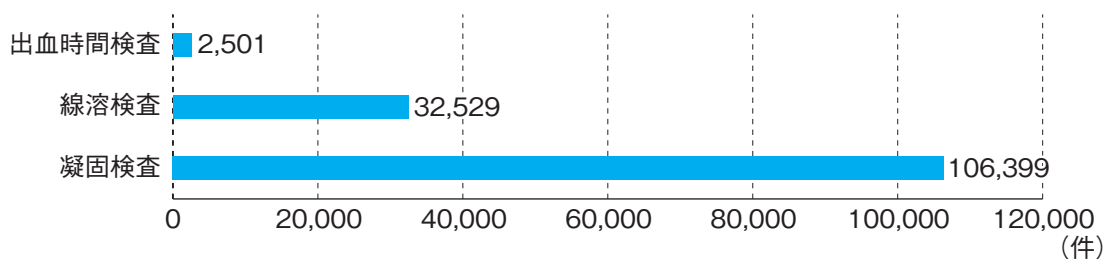
血液検査



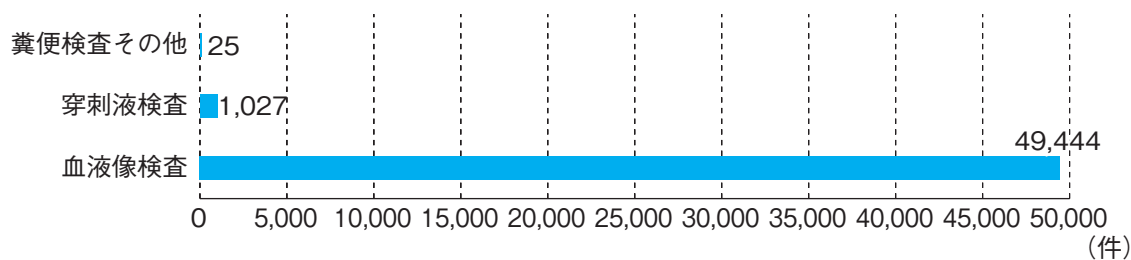
骨髓検査



凝固・線溶検査



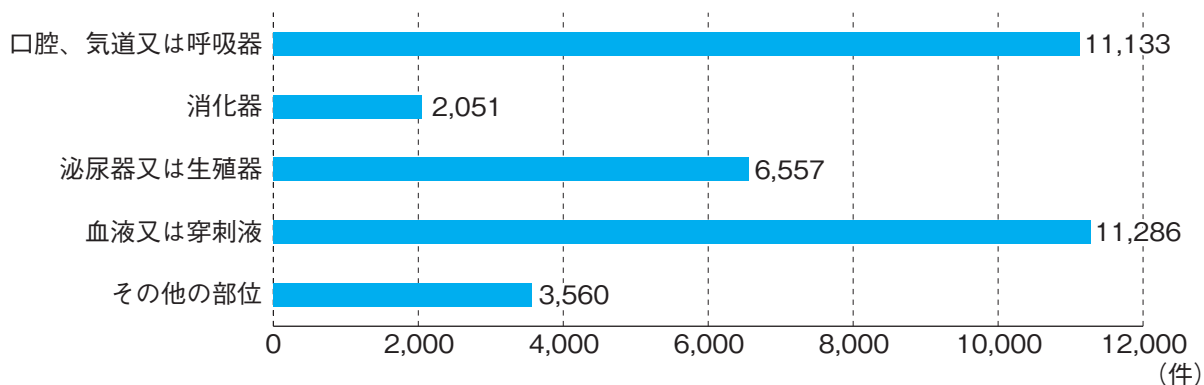
⑦ 顕微鏡検査（血液・一般） 検査業績



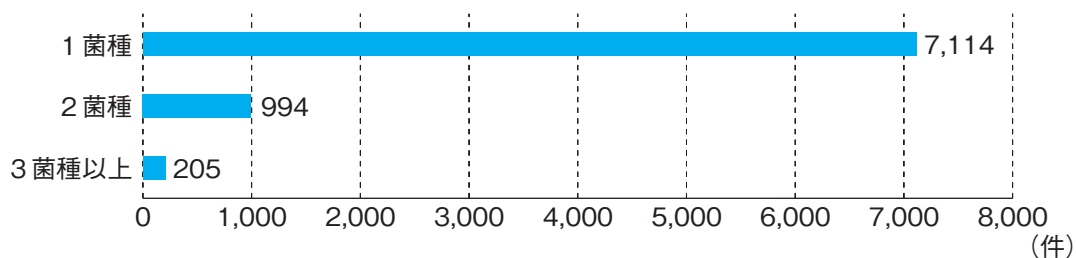
(2) 微生物・感染制御検査

① 一般細菌

培養同定検査 検査業績

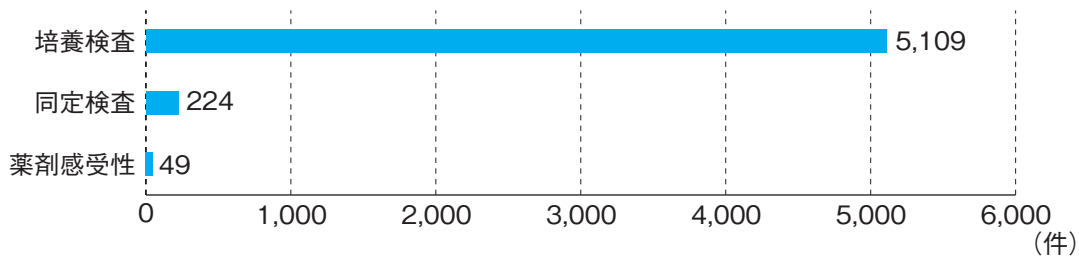


薬剤感受性検査 検査業績

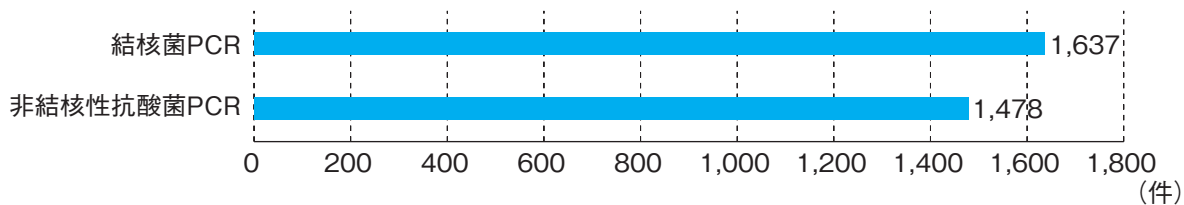


② 抗酸菌

培養同定検査 検査業績

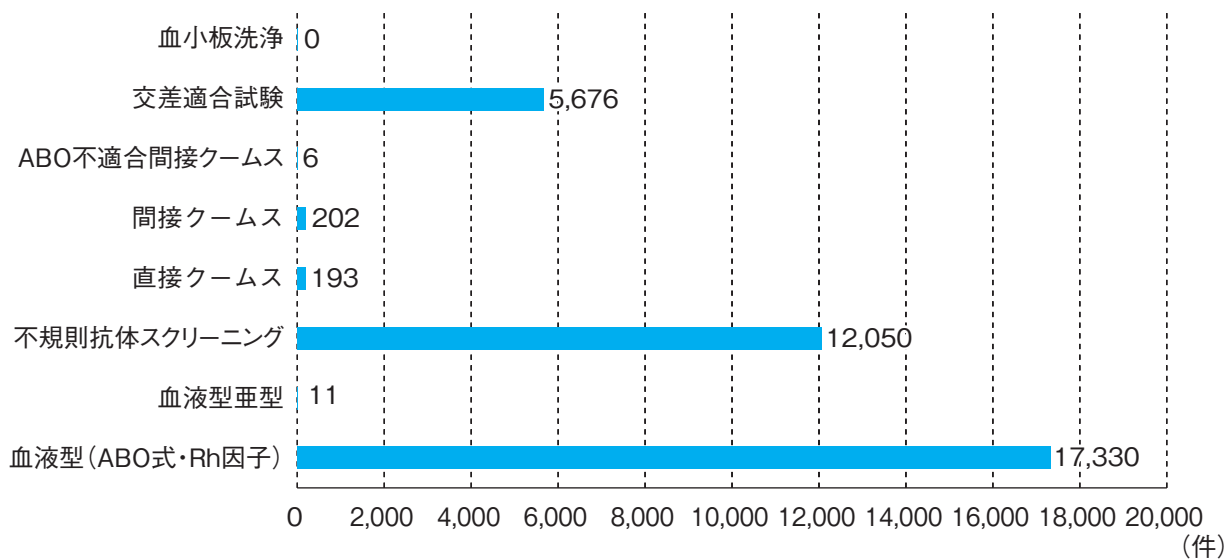


遺伝子検査(PCR) 検査業績

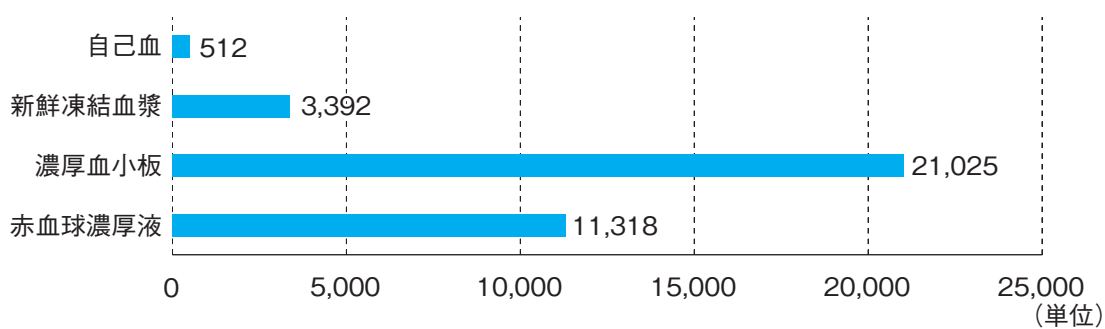


(3) 輸血移植・救命救急検査

輸血関連検査 検査業績



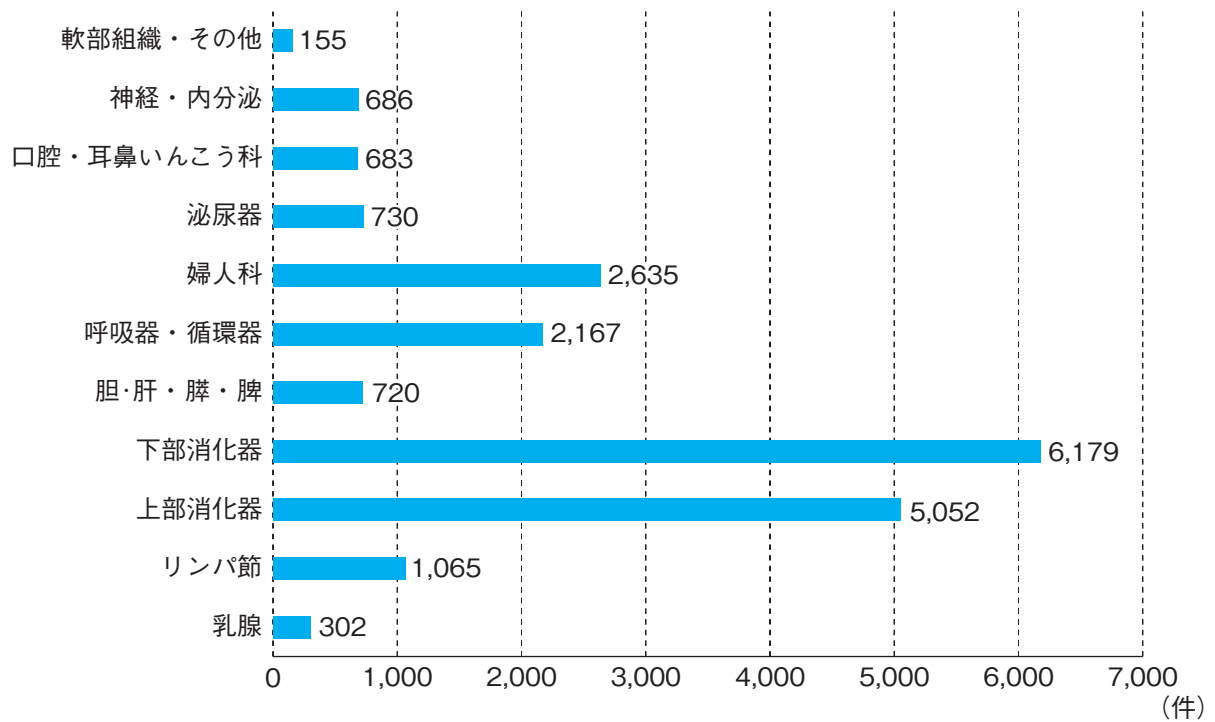
血液製剤使用状況



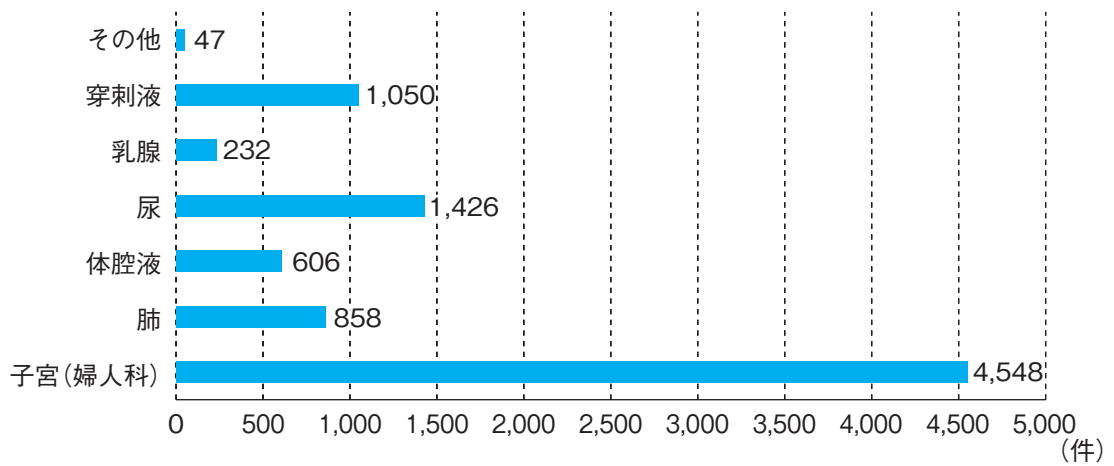
(4) 病理・細胞形態検査

① 病理学的・細胞診検査実績

病理検査材料 検査業績

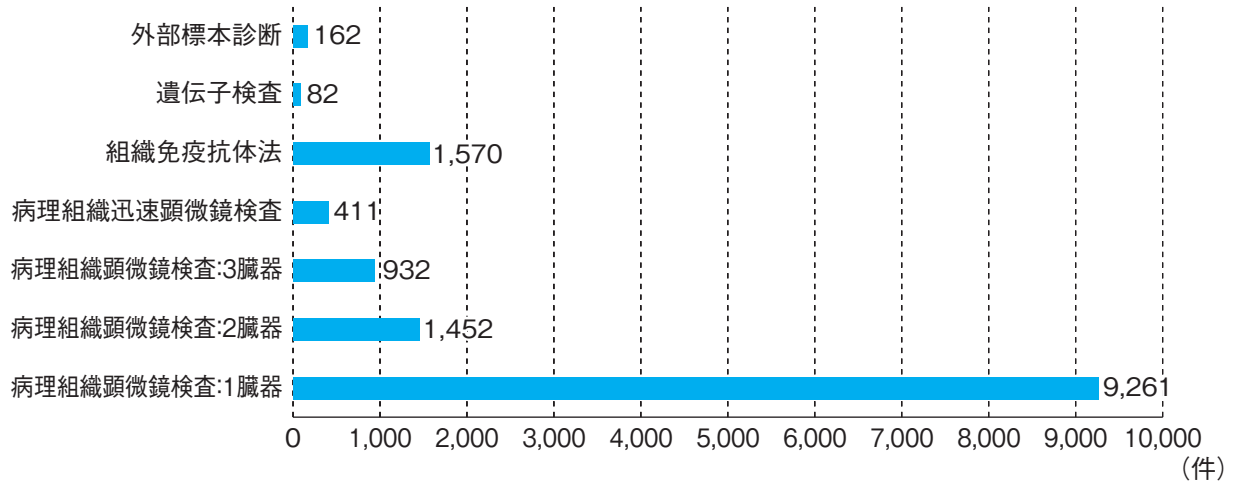


細胞診検査材料 検査業績

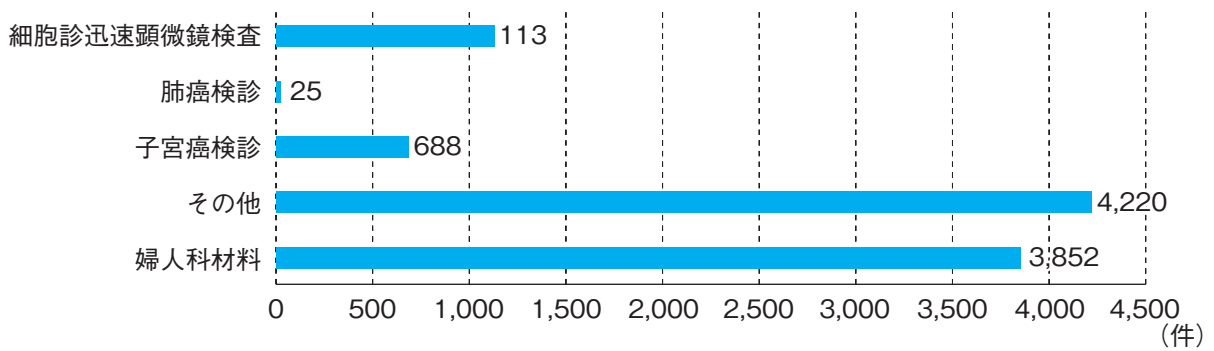




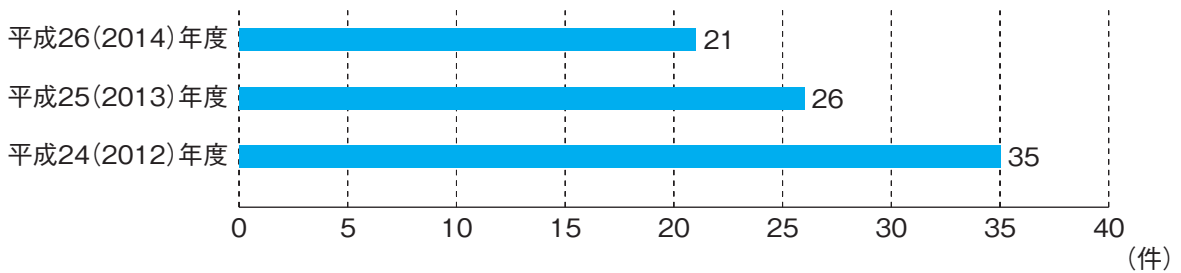
病理学的検査 検査業績



細胞診検査 検査実績



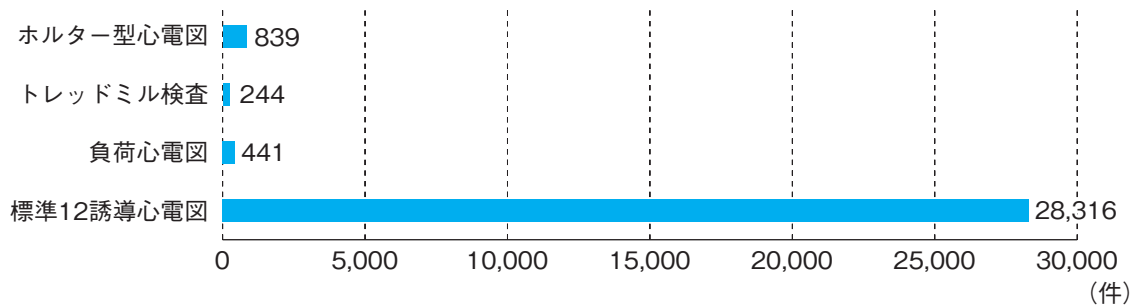
② 病理解剖



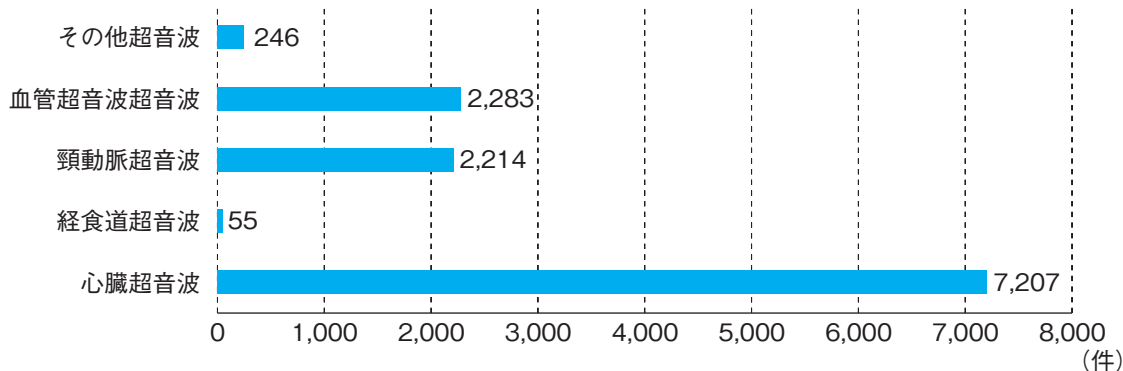
(5) 生理機能・生殖医療検査

① 生理機能・画像検査 検査実績

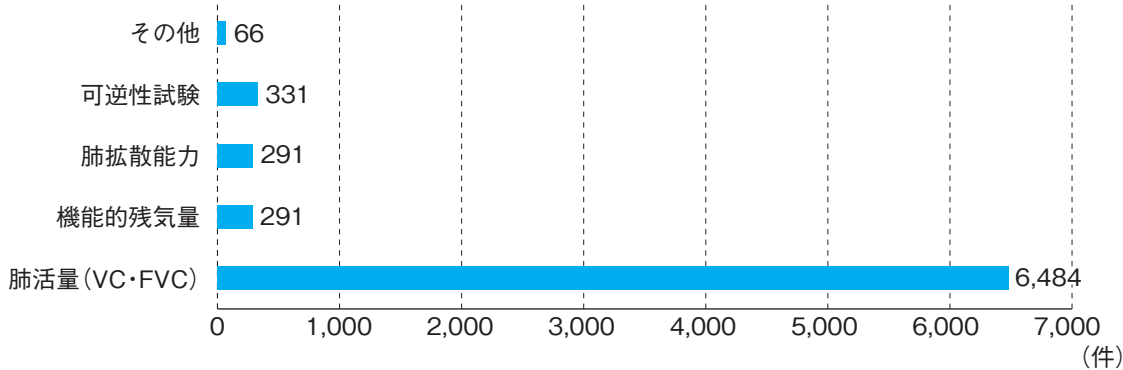
心電図 検査業績



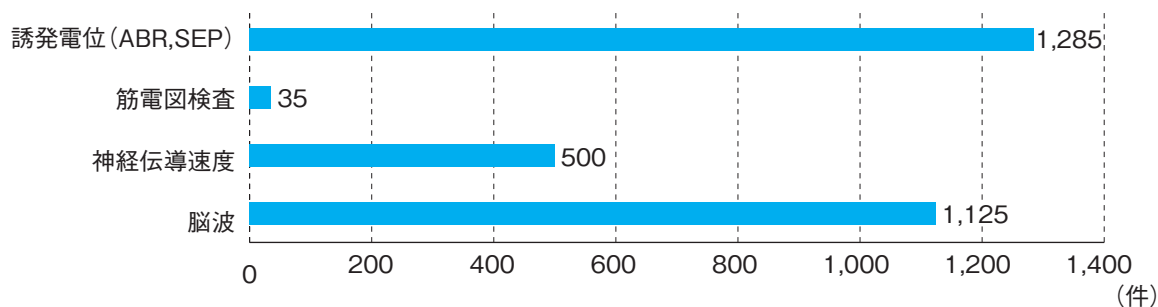
超音波 検査業績



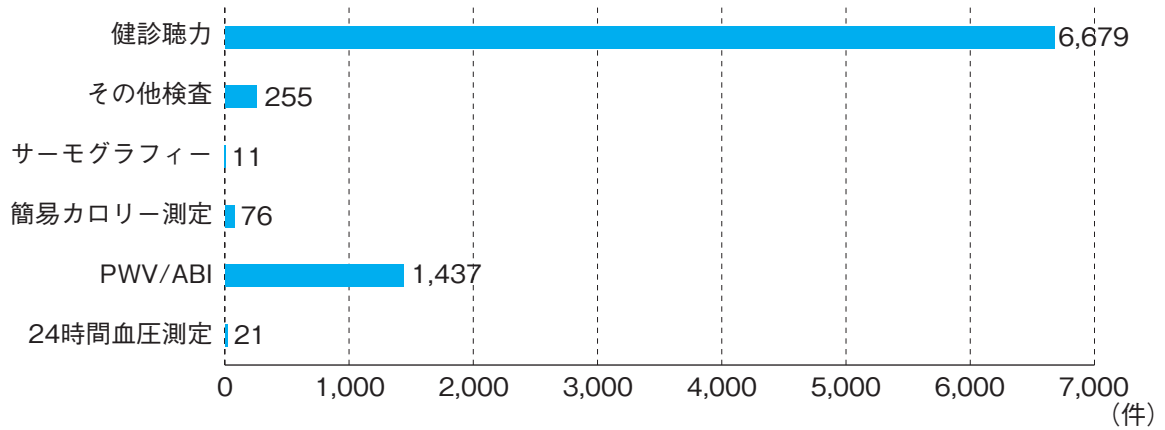
肺機能 検査業績



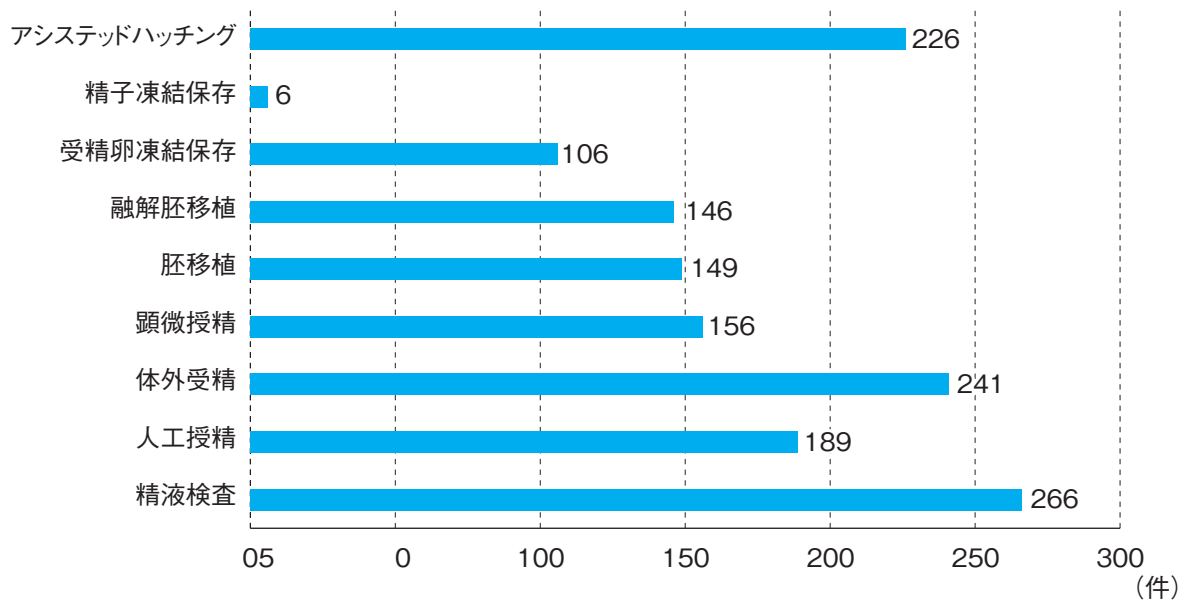
脳・神経 検査業績



### その他 検査業績



### ② 生殖医療関連 検査実績



# リハビリテーション技術室

## 1. 概要

リハビリテーション技術室は理学療法部門、作業療法部門、言語療法部門より構成される。さらに豊橋市役所長寿介護課に職員を派遣している。1996年5月には、リハビリテーション科の設立と心疾患のリハビリテーション承認施設や動作分析室を備えた総合施設認定を受けた。1998年に屋外訓練場が建設され、1999年には作業療法室前室にミニギャラリーが開設された。さらに2003年には言語聴覚療法Ⅰの認定を受け、脳血管・呼吸・心大血管を合わせて全療法Ⅰの施設基準をうけている。

また、1982年より開始した地域病院間のリハビリテーション連絡会は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が所属する施設で構成され、各機能別施設における各専門分野からの情報提供や症例検討を行っている。病診や病病連携一体のシステムは、25施設を数えリハビリテーション分野からの市民サービスの充実を図っている。

(リハビリテーション技術室長 森嶋 直人)

### (1) 外来入院別単位数

延べ患者数は97,465人、その内訳として理学療法65,608件、作業療法18,662件、言語療法13,195件であった。

(件)

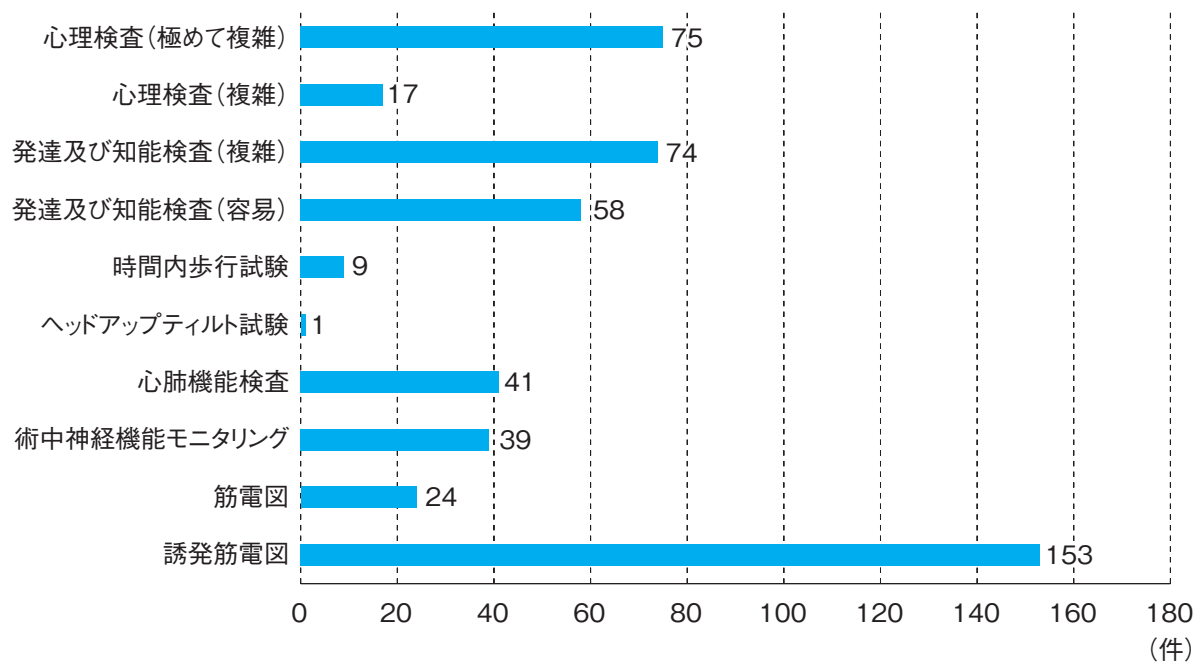
内 容	入外	H26(2014)	H25(2013)	H24(2012)
理学療法	入院	58,245	60,459	57,473
	外来	4,748	5,149	6,033
作業療法	入院	18,678	16,893	16,544
	外来	2,363	1,769	1,677
言語療法	入院	11,558	11,011	9,503
	外来	2,627	2,184	2,281
合 計	入院	88,481	88,363	83,520
	外来	9,738	9,102	9,991
総合計	合計	98,219	97,465	93,511

## (2) 疾患別件数

大分類疾患		代表的小分類疾患	
①脳疾患	1,044件	ア) 脳梗塞	574件
		イ) 脳出血	132件
		ウ) くも膜下出血	54件
		エ) 小脳出血・小脳梗塞	23件
		オ) 頭部外傷	143件
		カ) パーキンソン氏病	38件
		キ) その他	80件
②脳性麻痺	9件		
③発達障害	152件		
④脊髄疾患	147件	ア) 脊髄損傷	39件
		イ) 脊髄変性症	36件
		ウ) 脊髄症	53件
		エ) その他	19件
⑤神経疾患	200件	ア) 顔面神経麻痺	60件
		イ) 多発神経炎	12件
		ウ) その他	128件
⑥先天性異常	4件		
⑦骨疾患	607件	ア) 上肢骨折	24件
		イ) 下肢骨折	321件
		ウ) 脊椎骨折	64件
		エ) 脊椎症	85件
		オ) 脊柱靱帯骨化	7件
		カ) 無腐性壊死	19件
		キ) 椎間板疾患	67件
		ク) その他	20件
⑩関節疾患	295件	ア) 変形性関節症	130件
		イ) 膝内障	72件
		ウ) 肩関節疾患	25件
		エ) 筋腱断裂	11件
		オ) その他	57件
⑪関節リウマチ	46件		
⑫切断	17件		
⑬手の外傷	70件		
⑭筋疾患	11件		
⑮循環器呼吸疾患	913件	ア) 循環器疾患	356件
		イ) 呼吸器疾患	557件
⑯腫瘍	263件	ア) 脳腫瘍	35件
		イ) 乳癌	53件
		ウ) 肺癌	101件

		エ) 脊髄腫瘍	8 件
		オ) その他の腫瘍	6 6 件
⑰精神疾患	4 3 件		
⑱その他	4 7 8 件	ア) 廃用症候群・運動器不安定症	4 1 1 件
		イ) その他	6 7 件

(3) リハビリテーションセンター内検査実施状況



## 臨床工学室

### 1. 概要

臨床工学室基本方針として病院理念と基本方針に基づき、院内の医療機器を安全且つ良好な状態で臨床提供を行い、公共性と経済性を考慮した効率的な運用を図る。

臨床工学室は生命維持装置を用いた手術、治療支援ならびにそれに付帯する一切の治療業務に携ることが使命である。人員は室長の他11名+嘱託職員1名で、専用PHS端末を用いた365日24時間のオンコール体制を行っている。

医療機器管理においては、医療機器安全管理責任者の下に医療機器の保守管理計画、研修計画および実施記録管理、更新・増設・廃棄業務支援を行っている。地域医療連携においては、主治医を中心に、在宅で医療機器を使用する患者様や家族への指導や退院後のフォローも行う。人工心肺装置を用いた心臓手術件数の増加に対応するため、多職種間の密な連携協力や、計画的な研修・カンファレンスを行いながら、患者様の安全を第一に考えた医療技術の提供と診療支援を行う。

(主査 中村 省三)

#### 「在籍技師が取得している認定資格」

資格	認定団体	資格	認定団体
透析技術認定士	日本透析医学会、他4学会透析療法合同専門委員会認定資格	特定高圧ガス取扱主任者	高圧ガス保安協会
体外循環認定士	日本人工臓器学会、日本体外循環医学会、日本心臓血管外科学会他	院内移植コーディネータ	愛知腎臓財団
呼吸療法認定士	日本呼吸器学会、日本麻酔科学会、日本胸部外科学会	第一種衛生管理者免許	厚生労働大臣指定安全衛生技術試験協会
臨床ME専門認定士	日本生体医工学会	医療安全認定コーチ：MCCS	国際医療リスクマネジメント学会
第2種ME技術者	日本生体医工学会		

## (1) 治療手術業務件数 血液浄化・血液成分分離・末梢血幹細胞採数

※HD、HDF、HF、ECUM、PEは血液浄化センターでの施行症例を除く

(件または回)

区分 内訳	2014年度	2013年度	2012年度
血液浄化療法			
症例件数合計	129	169	121
血液浄化回数合計	341	386	358
HD件数	39	76	33
HD回数	58	143	66
HDF件数	3	1	0
HDF回数	8	6	0
HF件数	0	2	0
HF回数	0	2	0
ECUM件数	4	15	9
ECUM回数	6	23	10
CHD件数	0	1	4
CHD回数	0	1	8
小児CHD件数	0	1	0
小児CHD回数	0	4	0
CHDF件数	27	25	17
CHDF回数	66	59	59
CHF件数	0	1	0
CHF回数	0	1	0
PE件数	20	2	6
PE回数	65	11	22
CPE件数	0	0	0
CPE回数	0	0	0
DFPP件数	2	2	5
DFPP回数	5	5	6
免疫吸着件数	4	0	0
免疫吸着回数	23	0	0
LDL吸着件数	0	0	2
LDL吸着回数	0	0	5
薬物吸着件数	0	0	0
薬物吸着回数	0	0	0
ET吸着件数	2	6	5
ET吸着回数	3	11	9
L-CAP件数	17	23	24
L-CAP回数	63	74	87
G-CAP件数	11	14	16
G-CAP回数	44	46	56



末梢血幹細胞採取・骨髄移植関連			
症例件数合計	16	26	29
施行回数合計	34	59	73
PBS C成人	11	21	27
PBS C回数	24	50	69
PBS C小児	5	4	2
PBS C回数	10	8	4
骨髄濃縮件数	0	1	0
骨髄濃縮回数	0	1	0
顆粒球採取件数	0	0	0
顆粒球採取回数	0	0	0
白血球採取件数	0	0	0
白血球採取回数	0	0	0
その他			
腹水濾過濃縮再静注業務症例数	71	44	37
腹水濾過濃縮再静注業務症回数	138	96	86

## 手術立ち会い業務件数

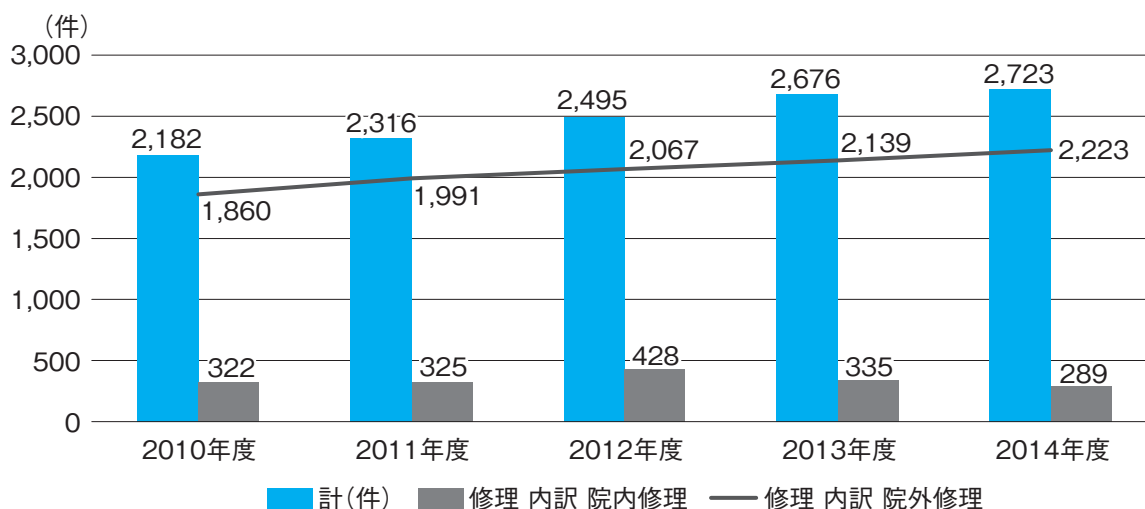
人工心肺・補助循環・自己血回収・脳外ナビ・ペースメーカー等症例数

(件または回)

区分	2014年度	2013年度	2012年度
人工心肺装置業務（開心術）			
成人人工心肺症例数	10	0	0
小児人工心肺症例数	0	0	0
Off Pump 手術立ち会い症例数	0	0	0
計	10	0	0
補助人工心肺装置管理業務			
PCPS 症例数	5	14	6
ECMO 症例数	0	0	0
計	5	14	6
手術立ち会い業務（人工心肺業務以外）			
心外 自己血回収症例数	9	2	1
整形 自己血回収症例数	17	15	7
計	26	17	8
脳外ナビゲーション症例数	39	40	51
整形手術ナビゲーション症例数	6	11	3
耳鼻いんこう科手術ナビゲーション症例数	2	0	0
計	47	51	54
泌尿器科ダヴィンチ症例数	28	15	0
婦人科ダヴィンチ症例数	8	0	0
外科ダヴィンチ症例数(胃・腸切除)	3	0	0
計	39	15	0
PM・ICD 新規植込 立ち会い	17	27	24
PM・ICD 電池交換 立ち会い	15	11	14
PM・ICD リード交換等 立ち会い	2	1	1
計	34	39	39
その他			
NO ガス使用症例数	10	5	5
N2 ガス 使用症例数	0	0	0
計	10	5	5

(2) 医療機器修理件数

年度別修理件数



2014年度 修理処理件数内訳

(件)

部署名	修理件数	修理内訳				
		院内修理	院外修理	修理分類別		
				修理不能	新品交換	異常なし
手術センター	694	22	651	8	9	4
レントゲン(放射線技術室)	159	4	153	1	0	1
画像検査(看護局)	64	2	61	0	1	0
中央臨床検査室	59	2	55	0	2	0
薬局	26	1	24	0	1	0
ME(臨床工学室)	92	20	68	0	4	0
血液浄化センター	18	1	17	0	0	0
NMC	116	15	94	2	2	3
救命救急センター	61	8	45	1	5	2
中央滅菌材料室	158	0	158	0	0	0
リハビリテーションセンター	43	12	29	0	2	0
栄養管理室	20	0	20	0	0	0
内科	79	10	45	1	21	2
小児科	13	3	8	0	2	0
外科	3	0	3	0	0	0
形成外科	1	0	1	0	0	0
整形外科	5	1	3	0	1	0
皮膚科	10	0	9	0	0	1
泌尿器科	11	0	11	0	0	0
産婦人科	6	2	3	0	0	1
耳鼻科	15	0	15	0	0	0
眼科	25	0	24	0	1	0
脳外科	2	1	0	1	0	0
歯科口腔外科	10	0	10	0	0	0

外来治療センター	8	2	4	0	1	1
予防医療センター	3	0	3	0	0	0
医事課	1	0	1	0	0	0
総合案内	13	2	8	0	3	0
総合生殖	0	0	0	0	0	0
放射線治療室	0	0	0	0	0	0
管理課	2	0	2	0	0	0
東 2	105	21	65	3	15	1
東 3	47	10	27	2	8	0
東 5	75	9	58	1	7	0
東 6	56	19	34	0	2	1
東 7	75	15	52	1	5	2
東 8	106	11	89	0	5	1
東 9	27	5	18	0	3	1
西 2	73	20	48	1	3	1
西 3	88	10	74	0	4	0
総合周産期病棟	53	7	35	2	6	3
西 5	63	12	38	1	11	1
西 6	30	5	19	1	5	0
西 7	57	17	36	3	0	1
西 8	38	3	31	0	4	0
西 9	51	5	32	0	14	0
南病棟	61	11	42	0	8	0
医局	0	0	0	0	0	0
看護局	1	1	0	0	0	0
医療相談	0	0	0	0	0	0
合計	2,723	289	2,223	29	155	27

(3) 臨床工学室が管理する医療機器台数

\* 各科で購入されているが、保守点検を臨床工学室が行っている機器を含む

(台)

管理機器名称	管理台数
人工心肺装置	1
人工心肺用遠心ポンプコントローラー	1
心筋保護液供給装置	1
人工心肺用ヒータークーラーユニット	2
自己血回収装置	1
遠心ポンプ式補助循環装置(PCPS)	2
IABP	3
成人・小児用人工呼吸器	22
新生児用人工呼吸器	12
在宅用 人工呼吸器 (リース)	21
成人用NIPPV	6
小児・新生児用NIPPV	10
パーカッションベンチレーター	2
RTX 陽陰圧式体外式人工呼吸器	1
多人数用血液透析患者監視装置	20
手術ナビゲーションシステム	1
個人用血液透析患者監視装置	3
個人用RO装置	2
持続的血液ろ過透析装置	2
血漿交換装置	1
腹水濾過濃縮装置	1
除細動装置	16
AED	22
AED解析装置	1
閉鎖式保育器(デュアル式2台含む)	18
開放式保育器(インファントウォーマー)	11
搬送用保育器	2
輸液ポンプ	268
輸注ポンプ	266
経腸ポンプ	19
セントラルモニター	31
ベッドサイドモニター	151
無線式送信機台数	137
携帯型受信機	13
心電計	22
血液成分分離装置	2
全身麻酔器	14
低圧持続吸引器	30
連続心拍出力計	6
体外式ペースメーカー(DDD式を含む)	8
ネブライザーヒーター	60
手術支援ロボットシステム(ダヴィンチSi)	1
計	1,213

(4) 人工呼吸器稼働台数および平均装着日数

診療科別

診療科名	症例数 (件)	延べ稼働 回数(日)	科別平均 装着日数 (日)
外科	45	195	4.3
脳神経外科	68	398	5.9
心臓血管外科	17	212	12.5
呼吸器外科	3	37	12.3
循環器内科	34	261	7.7
呼吸器内科	37	429	11.6
消化器内科	17	291	17.1
神経内科	17	862	50.7
血液内科	8	67	8.4
腎臓内科	3	20	6.7
糖尿病・内分泌科	1	56	56.0
整形外科	10	83	8.3
泌尿器科	7	9	1.3
産婦人科	2	2	1.0
形成外科	0	0	0.0
皮膚科	0	0	0.0
耳鼻いんこう科	9	32	3.6
歯科口腔外科	5	9	1.8
小児科	20	746	37.3
移植外科	1	3	3.0
輪番	1	1	1.0
計	305	3,713	12.2

病棟別

病棟名	症例数 (件)	延べ稼働 回数(日)	平均装着 日
南 1	6	442	22.1
南 2	0	0	0.0
西 2	16	456	11.4
東 2	12	662	17.4
ICU	267	1,607	5.2
東 3	3	49	16.3
西 4	0	0	0.0
東 4	0	0	0.0
西 5	2	16	8.0
東 5	0	0	0.0
西 6	5	121	13.4
東 6	2	108	21.6
西 7	8	91	10.1
東 7	5	123	15.4
西 8	0	0	0.0
東 8	0	0	0.0
西 9	1	34	17.0
東 9	0	0	0.0
計	327	3,709	11.3

\* 西病棟 3階から病棟転症された症例を含む

\* 在宅人工呼吸療法中で入院した症例も含む

病棟別 人工呼吸器稼働（日常点検）台数の報告

病棟	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間365日計算	
	延べ稼働台数	1日平均(台)	延べ稼働台数	1日平均(台)	延べ稼働台数	1日平均(台)	延べ稼働台数	1日平均(台)	延べ稼働台数	1日平均(台)	延べ稼働台数	1日平均(台)	延べ稼働台数	1日平均(台)	延べ稼働台数	1日平均(台)	延べ稼働台数	1日平均(台)	延べ稼働台数	1日平均(台)	延べ稼働台数	1日平均(台)	延べ稼働台数	1日平均(台)	延べ稼働台数	1日平均(台)
南1	21	0.68	0	0.00	12	0.39	31	1.00	31	1.00	58	1.93	55	1.77	41	1.32	62	2.07	50	1.61	34	1.13	47	1.52	442	1.21
南2	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
西2	74	2.39	80	2.58	60	1.94	43	1.39	25	0.81	48	1.60	44	1.42	33	1.06	37	1.23	6	0.19	3	0.10	3	0.10	456	1.25
東2	39	1.26	55	1.77	56	1.81	59	1.90	51	1.65	30	1.00	89	2.87	77	2.48	47	1.57	20	0.65	71	2.37	68	2.19	662	1.81
ICU	134	4.32	137	4.42	60	1.94	119	3.84	155	5.00	134	4.47	126	4.06	114	3.68	123	4.10	245	7.90	153	5.10	107	3.45	1,607	4.40
東3	3	0.10	0	0.00	0	0.00	0	0.00	4	0.13	11	0.37	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	31	1.00	49	0.13
西4	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
東4	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
西5	0	0.00	12	0.39	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	4	0.13	16	0.04
東5	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
西6	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	13	0.42	12	0.40	0	0.00	0	0.00	1	0.03	31	1.00	28	0.93	36	1.16	121	0.33
東6	30	0.97	31	1.00	30	0.97	9	0.29	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	8	0.26	108	0.30
西7	20	0.65	18	0.58	12	0.39	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	22	0.71	19	0.63	0	0.00	91	0.25
東7	33	1.06	31	1.00	16	0.52	0	0.00	14	0.45	26	0.87	0	0.00	0	0.00	0	0.00	3	0.10	0	0.00	0	0.00	123	0.34
西8	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
東8	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
西9	24	0.77	10	0.32	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	34	0.09
東9	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
合計/日平均台数	378	12.2	374	12.1	246	7.9	261	8.4	293	9.5	319	10.6	314	10.1	265	8.5	270	9.0	377	12.2	308	10.3	304	9.8	3,709	10.16

マスク式人工呼吸器 症例数/延べ使用日数	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		年間		主科別 一例あたり の平均 使用日数 (日)
	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	症例	延べ	
総数	13	42	15	61	11	53	7	35	11	45	17	62	13	62	7	18	25	103	23	93	21	49	12	52	175	675	3.9
(内訳)成人	11	34	9	39	7	27	7	35	10	34	14	36	12	57	5	12	20	72	20	84	19	44	8	44	142	518	3.6
(内訳)小児	2	8	6	22	4	26	0	0	1	11	3	26	1	5	2	6	5	31	3	9	2	5	4	8	33	157	4.8
一日平均マスク式呼吸器稼働台数	1.4		2.0		1.8		1.1		1.5		2.1		2.0		0.6		3.3		3.0		1.8		1.7				

## 栄養管理室

### 1. 概要

栄養管理室では、患者さんの病状や状態、年齢に合わせた248種類の食種を用意し、喜んで食べていただける食事を提供して、QOLの向上に努めている。医師を中心とした栄養サポートチームの一員として、栄養管理計画書の作成やNST回診、栄養治療実施計画書を作成し、患者さんの栄養状態の把握、改善を図り、治療に貢献している。さらに、家庭でも自分自身で栄養管理が行えるよう、栄養食事指導や糖尿病教室などを通して、アドバイスやお手伝いをしている。

栄養管理委員会で食事内容の見直しの検討やNST運営委員会でNST活動を報告した。栄養治療についての知識・技術を習得するためNST定期教育講演会やNST教育カリキュラムを開催するなど、院内全体の栄養治療の水準向上を図っている。

患者さんの要望に応えるため、常食・軟菜食の昼食に選択メニューを導入し、食事メニューの選択機会を拡大した。

(主幹 加藤 晴康)



栄養管理室実績

(食)

区 分	項 目	2014年度	2013年度	2012年度	
食種及び食数	一般食	413,515	434,848	432,409	
	特別食	加算食	133,906	128,069	124,136
		非加算食	16,013	14,935	16,539
		小計	149,919	143,004	140,675
合計		563,434	577,852	573,084	

選択メニュー	実施日数(日)		365	365(246)	365
	一般食	常食	69,864	68,370	70,073
		軟菜食	22,595	25,403	24,464
		小計(人)	92,459	93,773	94,537
	治療食	糖尿食	11,491	7,823	—
		心臓食	4,555	4,293	
		肝臓食	287	148	
		すい臓B食	2,047	1,045	
	小計(人)		18,380	13,309	
	合計(人)		110,839	107,082	94,537

( ) 内は治療食の実施日数

(件)

栄養食事指導	外来患者栄養食事指導	1,185	1,221	1,322
	糖尿病透析予防管理	21	40	11
	入院患者栄養食事指導	1,035	911	900
	乳児栄養食事指導	115	213	233
	小計	2,356	2,385	2,466
	糖尿病教室	152	181	233
	合計	2,508	2,566	2,699

(件)

NST業務	栄養管理計画書	21,588	21,324	20,728
	栄養サポートチーム加算	368	289	196

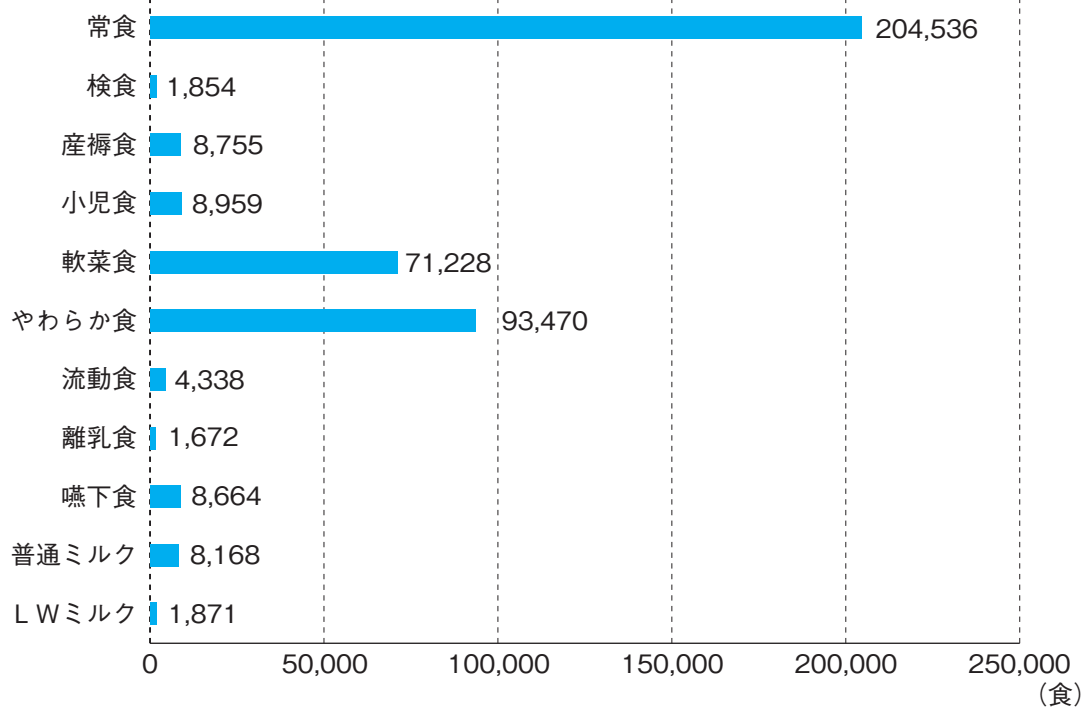
NST定期教育講演会	実施回数(回)	8	8	8
	参加者(人)	382	471	416

NST教育カリキュラム	実施回数(回)		1	2	1
	受講者(人)	院外	5	9	5
		院内	1	4	2

2014年度食種詳細

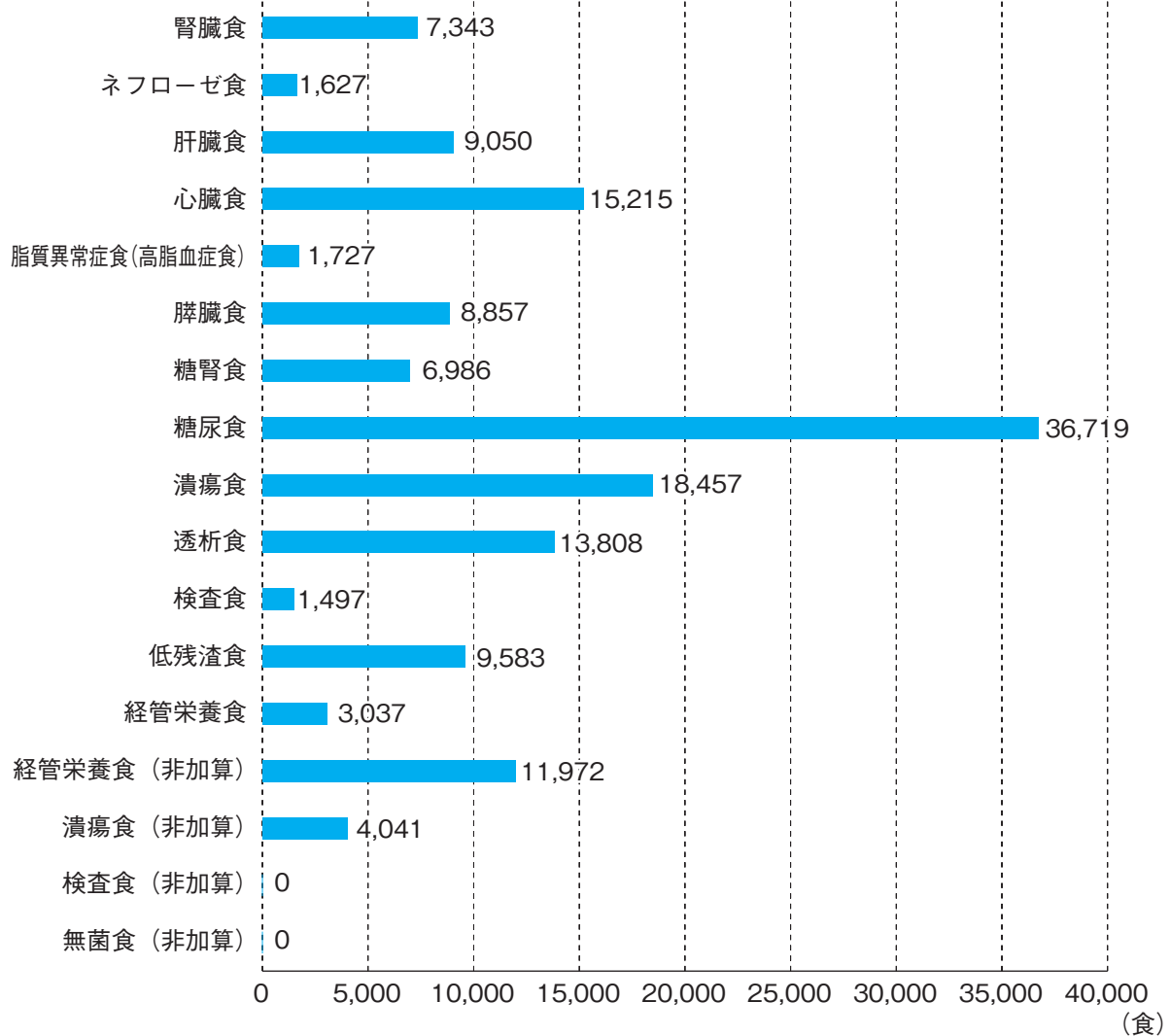
一般食食種別詳細

413,515食



特別食食種別詳細

149,919食



# 薬局

## 1. 概要

薬局は、「薬あるところ薬剤師あり」を掲げ、薬のエキスパートとして各部局と連携をとり、医療チームの一員として、薬物治療ならびに医療安全に貢献することを目標としている。

薬局内には、薬品管理・注射、製剤・調製、調剤・麻薬、医薬品情報の4グループからなる基本組織と治験管理センターが設置されている。

病棟では、薬剤師が患者さんへの服薬指導や副作用発現のチェック、他の医療職への情報提供などを行い、患者さんが安心できる薬物治療に貢献している。

また、がん指導薬剤師、がん専門薬剤師、がん化学療法認定薬剤師、感染制御専門薬剤師、抗菌化学療法認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士などの専門領域の薬剤師は各チーム医療の一員として役割を担い、薬剤師能を発揮している。

今後も病棟業務やチーム医療を推進し、医療安全と適正な薬物療法が実現できるよう努めていく。

(薬局長 石田 隆浩)

### (1) 患者数及び処方せん枚数

区分		年度		平成26(2014)年度(対前年度)		1日平均		平成25(2013)年度(対前年度)		1日平均		平成24(2012)年度(対前年度)		1日平均	
外 来	院 内	患者数(人)	484,149	99.9%	1,984	484,505	97.6%	1,986	496,486	100.2%	2,026				
		処方せん枚数(枚)	49,379	99.1%	202	49,818	100.3%	204	49,688	95.4%	203				
		平均投薬日数(日)	13.5	111.1%	/	12.1	102.9%	/	11.8	110.4%	/				
	院 外	注射処方せん枚数(枚)	13,576	105.3%	56	12,890	89.0%	53	14,478	106.5%	57				
		処方せん枚数(枚)	171,585	100.7%	703	170,370	97.0%	698	175,664	99.3%	717				
		平均投薬日数(日)	34.6	106.2%	/	32.6	103.0%	/	31.6	100.6%	/				
入 院	患者数(人)	258,492	97.4%	708	265,485	100.9%	727	263,136	97.9%	721					
	処方せん枚数(枚)	112,833	98.5%	309	114,572	102.9%	314	111,290	99.0%	305					
	平均投薬日数(日)	7.0	104.6%	/	6.7	100.6%	/	6.6	100.5%	/					
	注射処方せん枚数(枚)	127,466	96.8%	349	131,726	104.3%	361	126,247	97.5%	346					
備 考		外来日数	244日		外来日数	244日		外来日数	245日						
		入院日数	365日		入院日数	365日		入院日数	365日						

### (2) 薬剤管理指導実績

	平成26(2014)年度	平成25(2013)年度	平成24(2012)年度
薬剤管理指導件数(件)	22,744	22,268	21,712
麻薬加算件数(件)	633	695	853

### (3) 無菌製剤処理料実績

	平成26(2014)年度	平成25(2013)年度	平成24(2012)年度
無菌製剤処理料件数(件)	10,972	11,706	11,269

(4) 外来及び入院の科別処方せん枚数

科名	外 来			入 院	
	処方せん枚数(枚)		全処方せん枚数に対する科別比率(%)	処方せん枚数(枚)	全処方せん枚数に対する科別比率(%)
	院 内	院 外			
総合内科	1,078	4,645	2.6	372	0.3
一般外科	3,316	7,201	4.8	9,524	8.4
整形外科	2,303	12,536	6.7	10,501	9.3
脳神経外科	355	4,368	2.1	4,212	3.7
産婦人科	2,793	8,806	5.2	9,857	8.7
小児科	2,680	12,077	6.7	6,692	5.9
耳鼻いんこう科	951	7,910	4.0	3,721	3.3
皮膚科	2,588	14,803	7.9	2,009	1.8
泌尿器科	1,400	11,575	5.9	6,207	5.5
眼科	748	11,403	5.5	2,451	2.2
放射線科	37	129	0.1	0	0.0
こころのケア科	896	73	0.4	0	0.0
形成外科	332	1,241	0.7	60	0.1
歯科口腔外科	651	4,550	2.4	1,895	1.7
リハビリテーション科	8	27	0.0	0	0.0
心臓血管・呼吸器外科	123	651	0.4	782	0.7
麻酔科	7	0	0.0	0	0.0
救急科	15,284	28	6.9	-	-
呼吸器内科	956	8,330	4.2	13,135	11.6
消化器内科	4,749	14,638	8.8	15,384	13.6
循環器内科	1,340	10,206	5.2	5,247	4.7
アレルギー内科*	634	1,852	1.1	-	-
腎臓内科	659	4,968	2.5	3,176	2.8
糖尿病・内分泌内科	2,230	11,159	6.1	2,214	2.0
神経内科	286	6,356	3.0	5,369	4.8
血液・腫瘍内科	1,701	5,183	3.1	8,074	7.2
小児外科	24	314	0.2	10	0.0
移植外科	66	591	0.3	296	0.3
リウマチ科	972	5,291	2.8	518	0.5
脊椎外科	0	0	0.0	1	0.0
呼吸器外科	134	111	0.1	403	0.4
心臓血管外科	78	563	0.3	723	0.6
合 計	49,379	171,585	100	112,833	100
	220,964				

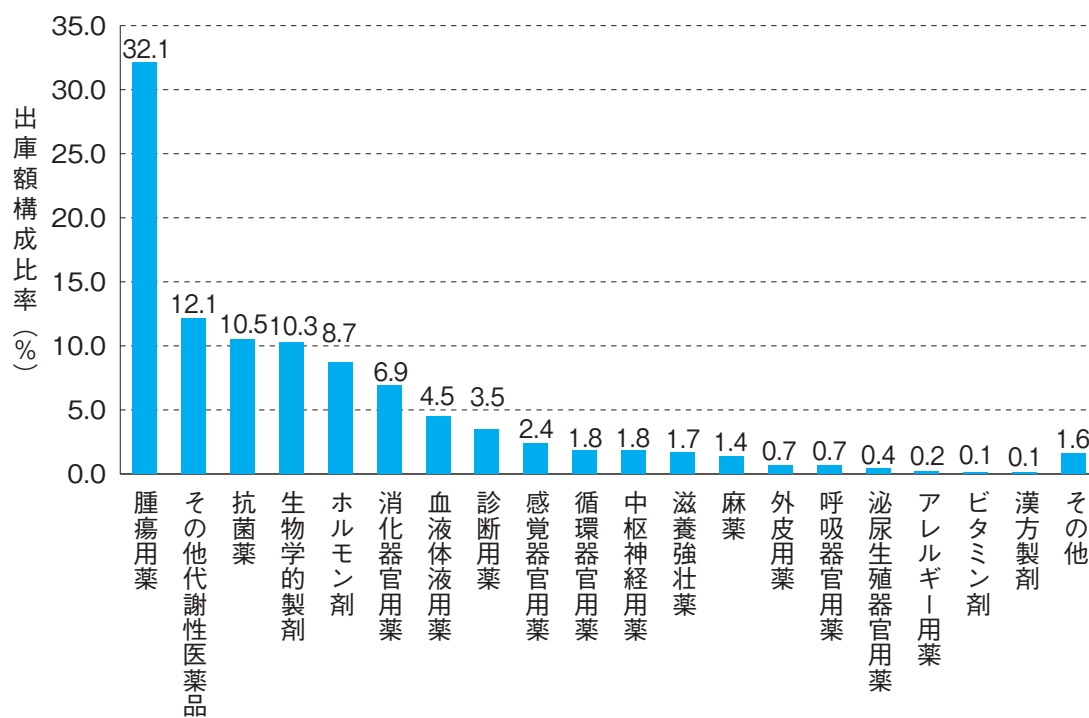
\*処方せん枚数：入院のアレルギー内科は呼吸器内科に含む。

10月より心臓血管・呼吸器外科は心臓血管外科と呼吸器外科に分かれている。

(5) 抗がん薬及びIVH調製本数

	区 分	平成26(2014)年度	平成25(2013)年度	平成24(2012)年度
抗がん薬 (本)	入 院	6,489	7,479	7,161
	外 来	9,843	9,392	10,551
IVH (本)	入 院	767	752	261

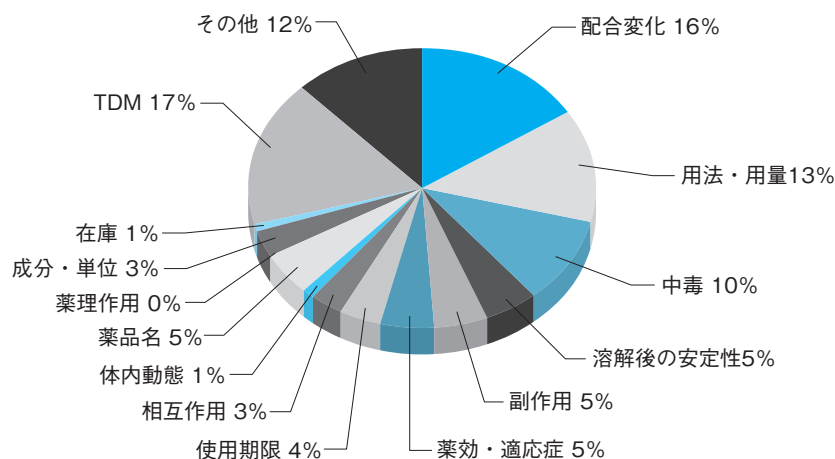
(6) 薬効別出庫薬品



## (7) 院内特殊製剤（一部抜粋）

剤形	製 剤 名 (出庫単位)	適 応 症 等	主な使用科	製剤量
坐剤・ 腔坐剤	チラーヂンS坐薬50 $\mu$ g	甲状腺機能低下症(内服不可能時)	糖尿病・内分泌内科等	146本
	ミラクリッド腔坐薬 1万単位	切迫早産(破水予防)	産婦人科	2,277本
	プロゲステロン腔坐薬 200mg	黄体ホルモン補充療法	総合生殖医療センター	9,498本
	リファンピシン坐薬 450mg	結核治療薬 (イレウス等で内服困難時)	呼吸器内科	107本
注射剤	3%亜硝酸ナトリウム注 (10mL)	シアン中毒の解毒	救命救急センター	8本
	安息香酸ナトリウム注(50mL)	高アンモニア血症	救命救急センター	8本
	眼科用アバスチン注	加齢黄斑変性症、血管新生緑内障	眼科	27本
	シリコンオイル眼注(10mL)	増殖硝子体網膜症の硝子体手術における眼内充填物	眼科	50本
	滅菌墨汁(5mL)	内視鏡的点墨法	消化器内科	113本
	2%パテントブルー注	悪性リンパ腫のリンパ管染色	皮膚科	5本
点眼剤	0.5%デノシン点眼液(5mL)	サイトメガロウイルス角膜内皮炎	眼科	37本
	バンコマイシン点眼液(5mL)	MRSA陽性患者への眼科感染症	眼科	10本
	ビタミンA点眼液(5mL)	ステーブン・ジョンソン症候群、 眼類疱疹、上輪部角結膜	眼科	2本
	0.2%フルコナゾール点眼液 (5mL)	角膜真菌症・アcantamoeba角膜炎	眼科	24本
	0.5%硫酸アトロピン点眼液 (5mL)	診断または治療を目的とする散瞳 と調節麻痺	眼科	46本
	1%ブイフェンド点眼液	角膜真菌症	眼科	32本
内用剤	セレン内服液(10 $\mu$ g/mL)	セレン欠乏症	小児科	1,250mL
外用剤	SAD液	円形脱毛症、疣贅	皮膚科	6,600mL
	鼓膜麻酔薬	鼓膜麻酔	耳鼻科	50mL
	DPCP液	円形脱毛症、疣贅	皮膚科	1,900mL
	2%滅菌HPC液	肉芽組織の清浄化と形成促進剤	血液・腫瘍内科等	17,500mL
軟膏剤	40%尿素軟膏	爪白癬の角質除去	形成外科	720g
	5%ヒドロキノン軟膏	メラニン色素の破壊・生成抑制	形成外科等	2,100g
	1%メトロニダゾール軟膏	腫瘍部位の悪臭予防	一般外科等	500g
	Mohs氏ペースト	Mohs surgeryにおける組織の固定	一般外科等	600g

(8) 医薬品情報室への問合せ状況



(9) 医薬品情報提供

医薬品要覧	2回
Drug Information News	12回
薬局ニュース	12回
安全性速報	3件
適応症に関する情報	39件
使用上の注意に関する情報	37件
用法・用量に関する情報	8件
薬物血中濃度解析	85件

(10) 持参薬鑑別

	平成26(2014)年度	平成25(2013)年度	平成24(2012)年度
薬剤鑑別件数(件)	11,110	9,718	6,315

(11) 治験実施数

治験／製造販売後	相	件数	予定症例数	実施症例数
治験	ph I	1	4	4
	ph II	2	4	0
	ph III	14	56	34

(12) 副作用報告

	平成26(2014)年度	平成25(2013)年度	平成24(2012)年度
厚生労働省報告件数(件)	7	8	10
ブレイボイド報告件数(件)	75	46	68

## (13) 年間麻薬使用量

薬品名	平成26(2014)年度		平成25(2013)年度		平成24(2012)年度	
	院内	院外	院内	院外	院内	院外
オピアト注(本)	0	-	0	-	0	-
オピスコ注(本)	8	-	16	-	21	-
ペチジン塩酸塩注(本)	2	-	2	-	15	-
モルヒネ塩酸塩注10mg(本)	3,496	-	2,803	-	5,407	-
モルヒネ塩酸塩注50mg(本)	511	-	1,371	-	2,243	-
モルヒネ塩酸塩注200mg(本)	40	-	517	-	1,047	-
フェンタニル注0.1mg(本)	12,963	-	12,214	-	13,796	-
フェンタニル注0.5mg(本)	6,575	-	6,940	-	5,876	-
アルチバ静注用2mg(瓶)	4,167	-	5,748	-	5,071	-
アルチバ静注用5mg(瓶)	1,293	-	-	-	-	-
ケタラール静注用200mg(瓶)	836	-	1,304	-	1,084	-
オキファスト10mg(本)	1,335	-	4,193	-	37	-
オキファスト50mg(本)	597	-	73	-	-	-
MSコンチン錠10mg(錠)	2,530	1,519	2,812	3,719	4,608	3,318
MSコンチン錠30mg(錠)	330	14	615	1,239	927	471
MSコンチン錠60mg(錠)	-	-	6	0	186	126
ピーガード錠20mg(錠)	0	0	0	0	69	0
ピーガード錠30mg(錠)	18	0	9	0	57	0
ピーガード錠120mg(錠)	0	0	0	0	0	0
カディアンカプセル60mg(C)	0	0	0	0	0	0
カディアンスティック粒120mg(包)	0	0	0	0	0	0
カディアン分包品20mg(包)	0	-	0	-	0	-
カディアン分包品30mg(包)	0	-	0	-	0	-
モルベス細粒2%10mg(包)	26	14	206	20	116	354
モルベス細粒6%30mg(包)	68	0	0	0	0	0
モルヒネ塩酸塩錠10mg「DSP」(錠)	965	1,045	1,453	868	131	0
オプソ内服液5mg(包)	1,721	402	2,298	612	3,155	655
オプソ内服液10mg(包)	1,317	315	3,378	1,582	3,638	1,434
オキシコンチン錠5mg(錠)	30,395	26,218	25,999	25,883	25,406	22,043
オキシコンチン錠20mg(錠)	4,367	6,865	4,938	3,369	5,952	4,996
オキシコンチン錠40mg(錠)	1,688	3,274	1,163	1,657	3,152	6,353
オキノーム散2.5mg(包)	5,801	3,041	4,647	2,575	4,036	2,989
オキノーム散5mg(包)	5,086	2,817	4,781	2,686	5,577	2,799
オキノーム散10mg(包)	3,624	6,809	5,956	3,833	5,570	6,399
アンベック坐薬10mg(本)	841	34	704	10	800	37
アンベック坐薬30mg(本)	104	0	184	0	581	0
デュロテップMTパッチ2.1mg(枚)	497	1,123	967	625	921	646
デュロテップMTパッチ4.2mg(枚)	403	581	694	709	932	626
デュロテップMTパッチ8.4mg(枚)	373	373	550	297	742	307
デュロテップMTパッチ16.8mg(枚)	150	85	300	65	218	181
フェントステープ1mg(枚)	2,831	1,645	2,360	896	1,767	482
フェントステープ2mg(枚)	3,923	816	2,975	920	2,497	807
フェントステープ6mg(枚)	1,243	598	1,296	140	713	189
パシーフカプセル30mg(C)	-	-	-	-	233	354
ワンデュロパッチ0.84mg(枚)	-	-	78	0	485	121
ワンデュロパッチ1.7mg(枚)	0	0	40	42	378	224
イーフェンバツカル錠50μg(錠)	360	122	-	-	-	-
イーフェンバツカル錠100μg(錠)	282	30	-	-	-	-
イーフェンバツカル錠200μg(錠)	417	0	-	-	-	-
タペンタ錠25mg(錠)	49	0	-	-	-	-
タペンタ錠100mg(錠)	0	0	-	-	-	-
アヘンチンキ(mL)	571.5	1,477.5	730.8	1,655.5	775.0	3,261
1%塩酸モルヒネ液(mL)	22.5	0	450	0	0	0
10%リン酸コデイン散(g)	0	0	0	0	0	0
10%塩酸コカイン液(mL)	28.0	0	31.0	0	51.0	0

※年度の設定は麻薬関係法令上、平成25(2013)年10月1日～平成26(2014)年9月30日までとする。



# 看護局

## 1. 概要

今年度は、看護局の重点目標として1) 患者さんの安全と安心を保証するために環境整備し、安全体制を充実させる。2) 業務改善を行い、看護サービスの質の向上に努める。3) 職場環境を整え、魅力ある職場づくりを推進する。4) 災害対応の強化に努める。を挙げ、看護局委員会、各部署における看護目標やチーム活動を通し、目標に向けて取り組むことができた。

今年度、総合周産期母子医療センター及びパースセンターが開設された。各担当部署においては師長や主任を中心に看護体制を維持しながら運営できた。また、「SSC: Starting Support Conference」を実施し、ベッドコントロールの効率性が上がったことは高く評価したい。さらに、日本看護協会のDiNQL: 労働と看護の質向上のためのデータベース事業に取り組み、5病棟が参加した。看護実践をデータ化することで、さらなる看護の質向上に努めたい。

(看護局長 菱田 由紀子)

## 2. 看護局状況

### 1) クリニカルラダー認定者

レベルⅠ	296名
レベルⅡ	83名
レベルⅢ	4名

### 2) 認定看護師(17名)

感染管理(2) 救急看護(3) 皮膚・排泄ケア(1) がん化学療法看護(2)  
がん性疼痛看護(1) 緩和ケア(1) 集中治療ケア(1) 新生児集中ケア(1)  
摂食・嚥下障害看護(1) 脳卒中リハビリ看護(1) 認知症看護(1) 看護管理(2)

### 3) その他

医療安全管理者養成研修修了者(11名)  
専任看護教員養成講習会修了者(11名)  
愛知DMAT隊員養成研修修了者(3名)  
災害派遣医療チーム研修修了者(日本DMAT隊員)(6名)  
愛知県看護協会災害支援ナース登録者(11名)

## 事務局

### 1. 概要

本年度は、地域医療機関との紹介・逆紹介の促進や地域連携登録医制度を活用した病床・医療機器の共同利用など、地域医療連携の強化により、地域医療支援病院の承認を得るとともに、周産期医療体制を強化するため、総合周産期母子医療センターとバースセンターを開設したほか、ダヴィンチを活用した腹腔鏡手術を拡大するなど、高度専門医療を推進しました。また、医療スタッフの確保・定着を図るため、給与面での処遇改善とともに、医師事務作業補助者などの増員による医師の負担軽減に努め、診療体制の充実を図りました。

主な事業としては、がん診療連携拠点病院として、放射線治療体制の充実・強化のため、2016年度の開設に向けた放射線治療施設等の整備に係る基本設計・実施設計を進めるとともに、整備工事に着手しました。また、災害拠点病院としての機能を強化するため、高架水槽の耐震補強工事を開始したほか、入院時における療養環境向上のため、新たに簡易個室を設置しました。

(事務局長 杉浦 康夫)

## (1) 収益的収入及び支出

区分		平成26(2014)年度			平成25(2013)年度			平成24(2012)年度				
		金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)	金額(円)	医業 収益比 (%)	構成比 (%)		
収益的 収入	医業 収益	入院収益	15,684,645,427	65.3	59.2	15,391,150,508	65.8	61.8	14,504,018,843	64.8	60.6	
		外来収益	7,285,520,374	30.3	27.5	6,900,392,401	29.5	27.7	6,808,340,443	30.4	28.5	
		その他医業収益	1,051,475,208	4.4	4.0	1,091,894,432	4.7	4.4	1,070,508,304	4.8	4.5	
		小計	24,021,641,009	100.0	90.7	23,383,437,341	100.0	93.9	22,382,867,590	100.0	93.6	
	医業外 収益	受取利息	4,482,915	0.0	0.0	5,084,794	0.0	0.0	3,273,459	0.0	0.0	
		他会計負担金	1,189,897,907	4.9	4.5	1,230,044,468	5.3	4.9	1,244,796,699	5.6	5.2	
		国庫補助金	22,448,000	0.1	0.1	28,091,000	0.1	0.1	34,800,000	0.1	0.1	
		県補助金	40,830,000	0.2	0.2	41,480,000	0.2	0.2	40,162,000	0.2	0.2	
		長期前受金戻入	752,884,253	3.1	2.8	0	-	-	0	-	-	
		その他医業外収益	253,790,619	1.1	1.0	230,349,946	1.0	0.9	214,443,778	1.0	0.9	
		小計	2,264,333,694	9.4	8.6	1,535,050,208	6.6	6.1	1,537,475,936	6.9	6.4	
	特別 利益	長期前受金戻入	192,162,087	0.8	0.7	0	-	-	0	-	-	
		小計	192,162,087	0.8	0.7	0	-	-	0	-	-	
	計		26,478,136,790	110.2	100.0	24,918,487,549	106.6	100.0	23,920,343,526	106.9	100.0	
	収益的 支出	医業 費用	給与費	10,770,894,417	44.8	35.6	10,858,435,576	46.4	44.6	10,671,740,055	47.7	45.3
			材料費	6,996,697,339	29.1	23.1	6,879,832,846	29.4	28.3	6,138,459,703	27.4	26.1
			経費	3,517,946,020	14.7	11.6	3,768,428,320	16.1	15.5	3,584,470,086	16.0	15.2
			減価償却費	1,928,125,102	8.0	6.4	1,433,275,474	6.1	5.9	1,691,937,061	7.6	7.2
			資産減耗費	196,502,593	0.8	0.7	77,405,373	0.4	0.3	137,603,456	0.6	0.6
研究研修費			92,339,231	0.4	0.3	84,960,727	0.4	0.3	82,160,286	0.4	0.4	
小計			23,502,504,702	97.8	77.7	23,102,338,316	98.8	94.9	22,306,370,647	99.7	94.8	
医業外 費用		支払利息	593,405,695	2.5	2.0	636,620,789	2.7	2.6	678,039,149	3.0	2.9	
		繰延資産償却	191,189,139	0.8	0.6	248,839,867	1.1	1.0	248,839,881	1.1	1.0	
		保育費	44,825,623	0.2	0.2	45,667,360	0.2	0.2	45,033,819	0.2	0.2	
		長期前払消費税償却	46,761,262	0.2	0.2	0	-	-	0	-	-	
		貸倒引当金繰入額	8,529,666	0.0	0.0	0	-	-	0	-	-	
		雑損失	375,558,105	1.5	1.2	317,708,653	1.3	1.3	257,119,007	1.2	1.1	
小計		1,260,269,490	5.2	4.2	1,248,836,669	5.3	5.1	1,229,031,856	5.5	5.2		
特別 損失		引当金繰入額	5,466,525,650	22.8	18.1	0	-	-	0	-	-	
		小計	5,466,525,650	22.8	18.1	0	-	-	0	-	-	
計		30,229,299,842	125.8	100.0	24,351,174,985	104.1	100.0	23,535,402,503	105.2	100.0		
当年度純利益(△純損失)		△3,751,163,052	-	-	567,312,564	-	-	384,941,023	-	-		
その他未処理欠損金変動額		9,442,723,599	-	-	0	-	-	0	-	-		
当年度未処分利益剰余金 (△未処理欠損金)		△1,825,573,394	-	-	△7,517,133,941	-	-	△8,084,446,505	-	-		

## (2) 行為別入院収益・外来収益

区 分		平成 26 (2014) 年 度		
		金 額 (円)	前年度比(%)	構成比(%)
入 院 収 益	投 薬 収 入	125,923,060	102.4	0.8
	注 射 収 入	312,583,081	96.9	2.0
	処 置 及 び 手 術 収 入	4,239,406,668	98.9	27.0
	検 査 収 入	210,674,999	105.6	1.4
	放 射 線 収 入	46,607,407	91.1	0.3
	入 院 料	10,040,472,726	103.4	64.0
	給 食 収 入	378,036,828	97.9	2.4
	そ の 他	330,940,658	105.0	2.1
	計	15,684,645,427	101.9	100.0
外 来 収 益	初 診 料	175,721,686	96.6	2.4
	再 診 料	785,248,499	105.9	10.8
	投 薬 収 入	522,381,437	109.3	7.2
	注 射 収 入	2,420,681,888	108.6	33.2
	処 置 及 び 手 術 収 入	425,734,838	100.5	5.8
	検 査 収 入	1,695,064,304	106.2	23.3
	放 射 線 収 入	1,031,051,071	101.6	14.2
	そ の 他	229,636,651	97.5	3.1
	計	7,285,520,374	105.6	100.0

## (3) 資本の収入及び支出

(円)

区 分		平成26(2014)年度	増 減	平成25(2013)年度	増 減	平成24(2012)年度	増 減
資本 の 収 入	企 業 債	-	△90,000,000	90,000,000	△150,000,000	240,000,000	△495,000,000
	他 会 計 出 資 金	-	△88,028,375	88,028,375	△11,971,625	100,000,000	△96,872,519
	他 会 計 負 担 金	960,258,995	△26,481,755	986,740,750	41,055,801	945,684,949	△38,134,189
	投 資 回 収 金	4,030,134	4,006,134	24,000	△1,476,000	1,500,000	1,428,000
	国 補 助 金	-	-	-	-	-	△5,121,000
	県 補 助 金	4,132,000	△262,197,000	266,329,000	266,329,000	-	-
	損益勘定留保資金	1,595,616,906	△326,242,807	1,921,859,713	530,769,640	1,391,090,073	720,311,927
	消費税及び地方消費税 資本の収支調整額	2,603,558	△345,395	2,948,953	792,721	2,156,232	288,673
	計	2,566,641,593	△789,289,198	3,355,930,791	675,499,537	2,680,431,254	86,900,892
資本 の 支 出	施 設 改 良 費	101,040,000	△325,279,350	426,319,350	90,321,900	335,997,450	171,924,975
	資 産 購 入 費	911,076,402	△405,324,705	1,316,401,107	492,939,967	823,461,140	△2,449,923
	長 期 貸 付 金	21,978,000	8,007,000	13,971,000	534,000	13,437,000	7,141,000
	企 業 債 償 還 金	1,532,547,191	△66,692,143	1,599,239,334	91,703,670	1,507,535,664	△89,715,160
	計	2,566,641,593	△789,289,198	3,355,930,791	675,499,537	2,680,431,254	86,900,892

## (4) 貸借対照表 [平成27(2015)年3月31日]

## 資 産 の 部

(単位：円)

## 1 固定資産

## (1) 有形固定資産

イ	土地		6,458,187,733	
ロ	建物	16,759,868,504		
	減価償却累計額	<u>△ 6,778,726,460</u>	9,981,142,044	
ハ	附属設備	14,483,631,936		
	減価償却累計額	<u>△11,936,723,641</u>	2,546,908,295	
ニ	構築物	1,682,877,647		
	減価償却累計額	<u>△ 795,662,762</u>	887,214,885	
ホ	器械備品	8,982,890,953		
	減価償却累計額	<u>△ 5,751,131,110</u>	3,231,759,843	
ヘ	車両	25,864,540		
	減価償却累計額	<u>△ 21,342,391</u>	4,522,149	
ト	放射性同位元素	13,621,000		
	減価償却累計額	<u>△ 12,658,900</u>	962,100	
チ	リース資産	1,416,965,486		
	減価償却累計額	<u>△ 1,322,376,957</u>	94,588,529	
リ	建設仮勘定		<u>72,250,000</u>	
	有形固定資産合計			<u>23,277,535,578</u>

## (2) 無形固定資産

イ	電話加入権		7,041,831	
ロ	その他無形固定資産		<u>6,737,905</u>	
	無形固定資産合計			<u>13,779,736</u>

## (3) 投資その他の資産

イ	長期貸付金	41,426,000		
	貸倒引当金	<u>△ 19,610,000</u>	21,816,000	
ロ	出資金		500,000	
ハ	長期前払消費税		35,702,245	
ニ	破産更生債権等	92,522,753		
	貸倒引当金	<u>△ 92,522,753</u>	<u>0</u>	
	投資その他の資産合計			<u>58,018,245</u>

固定資産合計 23,349,333,559

2	流動資産			
(1)	現金預金		5,989,752,357	
(2)	未収金	4,183,286,924		
	貸倒引当金	<u>△ 15,348,634</u>	4,167,938,290	
(3)	貯蔵品		67,251,969	
(4)	前払金		<u>1,858,985</u>	
	流動資産合計			10,226,801,601
3	繰延資産			
(1)	開発費		<u>18,784,307</u>	
	繰延資産合計			<u>18,784,307</u>
	資産合計			<u>33,594,919,467</u>

## 負債の部

4	固定負債			
(1)	企業債			
イ	建設改良費等の財源に 充てるための企業債	<u>14,771,066,562</u>		
	企業債合計		14,771,066,562	
(2)	リース債務		47,235,232	
(3)	引当金			
イ	退職給付引当金	<u>4,563,148,337</u>		
	引当金合計		<u>4,563,148,337</u>	
	固定負債合計			19,381,450,131
5	流動負債			
(1)	企業債			
イ	建設改良費等の財源に 充てるための企業債	<u>1,430,781,707</u>		
	企業債合計		1,430,781,707	
(2)	リース債務		47,385,297	
(3)	引当金			
イ	賞与引当金	478,774,009		
ロ	法定福利費引当金	<u>85,671,618</u>		
	引当金合計		564,445,627	
(4)	未払金		1,911,384,664	
(5)	未払消費税及び 地方消費税		21,989,200	
(6)	預り金		<u>104,362,966</u>	
	流動負債合計			4,080,317,461

6 繰延収益

(1) 長期前受金

イ 受贈財産評価額	61,675,077		
収益化累計額	<u>△ 50,652,586</u>	11,022,491	
ロ 補助金	1,236,462,001		
収益化累計額	<u>△ 702,321,711</u>	534,140,290	
ハ 負担金	12,151,776,540		
収益化累計額	<u>△10,897,224,735</u>	1,254,551,805	
ニ 寄附金	3,000,000		
収益化累計額	<u>△ 2,850,000</u>	150,000	
長期前受金合計			<u>1,799,864,586</u>
繰延収益合計			<u>1,799,864,586</u>
負債合計			<u>25,261,632,178</u>

資 本 の 部

7 資本金			6,973,942,341
8 剰余金			
(1) 資本剰余金			
イ 受贈財産評価額	245,164,805		
ロ 補助金	15,022,558		
ハ 負担金	<u>2,924,730,979</u>		
資本剰余金合計		3,184,918,342	
(2) 欠損金			
イ 当年度未処理欠損金	<u>1,825,573,394</u>		
欠損金合計		<u>1,825,573,394</u>	
剰余金合計			<u>1,359,344,948</u>
資本合計			<u>8,333,287,289</u>
負債資本合計			<u>33,594,919,467</u>



## (5) 主な経営財務分析

区 分	算 式	平成26(2014)年度	平成25(2013)年度	平成24(2012)年度
1. 平均在院日数 (施設基準上の算定) (日)	$\frac{\text{在院患者数}}{1/2(\text{新入院患者数} + \text{退院患者数})}$	13.3	13.0	13.5
2. 病床利用率 (一般病床) (%)	$\frac{\text{入院患者数}}{\text{許可病床数}} \times 100$	88.0	89.1	88.1
3. 入院患者1人1日当たり 収入額 (円)	$\frac{\text{入院収益額}}{\text{入院患者延数}}$	60,677	57,974	55,120
4. 外来患者1人1日当たり 収入額 (円)	$\frac{\text{外来収益額}}{\text{外来患者延数}}$	15,042	14,2452	13,713
5. 剖 検 率 (%)	$\frac{\text{解剖数}}{\text{院内死亡患者数}} \times 100$	2.9	3.5	4.4
6. 100床当たり職員数 (人)	$\frac{\text{職員数(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	131.7	128.6	126.0
7. 100床当たり医師数 (人)	$\frac{\text{医師数(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	22.0	20.1	19.5
8. 100床当たり看護師数 (人)	$\frac{\text{看護師(年度末)}}{\text{許可病床数(年度末)}} \times 100$	82.7	82.8	81.5
9. 100床当たり器械備品額 (年度末) (千円)	$\frac{\text{器械備品額(減価償却累計額控除額)}}{\text{許可病床数}} \times 100$	394,117	453,972	388,509
10. 人 件 費 率 (%)	$\frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	44.8	46.4	47.7
11. 流 動 比 率 (%)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	250.6	386.4	381.1
12. 総 資 本 利 益 率 (%)	$\frac{\text{当年度純利益}}{1/2(\text{期首総資産} + \text{期末総資産})} \times 100$	△ 10.8	1.6	1.1

## ドクタークラーク

### 1. 入院証明書作成補助業務（担当者 7名）

入院証明書の作成補助業務については、委託業者からドクタークラークへ移行（6月以降）を行ったため作成数が増加した。2015年3月末時点で産婦人科（保険診療）以外の書類は全て作成している。

(件)

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院証明書	18	12	75	153	186	192	188	139	305	471	501	712	2,952

### 2. その他書類作成補助業務（担当者 5名）

(件)

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
特定疾患診断書(更新) 特定疾患診断書(新規)	14	25	23	19	17	44	1,023	206	70	25	21	15	1,502
介護保険主治医意見書	138	143	135	137	137	163	156	138	140	163	146	150	1,746
自賠責保険診断書	200	168	182	171	125	175	189	107	135	166	112	173	1,903
傷病手当金請求書	135	101	107	102	103	119	135	101	106	126	83	114	1,332
労災休業給付申請書	32	25	25	32	37	36	44	27	32	41	34	28	393
生活保護医療要否意見書	84	74	57	85	71	75	69	60	101	74	79	85	914
B型C型肝炎患者医療 給付事業受給者票認定 に係わる診断書	9	9	11	5	4	11	6	39	28	39	24	15	200
肝疾患インターフェロン 治療効果判定報告書	0	0	0	6	0	0	6	0	4	0	0	4	20
出産一時金支給申請書	2	4	1	4	0	0	3	2	0	1	0	3	20
出産手当金支給申請書	6	3	8	0	3	5	2	4	1	3	1	8	44
訪問看護指示書	24	23	21	26	31	29	23	24	19	26	28	29	303
障害認定医師意見書	2	2	11	8	4	2	4	1	5	3	4	11	57
自立支援	-	-	-	1	4	2	6	5	3	9	4	9	43
合計	646	577	581	596	536	661	1,666	714	644	676	536	644	8,477

### 3. 他院紹介・学会用CD作成業務（担当者 2名）

(件)

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転院・紹介用	219	256	264	258	211	216	290	224	215	186	208	213	2,760
学会・研究用	15	11	15	13	3	13	30	15	15	17	9	8	164
合計	234	267	279	271	214	229	320	239	230	203	217	221	2,924

#### 4. 薬品別市販後調査票作成業務（担当者 3名）

(件)

業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
調査票記入数	20	10	7	11	18	22	11	22	10	17	20	24	192
総提出数	10	11	17	12	18	21	13	10	18	11	29	11	181

#### 5. 症例登録・抽出業務（担当者 5名 ※3・4担当者兼務）

12月より病棟派遣業務を開始し、症例登録業務が増加している。

(件)

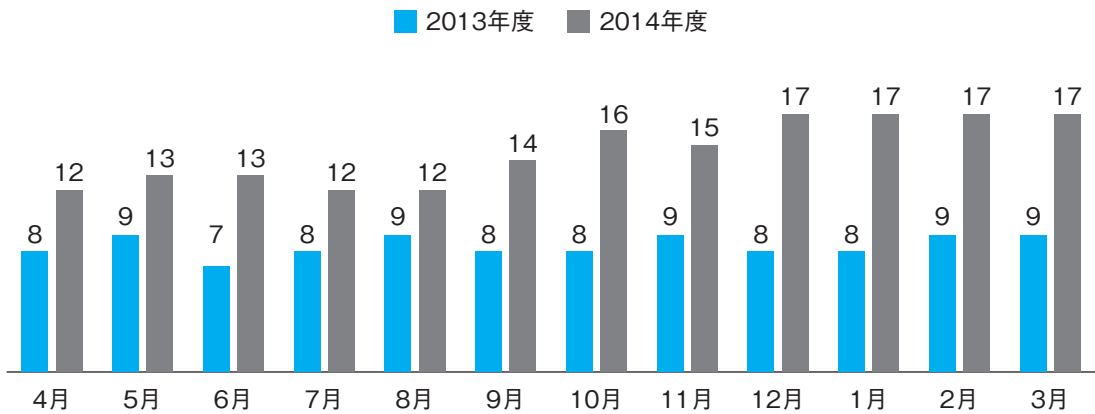
業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
DWHを使用したデータ抽出・作成	8	10	13	9	6	14	8	6	5	18	6	11	114
血液学会疾患登録（血液・腫瘍内科）	0	0	0	0	0	0	0	0	52	26	26	0	104
血液学会疾患登録（小児科）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4	3	10
NCD症例登録（一般外科）	128	106	157	131	127	157	121	119	131	173	137	161	1,648
NCD症例登録（心臓外科・血管外科）	0	0	13	5	0	11	0	10	11	0	2	18	70
NCD症例登録（脳神経外科）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30	21	30	81
NCD症例登録（循環器内科）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	49	16	65
NCD症例登録（移植外科）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	87	4	95
産科データ登録	-	-	-	-	-	-	-	33	90	67	166	89	445
合計	136	116	183	145	133	182	129	168	289	321	498	332	2,632

#### 6. 各診療科の患者データベース作成業務（担当者 5名 ※3・4担当者兼務）

歯科口腔外科、リウマチ科、肛門外科、脊椎外科、呼吸器外科・心臓外科・血管外科、呼吸器内科、小児科（新生児）、消化器内科、泌尿器科、産婦人科、整形外科 計12診療科

## 7. ドクタークラーク従事者数

2013年度に比べ、従事者数が増加し新しい業務を行えるようになった。



## 8. 院外研修実績

第11回 医師事務作業補助者コース（日本病院会）に2名受講し、2015年度には「ドクタークラーク」の称号を目指し、医師事務作業補助技能認定試験を受験する予定である。



## VI 研究・業績



## VI 研究・業績

### 【国際学会】

(1) 一般外科 第二部長 平松 和洋

PPL26-078

SINGLE SMALL LIVER SIMPLE CYST INCREASED IN A SHORT PERIOD AND MIMICKED A COMPLEX TYPE – A CASE REPORT –

Kazuhiro Hiramatsu, Taro Aoba, Seiji Natsume and Takehito Kato

*Toyohashi Municipal Hospital, Japan*

Introduction: Liver simple cyst is benign disease, particularly single small cyst is thought it never grow up in decade. But very rarely it become large (>4 cm), which sometimes present several symptoms and problems in distinguishing from pathological cystic diseases of liver. We experienced a single small cyst had become large one in only 5 years without any symptoms, which mimicked a complex type.

Method: Case report.

Results: A 64-year-old female was diagnosed as having cholecystolithiasis and single liver simple cyst of 2 cm in diameter in lateral sector by CT in 2005. She had no other congenital cystic diseases. Until 2007, CT revealed no change of cyst in size and shape. In 2012, in order to observe asymptomatic cholecystolithiasis, CT and MRCP were done. This CT demonstrated the cyst apparently increased to more than 6 cm in diameter. MRCP revealed heterogeneous content and septum formation of cyst and small mural nodules inside. Ultrasound couldn't show neither mural nodule nor septum formation. Although these discrepancies among imaging diagnoses were existed, we performed surgical resection because this simple cyst apparently increased during only 5 years and had possibility of neoplastic potential



Annual European Congress of Rheumatology (EULAR2014) in Paris

EFFICACY OF DAILY TERIPARATIDE FOR TWO YEARS ON OSTEOPOROSIS IN PATIENTS WITH RHEUMATOID ARTHRITIS ~IS IT APPROPRIATE TO COMBINE DAILY TERIPARATIDE AND BIOLOGICAL AGENTS?~

Yuji Hirano<sup>1</sup>, \*Yukiyoshi Oishi<sup>1</sup> Genta Takemoto<sup>1</sup> Takashi Okada<sup>1</sup> Toshihisa Kojima<sup>2</sup>

Naoki Ishiguro<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Rheumatology, Toyohashi Municipal Hospital, Toyohashi, <sup>2</sup>Orthopaedic Surgery, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan

Background: Although medication of rheumatoid arthritis (RA) has been improved by early intensive treatment using MTX and biological agents (BIO) for decades, treatment of concomitant disease in RA patients, such as osteoporosis (OP), will be more important to improve activity of daily living of RA patients. OP of RA patients is composed from multifactorial pathogenesis, such as excess of inflammatory cytokines, excess of rest due to joint pain and drugs used for treatment of RA. Although we reported one-year outcome of daily teriparatide (TPTD) on OP in RA patients in EULAR 2013 1), the additional results for 2 years are reported in this study.

Objectives: This prospective study investigated (1) the efficacy of TPTD for 2 years on OP in RA patients, (2) the predictors of efficacy at 2 year in TPTD treatment and (3) the outcome of combination of TPTD and BIO.

Methods: 24 months (m) passed after initiation of TPTD in 33 RA patients. 28 cases (27 females and a male) among them completed 2-year TPTD treatment and were used for analysis. Bone mineral density (BMD) of lumbar spine (LS) and proximal femur (PF) by DEXA and bone turnover markers (BTMs), that is BAP, P1NP, NTX and TRACP-5b, were measured at every 6m.

Results: Mean age was 72 years old. Mean RA duration was 20.2 years. 23 cases (69.7%) were concomitant with oral PSL. 14 cases (42.4%) were concomitant with BIO. 27 cases (81.8%) have the past history of fracture. %increase of LS-BMD was 6.9% at 6m, 11.2% at 12m, 11.8% at 18m and 12.5% at 24m. %increase of PF-BMD was 2.1% at 6m, 4.0% at 12m, 4.9% at 18m and 5.8% at 24m. BTMs were significantly increases and %increase of P1NP at 6m was maximum among them (384.0%). Next, all cases were divided into two group, good outcome group (GO group) and non-good outcome group (non-GO group), by mean LS-BMD and PF-BMD. %increase of LS-BMD at 6m in LS-GO group (n=14) was significantly larger than that in LS-non-GO group (n=12) (10.4% vs. 4.0%). %increase of PF-BMD at 6m in PF-GO group (n=14) was also significantly larger than that in LS-non-GO group (n=11) (4.7% vs. -1.1%). Baseline CRP in PF-non-GO group was also larger than that in PF-GO group (0.51mg/dl vs. 0.25mg/dl). There were no significant differences in changes of BTMs between groups. At last, all cases were divided into two groups, that is the BIO-concomitant (n=11) and the non-BIO-concomitant (n=17). LS-BMD in the non-BIO-concomitant was better than that in the BIO-concomitant and there was a significant difference between groups at 18m (7.8% vs. 14.0%). Similar findings were seen in analysis of PF-BMD and there was a significant difference between groups at 24m (3.6% vs. 7.4%). %increase of BTMs in the BIO-concomitant was high compared with that in the

non-BIO-concomitant.

Conclusions: TPTD was effective in OP of RA patients. Early response in BMD was one of the predictors of outcomes at 24m. BTMs were not the predictors of efficacy of TPTD. The results in the BIO-concomitant showed different trend from that in whole cases and these paradoxical results suggested that medicinal action of TPTD might be interfere with that of BIO.

References: 1) Y. Hirano et al. EFFICACY OF TERIPARATIDE ON OSTEOPOROSIS IN PATIENTS WITH RHEUMATOID ARTHRITIS.

Ann Rheum Dis 2013;72(Suppl3):304

Annual European Congress of Rheumatology (EULAR2014) in Paris

CLINICAL EFFICACY OF ABATACEPT IN RHEUMATOID ARTHRITIS PATIENTS WITH PRIOR USE OF TOCILIZUMAB; RESULTS FROM JAPANESE MULTICENTER REGISTRY SYSTEM TBCR

S. Hirabara, T. Kojima, N. Takahashi, M. Hanabayashi, K. Terabe, Y. Yoshioka, N. Ishiguro, TBC Group. Orthopedic Surgery, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan

Background: Abatacept (ABT) is the first member of a new class of biologic agents for rheumatoid arthritis (RA) treatment to inhibit T-cell activation by binding to CD80/86 and modulating its interaction with CD28. The ATTAIn and ARRIVE studies previously demonstrated the efficacy of ABT in the patients with an inadequate response to anti-TNF agents. However, there has been no report describing the ABT efficacy in the patients with prior use of TCZ.

Objectives: The aim of this study was to examine the clinical efficacy of ABT therapy in the patients with prior use of TCZ, as well as TNF inhibitors.

Methods: 151 RA patients treated with ABT for longer than 52 weeks were included, from the 282 patients with ABT therapy in the Tsurumi Biologic Communication Registry (TBCR), which is the retrospective multicenter registry for RA patients taking biologics. They were divided into three groups: Switching from TCZ (TCZ switch, n = 16), Switching from TNF inhibitors (TNFi switch, n = 65), and Bio-naïve (n = 70). The changes of clinical parameters were studied at 0, 4, 12, 24, and 52 weeks. We also studied proportions of patients achieving EULAR response criteria and retention rates of ABT treatment at 52 weeks.

Results: As shown in figure 1, patient retention rate of ABT therapy in the TCZ switch group and the TNFi switch group showed no statistically difference to the Bio-naïve group (68.8 vs 73.8% vs 84.3%). Interestingly, three patients in the TCZ switch group (18.8%) withdrew from ABT therapy within 12 weeks due to insufficient efficacy. As shown in figure 2, both TJC and SJC showed significant decreasing already at 4 weeks in the TCZ switch group similarly to other two groups. However, ESR was significantly flared up at 4 weeks and gradually decreased to the baseline value at 52 weeks. Moreover, the patient global assessment (VAS-GH) did not show significant improvement until week 24.

Conclusions: The patient retention rate in the TCZ switch group appeared to be relatively low probably due to the flare up of inflammation markers and patient dissatisfaction. However, objective indices of joint inflammation (SJC and TJC) were quickly improved at 4 weeks and importantly there was only one case of discontinuation after 24 weeks in the TCZ switch group. Although ABT therapy would be essentially appropriate treatment option, it sometimes takes a time to demonstrate sufficient efficacy of ABT when switching from TCZ. It is quite natural that ESR and CRP flares up after the discontinuation of TCZ because TCZ always masks them by inhibiting IL-6 pathway. Thus, we should make decision carefully about clinical efficacy of ABT especially in the patients with prior use of TCZ.

References: Genovese MC, et al. *Annals of the rheumatic diseases* 2008;67:547-54.  
Schiff M, et al. *Annals of the rheumatic diseases* 2009;68:1708-14.

Citation: *Ann Rheum Dis* 2013;72(Suppl3):627

(4) リウマチ科 部長 平野 裕司

ACR/ARHP ANNUAL MEETING 2014 (ACR2014) in Boston

Influences of Disease Activity at the Initiation of Iguratimod, a Small Molecule Antirheumatic Drug, on Efficacy of Iguratimod in Patients with Rheumatoid Arthritis – a Multicenter Registry Study –.

Yuji Hirano, Toshihisa Kojima, Yasuhide Kanayama, Shinya Hirabara, Nobunori Takahashi, Atsushi Kaneko and Naoki Ishiguro.

Toyohashi Municipal Hospital, Toyohashi, Japan, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan, Toyota Kosei Hospital, Toyota, Japan, Nagoya Medical Center, Nagoya, Japan.

Background/Purpose : Iguratimod(IGU), known as T-614, is a smallmolecule antirheumatic drug developed in Japan and used in Japanese clinical practice since June 2012. IGU is known to inhibit nuclear factor-kappa B activation in cultured human synovial cells. Although biological agents(BIO) have good efficacy to treat rheumatoid arthritis(RA), they costs very much. IGU is not comparatively expensive and used as monotherapy or combination therapy with methotrexate(MTX). Data in clinical practice is lacking and necessary for the best use of IGU. This retrospective study investigated efficacy of IGU in RA patients with focus on disease activity at initiation of IGU using data from the Japanese multicenter registry.

Methods: 78cases(62 female and 16 male)with RA from 9 institutes in Japan were included. These patients were divided into two groups(high disease activity group;HG and moderate and low disease activity group;MLG)using DAS28-CRP at initiation of IGU. 42cases were included in HG and 36 cases were included in MLG. Patients' characteristics, time course of disease activity, drug retention rate at 24 weeks and change value in disease activity parameters from 0w to 24w were compared with each other.

Results:and Conclusions: Mean age was 68.3 years old in HG and 65.7 years old in MLG. Mean RA duration was 14 months in HG and 94 months in MLG. Although MTX use rate was low in HG compared with in MLG(52.4% vs 63.9%), there was no significant difference between groups. The mean dose of MTX used was 4.7 mg/w in HG and 5.2 mg/w in MLG. The mean DAS28-CRP at 0, 4, 8, 12 and 24w was 4.99, 4.49, 4.29, 3.70 and 3.58 in HG and 3.24, 3.16, 2.76, 2.62 and 2.56 in MLG. DAS28-CRP was significantly decreased after 4w in HG and after 8w in MLG. Similar findings were observed in SDAI. Drug retention rates at 24w were 81.0% in HG and 86.1% in MLG(not significant), Delta DAS28-CRP from 0w to 24w was 1.4 in HG and 0.7 in MLG(p=0.04), Delta SDAI were 11.5 in HG and 4.3 in MLG(p=0.02). There were significant difference in delta tender joints counts, delta ESR between two groups and better improvement was seen in HG than MLG. More treatment options other than sufficient MTX and BIO are needed in RA patients with concomitant disease such as lung disease or renal dysfunction. High cost of BIO is another issue to inhibit improvement of signs and symptoms in RA patients. This study suggests that IGU is one of the options not only in RA patients with high disease activity treated with insufficient MTX.

(5) リウマチ科 副部長 平原 慎也

ACR/ARHP ANNUAL MEETING 2014 (ACR2014) in Boston

The Safety and Treatment Efficacy of Abatacept in Rheumatoid Arthritis Patients with Pulmonary Complications: From the Tsurumai Biologics Communication Registry (TBCR) Multicenter Study.

Shinya Hirabara<sup>1</sup>, Toshihisa Kojima<sup>2</sup>, Nobunori Takahashi<sup>2</sup>, Yuji Hirano<sup>1</sup>, Atsushi Kaneko<sup>3</sup>, Daihei Kida<sup>4</sup>, Yasuhide Kanayama<sup>5</sup> and Naoki Ishiguro<sup>2</sup>.

<sup>1</sup>Toyohashi Municipal Hospital, Toyohashi, Japan, <sup>2</sup>Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan, <sup>3</sup>Nagoya Medical Center, Nagoya, Japan, <sup>4</sup>Nagoya Medical Center, National Hospital Organization, Nagoya, Japan, <sup>5</sup>Toyota Kosei Hospital, Toyota, Japan.

Background/Purpose: Roughly 10-30% of rheumatoid arthritis (RA) patients reportedly develop pulmonary complications. These patients are at increased risk of MTX or biologics-induced damage, which often becomes problematic for RA treatment. Abatacept (ABT) has been reported to have relatively few adverse events, and is often used in clinical settings in patients with pulmonary complications. Given the paucity of studies on the safety of ABT, however, accumulation of safety data under actual clinical settings is warranted. In the present study, we examined the persistence rates and treatment effects of ABT in patients with pulmonary complications.

Methods: We divided 250 RA patients registered in the Tsurumai Biologics Communication Registry who used ABT for  $\geq 52$  weeks according to whether they had pulmonary complications (L group: N=32) or not (N group: n=218). We then compared the persistence rates, incidence of adverse events, and disease activity between the groups.

Results: No significant differences were found between groups with regard to mean age (L group,  $67.7 \pm 6.9$ ; N group,  $64.0 \pm 12.8$ ), disease duration (L group,  $12.6 \pm 9.8$ ; N group,  $11.8 \pm 8.8$ ), concomitant use rates of steroid (L group, 62.5%; N group, 60.5%), CRP (L group,  $2.6 \pm 2.9$ ; N group,  $2.1 \pm 2.8$ ), DAS28-CRP (L group,  $4.7 \pm 1.5$ ; N group,  $4.4 \pm 1.3$ ), or SDAI (L group,  $28.8 \pm 16.5$ ; N group,  $24.5 \pm 14.0$ ) at the time ABT was initiated, but significant differences were found in the percentage of women (L group, 65.6%; N group, 83.5%) and concomitant use rates of MTX (L group, 25%; N group, 53.2%). The persistence rates for 52 weeks were 73.1% and 74.3% in the L and N groups, respectively (Figure 1a). Adverse events occurred in 1 (3.13%) and 7 (3.83%) patients in the L and N groups, respectively. No pulmonary complications occurred after ABT administration in the L group, but 2 patients in the N group had interstitial pneumonia. Treatment was discontinued due to insufficient response in 6 (18.8%) and 29 (15.9%) patients in the L and N groups, respectively. None of these were significantly different by group. Mean DAS28-CRP significantly improved in both groups (Figure 1b), from 4.7 at ABT initiation to 3.2 at 52 weeks in the L group ( $P < 0.01$ ), and from 4.4 to 3.1 in the N group ( $P = 0.034$ ). Achievement of those with low disease activity also increased, from 9.4% at ABT initiation to 53.3% at 52 weeks in the L group, and from 8.3% to 47.7% in the N group.

Conclusion: The safety, treatment effects, and persistence rates of ABT were similar among RA patients with and without pulmonary complications. Use of ABT is beneficial even in patients with pulmonary complications, under close consideration of risks involved.

(6) 産婦人科 (生殖医療) 医員 北見 和久

ESHRE2014(European Society of Human Reproduction and Embryology)

ドイツ、ミュンヘン、2014年6月29日～7月2日

Abstract details Submitter:

Dr. Kazuhisa Kitami

Toyohashi Municipal Hospital 50, Hakken-Nishi, Aotake-cho 441-8570 Toyohashi Japan

Authors:

K. Kitami<sup>1</sup>, H. Ando<sup>1</sup>, T. Takayanagi<sup>1</sup>, H. Minamoto<sup>1</sup>, N. Suzuki<sup>1</sup>.

<sup>1</sup>Toyohashi Municipal Hospital, Center for Reproductive Medicine and Surgery, Toyohashi, Japan.

Title:

Presentation of the time-lapse video of the transferred embryo and changes of psychological status during the implantation period

Abstract Text:Study question

The aim of this study was to assess psychological changes of the women with time-lapse (TL) based single embryo transfer (SET) from the time of video presentation of the transferred embryo by an embryologist to the time just after knowing the results of pregnancy test (PT).

Summary answer

Showing the TL video helped patients to understand the embryo quality and thus allowed relief in the period between embryo transfer (ET) and PT. However, the result of negative PT significantly brought the women regret for having watched the video and grief as if she had experienced miscarriage.

What is known already

The days between ET and PT are considered to be one of the most stressful periods for the female assisted reproductive technology (ART) patients. However, to our knowledge, there is no literature on the psychological changes during the implantation period for ART patients including those with repeated implantation failure. Our preliminary questionnaire revealed that most of the women were favourable for the TL video of the transferred embryo.

Study design, size, duration

The questionnaires were administered after urine sample was taken for PT. Two hundred and seventy-six fresh or frozen/thaw SET cycles were included. Patients filled out the first part of the questionnaire before the PT results were informed. The latter part was filled out after the results were informed.

Participants/materials, setting, methods

All the women with ET during this study period were included because TL videos were provided

and SET was done for all the women. The embryologists in charge presented the TL videos. Patient self-evaluation of satisfaction was based on a scale of one to five at ET, pre-PT and post-PT.

#### Main results and the role of chance

Satisfaction (as Rank-4 and -5) was attained by 246 patients (89%) at ET and was maintained during the implantation period. In the patients with negative (compared with positive) PT, the satisfaction rank just after they knew the results (at post-PT) was decreased from the time of ET ( $P = 0.0007$ ; Wilcoxon signed-rank test). More women with negative PT answered that they did not want to watch the video again if there was a next chance ( $P = 0.0006$ ; Mann-Whitney U test). Parous women tend to be satisfied with the video at pre-PT ( $P = 0.014$ ) and post-PT ( $P = 0.003$ ). Prior history of miscarriage was not associated with degree of satisfaction at pre-PT ( $P = 0.429$ ) and post-PT ( $P = 0.501$ ).

#### Limitations, reason for caution

Lack of a control group is a limitation of the current study because we inform all the patients in advance that the TL videos were taken for each embryo of all the patients.

#### Wider implications of the findings

TL video presentation provided the women affection for the transferred embryo from its developing images as if it were a fetus already. However, such affection might suddenly change to deep sadness if PT was negative. Our data suggest that parous women might have ability to regard the transferred embryo as her fetus. TL video presentation also should be promising for the patients with repeated failure of implantation.

#### Study funding/competing interest(s)

Funding by hospital/clinic(s)

Toyohashi Municipal Hospital. The authors have no competing interest to declare.

#### Trial registration number

Not applicable.



## 学会発表（医局）

### <呼吸器内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	当院で経験した気道異物小児4例、成人7例の検討	筆頭演者	菅沼 伸一	第37回日本呼吸器内視鏡学会学術集会	2014/4/15
2	当院における高齢者肺癌の治療成績についての検討	筆頭演者	安井 裕智	第55回肺癌学会学術集会	2014/11/15

### <消化器内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	脾動脈瘤破裂が原因となった hemosuccus pancreatitisの1例	筆頭演者	高崎 哲郎	第36回東三医学会	2014/3/1
2	当院における高齢者総胆管結石の臨床的特徴と内視鏡的截石術の適応の検討	筆頭演者	鈴木 博貴	第100回日本消化器病学会総会	2014/4/23
3	難治性潰瘍性大腸炎に対するタクロリムス単独療法とタクロリムス・血球成分除去併用療法の比較検討	筆頭演者	芳川 昌功	第100回日本消化器病学会総会	2014/4/24
4	閉塞性黄疸，急性膵炎で発症した悪性リンパ腫の2例	筆頭演者	藤田 基和	第100回日本消化器病学会総会	2014/4/25
5	当院における十二指腸 gangliocytic paragangliomaの検討	筆頭演者	松原 浩	第100回日本消化器病学会総会	2014/4/25
6	当科における自己免疫性膵炎の病理組織学的診断に対する検討	筆頭演者	田中 卓	第100回日本消化器病学会総会	2014/4/26
7	EUS-FNAの正診率向上を目指して 造影EUS-FNAの有効性	筆頭演者	竹山 友章	第100回日本消化器病学会総会	2014/4/26
8	膵IPMNの嚢胞内充実成分に対する造影超音波内視鏡検査の有用性	筆頭演者	廣瀬 崇	第100回日本消化器病学会総会	2014/4/26
9	胆管壁肥厚の良悪性疾患診断における造影超音波内視鏡検査の有用性	筆頭演者	松原 浩	日本超音波医学会第87回学術集会	2014/5/9
10	ワークショップ8 胆膵内視鏡における質の高い技術習得を目指した指導法の工夫 当科における胆膵超音波内視鏡下穿刺生検の指導法の工夫と成績	筆頭演者	松原 浩	第87回日本消化器内視鏡学会総会	2014/5/16
11	虚血性大腸炎における内視鏡所見と臨床像の関係	筆頭演者	芳川 昌功	第87回日本消化器内視鏡学会総会	2014/5/16
12	分枝型IPMNの嚢胞に伴う造影される充実部分に対する造影超音波内視鏡検査の有用性	筆頭演者	廣瀬 崇	第87回日本消化器内視鏡学会総会	2014/5/16
13	当院における85歳以上の高齢者の総胆管結石に対する内視鏡的治療戦略の検討	筆頭演者	鈴木 博貴	第87回日本消化器内視鏡学会総会	2014/5/16
14	内視鏡的経乳頭の胆嚢ドレナージ(ETBGD)の適応に対する検討	筆頭演者	竹山 友章	第87回日本消化器内視鏡学会総会	2014/5/16
15	当院における健診の腹部超音波検査で発見された膵癌の2例	筆頭演者	松原 浩	第53回日本消化器がん検診学会総会	2014/6/6
16	シンポジウム1 肝胆膵疾患における診断・治療のup to date 内視鏡的経乳頭の胆嚢ドレナージ(ETBGD)の適応に対する検討	筆頭演者	芳川 昌功	日本消化器病学会東海支部第120回例会	2014/6/14

17	シンポジウム2 消化管疾患における診断・治療のup to date 当院における原因不明の消化管出血に対するカプセル内視鏡検査の現状	筆頭演者	鈴木 博貴	日本消化器病学会東海支部第120回例会	2014/6/14
18	十二指腸病変を合併した潰瘍性大腸炎の1例	筆頭演者	飛田恵美子	日本消化器病学会東海支部第120回例会	2014/6/14
19	急速に増悪した胃未分化癌と考えられる一例	筆頭演者	片岡 邦夫	日本消化器病学会東海支部第120回例会	2014/6/14
20	胆のう炎にて発症した十二指腸乳頭部神経内分泌腫瘍の1例	筆頭演者	廣瀬 崇	日本消化器病学会東海支部第120回例会	2014/6/14
21	オレイン酸モノエタノールアミン注入し治療した巨大肝嚢胞の一例	筆頭演者	木下 雄貴	日本消化器病学会東海支部第120回例会	2014/6/14
22	ワークショップ1 「早期慢性膵炎の現状」 当院におけるEUSによる早期慢性膵炎の診断と臨床的検討	筆頭演者	藤田 基和	第45回日本膵臓学会大会	2014/7/11
23	再燃の初期像を呈したと考えられた自己免疫性膵炎の一例	筆頭演者	鈴木 博貴	第45回日本膵臓学会大会	2014/7/12
24	膵脂肪腫の2例	筆頭演者	松原 浩	第45回日本膵臓学会大会	2014/7/12
25	シンポジウム 消化器内視鏡診断の工夫とコツ 当院における早期慢性膵炎診断の現状	筆頭演者	藤田 基和	第57回日本消化器内視鏡学会東海支部例会	2014/9/9
26	ミニワークショップ3 乳頭部腫瘍の診断と治療 当科におけるEndoscopic papillectomyの治療成績	筆頭演者	松原 浩	第50回日本胆道学会学術集会	2014/9/27
27	超音波内視鏡下胆道ドレナージ(EUS-BD)におけるtrouble shootingとして留置スネアとAPC焼灼術が有用であった一例	筆頭演者	芳川 昌功	第50回日本胆道学会学術集会	2014/9/27
28	当院での高齢発症潰瘍性大腸炎に関する検討	筆頭演者	廣瀬 崇	第56回日本消化器病学会大会(JDDW2014)	2014/10/23
29	潰瘍性大腸炎847例を対象とした白血球除去療法の大規模使用成績調査	共同演者	山田 雅弘	第56回日本消化器病学会大会(JDDW2014)	2014/10/23
30	難治性潰瘍性大腸炎に対するIFXとTACの治療成績	筆頭演者	山田 雅弘	第56回日本消化器病学会大会(JDDW2014)	2014/10/23
31	C型慢性肝炎に対するsimeprevir併用療法の経験	筆頭演者	芳川 昌功	第56回日本消化器病学会大会(JDDW2014)	2014/10/24
32	胆嚢病変の二次検診に対する造影腹部超音波検査の有用性	筆頭演者	松原 浩	第56回日本消化器病学会大会(JDDW2014)	2014/10/24
33	当院における抗血栓薬内服高齢者に対する内視鏡的止血術の臨床的検討	筆頭演者	鈴木 博貴	第88回日本消化器内視鏡学会総会(JDDW2014)	2014/10/25
34	中部ベトナム フェのアジア内視鏡センターにおける寄生虫疾患の検討	筆頭演者	山本 健太	第55回日本熱帯医学会大会・第29回日本国際保健医療学会学術大会合同大会	2014/11/2
35	名古屋大学・フェ医科薬科大学によるアジア内視鏡センターの現状と今後の課題	筆頭演者	山本 健太	第55回日本熱帯医学会大会・第29回日本国際保健医療学会学術大会合同大会	2014/11/3
36	シンポジウム1 「上部消化管の新しい低侵襲治療の展開」 当院における十二指腸ステントの治療成績	筆頭演者	芳川 昌功	日本消化器病学会東海支部第121回例会	2014/12/6

37	シンポジウム2 「炎症性腸疾患診療のあらたな展開」 潰瘍性大腸炎に対するインフリキシマブ早期寛解導入例の検討	筆頭演者	木下 雄貴	日本消化器病学会東海支部第121回例会	2014/12/6
38	傍食道静脈瘤破裂より血胸に至り経皮的経肝門脈塞栓術にて救命しえた一例	筆頭演者	飛田恵美子	日本消化器病学会東海支部第121回例会	2014/12/6
39	経過中に横断性脊髄炎を発症したクローン病の一例	筆頭演者	山本 和弘	日本消化器病学会東海支部第121回例会	2014/12/6
40	当院における85歳以上の超高齢者に対するESDの検討	筆頭演者	鈴木 博貴	日本消化器病学会東海支部第121回例会	2014/12/6
41	非多血性腓神経内分泌腫瘍の一例	筆頭演者	片岡 邦夫	日本消化器病学会東海支部第121回例会	2014/12/6

### <循環器内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	心不全を契機に診断に至った原発性アルドステロン症の3症例	筆頭演者	澤崎 貴子	第143回日本循環器学会東海地方会	2014/7/5
2	原発性マクログロブリン血症を合併し、解離性腹部大動脈瘤破裂により死亡した一例	筆頭演者	渡邊 麻希	第224回日本内科学会東海地方会	2014/11/2

### <腎臓内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	関節リウマチの治療経過中に乾酪性肉芽腫を伴う全身性リンパ腫腫脹を認め、その後の再生検によりHodgkinリンパ腫の診断に至った一例	筆頭演者	尾関 貴哉	第58回日本リウマチ学会総会・学術集会	2014/4/26
2	痙攣発作を契機に発症し、MRIの拡散強調画像が診断に有用であった運動後急性腎不全の1例	筆頭演者	渡邊 絢史	第223回日本内科学会東海地方会	2014/6/15
3	クラミジア・トラコマティス感染に関連した大動脈炎症候群の1例	筆頭演者	服部 俊彦	第223回日本内科学会東海地方会	2014/6/15
4	高血糖高浸透圧症候群(HHS)に著明な高ナトリウム血症と横紋筋融解症による急性腎障害を合併した一例	筆頭演者	野村 理恵	第44回日本腎臓学会西部学術大会	2014/10/4

### <糖尿病・内分泌内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	両側卵巣腫瘍を契機に診断されたFSH 産生下垂体腺腫の1例	共同演者	山守 育雄	第24回臨床内分泌代謝Update	2014/11/28

<神経内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	当院におけるイーケプラ使用経験からわかること	筆頭演者	岩井 克成	東三河てんかんセミナー	2014/3/6
2	アルツハイマー型およびレビー小体型の病理所見を併せ持つ認知症例の臨床的特徴	筆頭演者	岩井 克成	第55回日本神経学会学術大会	2014/5/22

<血液・腫瘍内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	リンパ腫型成人T細胞白血病リンパ腫(ATLL)に新規薬剤である抗CCR4抗体を投与した症例	筆頭演者	木村 瞳	東三医学会	2014/3/1
2	血縁間同種造血幹細胞移植後に早期再発を認めた成人T細胞性白血病リンパ腫に対し、ドナーリンパ球輸注が有効であった一例	筆頭演者	原田 靖彦	第36回日本造血細胞移植学会総会	2014/3/7
3	自家末梢血幹細胞移植後に急性GVHDの診断・治療し得たALアミロイドーシスの一例	筆頭演者	寺部 里美	第3回日本血液学会東海地方会	2014/4/26
4	Ph+ALL213試験進捗状況	筆頭演者	杉浦 勇	平成26年度第1回合同班会議	2014/6/21
5	フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病の移植成績における微小残存病変とチロシンキナーゼ阻害薬の影響の検討	筆頭演者	西脇 聡史	第12回日本臨床腫瘍学会学術集会	2014/7/17
6	Ph+ALL212プロトコルの進捗状況について	筆頭演者	杉浦 勇	第47回JALSG定例会議プログラム	2014/10/30
7	Ph陽性急性リンパ性白血病の移植成績における微小残存病変とチロシンキナーゼ阻害薬の影響の検討	筆頭演者	西脇 聡史	第76回日本血液学会学術集会	2014/10/31
8	診断に苦慮したHairy cell leukemia variantの1例	筆頭演者	岡田 裕也	第224回日本内科学会東海地方会	2014/11/2
9	成人Ph陽性ALLの治療	筆頭演者	杉浦 勇	第76回日本血液学会学術集会	2014/11/2
10	Chromosomal Translocation (14:16)-positive multiple myeloma shows negativity for CD56 expression and unfavorable outcome even in the Era of novel drugs	共同演者	杉浦 勇	56th American Society of Hematology	2014/12/6
11	Imatinib-based chemotherapy for newly diagnosed BCR-ABL positive acute lymphoblastic leukemia: Japan Adult Leukemia Study Group(JALSG) Ph+ALL208 Study	共同演者	杉浦 勇	56th American Society of Hematology	2014/12/7
12	Ph+ALL212プロトコルの進捗状況について	筆頭演者	杉浦 勇	H26年度第2回合同班会議	2014/12/13

<一般外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	腹腔鏡下胆嚢摘出術中に後区域胆管損傷をきたした2例	筆頭演者	三竹 泰弘	第41回愛知臨床外科学会	2014/2/11
2	盲腸軸捻転症の1例	筆頭演者	林 大介	第41回愛知臨床外科学会	2014/2/11
3	卵巣腫瘍の術前診断で手術を施行した巨大虫垂粘液嚢胞腺癌の1例	筆頭演者	清板 和昭	第41回愛知臨床外科学会	2014/2/11
4	当院での単孔式腹腔鏡下虫垂切除術の経験	筆頭演者	出井 秀幸	第36回東三医学会	2014/3/1
5	過去10年間に当院で経験した原発性十二指腸癌15例の検討	筆頭演者	平松 和洋	第114回日本外科学会定期学術集会	2014/4/4
6	Invagination法による嵌入式臍空腸吻合の成績	筆頭演者	夏目 誠治	第114回日本外科学会定期学術集会	2014/4/4
7	半年で急速に増大し発見された小腸Malignant peripheral nerve sheath tumorの1例	筆頭演者	三品 拓也	第287回東海外科学会	2014/4/29
8	プロテインS欠損症による門脈内血栓症空腸壊死に対して空腸部分切除を施行した1例	筆頭演者	西村 元伸	第287回東海外科学会	2014/4/29
9	腹腔鏡下に修復術を行った左傍十二指腸ヘルニアの1例	筆頭演者	神原 祐一	第287回東海外科学会	2014/4/29
10	甲状腺平滑筋肉腫術後再発に対して化学療法が奏功した1例	筆頭演者	平松 和洋	第26回日本内分泌外科学会総会	2014/5/22
11	甲状腺平滑筋肉腫の1切除例	筆頭演者	高橋大五郎	第26回日本内分泌外科学会総会	2014/5/22
12	幽門輪温存臍頭十二指腸切除後の残胃癌に対して、臍胃吻合温存根治切除を行った3例の経験	筆頭演者	夏目 誠治	第26回日本肝胆膵外科学会・学術集会	2014/6/13
13	肝血管腫切除例12例の臨床病理学的検討	筆頭演者	平松 和洋	第26回日本肝胆膵外科学会・学術集会	2014/6/13
14	late line で trastuzumab/pertuzumab/docetaxel療法を施行したHER2陽性転移・再発乳癌の2例	筆頭演者	清板 和昭	第22回日本乳癌学会学術総会	2014/7/12
15	HER2陽性進行・再燃乳癌におけるAnthracycline系抗癌剤使用例の検討	筆頭演者	吉原 基	第22回日本乳癌学会学術総会	2014/7/12
16	HER2陽性進行再発乳癌に対するlate lineでのエリブリンとトラスツマブ併用療法の経験	筆頭演者	三竹 泰弘	第22回日本乳癌学会学術総会	2014/7/12
17	穿孔性虫垂炎の鑑別における腹部CT検査の有用性	筆頭演者	篠原健太郎	第69回日本消化器外科学会総会	2014/7/16
18	胆嚢摘出後に診断された胆嚢癌症例の検討	筆頭演者	三竹 泰弘	第69回日本消化器外科学会総会	2014/7/17
19	消化器外科開腹創における純粹切開モードの電気メスによる皮膚切開の安全性の検討	筆頭演者	平松 和洋	第69回日本消化器外科学会総会	2014/7/18
20	悪性消化管閉塞に対する姑息的胃空腸バイパス術の検討	筆頭演者	夏目 誠治	第69回日本消化器外科学会総会	2014/7/18
21	絞扼性イレウス診断における肝表面腹水の有用性	筆頭演者	石井 健太	第69回日本消化器外科学会総会	2014/7/18
22	胃癌全摘後の吻合部再発に対して再切除術を施行した1例	筆頭演者	篠原健太郎	第42回愛知臨床外科学会	2014/7/21

23	横行結腸間膜から発生したCastleman病の1例	筆頭演者	伊藤 喜介	第42回愛知臨床外科学会	2014/7/21
24	イマチニブ耐性をきたしたGIST単発肝転移に対して肝切除を施行した1例	筆頭演者	小林龍太郎	第42回愛知臨床外科学会	2014/7/21
25	ATⅢ欠乏症による上腸間膜静脈血栓症の1例	筆頭演者	南 貴之	第42回愛知臨床外科学会	2014/7/21
26	Is evaluation of calf circumference on the Mini Nutritional Assessment-Short Forum appropriate for Japanese as compared with body mass index (BMI)?	筆頭演者	Y.Shibata	第36回欧州臨床栄養学会	2014/9/6
27	胆嚢管癌との鑑別に難渋した胆嚢管adenomyomatosisの1切除例	筆頭演者	青葉 太郎	第50回日本胆道学会学術集会	2014/9/26
28	単孔式腹腔鏡下肝嚢胞天蓋切除術を施行した巨大肝嚢胞の1例	筆頭演者	青葉 太郎	第27回日本内視鏡外科学会	2014/10/2
29	単孔式腹腔鏡下手術を行ったMeckel憩室の1例	筆頭演者	三品 拓也	第27回日本内視鏡外科学会	2014/10/2
30	膈上縁左側の胃脘ひだの切離におけるいわゆる「胃後腔」へのアプローチ	筆頭演者	平松 和洋	第27回日本内視鏡外科学会	2014/10/2
31	IVRにて救命し得た上腸間膜動脈閉塞症の1例	筆頭演者	神原 祐一	第288回東海外科学会	2014/10/19
32	後腹膜に発生したdermoid cystの1例	筆頭演者	和田 幸也	第288回東海外科学会	2014/10/19
33	腹部大動脈瘤人工血管置換術後に発症した十二指腸穿孔に対する救命例	筆頭演者	三竹 泰弘	第288回東海外科学会	2014/10/19
34	虫垂粘液嚢胞腺腫の1例	筆頭演者	林 大介	第288回東海外科学会	2014/10/19
35	胃癌胃全摘後の吻合部再発に対し化学療法後再切除術を施行した1例	筆頭演者	篠原健太郎	第22回JDDW2014 日本消化器関連学会週間	2014/10/25
36	下腸間膜動脈切離部位と縫合不全の検討	筆頭演者	南 貴之	第22回JDDW2014 日本消化器関連学会週間	2014/10/23
37	ERCP時に十二指腸穿孔をきたし手術を施行した4症例	筆頭演者	清板 和昭	第22回JDDW2014 日本消化器関連学会週間	2014/10/23
38	腸重積をきたした回腸リンパ管腫の1例	筆頭演者	南 貴之	第76回日本臨床外科学会総会	2014/11/21
39	巨大膈頭部serous microcystic adenomaに対し手術を施行した1例	筆頭演者	清板 和昭	第76回日本臨床外科学会	2014/11/21
40	虫垂切除術96例における逆行性切除の術前予測因子の検討	筆頭演者	篠原健太郎	第76回日本臨床外科学会	2014/11/21
41	直腸m癌のEMR切除後に局所再発と肝転移をきたした1例	筆頭演者	三竹 泰弘	日本消化器病学会東海支部第121回例会	2014/12/6

### <呼吸器外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	一酸化窒素(NO)吸入にて酸素化の改善をみた急性呼吸不全症候群(ARDS)の2症例	筆頭演者	直海 晃	第41回日本集中治療医学会学術集会	2014/2/27
2	当科で経験したSolitary fibrosis tumor 3例の検討	筆頭演者	親松 裕典	第55回肺癌学会学術集会	2014/11/14

### <心臓外科・血管外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	小児症例に対し、集中治療室で人工心肺を使用した経験の検討	筆頭演者	中山 雅人	第41回日本集中治療医学会学術集会	2014/2/27

### <肛門外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	胃癌手術前後における栄養状態の変化解析(インボディーによる体成分分析)と周術期管理の注目すべき方向性	筆頭演者	柴田 佳久	第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会	2014/2/27
2	大腸癌肝転移に対する治療戦略(ROOF試験の結果から)	共同演者	柴田 佳久	第114回日本外科学会学術集会	2014/4/5
3	乳癌術後6年目に縦隔リンパ節転移再発がみられ、放射線+化学ホルモン療法にてCRとなり10年を経過した1例	筆頭演者	柴田 佳久	第22回日本乳癌学会学術総会	2014/7/11
4	進行再発大腸がんXELOX療法における多職種チームマネージメントの観察研究SMILE Study	共同演者	柴田 佳久	第52回日本癌治療学会学術集会	2014/8/29
5	稀な巨大陰腫瘍(Angiomyofibrosarcoma)の1例	筆頭演者	柴田 佳久	第69回日本大腸肛門病学会学術集会	2014/11/7

### <移植外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	ステロイド夕方内服により耐糖能の改善をみた2例(CGM解析)	筆頭演者	長坂 隆治	第47回日本臨床腎移植学会	2014/3/13
2	イマチニブ内服による腎機能障害に関する検討(一例報告)	筆頭演者	長坂 隆治	第47回日本臨床腎移植学会	2014/3/13
3	腎移植維持期の脳梗塞経管栄養者での薬物血中濃度管理について	共同演者	長坂 隆治	第47回日本臨床腎移植学会	2014/3/13
4	腎移植後患者の外來における食事指導の取り組み	共同演者	長坂 隆治	第47回日本臨床腎移植学会	2014/3/14
5	当科におけるハンドアシスト(HALS)ドナー腎採取術の成績と意義	共同演者	長坂 隆治	第47回日本臨床腎移植学会	2014/3/13

<整形外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	複数回のインサート交換を行った人工膝関節全置換術(Interax)の1例	筆頭演者	藤田 護	第44回日本人工関節学会 Scientific Art -次の世代へ-	2014/2/21
2	手-骨盤架橋創外固定を用いた上肢挫滅損傷に対する腹部有茎皮弁の固定法	筆頭演者	三矢 聡	第27回日本創外固定・骨延長学会学術集会	2014/3/7
3	手-骨盤架橋創外固定を用いた上肢挫滅損傷に対する腹部有茎皮弁の固定法	筆頭演者	三矢 聡	「TrueLok-HEX ハンズオンセミナー」-principle of Hexapod external fixator-	2014/3/9
4	神経移植のための膀胱鏡と腹腔鏡用鉗子を利用した鏡視下腓腹神経採取法	筆頭演者	三矢 聡	第122回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	2014/4/11
5	内外側後方骨片が転位している脛骨プラトー骨折に対して後方アプローチを用いて骨接合術を行った1例	筆頭演者	宮入 祐一	第40回日本骨折治療学会	2014/6/27
6	踵骨関節内骨折に対してpolyaxial locking plateから載距突起にスクリューを刺入する骨接合術	筆頭演者	磯野 正晶	第40回日本骨折治療学会	2014/6/27
7	前方および後方アプローチで手術を行った脛骨プラトー骨折	筆頭演者	藤田 護	第40回日本骨折治療学会	2014/6/27
8	骨盤輪骨折・寛骨臼骨折に対する内固定時に追加併用する恥骨上枝 cerclage wiringの有用性	筆頭演者	三矢 聡	第40回日本骨折治療学会	2014/6/27
9	外側型変形性膝関節症に対して大腿骨遠位部内反骨切り術を行った1例	筆頭演者	藤田 護	第6回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	2014/7/25
10	遊離深下腹壁動脈穿通枝皮弁(DIEP flap)を用いて再建を行った前腕・手部挫滅損傷	筆頭演者	三矢 聡	第123回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	2014/10/3
11	当院の大腿骨側impaction bone graftの中期成績	筆頭演者	山内 健一	第41回日本股関節学会学術集会	2014/11/1
12	上肢挫滅損傷に対して有茎鼠径皮弁を行う際の上肢骨盤間創外固定を用いた新しい固定法	筆頭演者	三矢 聡	第41回日本マイクロサージャリー学会学術集会	2014/12/4

<リウマチ科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	関節リウマチの抗TNF抗体製剤効果不十分例におけるアバタセプト、トシリズマブ、エタネルセプトの臨床効果の比較	筆頭演者	平原 慎也	第58回日本リウマチ学会総会・学術集会	2014/4/24
2	関節リウマチの骨粗鬆症におけるデリパラチド連日投与製剤の有効性と安全性～2年経過例での検討～	筆頭演者	平野 裕司	第58回日本リウマチ学会総会・学術集会	2014/4/24
3	インフリキシマブからゴリムマブへ変更後の治療成績	筆頭演者	尾島 未来	第58回日本リウマチ学会総会・学術集会	2014/4/25
4	関節リウマチ患者に対する足跡MTP関節切除関節形成術の効果の分析～局所的効果、全身的疾患活動性、生活の質への影響の比較～	筆頭演者	岡田 貴士	第58回日本リウマチ学会総会・学術集会	2014/4/25



5	関節リウマチにおけるイグラチモドの有効性～投与開始時の疾患活動性の影響～	筆頭演者	平野 裕司	第58回日本リウマチ学会総会・学術集会	2014/4/26
6	関節リウマチにおけるアダリムマブの3年間投与継続予測因子～多施設研究TBCRより～	筆頭演者	平野 裕司	第58回日本リウマチ学会総会・学術集会	2014/4/26
7	Efficacy of daily teriparatide for two years on osteoporosis in patients with rheumatoid arthritis- is it appropriate to combine daily teriparatide and biological agents?	筆頭演者	Yuji Hirano	Annual European Congress of Rheumatology 2014 (Paris)	2014/6/14
8	Three biological DMARDs of different classes exhibit equivalent efficacy in rheumatoid arthritis patients with inadequate response to anti-tnf monoclonal antibody	筆頭演者	Shinya Hirabara	Annual European Congress of Rheumatology 2014 (Paris)	2014/6/14
9	関節リウマチ患者の骨粗鬆症に対してテリパラチド連日投与製剤を投与した際の骨代謝マーカーの変化に影響する因子	筆頭演者	平野 裕司	第32回日本骨代謝学会学術集会	2014/7/24
10	継続率から見たBIO長期予後の検討	筆頭演者	平野 裕司	第26回中部リウマチ学会中部支部学術集会	2014/8/29
11	肺合併症を有する関節リウマチ患者に対するabataceptの安全性と治療効果の検討－他施設共同研究TBCRより－	筆頭演者	平原 慎也	第26回中部リウマチ学会中部支部学術集会	2014/8/29
12	関節リウマチにおけるインフリキシマブからゴリムマブへ変更後の治療成績	筆頭演者	尾島 未来	第26回中部リウマチ学会中部支部学術集会	2014/8/29
13	妊娠後の関節リウマチ患者にセリトリマブ・ペゴル(CZP)を投与した一例	筆頭演者	宮入 祐一	第26回中部リウマチ学会中部支部学術集会	2014/8/30
14	関節リウマチの骨粗鬆症におけるテリパラチド連日投与製剤の有効性－2年経過例での検討－	筆頭演者	平野 裕司	第16回日本骨粗鬆症学会	2014/10/23
15	関節リウマチ患者の骨粗鬆症に対してテリパラチド連日投与製剤を投与した際の骨代謝マーカーの変化に影響する因子	筆頭演者	平野 裕司	第16回日本骨粗鬆症学会	2014/10/23
16	Influences of Disease Activity at the Initiation of Igaratimod, a Small Molecule Antirheumatic Drug, on Efficacy of Igaratimod in Patients with Rheumatoid Arthritis -a Multicenter Registry Study-	筆頭演者	Yuji Hirano	ACR/ARHP ANNUAL MEETING 2014 (Boston)	2014/11/16
17	The Safety and Treatment Efficacy of Abatacept in Rheumatoid Arthritis Patients with Pulmonary Complications: From the Tsurumi Biologics Communication Registry (TBCR) Multicenter Study	筆頭演者	Shinya Hirabara	ACR/ARHP ANNUAL MEETING 2014 (Boston)	2014/11/17
18	当院におけるリウマチ性多発筋痛症(PMR)の治療の現状	筆頭演者	宮入 祐一	第29回日本臨床リウマチ学会	2014/11/29
19	肺合併症を有する関節リウマチ患者に対するabataceptの安全性と治療効果の検討－他施設共同研究TBCRより－	筆頭演者	平原 慎也	第29回日本臨床リウマチ学会	2014/11/30
20	関節リウマチにおけるエタネルセプトのシリンジ製剤からペン型製剤の変更に係るアンケート調査	筆頭演者	平野 裕司	第29回日本臨床リウマチ学会	2014/11/30

## <脊椎外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	頸髄症歩行不能例の手術転帰	筆頭演者	富田 浩之	第43回日本脊椎脊髄病学会学術集会	2014/4/18
2	PEEKケージを用いた頸椎前方固定の小経験～成績不良例からの考察～	筆頭演者	吉原 永武	第23回日本脊椎インストゥルメンテーション学会	2014/8/30
3	経皮的椎弓根スクリュー(PPS)刺入における工夫逸脱を防ぎ透視時間を短縮する工夫	筆頭演者	富田 浩之	第23回日本脊椎インストゥルメンテーション学会	2014/8/30
4	豚咬傷による大腿骨外顆開放骨折に対し、腸骨移植と二期的骨軟骨柱移植術により関節面を再建した1例	筆頭演者	富田 浩之	123回中部日本整形外科・災害外科学会第学術集会	2014/10/3
5	強直性脊椎増殖症を合併した脊椎骨折に対する低侵襲手術の経験	筆頭演者	富田 浩之	123回中部日本整形外科・災害外科学会第学術集会	2014/10/4

## <脳神経外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	VPシャントに伴う腹腔内髄液仮性嚢胞の一例	筆頭演者	若林 健一	第42回日本小児神経外科学会	2014/5/29
2	当院における転移性脳腫瘍 過去3年間の手術症例の検討	筆頭演者	若林 健一	日本脳神経外科学会第73回学術総会	2014/10/9
3	CEAとCASを同等数実施している施設における頸動脈狭窄症の周術期手術合併症と術後DWI陽性率についての検討	筆頭演者	原口 健一	日本脳神経外科学会第73回学術総会	2014/10/10
4	慢性硬膜下血腫による頭痛にて発症したもやもや病の1例	筆頭演者	雄山 博文	第42回日本頭痛学会総会	2014/11/14
5	CEAとCASの周術期合併症と術後DWI陽性率についての検討	筆頭演者	原口 健一	第30回NPO法人 日本脳神経血管内治療学会学術総会	2014/12/4

## <小児科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	DOOR症候群の1例とその責任遺伝子	筆頭演者	真島 久和	第40回日本小児神経学会東海地方会	2014/1/25
2	KLHL40遺伝子変異を認めた重症乳児ネマリンミオパチーの1例	筆頭演者	川瀬 恒哉	第40回日本小児神経学会東海地方会	2014/1/25
3	新生児期に診断し得たMowat-Wilson症候群の1例	筆頭演者	中村 勇治	第40回日本小児神経学会東海地方会	2014/1/25
4	水痘ワクチン接種後にワクチン株による水痘を発症したネフローゼ症候群の1例	筆頭演者	金原 有里	第260回日本小児科学会東海地方会	2014/2/9
5	症例検討：児童虐待 診断のヒントと問題点	筆頭演者	小山 典久	第171回東三河小児科医会症例検討会	2014/4/16
6	過去8年間の豊橋市内におけるコッホ(様)現象陽性例の検討	筆頭演者	河邊 宏幸	第261回日本小児科学会東海地方会	2014/5/18
7	小児一次救急医療体制強化のための地域小児救急全国協議会開催	共同演者	渡部 誠一	第25回日本小児科医会総会フォーラムin岩手	2014/6/14
8	血液検査変化量による川崎病 I V I G 不応例の予測について	筆頭演者	佐々木智章	第50回日本小児循環器学会総会・学術集会	2014/7/4

9	当院におけるダウン症候群の初期対応の現状と課題	筆頭演者	戸川 泰子	第50回日本周産期・新生児医学会	2014/7/13
10	動脈管早期収縮の原因としてハーブティが疑われた1例	筆頭演者	長柄 俊佑	第50回日本周産期・新生児医学会	2014/7/14
11	ピリドキシン依存症てんかんの一例	筆頭演者	真島 久和	第41回日本小児神経学会東海地方会	2014/7/26
12	灰白質主体の長髄節脊髄病変を示した急性散在性脳脊髄炎の1例	筆頭演者	小山 智史	第41回日本小児神経学会東海地方会	2014/7/26
13	発症から8年後にランゲルハンス細胞組織球症(LCH)に合致する中枢神経変性病変を認めた、中枢性尿崩症の1例	筆頭演者	中村 勇治	第41回日本小児神経学会東海地方会	2014/7/26
14	ロタウイルスワクチン接種率と便中ロタウイルス抗原陽性症例数の推移	筆頭演者	佐久間 肇	第50回中部日本小児科学会	2014/8/10
15	腹痛で発症した肺葉外肺分画症捻転の1例	筆頭演者	横井 克幸	第262回日本小児科学会東海地方会	2014/10/5
16	当院における極低出生体重児で生まれた13トリソミー、18トリソミー児の予後	筆頭演者	山田 崇春	第59回日本未熟児新生児学会・学術集会	2014/11/10
17	カリウム吸着フィルター使用時の赤血球濃厚液の希釈の程度に関する検討	筆頭演者	小山 典久	第59回日本未熟児新生児学会	2014/11/10

### <産婦人科・女性内視鏡外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	卵管原発の漿液性境界悪性腫瘍の一例	筆頭演者	小林 浩治	第98回愛知産科婦人科学会学術講演会	2014/1/25
2	当院で経験した悪性腫瘍合併妊娠の7例	筆頭演者	松尾 聖子	第98回愛知産科婦人科学会学術講演会	2014/1/25
3	大量の腹水をきたし癌性腹膜炎と鑑別を要し、腹腔鏡にて確定診断に至ったクラミジア感染症の1例	筆頭演者	吉田 光紗	第98回愛知産科婦人科学会学術講演会	2014/1/25
4	子宮体癌低リスク症例(Mayo criteria)の治療成績	筆頭演者	河井 通泰	第134回東海産科婦人科学会	2014/2/16
5	子宮体癌低リスク症例(Mayo criteria)における術前診断	筆頭演者	矢吹 淳司	第134回東海産科婦人科学会	2014/2/16
6	当科における転移性卵巣癌27症例の臨床的検討	筆頭演者	伴野 千尋	第134回東海産科婦人科学会	2014/2/16
7	安全に腹腔鏡下子宮体がん根治術をおこなうために	筆頭演者	梅村 康太	第66回日本産科婦人科学会	2014/4/19
8	子宮頸癌ⅡB期に対する同時化学放射線療法の治療成績	筆頭演者	池田 芳紀	第66回日本産科婦人科学会	2014/4/19
9	当院における「飛び込み分娩」の現状	筆頭演者	伴野 千尋	第50回日本周産期・新生児医学会	2014/7/14
10	当院における40歳以上高齢分娩の傾向と現状	筆頭演者	岡田真由美	第50回日本周産期・新生児医学会	2014/7/14
11	当院における過去5年間の常位胎盤早期剥離50例の検討	筆頭演者	松川 哲	第50回日本周産期・新生児医学会	2014/7/15
12	当院における自然妊娠および不妊治療による双胎妊娠の比較検討	筆頭演者	吉田 光紗	第50回日本周産期・新生児医学会	2014/7/15
13	当院で経験した悪性腫瘍合併妊娠の8例	筆頭演者	松尾 聖子	第50回日本周産期・新生児医学会	2014/7/15

14	卵管漿液性境界悪性腫瘍の一例	筆頭演者	小林 浩治	第56回日本婦人科腫瘍学会	2014/7/17
15	当院における卵巣明細胞腺癌の臨床的検討	筆頭演者	小林 浩治	第56回日本婦人科腫瘍学会	2014/7/18
16	婦人科腫瘍専門医による腹腔鏡下子宮体癌根治術へのアプローチ	筆頭演者	梅村 康太	第56回日本婦人科腫瘍学会	2014/7/17~ 2014/7/19
17	肥満症例に対する腹腔鏡下子宮全摘術の検討と工夫	筆頭演者	吉田 光紗	第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2014/9/12
18	腹腔鏡下筋腫核出術における運針法について	筆頭演者	小林 浩治	第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2014/9/12
19	TLHはマニピュレーターの動きで決まる	筆頭演者	北見 和久	第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2014/9/13
20	子宮体癌に対する腹腔鏡下手術における視野展開と操作	筆頭演者	梅村 康太	第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2014/9/13
21	子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎性子宮全摘術への取り組み	筆頭演者	梅村 康太	第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2014/9/13
22	子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術と蛍光ICGによるセンチネル同定法	筆頭演者	梅村 康太	第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2014/9/13
23	ビギナーのTLH執刀への道のり	筆頭演者	吉田 光紗	第54回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	2014/9/11~ 2014/9/13
24	Analysis from 51 cases of placental abruption: five years review in our hospital	筆頭演者	Satoshi Matsukawa	Hypertension Research in Pregnancy The46th international congress on pathophysiology of pregnancy	2014/9/18
25	シンポジウム 子宮体癌に対する腹腔鏡下手術における安全な視野展開と操作	筆頭演者	梅村 康太	第27回日本内視鏡外科学会	2014/10/2
26	ワークショップ 子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎性子宮全摘術～先進医療取得を目指して～	筆頭演者	梅村 康太	第27回日本内視鏡外科学会	2014/10/2
27	当院における腹腔鏡下筋腫核出術	筆頭演者	小林 浩治	第27回日本内視鏡外科学会	2014/10/3
28	当院におけるminimally invasive surgeryの試み	筆頭演者	吉田 光紗	第27回日本内視鏡外科学会	2014/10/4
29	骨盤内拡大手術への応用～子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術とセンチネルナビゲーション	筆頭演者	梅村 康太	第27回日本内視鏡外科学会	2014/10/2~ 2014/10/4
30	子宮体癌に対する腹腔鏡下手術～安全な視野展開と操作～	筆頭演者	梅村 康太	第37回日本産婦人科手術学会	2014/10/11
31	子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎性子宮全摘術における後腹膜の展開	筆頭演者	梅村 康太	第37回日本産婦人科手術学会	2014/10/11
32	当科における帝王切開術後の血栓予防プロトコル	筆頭演者	北見 和久	第37回日本産婦人科手術学会	2014/10/11
33	ディスポ吸引娩出カップ(Kiwi)を使用した単純子宮全摘術の工夫	筆頭演者	吉田 光紗	第37回日本産婦人科手術学会	2014/10/12
34	大量腹水をきたしたクラミジア性骨盤腹膜炎の1例	筆頭演者	矢野 有貴	第29回日本女性医学学会	2014/11/1
35	胎動減少を主訴とした胎児小腸念転症の1例	筆頭演者	山口 恭平	第37回日本母体胎児医学会学術集会	2014/11/8
36	頸管裂傷後、子宮型羊水塞栓症を生じたと考えられた一例	筆頭演者	松川 哲	第38回日本母体胎児医学会学術集会	2014/11/8

<産婦人科（生殖医療）>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	子宮内膜症嚢胞摘出術後の妊娠分娩転帰に関する臨床的検討	筆頭演者	池田 芳紀	第35回日本エンドメトリオーシス学会	2014/1/26
2	私の実践する粘り強いART(ランチョンセミナー)	筆頭演者	安藤 寿夫	第55回日本卵子学会	2014/5/17
3	当施設における精子凍結保存15年間の歴史と現状	筆頭演者	鈴木 範子	第56回日本卵子学会	2014/5/17
4	移植胚タイムラプス動画供覧後の心理変化	筆頭演者	北見 和久	第13回日本不妊カウンセリング学会	2014/5/30
5	不育症スクリーニング検査におけるプロテインS評価上の注意点について	筆頭演者	廣渡 芙紀	第36回中部生殖医学会	2014/6/7
6	タイムラプスインキュベーターによるICSI後透明帯脱出胚の培養経験	筆頭演者	鈴木 範子	第36回中部生殖医学会	2014/6/7
7	Presentation of the time-lapse video of the transferred embryo and changes of psychological status during the implantation period	筆頭演者	Kitami K	30th Annual Meeting of the European Society of Human Reproduction and Embryology (ESHRE)	2014/6/29
8	経膈エコー下胚移植への移行教育プログラムの実践と成果	筆頭演者	安藤 寿夫	第32回日本受精着床学会	2014/7/31
9	長期治療の末に挙児を得たIV期子宮内膜症ART症例 15回の採卵手術からの考察	筆頭演者	安藤 寿夫	第17回日本IVF学会	2014/9/13
10	タイムラプス動画情報のみで選択した移植胚の発生予後を改めて紡錘体可視の有無別に検討した研究	筆頭演者	高柳 武志	第59回日本生殖医学会	2014/12/4
11	子宮内膜症では個別化調節卵巣刺激でもAMHは採卵の量的質的予測における優れたマーカーである	筆頭演者	矢吹 淳司	第59回日本生殖医学会	2014/12/4
12	単胚移植により許容レベルまで多胎防止を達成しても凍結胚移植後分娩で重篤な母体合併症が高頻度だった当院の成績からの提言	筆頭演者	矢野 有貴	第59回日本生殖医学会	2014/12/4
13	GnRH(LH-RH)テストの新しい活用法としての調節卵巣刺激反応予測(第1報)	筆頭演者	甲木 聡	第59回日本生殖医学会	2014/12/4

<眼科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	当院における眼内レンズ強膜内固定術の手術成績	筆頭演者	西原 裕晶	NESS	2014/10/9
2	一時失明状態になった両眼性真菌性鼻性視神経症の1例	筆頭演者	稲垣 彩	第68回日本臨床眼科学会	2014/11/15
3	フルオレセイン静注後にアナフィラキシーで死亡した患者に、重篤な心疾患を認めた1例	筆頭演者	長谷川真理子	第68回日本臨床眼科学会	2014/11/15

<耳鼻いんこう科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	潰瘍性大腸炎に合併したと思われる重症口腔潰瘍の一例	筆頭演者	亀井 千晴	第27回日本口腔・咽頭科学会総会学術講演会	2014/9/11

### <皮膚科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	左足に生じた疣状癌の1例	筆頭演者	山田 元人	第30回日本皮膚悪性腫瘍学会 学術大会	2014/7/4
2	Sutton現象を伴った巨大悪 性黒色腫の1例	筆頭演者	萩原 里香	第30回日本皮膚悪性腫瘍学会 学術大会	2014/7/5

### <泌尿器科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	腎瘻造設後の血尿悪化を契機に発 見された腎動静脈瘻の1例	筆頭演者	内藤 祐志	第264回日本泌尿器科学会東 海地方会	2014/6/7
2	シンポジウム11 ミニマム創手 術の現況と未来 ミニマム創内視 鏡下手術の現況と未来(ロボット 支援手術との比較からみえてくる もの)	筆頭演者	長井 辰哉	第79回日本泌尿器科学会東部 総会	2014/10/14
3	当院におけるロボット支援腹腔鏡 下前立腺全摘除術(RALP)の初期 経験	筆頭演者	田中 篤史	第64回日本泌尿器科学会中部 総会	2014/10/18
4	ミニマム創内視鏡下前立腺全摘術 (ロボット支援手術との比較から)	筆頭演者	長井 辰哉	第7回日本ミニマム創泌尿器 内視鏡外科学会学術集会	2014/12/20
5	臍創から行う腎部分切除術(導入 のために必要なこと)	筆頭演者	長井 辰哉	第7回日本ミニマム創泌尿器 内視鏡外科学会学術集会	2014/12/21

### <麻酔科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	硬膜外麻酔との関連が疑われた術 後下肢運動障害を起こした症例	筆頭演者	伴野なつ美	日本麻酔科学会東海・北陸支 部第12回学術集会	2014/9/13
2	動注カテーテル挿入手術に併用す る末梢神経ブロックの効果	筆頭演者	稲生 光春	第42回日本歯科麻酔学会総 会・学術集会	2014/10/12
3	後頭骨頸椎固定術後患者の挿管困 難-気管支ファイバースコープ挿 管が困難であった症例-	筆頭演者	佐野 逸郎	日本臨床麻酔学会第34回大会	2014/11/2

### <リハビリテーション科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	浅腓骨神経感覚神経活動電位を用 いた腰椎椎間孔狭窄症診断の有用 性	筆頭演者	石川 知志	第51回リハビリテーション医 学会学術集会	2014/6/5

### <放射線科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	腸間膜Castleman病により発生した濾胞樹状細胞肉腫	筆頭演者	高田 章	第28回日本腹部放射線学会	2014/6/27
2	追跡調査精度と予後～市中病院の場合～	筆頭演者	石原 俊一	日本医学放射線学会第156回中部地方会	2014/7/5
3	追跡調査精度と予後～市中病院の場合～	筆頭演者	石原 俊一	日本放射線腫瘍学会第27回学術大会報文集	2014/12/12
4	I期声門癌に対する1回2.25Gyを用いた寡分割照射例の多施設調査	共同演者	石原 俊一	日本放射線腫瘍学会第27回学術大会報文集	2014/12/12

### <歯科口腔外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	下唇の知覚鈍麻を主訴に受診した悪性リンパ腫の1例	筆頭演者	後藤 大輝	第32回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会	2014/1/23
2	進行・再発口腔癌4例におけるCetuximab(アビタックス)の使用経験	筆頭演者	寺沢 史誉	第32回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会	2014/1/23
3	オトガイ下部に生じたIgG4関連リンパ節症と考えられた1例	筆頭演者	服部 晴吉	第68回NPO法人日本口腔科学会学術集会	2014/5/8
4	下顎下縁部に発生した外骨腫の1例	筆頭演者	足立 潤哉	第39回日本口腔外科学会中部支部学術集会	2014/5/17
5	経カテーテル動脈塞栓法にて出血を制御した末期口腔癌症例の臨床的検討	筆頭演者	寺沢 史誉	第38回日本頭頸部癌学会	2014/6/12
6	当科を受診した非ホジキンリンパ腫の臨床的観察	筆頭演者	白水 敬昌	第38回日本頭頸部癌学会	2014/6/13
7	豊橋市民病院における菌性感染症の入院症例に関する臨床的検討	筆頭演者	寺沢 史誉	第34回日本歯科薬物療法学会学術大会	2014/6/22
8	高齢者の顔面多発外傷による出血性ショックの1例	筆頭演者	服部 晴吉	第57回NPO法人日本口腔科学会中部地方部会学術集会	2014/10/11
9	尋常性天疱瘡の2症例	筆頭演者	白水 敬昌	第59回日本口腔外科学会総会・学術集会	2014/10/17
10	上顎白歯部に発生した紡錘細胞癌の1例	筆頭演者	寺沢 史誉	第59回日本口腔外科学会総会・学術集会	2014/10/17

## 研究会発表（医局）

### <消化器内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	検診腹部超音波に検査にて発見された1cm大の膵腫瘍の1例	筆頭演者	芳川 昌功	第72回東海胆道研究会	2014/2/22
2	直腸粘膜逸脱症候群(MPS)の経過観察中に合併した高分化腺癌の1例	筆頭演者	鈴木 博貴	第8回三河 GI WORKSHOP	2014/3/6
3	成人肝未分化肉腫の1例	筆頭演者	廣瀬 崇	第50回日本肝癌研究会	2014/6/5
4	当院における潰瘍性大腸炎に対するヒュミラの治療成績	筆頭演者	木下 雄貴	第93回東三河消化器疾患研修会	2014/7/30
5	当院におけるC型慢性肝炎に対するプロテアーゼ阻害薬併用療法の経験	筆頭演者	芳川 昌功	第11回豊橋肝臓フォーラム	2014/11/19

### <循環器内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	コメンテーター	筆頭演者	成瀬 賢伸	第84回 東海 Heart Conference	2014/2/22
2	高度腎不全患者において少量造影剤により血行再建した1例	筆頭演者	津田 卓眞	第84回 東海 Heart Conference	2014/2/22
3	コメンテーター	筆頭演者	成瀬 賢伸	PICASSO seminar in Nagoya 27th	2014/5/17
4	コメンテーター	筆頭演者	成瀬 賢伸	PICASSO seminar in Nagoya 27th	2014/12/13

### <腎臓内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	指定討論「痙攣発作と急性腎障害を反復した若年男性の一例	筆頭演者	渡邊 絢史	第78回名古屋腎疾患研究会	2014/2/25
2	特別講演 保存期CKDにおけるダルベポエチンアルファの使用について	筆頭演者	山川 大志	東三河若手医師のための学術セミナー	2014/3/14
3	熱源不明で入院した22歳の女性症例について	筆頭演者	尾関 貴哉	東三河膠原病セミナー2014	2014/10/17
4	特別講演 保存期CKDにおけるダルベポエチンアルファの使用について	筆頭演者	山川 大志	東三河若手医師のための学術セミナー	2014/10/31

### <糖尿病・内分泌内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	豊橋から見る中村区の糖尿病医療	筆頭演者	山守 育雄	第26回中村区糖尿病研究会	2014/08/02



<血液・腫瘍内科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	「サリドマイド投与中に、播種性帯状疱疹ウイルス感染症を発症した再発難治性形質細胞性白血病の一例	筆頭演者	寺部 里美	第10回東海骨髄腫フォーラム症例検討会	2014/2/22
2	胆嚢摘出後に肝破裂を発症したアミロイドーシス合併多発性骨髄腫患者の一例	筆頭演者	岩崎 年宏	第27回三河血液疾患診療ネットワーク	2014/4/25
3	限局性消化管ALアミロイドーシスの一例	筆頭演者	岩崎 年宏	第11回東海骨髄腫フォーラム症例検討会	2014/9/20
4	Treatment recommendations for patients with Waldenstroem macroglobulinemia (WM) and related disorders:IWWM-7 consensus.	筆頭演者	寺部 里美	第16回Nagoya Myeloma Working Group	2014/10/15

<一般外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	高度進行直腸癌に対する術前化学療法における病理学的効果の術前予測についての検討	筆頭演者	相場 利貞	第80回大腸癌研究会	2014/1/24
2	当科におけるCetuximab投与症例の低Mg血症に関する検討	筆頭演者	林 大介	第2回大腸がん治療カンファレンス	2014/6/20
3	直腸癌の骨盤内リンパ節転移に対し、FOLFIRI+Cetuximabが奏功した1例	筆頭演者	和田 幸也	三河大腸がんセミナー	2014/7/5
4	当科におけるトロンボモジュリン製剤の使用経験	筆頭演者	林 大介	三河重症疾患meeting 2014	2014/7/12

<肛門外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	局所進行直腸癌に対し、化学放射線治療後に切除し、その後リンパ節再発をみたが、重粒子線治療にて改善し初回術後「6年を経過している1例	筆頭演者	柴田 佳久	第19回東三河消化器癌治療研究会	2014/3/7
2	外来における終末期患者の意思決定への援助を考える	共同演者	柴田 佳久	第24回愛知三河緩和医療研究会	2014/3/8
3	特別講演 NSTって栄養カロリーのことだけ言っているんじゃない	筆頭演者	柴田 佳久	金沢南地域連携勉強会	2014/6/10

<移植外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	生体膵腎移植での長期生着のための合併症対策-動脈硬化に対する一考察-	共同演者	長坂 隆治	第41回日本膵・膵島移植研究会	2014/03/08
2	高用量ミゾリピン療法にて抗体獲得にいたったサイトメガロウイルス抗体ドナー陽性/レシピエント陰性の腎移植症例	筆頭演者	長坂 隆治	第20回日本移植薬物療法研究会	2014/06/21

## <リウマチ科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	関節リウマチ患者に対する足趾MTP関節切除関節形成術の効果の分析	筆頭演者	岡田 貴士	第2回MTX研究会	2014/2/8
2	当科における高齢発症RAの患者背景と治療の特徴	筆頭演者	平野 裕司	第2回MTX研究会	2014/2/8
3	当科で加療した大腿骨近位部骨折患者における骨粗鬆症治療施行状況の調査	筆頭演者	尾島 未来	第1回三河骨粗鬆症研究会	2014/3/21
4	関節リウマチの骨粗鬆症に対するエルデカルシトールの短期臨床成績	筆頭演者	平野 裕司	第1回三河骨粗鬆症研究会	2014/3/21
5	関節リウマチにセルトリズマブ・ベゴルを投与した2例	筆頭演者	宮入 祐一	第38回東三河リウマチ研究会	2014/5/31
6	インフリキシマブからゴリムマブ変更後の治療成績	筆頭演者	尾島 未来	第39回東三河リウマチ研究会	2014/8/2
7	当科の関節リウマチの薬物治療の現状報告 2009年度-2013年度	筆頭演者	平野 裕司	第39回東三河リウマチ研究会	2014/8/2
8	関節リウマチの骨粗鬆症におけるテリパラチド連日投与製剤の有効性と安全性	筆頭演者	平野 裕司	第2回三河骨粗鬆症研究会	2014/10/18
9	当院におけるリウマチ性多発筋痛症(PMR)の治療の現状	筆頭演者	宮入 祐一	第40回東三河リウマチ研究会	2014/10/25
10	関節リウマチにおけるエタネルセプトのシリンジ製剤からペン型製剤への変更に関するアンケート調査	筆頭演者	平野 裕司	第40回東三河リウマチ研究会	2014/10/25
11	当科の関節エコーを用いたリウマチ性疾患診療	筆頭演者	平野 裕司	第40回東三河リウマチ研究会 三河関節エコー研究会	2014/11/5

## <脊椎外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	当院における経皮的椎弓根スクリュウを用いた椎体間固定術の成績	筆頭演者	富田 浩之	第81回東海脊椎脊髄病研究会 学術集会	2014/6/7

## <脳神経外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	VA直線化により肝を冷やした一例	筆頭演者	原口 健一	EMBO CLUB 10	2014/3/18
2	「当院における転移性脳腫瘍 手術に至った症例の検討」	筆頭演者	若林 健一	第4回京大名大合同フレンド シップカンファランス	2014/3/29
3	STA-MCA吻合術後に皮下仮性動脈瘤から出血をきたした一例	筆頭演者	原口 健一	第27回東三河脳神経外科セミナー	2014/4/12
4	初心者のAVM摘出術 長時間手術を振り返っての反省	筆頭演者	原口 健一	第20回名古屋脳卒中外科研究会	2014/7/12
5	いまどきの神経内視鏡手術－硬性鏡と軟性鏡－	筆頭演者	奥村衣里子	東三河脳神経外科セミナー	2014/11/8

<小児科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	当院における超低出生体重児に対する黄疸管理の状況	筆頭演者	山田 崇春	第12回新生児黄疸管理研究会	2014/2/1
2	ピルビン酸脱水素酵素複合体(PDHC)異常症を疑う男児例	筆頭演者	櫻井 典子	第44回胎児・新生児神経研究会	2014/2/1
3	片側巨脳症の1例	筆頭演者	加藤 泰輔	第44回胎児・新生児神経研究会	2014/2/1
4	DOORS症候群の一例とその責任遺伝子について	筆頭演者	真島 久和	第5回東海小児遺伝カンファレンスプログラム	2014/2/14
5	MD双胎において一児のみが先天異常を呈した2症例	筆頭演者	真島 久和	浜名湖カンファレンス2014	2014/3/2
6	重症心身障害児の蛋白摂取の必要性について	筆頭演者	酒井 喜規	第77回名古屋市大小児科臨床集談会	2014/3/15
7	平成25年度紹介患者の統計と気になった症例	筆頭演者	伊藤 剛	第171回東三河小児科医会症例検討会	2014/4/16
8	当院におけるダウン症候群の初期対応の現状と課題	筆頭演者	戸川 泰子	平成26年度周産期医療従事者研修会(東三河北部・軟部医療圏)	2014/6/7
9	再膨張性肺水腫が疑われた症例	筆頭演者	河邊 宏幸	第78回名古屋市大小児科臨床集談会	2014/9/20
10	自発呼吸下では手術不能と考えられたが、人工呼吸管理下で手術適応ありと判断した心室中隔欠損症・重症肺高血圧症の一例	筆頭演者	小山 智史	第116回東海小児循環器談話会	2014/11/23
11	トリロジー100を使用中に回路が外れアラームが作動しなかった事例の検討	筆頭演者	河邊 宏幸	第23回東海新生児研究会	2014/11/29

<産婦人科・女性内視鏡外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	当院における腹腔鏡下手術の取り組みについて	筆頭演者	梅村 康太	第8回愛知県産婦人科医会学術研修会(三河ブロック)	2014/1/18
2	最新の子宮体がん治療 開腹術から腹腔鏡下手術の時代へ	筆頭演者	梅村 康太	第6回東海婦人科腫瘍研究会	2014/3/29
3	頸管裂傷後、子宮型羊水塞栓症を生じたと考えられた一例	筆頭演者	松川 哲	平成26年度東海周産期研究会	2014/5/17
4	卵巣癌治療の変遷	筆頭演者	河井 通泰	Chugai ovarian cancer seminar in MIKAWA	2014/6/14
5	卵巣癌Ⅲ期に対してアバスチン併用TC療法を施行した1例	筆頭演者	小林 浩治	Chugai ovarian cancer seminar in MIKAWA	2014/6/14
6	子宮頸がん、子宮体がんに対する手術療法～開腹術から腹腔鏡の時代へ～	筆頭演者	梅村 康太	第二回東三河産婦人科フォーラム	2014/6/28
7	腹腔鏡導入から定型化まで	筆頭演者	梅村 康太	愛知三河内視鏡セミナー	2014/8/30
8	最近になって開腹手術からの大規模な転換を図った当院における腹腔鏡下子宮全摘術の臨床成績	筆頭演者	小林 浩治	第15回東海産婦人科内視鏡手術研究会	2014/10/25
9	子宮体がんに対する腹腔鏡下手術の導入について	筆頭演者	梅村 康太	第15回東海産婦人科内視鏡手術研究会	2014/10/25

10	ワークショップ：Minimally access surgery 細径鉗子を使用した腹腔鏡下子宮全摘手術	筆頭演者	吉田 光紗	第15回東海産婦人科内視鏡手術研究会	2014/10/25
11	10代の悪性・境界悪性卵巣腫瘍9例の報告	筆頭演者	松尾 聖子	第35回東海卵巣腫瘍研究会	2014/10/25

### <産婦人科（生殖医療）>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	ワークショップ「卵巣予備能低下症例に対してどう対応するか？」 卵巣機能の低下とその後の胚発育 —タイムラプスの解析から—	筆頭演者	伴野 千尋	第10回東海ARTカンファレンス	2014/3/16
2	私の実践するテーラーメイド調節 卵巣刺激とタイムラプス	筆頭演者	安藤 寿夫	富山生殖医療セミナー	2014/6/21
3	シンポジウム「不妊診療の前進」 不妊になりやすい女性とは	筆頭演者	安藤 寿夫	第13回生殖バイオロジー東京シンポジウム	2014/7/27

### <眼科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	IOL強膜内固定術	筆頭演者	西原 裕晶	東三河研究会	2014/12/18
2	ビタミンA欠乏症の治療後に錐体外節端(COST)ラインが回復した1例	筆頭演者	水野 友広	東三河研究会	2014/12/18

### <麻酔科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	豊橋市民病院における歯科麻酔医の役割	筆頭演者	稲生 光春	第49回中部歯科麻酔研究会	2014/7/12

### <放射線科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	多房性胸腺嚢胞の1例	筆頭演者	澤田 裕介	第102回名古屋レントゲンカンファランス	2014/12/13

### <歯科口腔外科>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	治療経過中で好中球減少を伴う敗血症と誤嚥性肺炎を発症した進行舌癌症例	筆頭演者	白水 敬昌	第23回適正抗菌化学療法研究会	2014/9/27

## 座長・司会（医局）

### <総合内科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	脳の腫瘍 とくに脳の悪性腫瘍について 豊橋市民病院脳神経外科部長 井上憲夫先生	鳥居 俊男	第59回豊橋市民病院健康教室	2014/3/15
2	がんのお話 豊橋市民病院一般外科第二部長 平松和洋先生	鳥居 俊男	第60回豊橋市民病院健康教室	2014/10/18

### <消化器内科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	特別講演	浦野 文博	東三河C型慢性肝炎治療懇談会	2014/1/9
2	特別講演	内藤 岳人	第38回豊橋がん診療フォーラム	2014/1/17
3	Seession I	山本 英子	第 8 回三河GI WORKSHOP	2014/3/6
4	講演	浦野 文博	豊橋C型肝炎セミナー	2014/7/16
5	特別講演	浦野 文博	東三河肝硬変治療フォーラム	2014/7/25
6	一般演題、特別講演	山田 雅弘	第93回東三河消化器疾患研修会	2014/7/30
7	講演 2	浦野 文博	消化器医師のための生活習慣病セミナー	2014/9/26
8	世話人	岡村 正造	日本消化器病学会東海支部・第93回市民公開講座	2014/11/1
9	特別講演	山田 雅弘	第62回東三河内分泌疾患談話会	2014/11/18
10	一般講演	内藤 岳人	第11回豊橋肝臓フォーラム	2014/11/19
11	特別講演	浦野 文博	第11回豊橋肝臓フォーラム	2014/11/19
12	特別講演	浦野 文博	第44回豊橋がん診療フォーラム	2014/11/20
13	小腸②	山田 雅弘	日本消化器病学会東海支部第121回例会	2014/12/6

### <循環器内科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	特別講演：三重大学大学院医学系研究科 循環器・腎臓内科学講師 土肥 薫「心不全マネージメントにおける利尿薬の現在地：トルバプタンの活用方を考える」	成瀬 賢伸	第 4 回 心不全 水利尿薬 勉強会	2014/2/21
2	特別講演座長：埼玉医科大学国際医療センター 神経内科教授 棚橋紀夫「心房細動による心原性脳塞栓症予防 新規経口抗凝固薬の役割」	成瀬 賢伸	豊橋内科医会研修会	2014/4/10
3	特別講演：国家公務員組合組合連合会立川病院 院長 三田村秀雄「心房細動の Brain Protection」	成瀬 賢伸	プラザキサ 発売 3 周年記念講演会	2014/4/23
4	アフタヌーンセミナー：静岡県立総合病院 米本崇子「肥満の糖尿病治療に対する新たな一手 ～SGLT2阻害薬レシビ案」	成瀬 賢伸	第 4 回豊橋ライブ アフタヌーンセミナー	2014/5/31
5	一般演題	大野 修	高血圧治療ガイドライン2014学術講演会 ～新ガイドラインを日常臨床に活かす～	2014/6/26

6	特別講演：トヨタ記念病院 内科 科部長 石木良治「心不全に対する新しい治療戦略 当院におけるトルバプタンの使用経験」	成瀬 賢伸	東三学術講演会	2014/7/2
7	一般演題	佐藤 文明	第3回心不全治療を考える会	2014/9/19
8	特別講演:大垣市民病院 循環器内科部長 坪井英之「心不全治療においてトルバプタンがもたらす意義とは」	成瀬 賢伸	第5回 心不全 利尿薬 勉強会	2014/9/30
9	基調講演：順天堂大学医学部付属静岡病院 脳神経外科 先任准教授 山本拓史 「患者さんを幸せにする一次予防 ～心房細動と脳塞栓症～」	成瀬 賢伸	豊橋 Network Meeting	2014/11/11
10	講演Ⅱ：名古屋大学医学部循環器内科講師 石井秀樹「～循環器内科の立場から～COPD治療について」	成瀬 賢伸	東三学術講演会	2014/12/3

### <腎臓内科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	症例検討	山川 大志	第78回名古屋腎疾患研究会	2014/2/25
2	特別講演	山川 大志	研修医のための腎セミナー	2014/2/28
3	特別講演	山川 大志	東三河若手医師のための学術セミナー	2014/3/14
4	特別講演	山川 大志	東三河感染症・膠原病勉強会	2014/9/27
5	特別講演	山川 大志	東三河膠原病セミナー2014	2014/10/17
6	特別講演	山川 大志	東三河若手医師のための学術セミナー	2014/10/31

### <神経内科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	特別講演	空野 謙次	パーキンソン病を考える会in東三河	2014/2/6
2	特別講演	空野 謙次	東三河てんかんセミナー	2014/3/6
3	特別講演	空野 謙次	パーキンソン病を考える会in東三河	2014/8/29

### <血液・腫瘍内科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	ディスカッション	杉浦 勇	第10回東海骨髄腫フォーラム症例検討会	2014/2/22
2	Treatment Strategy in Mayo Clinic	杉浦 勇	Dr.Morie Gertz講演会	2015/4/9
3	特別講演 移植非適応多発性骨髄腫に対する治療戦略	杉浦 勇	Dr.Dimopoulos講演会	2014/9/24

<一般外科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	一般演題 大腸 1	平松 和洋	第41回愛知臨床外科学会	2014/2/11
2	LS-34ランチョンセミナー 演者「市中病院の一般外科医が考える大腸癌肝転移患者の治療戦略」	平松 和洋	第24回日本外科学会総会	2014/4/5

<心臓外科・血管外科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	一般演題	中山 雅人	第5回三遠心臓血管外科セミナー	2014/12/6

<肛門外科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	ストーマ排泄障害患者への教育・支援セッション	柴田 佳久	第31回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	2014/2/22
2	ICU・救急患者の栄養管理	柴田 佳久	第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会	2014/2/27
3	特別講演 がん終末期における輸液栄養治療を取り巻く問題（旭川医大緩和 中島信久）	柴田 佳久	第24回愛知三河緩和医療研究会	2014/3/8
4	特別講演 褥瘡ケアから現場の質を変える：後藤俊介；足助病院	柴田 佳久	第19回豊橋ストーマ・創傷処置連絡協議会セミナー	2014/5/31
5	特別講演・教育講演 当番会長・座長	柴田 佳久	第8回日本褥瘡学会在宅褥瘡セミナーin愛知	2014/6/15
6	症例検討と特別講演 総合司会	柴田 佳久	第23回東三河外科治療懇談会	2014/6/19
7	カテーテル塞栓術とdamaged control surgeryが奏功した外傷性SMA損傷の一救命例	柴田 佳久	第15回三河重症疾患研究会	2014/6/28
8	特別講演 総合司会	柴田 佳久	三河重症疾患meeting 2014	2014/7/12
9	緩和医療と褥瘡：ワークショップ	柴田 佳久	第16回日本褥瘡学会学術集会	2014/8/30
10	P P E Gと総合青山病院	柴田 佳久	第16回東三河地域連携栄養カンファランス	2014/10/3
11	がんチーム医療ワークショップ参加後の自院での取り組み	柴田 佳久	東三河がんチーム医療勉強会	2014/11/14
12	特別講演 電子連絡帳により褥瘡治療の連携について：山内智之	柴田 佳久	第20回豊橋ストーマ創傷処置連絡協議会セミナー	2014/11/15
13	特別講演 集中治療室における鎮静管理について	柴田 佳久	豊橋市民病院呼吸ケアチーム勉強会	2014/11/19
14	呼吸ケアチームの滑動と胸部写真の読影	柴田 佳久	呼吸ケア定期勉強会	2014/12/10
15	特別講演 誤嚥性肺炎予防・嚥下内視鏡検査。胃瘻。成分栄養剤の利用法	柴田 佳久	豊橋・豊川・蒲郡エリア経腸栄養勉強会	2014/12/17

### <リウマチ科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	生物学的製剤のRA頸椎病変進行抑制効果について(金山康秀先生)	平野 裕司	RA Nurse Seminar	2014/1/25
2	関節リウマチ治療最前線2014(高橋伸典先生)	平野 裕司	第5回東三河アクテムラカンファレンス	2014/2/7
3	TBCRにおけるAbataceptの治療成績と悩み多き統計手法(高橋伸典先生)	平野 裕司	Medical Statistical Methods Seminar For Rheumatoid Arthritis	2014/5/13
4	関節エコーの最新情報について(舟橋康治先生)	平野 裕司	第2回三河Orthopaedic Rheumatology研究会	2014/5/17
5	最新のリウマチ治療2014(金山康秀先生)	平野 裕司	第38回東三河リウマチ研究会	2014/5/31
6	関節リウマチ治療におけるオレンシアの使用ポイント(平原慎也先生)	平野 裕司	豊橋オレンシアセミナー	2014/6/20
7	関節リウマチ最新治療～トファシチニブはどうつかうのか?～(松井利浩先生)	平野 裕司	第7回東三河RA Expertセミナー	2014/7/10
8	骨粗鬆症診断と治療の進歩 2014(鈴木淳詞先生)	平野 裕司	第2回三河骨粗鬆症研究会	2014/10/18

### <脳神経外科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	座長	井上 憲夫	第99回東三河脳神経外科懇話会	2014/9/24
2	座長	井上 憲夫	ギリアデル Meet the Expert in 三河	2014/10/22

### <小児科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	特別講演	小山 典久	周産期医療講演会	2014/1/30
2	一般演題	山田 崇春	浜名湖カンファレンス2014	2014/3/2
3	周産期医療とこころのケア	小山 典久	平成26年度周産期医療従事者研修会(東三河北部・南部医療圏)	2014/6/7
4	一般演題(口演)「血液1」	小山 典久	第50回日本周産期・新生児医学会	2014/7/14
5	血液2	小山 典久	第59回日本未熟児新生児学会	2014/11/10
6	特別講演2 「小児気道感染症とマクロライドーその傾向と対策ー」	小山 典久	第174回 東三河小児科医会 学術講演会・臨時総会	2014/11/15
7	特別講演1 「小児診療におけるカルニチン欠乏」	伊藤 剛	第174回 東三河小児科医会 学術講演会・臨時総会	2014/11/15



<産婦人科・女性内視鏡外科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	当院における腹腔鏡下手術の取り組みについて	河井 通泰	第8回愛知県産婦人科医会学術研修会(三河ブロック)	2014/1/18
2	子宮内膜症の治療戦略～手術と薬物療法をどう選択するのか?～	梅村 康太	第8回愛知県産婦人科医会学術研修会(三河ブロック)	2014/1/18
3	浜松医療センターにおけるメディカルバースセンターについて メディカルバースセンターを支える医師の立場から	河井 通泰	周産期講演会	2014/1/30
4	婦人科腫瘍における化学療法と副作用対策	河井 通泰	第39回豊橋がん診療フォーラム	2014/2/20
5	抗ミューラー管ホルモンと血栓のリスクを考慮した子宮内膜症の治療方針	河井 通泰	三河地区産婦人科講演会	2014/2/22
6	子宮内膜症に対する薬物治療のトレンド～私はこう治療している～	河井 通泰	三河地区産婦人科講演会	2014/2/22
7	症例報告	松川 哲	浜名湖カンファレンス	2014/3/1
8	婦人科領域におけるAdvanced Minimally Invasive Surgery 腹腔鏡下手術最前線	梅村 康太	第2回東三河婦人科フォーラム	2014/6/28
9	当院における40歳以上高齢分娩の傾向と現状	岡田真由美	第50回日本周産期・新生児医学会	2014/7/15
10	静岡がんセンターにおけるチーム医療の実際～医師の役割～看護師の役割～	河井 通泰	第42回豊橋がん診療フォーラム	2014/7/31
11	産婦人科診療ガイドライン2014伝達講習会産科編	河井 通泰	平成26年度日本医師会生涯教育講座第3回学術研修会第2回母体保護法指定医師講習会	2014/8/23
12	ビデオカンファレンス	梅村 康太	愛知三河内視鏡セミナー	2014/8/30
13	腹腔鏡下仙骨脛固定術の安全な手技の実際と適応	梅村 康太	骨盤臓器脱における仙骨脛固定術を学ぶ会	2014/9/26
14	腹腔鏡下手術の限界への挑戦	梅村 康太	東海婦人科内視鏡ビデオクリニックセミナー	2014/11/21
15	LNG-IUSの臨床応用	河井 通泰	第7回学術研修会(三河ブロック)	2014/12/6

<産婦人科(生殖医療)>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	一般演題(口演)卵胞発育への介入(1) - 卵胞発育・卵巣刺激 -	安藤 寿夫	第59回日本生殖医学会	2014/12/4

<救急科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	一般演題30 災害訓練4	鈴木 伸行	第19回日本集団災害医学会	2014/2/26

<放射線科>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	治療 頭頸部	石原 俊一	日本医学放射線学会第155回中部地方会	2014/2/2

## 講 演 (医局)

### <消化器内科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	難治性潰瘍性大腸炎におけるIFXとTACの治療成績	山田 雅弘	名古屋Biologic Seminar	2014/2/6
2	当院における大腸ESDの現状	山田 雅弘	豊橋内科医会研修会	2014/5/22
3	もう怖くないおなかの病気, 今でも怖いおなかの病気 「講演3 肝臓」	浦野 文博	日本消化器病学会東海支部・第93回市民公開講座	2014/11/1

### <循環器内科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	災害時におけるDMATの役割	富田 崇仁	救急医療講習会	2014/2/8
2	心房細動と抗凝固療法	成瀬 賢伸	愛知県病院薬剤師会 東三河支部学術講演会	2014/5/29

### <腎臓内科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	慢性骨髄性白血病に対するダサチニブ投与で内皮障害を呈した1例	山川 大志	名古屋腎病理懇話会3月度例会	2014/3/28

### <糖尿病・内分泌内科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	高齢者の糖尿病治療と新薬の活用	山守 育雄	豊橋地域糖尿病治療ワークショップ	2014/6/24
2	2型糖尿病をどう治療するか -安全面への配慮を中心に-	山守 育雄	豊橋若手研修会	2014/7/1
3	日常診療に潜む内分泌疾患 -二次性高血圧と二次性糖尿病を中心に-	山守 育雄	第419回新城市医師会学術講演会	2014/7/16
4	糖尿病対策に関する一考察	山守 育雄	豊橋内科医会理事会	2014/8/7
5	経口糖尿病薬をどう使うか -適応の選択と留意点-	山守 育雄	豊橋内科医会講演会	2014/8/28
6	消化器内科医のための糖尿病治療学	山守 育雄	消化器医師のための生活習慣病セミナー	2014/9/26
7	内分泌・代謝	山守 育雄	東三河地区救急科講習	2014/10/20
8	糖尿病の手なづけ方 -こうして防ごう、治そう-	山守 育雄	第2回市民公開講座	2014/11/16
9	糖尿病をめぐる最近の話題	山守 育雄	第17回東三河病院歯科口腔外科懇話会	2014/11/19

## <血液・腫瘍内科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	「Philadelphia染色体陽性リンパ性白血病の新たな治療戦略」	杉浦 勇	Hematology and Oncology Seminar In Aichi 2014	2014/3/28
2	治療選択の肝 高齢層	杉浦 勇	骨髄腫セミナー2014	2014/5/8
3	Ph+ALLの新たな治療戦略	杉浦 勇	北陸白血病セミナー	2014/7/12
4	P h + A L L の新たな治療戦略	杉浦 勇	中越血液疾患懇話会	2014/10/16

## <肛門外科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	特別講演 人工肛門について	柴田 佳久	愛知三河ストーマ友の会	2014/3/8

## <リウマチ科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	25年の人工股関節 (RA、OA) の臨床経過 Uni-kneeとTKAにおける臨床経過を中心に	大石 幸由	第38回三河関節外科懇親話会	2014/2/6
2	関節リウマチ最新情報	平野 裕司	第2回関節リウマチセミナー	2014/2/13
3	レミケード10年からの考察	平野 裕司	レミケードRA10周年セミナー	2014/2/26
4	抗TNF製剤の臨床的パフォーマンス	平野 裕司	第3回Rheumatology Meeting in Niigata	2014/3/7
5	抗TNF製剤の臨床的パフォーマンス	平野 裕司	リウマチ治療セミナー	2014/3/8
6	関節リウマチ診療のテクニク	平野 裕司	関節リウマチ病診連携講演会	2014/3/27
7	関節リウマチにおけるイグマチモドの臨床的パフォーマンス	平野 裕司	イグマチモドの適正使用を考える会	2014/4/19
8	25年間における関節リウマチの臨床研究と治療	大石 幸由	第2回三河Orthopaedic Rheumatology 研究会	2014/5/7
9	関節リウマチの骨粗鬆症に対するフォルトオの効果～実臨床データからの解析～	平野 裕司	リウマチと骨粗鬆症学術講演会	2014/5/16
10	関節リウマチの骨粗鬆症に対するフォルトオの効果及びエビスタの最近の話題について	平野 裕司	Lilly Bone Web講演会	2014/6/3
11	関節リウマチの骨粗鬆症に対するテリバラチドの効果～実臨床データからの解説～	平野 裕司	第1回各務原テリバラチド研究会	2014/6/9
12	骨粗鬆症におけるデノスマブの可能性	平野 裕司	Denosumaab Symposium in豊橋	2014/6/24
13	ゴリムマブの臨床的パフォーマンス～多施設研究のデータをもとに～	平野 裕司	第6回三田市整形外科医会学術講演会	2014/7/3
14	T2T時代におけるアダリムマブの効果最大化のキーポイント	平野 裕司	第27回日本臨床整形外科学会学術集会 ランチョンセミナー2	2014/7/20
15	関節リウマチの骨粗鬆症に対するテリバラチドの効果～実臨床データからの解説～	平野 裕司	GIOPセミナー2014	2014/9/5
16	多施設研究の臨床データから考える関節リウマチ薬物治療におけるboDMARDsとcsDMARDsの効果的な使用法	平野 裕司	第29回日本臨床リウマチ学会 ランチョンセミナー2	2014/11/29

<脊椎外科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	脊椎疾患と医療安全	吉原 永武	第20回鶴舞脊椎カンファレンス	2014/6/5
2	骨・関節系難病との上手な付き合い方 ～脊椎疾患について～	吉原 永武	平成26年度骨・関節系難病患者・ 家族のつどい	2014/11/10

<脳神経外科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	「再手術を要した前頭蓋底骨折髄液漏 の症例」	若林 健一	第97回東三河脳神経外科懇話会	2014/1/29
2	STA-MCA吻合術後に皮下仮性動脈瘤 から出血をきたした一例	原口 健一	第55回名古屋大学医学部脳神経外 科同門会	2014/6/7
3	Closing Remarks	井上 憲夫	第7回豊橋脳卒中市民講座	2014/11/29

<小児科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	2013年の新生児統計	幸脇 正典	周産期医療講演会	2014/1/30
2	新生児蘇生法講習	山田 崇春	周産期医療講演会	2014/1/30
3	ピボキシル基含有抗菌薬長期内服によ る低カルニチン血症に関連した脳症の 一例	戸川 泰子	Carnitine Forum ～小児科領域の カルニチン欠乏症を考える～	2014/3/6
4	ともだちが重い病気になったとき	伊藤 剛	豊橋・学校いのちの日「いのち」 の授業	2014/6/17
5	児童虐待対応における医療機関の役割	小山 典久	児童虐待対応体制整備研修会	2014/7/31
6	豊橋市におけるロタウイルスワクチン 接種率と有効性	佐久間 肇	豊橋小児科医学会学術講演会	2014/9/6
7	見逃してはいけない小児の疾患・症状 について	小山 典久	小児救急に関する研修会	2014/11/27

<産婦人科・女性内視鏡外科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	2013年の産科統計	岡田真由美	周産期講演会	2014/1/30
2	当院における総合周産期母子医療セン ターおよびパースセンターの概要	河井 通泰	周産期講演会	2014/1/30
3	安全に腹腔鏡下子宮体がん根治術をお こなうために	梅村 康太	日本産科婦人科学会第66回学術講 演会	2014/4/19
4	子宮頸癌IIB期に対する同時化学放射 線療法の治療成績	池田 芳紀	第66回日本産科婦人科学会学術講 演会	2014/4/19
5	胎児頸部浮腫(nuchal translucency:NT)が認められた2例	岡田真由美	平成26年度周産期医療従事者研修 会(東三河・南部医療圏)	2014/6/7
6	産婦人科診療ガイドライン2014伝達講 習会、婦人科外来編	河井 通泰	平成26年度日本医師会生涯教育講 座、第3回学術研修会、第2回母 体保護法指定医師講習会	2014/8/23

<耳鼻いんこう科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	潰瘍性大腸炎の合併症と思われた重症 口腔潰瘍	亀井 千晴	第156回東海地方部会連合講演会 (東海地方部会 第411回 例会)	2014/3/16
2	頸部リンパ節生検	永島 義久	第8回Head and Neck forum	2014/3/17

<泌尿器科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	豊橋市民病院における前立腺癌に対する ロボット支援手術の現状	長井 辰哉	東三河泌尿器科医会(PSAフォー ーアップパス講演会)	2014/7/9
2	過活動膀胱の薬物療法の現状	長井 辰哉	愛知県病院薬剤師会病院東三河支 部学術講演会	2014/9/18
3	ロボット支援手術時代のミニマム創内 視鏡下手術	長井 辰哉	富山県泌尿器科木曜会	2014/12/18

<歯科口腔外科>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	周術期口腔機能管理のために知ってお きたい関連知識	嘉悦 淳男	愛知県歯科医師会 愛知県医師会 豊橋市歯科医師会 周術期口腔機 能管理医療連携講習会	2014/2/28
2	オーラルマネジメントその意義と重要 性について-超高齢社会に求められる 医療の観点から-	寺沢 史誉	第9回NST教育研修会	2014/6/4
3	口腔からみえる全身疾患へのアプロ ーチ	寺沢 史誉	高崎市学術振興協会講演会	2014/10/11
4	糖尿病教室への歯科的介入と歯周病啓 蒙活動-STOP THE 糖尿病・STOP THE 歯周病PROJECT-	白水 敬昌	第17回東三河病院歯科口腔外科懇 話会	2014/11/19
5	診療連携の重要性と周術期口腔管理	嘉悦 淳男	愛知県歯科医師会 愛知県医師会 平成26年度 医療連携講演会	2014/12/7

## 論文・著書 (医局)

### <消化器内科>

No.	題名	区分	氏名	雑誌名
1	造影カラードプラ超音波内視鏡検査により診断しえた膵十二指腸動脈瘤の1例	筆頭著者	松原 浩	Jpn J Med Ultrasonics 2014; 41(1) 31-35
2	より苦痛の少ない検査へ -大腸内視鏡検査編	共同著者	山田 雅弘	Pharma Media 32(2): 137-142, 2014
3	脾動脈瘤破裂が原因となった hemosuccus pancreatitisの1例	筆頭著者	高崎 哲郎	東三医学会誌 第36号(2014年3月) 44-46
4	A large-scale, prospective, observational study of leukocytapheresis for ulcerative colitis: Treatment outcomes of 847 patients in clinical practice	共同著者	Masahiro Yamada	Journal of Crohn's and Colitis (2014) 8, 981-991
5	Effect of Peginterferon alfa-2b and Ribavirin on Hepatocellular Carcinoma Prevention in Older Patients with Chronic Hepatitis C	共同著者	Urano F	J Gastroenterol Hepatol 2014 Aug 5
6	造影超音波検査が肝浸潤を伴う胆嚢癌との鑑別に有用であった黄色肉芽腫性胆嚢炎の1例	筆頭著者	竹山 友章	胆道 28(5) 772-777 (2014)
7	The preventive effects of low-dose enteric-coated aspirin tablets on the development of colorectal tumours in Asian patients:a randomised trial.	共同著者	Okamura S	Gut 63(11):1755-9 2014 Nov

### <血液・腫瘍内科>

No.	題名	区分	氏名	雑誌名
1	成人Ph陽性ALLの治療	筆頭著者	杉浦 勇	臨床血液 第55巻,第10号,P264-272

### <一般外科>

No.	題名	区分	氏名	雑誌名
1	腹腔鏡下に切除した肝外発育型肝血管腫の1例	筆頭著者	駒屋 憲一	日本臨床外科学会雑誌 75 3 764-768 2014
2	総胆管に穿破した膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)の1例	筆頭著者	高橋大五郎	胆道 28 22 200~206 2014
3	大腿部ガス壊疽と診断された十二指腸憩室後腹膜穿孔の1例	筆頭著者	金子 博和	日本臨床外科学会雑誌 75 6 1588-92 2014
4	十二指腸部分切除時に術中内視鏡の併用が有用であった1例	筆頭著者	前田 孝	日本臨床外科学会雑誌 75 7 1867-1871 2014
5	幽門輪に隣接した十二指腸神経内分泌腫瘍の1例	筆頭著者	篠原健太郎	日本臨床外科学会雑誌 75 8 2199-2202 2014
6	膵頭十二指腸切除術にて根治切除した大腸癌術後再発の3例	筆頭著者	高橋大五郎	日本臨床外科学会雑誌 75 11 3108-3114 2014
7	イマチニブによる術前化学療法後、切除し得えた胃巨大GISTの1例	筆頭著者	南 貴之	癌と化学療法 41 9 1163-1166 2014

### <呼吸器外科>

No.	題名	区分	氏名	雑誌名
1	Bochdalek孔ヘルニアと鑑別を要した横隔膜脂肪腫の1例	筆頭著者	直海 晃	胸部外科67(10)942-945
2	胸腺全洞が有効と見られた胸腺腫合併難治性口腔内苔癬の1例	筆頭著者	直海 晃	肺癌54(7)947-950
3	Complications of Bronchial Stapling in Thoracic Surgery	共同著者	Kunio Narita	World Journal of Surgery38:341-346

### <肛門外科>

No.	題名	区分	氏名	雑誌名
1	術前化学放射線療法で病理学的完全奏効(粘液変化)となった局所進行直腸癌の1例	筆頭著者	柴田 佳久	外科 76 9 1053-1056 2014

### <移植外科>

No.	題名	区分	氏名	雑誌名
1	持続血糖測定解析によりステロイド剤を夕方内服とし耐糖能の改善をみた腎移植2症例	筆頭著者	長坂 隆治	日本臨床腎移植学会雑誌 2(1):111-115,2014
2	高用量ミゾリビン療法にて抗体獲得にいたったCMV抗体ドナー陽性/レシピエント陰性の腎移植症例	筆頭著者	長坂 隆治	今日の移植 Vol.27,No.5,SEPTEMBER,2014

### <リウマチ科>

No.	題名	区分	氏名	雑誌名
1	関節リウマチ患者の実臨床における treat to target ～発症1年以内における検討～	筆頭著者	竹本 元大	中部整災誌 57 : 371-372; 2014
2	トシリズマブ効果不十分の関節リウマチに対するタクロリムスの追加併用療法	筆頭著者	平野 裕司	中部整災誌 57 : 373-374; 2014
3	生物学的製剤とテリパラチド連日投与製剤の併用が関節リウマチの患者の骨密度と骨代謝マーカーにあたえる影響	筆頭著者	竹本 元大	中部リウマチ 44: 17-21; 2014
4	関節リウマチにおけるエタネルセプトのステロイド減量効果とステロイド減量がエタネルセプトの治療に与える影響	筆頭著者	富田 浩之	中部リウマチ 44: 29-33; 2014
5	関節リウマチにおける生物学的製剤使用例に対するメトトレキサートの週8mgを超える投与の治療成績	筆頭著者	田中 宏昌	中部リウマチ 44: 25-28; 2014
6	関節リウマチにおけるアダリムマブの効果に対する前治療のメトトレキサートの治療効果の影響 - 多施設研究登録システムTBCRより -	筆頭著者	平野 裕司	新薬と臨牀 63: 1448-1455; 2014
7	ステロイド性骨粗鬆症に対するテリパラチド連日投与製剤の有用性	筆頭著者	平野 裕司	リウマチ科 52 : 587-592; 2014
8	関節リウマチに対するタクロリムスの効果～併用薬剤の有無と種類による比較～	筆頭著者	平野 裕司	臨床リウマチ 26: 275-281; 2014
9	抗TNF製剤3剤の早期臨床効果の比較～ゼロヨン研究～	筆頭著者	平野 裕司	臨床リウマチ 26: 291-297; 2014

<脳神経外科>

No.	題名	区分	氏名	雑誌名
1	「大事なことだけギュギュッと凝縮!脳神経疾患 & 治療 まるわかり帳」治療編 脳室ドレナージシャント術	筆頭著者	奥村衣里子	Brain Nursing 30:393-395;2014
2	脳出血における血腫増大および予後に関連する因子について	筆頭著者	雄山 博文	脳卒中の外科 42:439-446,2014

<小児科>

No.	題名	区分	氏名	雑誌名
1	早産児晚期循環不全（早産児急性期離脱後循環不全）	共同著者	小山 典久	改訂2版 新生児内分泌ハンドブック副腎皮質40-52新生児内分泌研究会2014
2	5.輸血療法	共同著者	小山 典久	NICUマニュアル 第5版Ⅲ章 ハイリスク児181-189新生児医療連絡会2014
3	L 交換輸血	共同著者	小山 典久	NICUマニュアル 第5版V章 手技631-635新生児医療連絡会2014
4	輸血感染症	筆頭著者	幸脇 正典	周産期医学 44巻705-708頁2014年
5	Spontaneous movements in the supine position of preterm infants with intellectual disability	筆頭著者	Masanori Kouwaki	Brain & Development 36巻572-577頁2014年
6	胆嚢腫大を合併した川崎病にショックを伴った1例	筆頭著者	長柄 俊佑	小児感染免疫 25巻407-411頁2014年
7	Hypoxic ischemic encephalopathy in a case of intranuclear rod myopathy without any prenatal sentinel event.	筆頭著者	Koya Kawase	Brain & Development 2014年
8	Clinical features of late-onset circulatory dysfunction in premature infants	筆頭著者	Norihisa Koyama	Reserch and Reports in Neonatology 4号139-145頁2014年
9	児童虐待の現状と課題	筆頭著者	小山 典久	愛知県小児科医会会報 100号 14-18頁2014年

<産婦人科・女性内視鏡外科>

No.	題名	区分	氏名	雑誌名
1	Extremely poor postrecurrence oncological outcome for patients with recurrent mucinous ovarian cancer	共同著者	Kawai M	Int J Clin Oncol 19: 121-126 2014
2	Mutation analysis of FOXL2 p.C134W and expression of bone morphogenetic protein 2 in Japanese patients with granulosa cell tumor of ovary	共同著者	Kawai M	J Obstet Gynaecol Res 40: 1197-1204 2014
3	Survival benefit of taxane plus platinum in recurrent ovarian cancer with non-clear cell ,non-mucinous histology	共同著者	Kawai M	J Gynecol Oncol 25: 43-50 2014
4	Clinicopathologic features of epithelial ovarian carcinoma in younger vs. older patients :analysis in Japanese women	共同著者	Michiyasu Kawai	J Gynecol Oncol 25: 118-123 2014
5	Oncologic outcome after recurrence in patients with stage I epithelial ovarian cancer: are clear - cell and mucinous histological types a different entities?	共同著者	Michiyasu Kawai	Eur J Obstet Gynecol Reproductive Biology 181: 305-310 2014



6	Recurrence-predicting prognostic factors for patients with early-stage epithelial ovarian cancer undergoing fertility-sparing surgery: a multi-institutional study	共同著者	Michiyasu Kawai	Eur J Obstet Gynecol Reproductive Biology 175: 97-102 2014
7	Uterine sutures at prior caesarean section and placental accrete in subsequent pregnancy: a case-control study	共同著者	M Kawai	BJOG 121: 866-874 2014
8	分娩中に自然子宮破裂を発症した血管型 Ehlers-Danlos症候群の一例	筆頭著者	池田 芳紀	日本周産期・新生児医学会雑誌 50:1088-1094 2014
9	子宮内膜症性嚢胞摘出後の妊娠分娩転帰に関する検討	筆頭著者	池田 芳紀	日本エンドメトリオーシス会誌 35: 228-232 2014
10	産婦人科診療ガイドライン2014伝達講習会 婦人科外来編 CQ107, CQ409, CQ410, CQ416, CQ417 他の改正点解説	筆頭著者	河井 通泰	東海産科婦人科学会雑誌 51: 49-54 2014

### <産婦人科 (生殖医療)>

No.	題 名	区分	氏名	雑 誌 名
1	子宮内膜症性嚢胞摘出術後の妊娠分娩転帰に関する検討	筆頭著者	池田 芳紀	日本エンドメトリオーシス学会誌 35巻 Page 228-232 (2014)
2	不妊専門相談センター活動における職種間連携と看護職への期待—医師の立場から—	筆頭著者	安藤 寿夫	日本生殖看護学会誌 第11巻第1号 Page 65-67 (2014)
3	移植胚タイムラプス動画供覧後の女性不妊患者の心理変化	筆頭著者	北見 和久	日本不妊カウンセリング学会誌 第13巻第2号 Page 169-174 (2014)
4	生殖医学の必修知識 日本生殖医学会編	共同著者	安藤 寿夫	杏林舎 (2014)

### <眼科>

No.	題 名	区分	氏名	雑 誌 名
1	肥厚性硬膜炎に伴う視神経障害の治療中に大腸癌の多発肝転移が発見された1例	筆頭著者	西原 裕晶	臨床眼科Vol.68,NO.4,2014

### <泌尿器科>

No.	題 名	区分	氏名	雑 誌 名
1	出血の少ない前立腺全摘術-背静脈群個別血管処理法による出血コントロール—	筆頭著者	長井 辰哉	日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会雑誌 6(1)1,15-20,2014
2	臍創から行う腎部分切除術	筆頭著者	長井 辰哉	日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会雑誌 6(1)1,65-70,2014

### <放射線科>

No.	題 名	区分	氏名	雑 誌 名
1	Patterns of practice in the radiation therapy for bladder cancer:survey of the Japanese Radiation Oncology Study Group(JROSG)	共同著者	Ishihara S	Jpn J Clin Oncol 44(11):1109-15 2014 Nov

<歯科口腔外科>

No.	題 名	区分	氏名	雑 誌 名
1	上顎に発生した類腱型エナメル上皮腫の1例	共同著者	白水 敬昌	日本口腔外科学会誌 60(3):22-6,2014
2	4歳児の下顎骨に生じた巨細胞腫の1例	筆頭著者	瀬瀬 衆	日本口腔外科学会誌 60(4):65-8,2014

## 学会・研究会発表（診療技術局・薬局・看護局・事務局）

### <放射線技術室>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	骨シンチのピットフォールとその対策 特殊な症例について	筆頭演者	加藤 豊大	第89回東三河RI技術検討会	2014/6/27
2	当院における胃癌の統計	筆頭演者	早川 充俊	豊橋がん診療フォーラム	2014/9/18
3	放射線治療監査の試み	筆頭演者	鈴木 資巳	第53回全国自治体病院学会in宮崎	2014/10/30
4	トモシンセシスのディスク法によるスライス厚測定法の検討	筆頭演者	滝 亮馬	第7回中部放射線医療技術学術大会	2014/11/2
5	グラフプロット法における撮像開始時間が定量値に与える影響	筆頭演者	加藤 豊大	第90回東三河RI技術検討会	2014/11/17
6	乳腺エコーのワークフロー	筆頭演者	佐野めぐみ	医用画像管理セミナー	2015/2/22
7	脳血流SPECTのピットホールとその対策 収集に関するQ&A	筆頭演者	加藤 豊大	第91回東三河RI技術検討会	2015/3/14
8	移動型FPD撮影システムの導入による効果の検討	筆頭演者	滝 亮馬	第26回愛知県診療放射線技師学会学術大会	2015/3/22
9	各施設の造影心臓CT検査について	筆頭演者	盛田 健人	第17回東三河CT研究会	2015/3/18

### <中央臨床検査室>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	平成25年度愛臨技精度管理調査報告「細胞検査部門」	筆頭演者	榊原 沙知	愛臨技学術部病理細胞検査研究班研究会	2014/4/12
2	当施設における精子凍結保存 15年の歴史と現状	筆頭演者	鈴木 範子	第55回日本卵子学会学術集会	2014/5/17
3	多項目自動血球装置XN-1000を用いて脳脊髄液で検出した症例の検討	筆頭演者	内田 一豊	第63回日本医学検査学会	2014/5/17 ～18
4	POCT対応血糖測定機器 アントセンスデュオの基礎的検討	筆頭演者	池田彩也花	第63回日本医学検査学会	2014/05/18
5	POCT対応血糖測定器のアントセンスデュオの基礎的検討と使用について	筆頭演者	内田 一豊	第57回日本糖尿病学会年次学術学会	2015/5/22 ～24
6	POCT対応血糖測定器5機種と比較検討	筆頭演者	濱田 智博	第15回愛知県医学検査学会	2014/6/1
7	脳ドックの頸動脈超音波検査で発見された食道癌の1例	筆頭演者	三ツ矢康乃	第15回愛知県医学検査学会	2014/6/1
8	タイムラプスインキュベーターによるICSI後透明帯脱出胚の培養経験	筆頭演者	鈴木 範子	第37回中部生殖医学会	2014/6/9
9	アルブミン(ALB)製剤の輸血部門一元管理について	筆頭演者	市川 寛子	第32回愛臨技東三河地区研究会	2014/7/13
10	NSTにおけるクストリジウム・デシフル毒素の検討と症例報告	筆頭演者	小島 克枝	第32回愛臨技東三河地区研究会	2014/7/13
11	造影超音波検査を施行した慢性胆嚢炎の一例	筆頭演者	笹山 里菜	第32回愛臨技東三河地区研究会	2014/7/13
12	HE染色における伸展・乾燥条件の検討	筆頭演者	宮野 拓也	第32回愛臨技東三河地区研究会	2014/7/13
13	多項目自動血球装置XN-1000を用いて体腔液で検出した症例の検討	筆頭演者	内田 一豊	第15回日本検査血液学会学術集会	2014/7/20 ～21

14	愛知県三河地区7施設における血液培養検査実施状況	筆頭演者	山本 優	平成26年度中部圏支部医学検査学会	2014/9/27
15	当院におけるクリオプレシビエートの使用経験	筆頭演者	神谷 光宏	第53回全国自治体病院学会	2014/10/30
16	タイムラプス動画情報のみで選択した移植胚の発生予後を改めて紡錘体可視の有無別に検討した研究	筆頭演者	高柳 武志	第59回日本生殖医学会	2014/12/4
17	当院産婦人科におけるクリオプレシビエート使用状況について	筆頭演者	神谷 光宏	第64回日本輸血・細胞治療学会東海支部例会	2015/2/7

### <リハビリテーション技術局>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	重度失語症の一例におけるVisual Action Therapyの訓練効果	筆頭演者	大久保瑞姫	第6回あいちST合同リハビリカンファレンス	2014/5/24
2	異なるプログラムによる末梢性顔面神経麻痺に対する早期リハビリテーションの効果 柳原法麻痺スコア・Sunnybrook法による比較	筆頭演者	森嶋 直人	第36回日本顔面神経学会	2014/5/29
3	安定期における慢性閉塞性肺疾患患者の身体活動量に影響する因子の検討	筆頭演者	沢入 豊和	第49回日本理学療法学術大会	2014/5/30
4	小児がん治療中に筋力体力低下を呈した患児の理学療法の現状	筆頭演者	神谷 猛	第49回日本理学療法学術大会	2014/6/1
5	日本語より英語での喚語が容易であった一失語症例	筆頭演者	中尾 和泉	第15回日本言語聴覚学会	2014/6/28
6	当院における摂食嚥下リハビリテーションの現状について	筆頭演者	近藤真巳子	第53回全国自治体病院学会	2014/10/30
7	重度失語症者に対する描画訓練の検討	筆頭演者	大久保瑞姫	第6回愛知学院大学卒業後研修会	2014/11/8
8	中枢神経原発悪性リンパ腫を呈した症例の経験	筆頭演者	神藤 佳輔	第14回東海北陸作業療法学会	2014/11/15
9	重度左半側空間無視患者に対するプリズム順応課題の試み	筆頭演者	横江 玲奈	第14回東海北陸作業療法学会	2014/11/15
10	哺乳瓶依存状態と判断し経過観察となり食道アカシアが判明したダウン症児	筆頭演者	神谷 猛	第22回愛知NST研究会	2014/11/15
11	当院における産科領域に対する理学療法介入について	筆頭演者	森坂 文子	第30回東海北陸理学療法学術大会	2014/11/15
12	Body lateropulsionを呈した症例に対する膝関節屈伸アシスト装具使用の有用性	筆頭演者	神谷 昌孝	第30回東海北陸理学療法学術大会	2014/11/16
13	異なるプログラムによる末梢性顔面神経麻痺に対する早期リハビリテーションの効果 -表面筋電図による比較-	筆頭演者	森嶋 直人	第44回日本臨床神経生理学会学術大会	2014/11/20
14	急性期脳卒中患者に対する膝関節屈伸アシスト装具使用の即時効果	筆頭演者	神谷 昌孝	第40回日本脳卒中学会総会	2015/3/28

### <臨床工学室>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘出手術の工程分類と所要時間調査	筆頭演者	小島 佳澄	第53回全国自治体病院学会	2014/10/30

<薬局>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	「がん患者の薬薬連携を語ろう！ “Face to Face” 保険薬局薬剤師・ 病院薬剤師合同ワークショップ開催 報告～」	共同演者	鈴木 善貴	第19回日本緩和医療学会学術 大会	2014/6/21
2	Safety management of cancer chemotherapy patients -The need for monitoring of new anticoagulants-	筆頭演者	Yoshitaka Suzuki	The52nd Annual Meeting of Japan Society of Clinical Oncology (JSCO2014)	2014/8/30
3	新規抗凝固薬が併用されるがん化 学療法患者の安全管理	共同演者	鈴木 善貴	第24回日本医療薬学会年会	2014/9/27
4	抗がん薬に関するプレアボイド報 告の検討	筆頭演者	原田 哲彦	第24回日本医療薬学会年会	2014/9/27
5	救命救急センターICUにおける薬 剤師の介入～注射薬管理～	筆頭演者	村上 仁志	第24回日本医療薬学会年会	2014/9/28
6	手足症候群に対する治療支援ツ ールを使用した薬剤師の介入～多施 設での試用調査～	共同演者	鈴木 善貴	第24回日本医療薬学会年会	2014/9/28
7	サリドマイド製剤の安全管理及び 運用の現状	筆頭演者	鈴木龍一郎	第53回全国自治体病院学会	2014/10/30
8	麹菌A.oryzaeのエラスターゼイン ヒビター様タンパク質	共同演者	平松穂乃花	第14回糸状菌分子生物学コン ファレンス	2014/11/16
9	サレド®カプセルとステロイド剤 併用療法の現状 ～服薬アドヒアランスの向上と維 持の工夫～	筆頭演者	小西 美帆	愛知県病院薬剤師会東三河支 部会員勉強発表会	2015/2/12
10	重症熱帯熱マラリアの診療支援と 院内伝播防止策を行って	共同演者	佐藤 勝紀	第30回日本環境感染学会総 会・学術集会	2015/2/20
11	外来治療センターで行った結核接 触者健診の結果と考察	共同演者	佐藤 勝紀	第30回日本環境感染学会総 会・学術集会	2015/2/20
12	当院におけるCandida属菌の抗真 菌薬感受性および抗真菌薬の使用 状況	筆頭演者	佐藤 勝紀	第30回日本環境感染学会総 会・学術集会	2015/2/20

<看護局>

No.	演 題 名	区分	氏名	学会・研究会名	発表年月日
1	熱帯熱マラリアの診療に関わって	筆頭演者	高橋 一嘉	三河感染・免疫研究会	2014/7/12
2	乳がん患者の心理社会的問題への 早期からの看護介入を目指して～ 看護師アンケートによる現状把握 ～	筆頭演者	浅井まりこ	第11回日本乳癌学会中部地方 会	2014/9/13
3	外来における継続看護～患者・家 族の希望に沿った在宅療養を目指 して～	筆頭演者	佐藤 涼子	2014年固定チームナーシング 全国研究集会	2014/9/14
4	育児支援書を活用した母への関わり ～他チームへの継続看護をめざ して～	筆頭演者	中村 公香	2014年固定チームナーシング 全国研究集会	2014/9/14
5	安静治療を受ける妊婦に対する援 助～理学療法士との共働で取り組 んだ筋力訓練の効果～	筆頭演者	小泉 愛	2014年固定チームナーシング 全国研究集会	2014/9/14
6	経腸栄養施行方法の工夫による下 痢の改善をはかる～つぶし食の経 管投与～	筆頭演者	鈴木 道子	2014年固定チームナーシング 全国研究集会	2014/9/14

7	急性期脳卒中患者のADL拡大への関わり	筆頭演者	山内由美子	2014年固定チームナーシング全国研究集会	2014/9/14
8	糖尿病患者と医療者との共同ケアを目指した療養支援～SCAQを使用して～	筆頭演者	石井 美穂	第19回日本糖尿病教育・看護学会学術集会	2014/9/21
9	業務改善と看護の質から生まれたもの(たかがおむつされどおむつ)	筆頭演者	間瀬 有奈	第53回全国自治体病院学会	2014/10/31
10	バルーン訓練と間欠的口腔食道経管栄養法を導入したワレンベルグ症候群の一事例	筆頭演者	黒木 聡子	第53回全国自治体病院学会	2014/10/31
11	「絶対口から食べたい」という仮性球麻痺患者の思いを支えた看護介入	筆頭演者	平井 あゆ	第53回全国自治体病院学会	2014/10/31
12	ラテックスアレルギー対策について～安全な環境づくりを試みて～	筆頭演者	洞口 尚子	第53回全国自治体病院学会	2014/10/31
13	弾性ストッキング着用による皮膚障害の予防	筆頭演者	立岩 加絵	第53回全国自治体病院学会	2014/10/31
14	救急外来における災害訓練活動～災害初期行動の習得に向けた訓練用DVD作成～	筆頭演者	小田 育代	第53回全国自治体病院学会	2014/10/31
15	術後在院日数に着目したTHA症例に対する看護師介入の検討	筆頭演者	杉浦未奈代	平成26年度 愛知県看護研究会	2014/11/7
16	脳梗塞による意識障害がある患者への経口摂取に向けた取り組み	筆頭演者	黒木 聡子	平成26年度 愛知県看護研究会	2014/11/7
17	社会復帰過程にある胃切除患者の身体症状と自己効力感の関連	筆頭演者	鈴木 宏昌	第76回臨床外科学会総会	2014/11/22
18	患者・家族の思いに添った退院支援活動を考える～カンファレンスを活用して～	筆頭演者	長江 忍	固定チームナーシング研究会第14回中部地方会	2014/11/22
19	患者の不安を軽減する術前オリエンテーションを目指して	筆頭演者	浅井まり子	固定チームナーシング研究会第14回中部地方会	2014/11/22
20	小集団で取り組んだ外来の環境整備～リウマチ患者の点滴治療を受け入れて～	筆頭演者	加藤 直美	固定チームナーシング研究会第14回中部地方会	2014/11/22
21	チームで取り組んだ退院支援～退院支援カンファレンスをとおして～	筆頭演者	倉島 里奈	固定チームナーシング研究会第14回中部地方会	2014/11/22
22	碎石位頭低位25度に対する褥瘡予防方法への取り組み～ロボット補助下前立腺全摘除術25症例を経験して～	筆頭演者	山崎 知道	第7回日本ロボット外科学会	2015/2/7
23	重症熱帯熱マラリアの診療支援と院内伝播防止策を行って	筆頭演者	高橋 一嘉	第30回日本環境感染学会総会・学術集会	2015/2/20
24	外来治療センターで行った結核接触者健診の結果と考察	筆頭演者	伊藤賀代子	第30回日本環境感染学会総会・学術集会	2015/2/20
25	救急外来におけるアクションカード作成の一考察	筆頭演者	菊地 直幸	第20回日本集団災害医学学会総会・学術集会	2015/2/26
26	創し開に発生した小腸瘻ケアの一例	筆頭演者	鈴木 雅恵	第32回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会	2015/2/28

## 座長・司会（診療技術局・薬局・看護局・事務局）

### <放射線技術室>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	核医学検査 SPECT：基礎1	市川 肇	第70回日本放射線技術学会 総会 学術大会	2014/4/19
2	ビギナーのためのMR I 講座	畑井 博晶	第67回東三河RF研究会	2014/5/9
	頭部検査を理解する 3Dシーケンスの基礎			
3	ポータブル撮影におけるFP化の問題点	三浦 俊一	第8回東三河一般撮影研究会	2014/5/24
	小児X線撮影における散乱線除去用グリッドの使用を考える			
	ImageJを使ってみよう～初級から上級まで～			
4	一般演題・症例検討	加藤 豊大	第89回東三河RI技術検討会	2014/6/27
5	脂肪抑制技術の基礎	畑井 博晶	第67回東三河RF研究会	2014/9/12
	脊椎撮像の基礎とポイント			
	救急・時間外MR I 検査の安全管理			
6	脳血流SPECTのピットホールとその対策 －定量編－	加藤 豊大	第90回東三河RI技術検討会	2014/11/17
7	検像業務と読影補助の現状と将来	大井 康弘	愛知県放射線技師会 第3回研修会	2014/11/29
8	上腹部撮影技術の変遷とMR I 最新技術	畑井 博晶	第59回MR 研究会 MR I セミナ ー	2014/1/31
9	薬事法改正後における核医学ソフトウェアの動向	加藤 豊大	第91回東三河RI技術検討会	2015/3/14
10	各施設の造影心臓CT検査について	磯部 晃	第17回東三河CT研究会	2015/3/18

### <中央臨床検査室>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	生理部門	手嶋 充善	第15回愛知県医学検査学会	2014/6/1

### <リハビリテーション技術局>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	豊橋市の医療と介護の連携のカタチ	森嶋 直人	豊橋市運動機能向上研修会	2014/6/10
2	内部障害理学療法③	上村 晃寛	第24回愛知県理学療法学会学術集会	2015/3/1

### <臨床工学室>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	一般演題1	三浦 伸一	第38回日本体外技術医学会東海地方会	2015/1/17

## <薬局>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	心房細動の抗凝固療法肝細胞がん治療の現状	石川 元章	愛知県病院薬剤師会東三河支部会	2014/5/29
2	前立腺がんの診断と治療 手術療法・ホルモン治療を中心に	安藤 陽一	愛知県病院薬剤師会東三河支部 学術講演会	2014/7/17
3	薬剤師が推進する医療安全管理 ～睡眠薬のリスクとベネフィット～	水野 充章	愛知県病院薬剤師会東三河支部 学術講演会	2014/10/16
4	気管支喘息における吸入療法・吸入指導の意義	石田 隆浩	第3回豊橋薬業連携研修会	2014/10/23
5	がん化学療法施行時の制吐療法	石田 隆浩	愛知県病院薬剤師会学術講演会	2014/11/13
6	抗がん薬の被爆対策の経緯を過去から振り返る	石田 隆浩	東三河リスクマネージメント研究会	2014/12/2
7	腎機能低下、腎不全症例に対する薬剤の使い方	石田 隆浩	第4回豊橋薬業連携研修会	2015/2/5

## <看護局>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	洗浄・消毒・滅菌についてpart1	高橋 一嘉	第7回東三河感染対策管理者座談会	2014/6/14
2	脳血管障害の看護	中村由美子	2014年固定チームナーシング全国研究集会	2014/9/14
3	終末期の看護	金田千恵子	2014年固定チームナーシング全国研究集会	2014/9/14
4	洗浄・消毒・滅菌part2	高橋 一嘉	第8回東三河感染対策管理者座談会	2014/10/19
5	脳神経看護	平井 あゆ	第8回東海脳神経看護研究会	2015/2/14
6	座談会参加メンバーの質問を共有しよう	高橋 一嘉	第10回東三河感染対策管理者座談会	2015/2/28

## <事務局>

No.	演 題 名	座長名	学会・研究会名	発表年月日
1	DICOMサーバを作ろう！～実践～	原瀬 正敏	日本放射線技術学会中部部会 平成26年度第1回医療情報システム研究会	2014/8/30
2	CLISTA!活用事例紹介	原瀬 正敏	診療情報の二次利用に関する研究会中部地区	2014/10/30
3	これからの線量管理と医療情報システムの活用	原瀬 正敏	第7回中部放射線医療技術学術大会 教育セミナー	2014/11/1
4	デジタルマンモグラフィに必要なDICOMの知識	原瀬 正敏	第3回医療情報システム全国合同研究会	2015/2/7
5	シンポジウム 各施設の医用画像システムにおける課題と解決方法	原瀬 正敏	第3回医療情報システム全国合同研究会	2015/2/8
6	いま、なぜ線量管理？	原瀬 正敏	平成26年度日本医用画像管理学会 医用画像管理セミナーin名古屋	2015/2/14
7	実践 線量管理の意義と実情	原瀬 正敏	平成26年度日本医用画像管理学会 医用画像管理セミナーin名古屋	2015/2/15



## 講 演（診療技術局・薬局・看護局・事務局）

### <放射線技術室>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	MRIで見る胃癌の深達度	三浦 俊一	豊橋がん診療フォーラム	2014/09/18
2	アーチファクトの原因と対策	畑井 博晶	第69回東三RF研究会	2015/2/6

### <中央臨床検査室>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	臨床検査値の見方について	小島 克枝	第108回NST定期教育講演会	2014/5/21
2	臨床検査値の見方について	夏目 篤二	NST教育カリキュラム	2014/6/17
3	超音波道場(心臓)	手嶋 充善	第39回超音波検査学会	2014/6/13 ～15
4	細胞診基礎講座「リンパ節」	内田 一豊	愛知県細胞学会検査士支部	2014/7/21
5	この症例を見ないと帰れま10 心臓	手嶋 充善	東海エコーカンファレンス	2014/8/24
6	超音波内視鏡下穿刺吸引生検 (EUS-FNAB)における細胞診検査 -その役割と細胞像について-	夏目 篤二	第44回豊橋がん診療フォーラム	2014/11/20
7	Gエコー装置(LOGQシリーズ)を使用した頸動脈の取り方・見方	手嶋 充善	超音波ハンズオンセミナー	2144/11/22
8	標本作成から鏡検へ	山本 明美	平成26年度パ法技術者研修会	2014/11/26

### <リハビリテーション技術局>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	顔面神経麻痺リハビリテーション診療の進め方	森嶋 直人	第5回顔面神経麻痺のリハビリテーション技術講習会	2014/5/28
2	病的共同運動発現の予後予測 -リハビリテーションの立場から-	森嶋 直人	第37回日本顔面神経学会	2014/5/30
3	テレビを観ながらできる運動について	神谷 昌孝	豊橋糖尿病友の会総会	2014/11/12
4	中枢神経原発悪性リンパ腫症例の作業療法について	神藤 佳輔	第45回豊橋がんフォーラム	2015/1/15

### <臨床工学室>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	当院の災害対策について	安藤 俊昭	第7回東三河地区透析研修会	2015/2/1

<薬局>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	当院の輸液製剤について	坂部 米治	N T S 定期教育	2014/6/18
2	「薬」の取り扱いについて -処方薬について-	石川 雅子	リスクマネジメント講習会	2014/7/14
3	「薬」の取り扱いについて -麻薬について-	柳沼 妙子	リスクマネジメント講習会	2014/7/14
4	「薬」の取り扱いについて -抗がん薬について-	菰田 容子	リスクマネジメント講習会	2014/7/15
5	「薬」の取り扱いについて -注射薬について-	坂部 米治	リスクマネジメント講習会	2014/7/15

<看護局>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	リソースナースの活動を支えるもの -認定看護師の立場から-	三浦 敦子	第10回クリティカルケア看護学会	2014/5/24
2	基礎講座 滅菌Ⅲ	高橋 一嘉	2014年中部地区中材業務研究会	2014/7/6
3	看護政策がもたらす医療現場への影響 と看護管理	菱田由紀子	豊橋創造大学	2014/7/18
4	急性症状の理解と対策・対応	佐藤 美弥	平成26年度がん看護ジェネラリスト ナース育成プログラム	2014/9/15
5	病院における感染対策の現状と課題	高橋 一嘉	豊橋創造大学	2014/10/31
6	外来化学療法の実際	小松 景子	平成27年度がん看護ジェネラリスト ナース育成プログラム	2014/11/9
7	褥瘡予防対策	鈴木 雅恵	愛知県がんセンターがん看護ジェ ネラリスト育成プログラム	2014/11/29

<事務局>

No.	演 題 名	演者名	学会・研究会名	発表年月日
1	システム導入後の評価に向けての第一 歩 ~医療情報部門の立場より~	原瀬 正敏	第70回日本放射線技術学会総会学 術大会 第23回医療情報分科会	2014/4/13
2	DICOM概論	原瀬 正敏	日本放射線技術学会中部部会 平成26年度第1回医療情報シス テム研究会	2014/8/30
3	豊橋市民病院を支えるITの現状と将来 像	原瀬 正敏	インターシステムズ 医療連携勉強会 in 名古屋	2014/9/19
4	医療情報部門からみた放射線部門シス テムの現状と未来	原瀬 正敏	第7回中部放射線医療技術学術大 会 ランチョンセミナー	2014/11/1
5	医療機関のシステム管理者が考える医 用画像領域のシステムとは	原瀬 正敏	平成26年度日本医用画像情報専門 技師会 in 名古屋	2014/12/13
6	IHEを導入したシステム構築の経験	原瀬 正敏	中部医療情報技師会第5回勉強会	2015/3/21

## 論文・著書（診療技術局・薬局・看護局・事務局）

### <中央臨床検査室>

No.	題 名	区分	氏名	雑 誌 名
1	イムノクロマト法による尿中レジオネラ抗原検出試薬における有用性の検討－新たに開発された試薬と既存の3試薬の性能比較－	筆頭著者	山口 育男	医学検査

### <リハビリテーション技術局>

No.	題 名	区分	氏名	雑 誌 名
1	異なるプログラムによる末梢性顔面神経麻痺に対するリハビリテーションの効果 柳原法麻痺スコア・Sunnybrook法による比較	筆頭著者	森嶋 直人	Facial N Res Jpn:31 : 151-153,2014
2	病的共同運動発現の予後予測 －リハビリテーションの立場から－	筆頭著者	森嶋 直人	Facial N Res Jpn:31 : 7-9,2014

### <看護局>

No.	題 名	区分	氏名	雑 誌 名
1	当院におけるNBC災害訓練の取り組み－スタッフの育成をめざして－	筆頭著者	菊地 直幸	日本集団災害医学会誌20巻1号
2	栄養と排泄のアセスメント ケアで押さえる！アセスメントポイント 「陰部洗浄」「食事」「排泄」	筆頭著者	三浦 敦子	できる！ICUナースシリーズ ICU患者のフィジカルアセスメント
3	チームを評価（職場風土・看護力UPのためにスタッフの評価を正しく行う）	筆頭著者	吉田千代子	ナースマネージャーVol.18 No.9
4	師長が「やりたい看護」を語り、“看護が楽しい”現場をつくる	筆頭著者	菱田由紀子	師長の役割・場面別看護管理実践 35 日総研

## **VII 院内委員会の 活動記録**



## 1. 幹部会

日付	内容等
2014年4月7日	2014年度第1回 ① 病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善に対する体制について ② 病院内に常設されている委員会の体制(2014)について ③ その他 医療法施行規則の一部を改正する省令の施行について 献体者慰霊祭の開催について
2014年4月14日	第2回 ① 入院患者の病床管理・調整について ② 病院内に常設されている委員会の体制(2014)について ③ その他 2014年度D P C系数の各医療機関の状況
2014年4月21日	第3回 ① 新型インフルエンザ等発生時における診療継続計画について ② 病院内に常設されている委員会の体制(2014)について ③ その他 診療科別一般病床稼働率推移【月別】 2014年度 空調(冷房運転)について状況
2014年4月28日	第4回 ① 2014年3月分 病院事業活動状況(速報版) ② 診療報酬改定に伴う外来治療センターの治療薬剤の変更について ③ 有料個室から重症個室への変更について ④ その他 災害対応講演会のお知らせ
2014年5月12日	第5回 ① 2014年3月分 病院事業収支及び活動状況(報告) ② 中国吉林省研修生(視察・見学)の受入について ③ その他 一般病床(7対1)の看護師配置状況について 曜日別入院予約患者数について 医学情報室(旧図書室)改装のお知らせ 診療科別一般病床稼働率推移【月別】 豊橋市民病院内喫茶室のリニューアルオープンについて
2014年5月19日	第6回 ① 手術・処置の休日・時間外・深夜加算について ② その他 一般病棟(7対1)の看護師配置状況について 病棟避難訓練の実施について 中国吉林省研修生(視察・見学)の受入回答について 喫茶室(カフェ・ド・クリエ)における職員割引制度について
2014年5月26日	第7回 ① 2014年4月分 病院事業活動状況(速報版)について ② その他 一般病棟(7対1)の看護師配置状況について 豊橋市民病院慰霊祭の実施について 病棟避難訓練の実施について 発電設備の点検・整備について(お知らせ)

2014年6月2日	<p>第8回</p> <p>① 滅菌装置「ステラッド」のバイオリジカルインジケータの供給不足について</p> <p>② 新型インフルエンザ等発生時における診療継続計画について</p> <p>③ 2014年4月分 病院事業収支及び活動状況(報告)について</p> <p>④ 2014年度 患者満足度調査の基本的な考え方について</p> <p>⑤ 災害対策訓練の実施(10月11日)について</p> <p>⑥ その他</p> <p>    ポケットカルテについて</p> <p>    一般病棟(7対1)の看護師配置状況について</p> <p>    第1回 豊橋市民病院放射線技術研修会のお知らせ</p> <p>    発電設備の点検・整備について(お知らせ)</p>
2014年6月9日	<p>第9回</p> <p>① 輸血センターから輸血・細胞治療センターへの改正について</p>
2014年6月16日	<p>第10回</p> <p>① その他</p> <p>    地域医療支援病院に関する質問について</p> <p>    診療科別一般病床稼働率推移【月別】について</p> <p>    豊橋市民病院 訴訟等の議決案件一覧表</p>
2014年6月30日	<p>第11回</p> <p>① 2014年5月分 病院事業活動状況(速報版)について</p> <p>② その他</p> <p>    研修医の救急外来の夜間勤務体制について</p> <p>    2013年度ドクタークラーク業績について</p> <p>    2014年度地域医療支援病院の承認に係るスケジュールについて</p> <p>    豊橋市民病院院内保育所管理運営業務プロポーザル審査結果について</p>
2014年7月7日	<p>第12回</p> <p>① 2014年5月分 病院事業収支及び活動状況について(報告)</p> <p>② その他</p> <p>    診療科別一般病床稼働率推移【月別】</p> <p>    看護局認定看護師について</p>
2014年7月14日	<p>第13回</p> <p>① 西病棟2階 MRSA 感染防止対策について</p> <p>② 同種造血幹細胞移植における HLA 等の検査機関について</p> <p>③ 保険適用外の診療行為に関する申請書</p> <p>④ その他</p> <p>    地域医療支援病院の承認に係る事業計画書の提出について</p> <p>    初診時選定療養費の算定状況について</p> <p>    救急車搬送状況について(昼夜別、疾病分類別、重症度別)</p>
2014年7月28日	<p>第14回</p> <p>① 2014年6月分 病院事業活動状況について(速報版)</p> <p>② 豊橋市民病院改革プラン取組状況報告書(案)について</p> <p>③ その他</p> <p>    病院総合情報表示システムの更新について</p> <p>    施設基準(総合入院体制加算)について</p> <p>    地域医療支援病院現地調査の予定について</p> <p>    中国吉林省研修医の受入について(他施設での受入決定の報告)</p>

2014年8月4日	<p>第15回</p> <p>① 2014年6月 病院事業収支及び活動状況(報告)について</p> <p>② 薬事法違反に係る業務改善命令について(ノバルティスファーマ)</p> <p>③ 2014年度中部ブロックDMA T実働訓練について</p> <p>④ その他</p> <p>各種指管理料算定状況(2014年4～6月)</p> <p>地域医療支援病院名称承認事業計画書に対する書類審査及び現地確認について</p> <p>2014年度情報セキュリティ研修参加結果について</p> <p>患者満足度調査票回収状況について</p> <p>救急車搬送状況について(重症度別)について</p>
2014年5月11日	<p>第16回</p> <p>① 次総合周産期母子医療センター運営委員会要綱について</p> <p>② その他</p> <p>診療科別一般病床稼働率推移【月別】について</p> <p>第60回ええじゃないか豊橋まつり「総おどり2万人プロジェクト」への参加者募集について</p> <p>病棟ハト対策におけるベランダのネット張りについて</p>
2014年8月25日	<p>第17回</p> <p>① 2014年度7月分 病院事業活動収支状況(速報版)について</p> <p>② 西病棟2階の有効利用制限の解除について(資料なし)</p> <p>③ 2014年度 豊橋市民病院地震・災害対策訓練について</p> <p>④ その他</p> <p>病院総合情報システムにおける診療科の追加及び次期システム構築作業部会について</p> <p>各種指管理料算定状況(2014年5月～7月)について</p> <p>小児科病棟(東2階)壁画寄贈について</p>
2014年9月1日	<p>第18回</p> <p>① 2014年7月分 病院事業収支及び活動状況(報告)について</p> <p>② その他</p> <p>病院事業収支及び活動状況(報告)の病床利用率等の数値について</p> <p>がん診療連携拠点病院院内がん登録全国集計について</p> <p>病床機能情報の報告・提供の具体的なあり方に関する検討会について</p> <p>モビリティウィークの実施について</p>
2014年9月8日	<p>第19回</p> <p>① 放射線治療施設等の跡地利用検討会について</p> <p>② その他</p> <p>診療科別一般病床稼働率推移【月別】について</p> <p>院内グループウェアパソコンのシステムバージョンアップについて</p> <p>喫茶室前の院内共有飲食スペースの大型モニタ設置について</p> <p>豊橋まつり「総おどり2万人プロジェクト」への参加者募集状況について</p>
2014年9月22日	<p>第20回</p> <p>① 単回使用医療機器(医療用具)の取り扱い等の再周知について</p> <p>② その他</p> <p>2015年度研修医マッチング登録完了について</p> <p>職員の減煙・禁煙に向けた取り組みについて</p>



2014年9月29日	<p>第21回</p> <p>① 2014年8月分 病院事業活動状況(速報版)</p> <p>② 2014年度 豊橋市民病院地震・災害対策訓練について</p> <p>③ その他</p> <p>精神・身体合併症連携推進事業の運用について</p> <p>血液照射装置の廃棄について</p> <p>糖尿病週間イベントについて</p> <p>病床機能の報告について</p> <p>各種指導管理料算定状況(2014年6月～8月)について</p> <p>病院に対する立入検査への参加について</p> <p>院内インフルエンザ予防接種の費用負担について</p> <p>手術センター前廊下の洗浄ワックスについて</p>
2014年10月6日	<p>第22回</p> <p>① 2014年8月分 病院事業収支及び活動状況(報告)</p> <p>② その他</p> <p>Vero4 DRT バージョンアップの進捗について</p> <p>2014年度インフルエンザワクチン接種について</p>
2014年10月20日	<p>第23回</p> <p>① その他</p> <p>放射線治療施設等整備工事の発注スケジュール変更について</p> <p>院外職員駐車場の拡張に伴う造成について</p> <p>診療科別一般病床感動率推移【月別】について</p> <p>病院事業収支及び活動状況(報告)の診療科別平均在院日数について</p> <p>各種指導管理料算定状況(2014年7月～9月)について</p>
2014年10月27日	<p>第24回</p> <p>① 2014年9月分 病院事業活動状況(速報版)</p> <p>② 2階売店の入れ替えについて</p>
2014年11月10日	<p>第25回</p> <p>① 2014年9月分 病院事業収支及び活動状況(報告)</p> <p>② 2014年度病床機能報告について</p> <p>③ 地域医療連携システム(東三河ほいっぷネットワーク)の利用について</p> <p>④ その他</p> <p>認知症サポートチーム(DST)ラウンド」の運用開始について</p> <p>診療科別一般病床稼働率推移【月別】</p> <p>がん患者指導管理料について</p>
2014年11月17日	<p>第26回</p> <p>① 精神科医師に係る可知記念病院との連携について</p> <p>② その他</p> <p>各種指導管理料算定状況(2014年8月～10月)について</p> <p>2014年度第3回豊橋市民病院地域医療支援委員会について</p> <p>医療安全に関する標語について 2次審査のお願い</p> <p>非常用発電設備の年次点検について</p>
2014年12月1日	<p>第27回</p> <p>① 2014年10月分 病院事業収支及び活動状況(報告)</p> <p>② その他</p> <p>エボラ出血熱模擬患者の合同搬送訓練について(案)</p> <p>医療安全に関する標語について(最終結果)</p> <p>薬事法等の一部を改正する法律の概要(資料配布のみ)</p>

2014年12月8日	<p>第28回</p> <p>① その他 診療科別一般病床稼働率推移【月別】 2014年度 患者満足度調査実施概要について 2階売店横の自販機コーナー改修時における自販機移設について</p>
2014年12月15日	<p>第29回</p> <p>① その他 2013年度「Q I 推進事業」結果報告 手術センター前廊下の洗浄ワックスについて 停電の状況について(報告)</p>
2014年12月22日	<p>第30回</p> <p>① その他 大阪国税局からの照会について 各種指管理料算定状況(2014年9月～11月)について DPC入院期間Ⅱ超の状況について</p>
2015年1月5日	<p>第31回</p> <p>① 2014年11月分 病院事業収支及び活動状況(報告) ② 難病法に基づく新たな難病医療費助成制度(旧特定疾患)の院内での対応について(案) ③ その他 放射線治療施設等整備関係スケジュール(設計変更後)について</p>
2015年1月19日	<p>第32回</p> <p>① その他 東三河地区における医療・介護サービス提供体制改革のための新たな財政支援制度事業実施に係る業務打ち合わせ会の開催について 診療科別一般病床稼働率推移【月別】について 職員用駐車場について 受変電設備緊急点検の報告(第1回)と実施(第2回)について</p>
2015年1月26日	<p>第33回</p> <p>① 2014年12月 病院事業活動状況(速報版) ② 院名古屋市立大学病院研修医受け入れについて ③ その他 豊橋市民病院売店等運営事業者募集 審査結果について 各種指管理料算定状況(2014年10月～12月)について 在宅医療サポートセンター事業業務打ち合わせ会の結果について J A渥美病院の入院患者受け入れについて</p>
2015年2月2日	<p>第34回</p> <p>① 2014年12月 病院事業収支及び活動状況(報告) ② 入院支援センター(仮称)について ③ 専門薬剤師から外来患者さんへの化学療法説明について ④ その他 東西エレベーター前の剥離ワックス掛けについて その他情報提供</p>

2015年2月9日	<p>第35回</p> <p>① 患者総合支援センターの今後の体制について</p> <p>② 2015年度機能評価係数Ⅱ及び(データ/病床)比について</p> <p>③ 職員必携(2015年4月)の発行について</p> <p>④ その他 診療科別一般病床稼働率推移【月別】 その他情報提供</p>
2015年2月16日	<p>第36回</p> <p>① 三菱重工業製放射線治療機「vero 4DR T」開発中止について</p> <p>② 夜間死亡患者のお見送りについての変更点(案)</p> <p>③ その他 各種指導管理料算定状況(2014年11月～2015年1月) 電気設備点検について</p>
2015年2月23日	<p>第37回</p> <p>① 2015年1月分 病院事業活動状況(速報版)</p> <p>② その他 2014年度 固定チームナーシング活動報告会について</p>
2015年3月2日	<p>第38回</p> <p>① 2015年1月分 病院事業収支活動状況(報告)</p> <p>② 放射線治療施設等整備工事 入札結果について</p> <p>③ 市民病院職員駐車場について</p> <p>④ その他 医薬品医療機器法違反に係る行政処分について</p>
2015年3月9日	<p>第39回</p> <p>① その他 2015年度機能評価係数Ⅱ状況(T o C o M参加病院) 診療棟2階売店の一時休店と臨時売店の営業について テレホンカード自販機の一部撤去について 受変電設備緊急点検(第2回)の報告について</p>
2015年3月16日	<p>第40回</p> <p>① その他 診療科別一般病床稼働率推移【月別】 放射線治療施設等整備工事概 病棟4階～9階の飲料水の給水について(お知らせ)</p>
2015年3月23日	<p>第41回</p> <p>① 豊橋市民病院ホームページ「看護局紹介ページ」リニューアルについて</p> <p>② 病棟及び科別病床数(2015年4月1日)</p> <p>③ その他 各種指導管理料算定状況(2014年12月～2015年2月) 病棟4階～9階の飲料水の給水について(お知らせ) 医療職の昇格・異動(2015年4月1日付)について</p>
2015年3月30日	<p>第42回</p> <p>① 2015年度2月分 病院事業活動状況(速報版)</p> <p>② 病院総合情報システム更新スケジュール</p> <p>③ 病棟及び科別病床数(案)(2015年4月1日)</p> <p>④ その他 医師事務作業補助者(ドクタークラーク)のホームページ紹介について 手術センター前廊下の洗浄ワックスについて</p>

## 2. 運営会議

日付	内容等
2014年4月1日	2014年度第1回 ① 2014年2月分病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(2月22日～3月20日)の集約
2014年5月13日	第2回 ① 2014年3月分病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(3月21日～4月18日)の集約
2014年6月3日	第3回 ① 2014年4月分病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(4月19日～5月20日)の集約
2014年7月15日	第4回 ① 2014年5月分病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(5月21日～6月20日)の集約
2014年8月5日	第5回 ① 2014年6月分病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(6月21日～7月18日)の集約
2014年9月9日	第6回 ① 2014年7月分病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(7月19日～8月19日)の集約
2014年10月7日	第7回 ① 2014年8月分病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(8月20日～9月22日)の集約
2014年11月18日	第8回 ① 2014年9月分病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(9月23日～10月21日)の集約
2014年12月2日	第9回 ① 2014年10月分病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(10月22日～11月18日)の集約
2015年1月6日	第10回 ① 2014年11月分病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(11月19日～12月16日)の集約
2015年2月3日	第11回 ① 2014年12月分病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(12月17日～1月20日)の集約
2015年3月17日	第12回 ① 2015年1月分病院事業収支及び活動状況(報告) ② 提案箱(1月20日～2月20日)の集約

### 3. 倫理委員会

日付	内容等
2014年7月17日	2014年度第1回 ① ロボット支援腹腔鏡下直腸手術 承認 ② アセタゾラミド(ダイアモックス)の適応外使用 承認
2014年9月18日	第2回 ① 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がん I B 期以上) 承認 ② 腹腔鏡下子宮附属器悪性腫瘍手術 承認 ③ ロボット支援腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術、腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術 承認 ④ ロボット支援腹腔鏡下子宮全摘術、両側付属器摘出術 承認 ⑤ ロボット支援腹腔鏡下子宮付属器悪性腫瘍手術 承認
2014年11月13日	第3回 ① ロボット支援腹腔鏡下胃手術 承認
2015年1月22日	第4回 ① 感染性大動脈瘤又は人工血管感染に対するリファンピシン浸漬人工血管の使用 承認
2015年3月12日	第5回 ① NBCA (n-butyl-2-cyanoacrylate) の血管内投与 承認 ② 消化管・胆管ステントの血管内留置 承認

### 4. 臨床研究倫理審査委員会

日付	内容等
2014年5月15日	2014年度第1回 ① 保存期慢性腎臓病の erythropoiesis stimulating agent 低反応性貧血患者に対するエポエチン ベータ ペゴル製剤投与時の維持ヘモグロビン値による腎予後の評価 多施設共同、オープンラベル、ランダム化並行群間比較試験 (RADIANCE-CKD study) <承認> ② 未治療進行・再発の非扁平上皮非小細胞肺癌を対象としたカルボプラチン+パクリタキセル+ベバシズマブ併用療法とシスプラチン+ペメトレキセド+ベバシズマブ併用療法のランダム化第Ⅱ相臨床試験 <承認> ③ 収縮脳が保持された心不全 (Heart failure with Preserved Ejection Fraction : HFPEF) 患者を対象としたトルバプタンの短期および長期投与の有効性の検討-多施設共同、ランダム化、非盲検試験- <承認> ④ 経口薬による標準的治療法にデキサメタゾン鼓室内投与法を併用した顔面神経麻痺の治療の有効性と安全性の検討 <承認>

2014年7月17日	<p>第2回</p> <p>① 先天異常症候群の包括的遺伝子診断システムの構築 &lt;承認&gt;</p>
2014年9月18日	<p>第3回</p> <p>① EGFR TKI 初期治療後に再発を来したEGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+ペメトレキセド+ベバシズマブ療法の臨床第Ⅱ相試験 &lt;承認&gt;</p> <p>② 脳卒中患者の早期経腸栄養における栄養剤選択に関する研究 &lt;修正のうえ承認&gt;</p> <p>③ 非切除悪性中下部胆道閉塞に対する Fully Covered Metallic Stent の外径別臨床成績の多施設共同無作為化比較試験 &lt;承認&gt;</p> <p>④ 非切除悪性中下部胆道閉塞に対する Fully Covered Metallic Stent の外径別臨床成績の多施設共同無作為化比較試験 &lt;修正のうえ承認&gt;</p> <p>⑤ 小児急性骨髄性白血病を対象とした初回寛解導入療法におけるシタラビン投与方法についてランダム化比較検討、および寛解導入後早期の微小残存病変の意義を検討する多施設共同シームレス第Ⅱ～Ⅲ相臨床試験 &lt;承認&gt;</p> <p>⑥ 高リスク成人骨髄異形成症候群を対象としたアザシチジン投与方法に関する臨床第Ⅲ相試験 - 検体集積事業に基づく遺伝子解析研究を含む - JALSG MDS 212 studyおよび厚生労働科学研究費補助金による検体集積事業との合同研究 - JALSG MDS212(MDS212) - &lt;承認&gt;</p> <p>⑦ 成人 Burkitt 白血病に対する多剤併用化学療法による第Ⅱ相臨床試験 (JALSG Burkitt-ALL213) &lt;承認&gt;</p>
2015年1月22日	<p>第4回</p> <p>① 隋芽腫に対する新リスク分類を用いた集学的治療のパイロット試験 &lt;承認&gt;</p> <p>② 固形腫瘍における遺伝子異常の網羅的解析 &lt;承認&gt;</p> <p>③ 小児急性前駆球性白血病に関する多施設共同第Ⅱ相臨床試験 AML-P13 &lt;承認&gt;</p>
2015年3月12日	<p>第5回</p> <p>① 腹部手術におけるポビドンヨードアプリケータ1回消毒の安全性と有効性についての評価 &lt;承認&gt;</p>

## 5. 臨床研究事前倫理審査会

日付	内容等
2014年4月23日	<p>2014年度第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① ビスフォスフォネート関連顎骨壊死 (BRNOJ) Stage II 症例の治療に関する実態調査 &lt;付議不要&gt;</li> <li>② 急性脳症・痙攣重積症例の後方視的解析 &lt;承認&gt;</li> <li>③ Pseudomonas aeruginosa (緑膿菌) の抗菌薬投与前後における抗菌薬感受性の変化に関する研究 &lt;付議不要&gt;</li> <li>④ 保存期慢性腎臓病の erythropoiesis stimulating agent 低反応性貧血患者に対するエポエチン ベータ ペゴル製剤投与時の維持ヘモグロビン値による腎予後の評価 多施設共同、オープンラベル、ランダム化並行群間比較試験 (RADIANCE-CKD study) &lt;倫理審査委員会の審査に付す&gt;</li> <li>⑤ 未治療進行・再発の非扁平上皮非小細胞肺癌を対象としたカルボプラチン+パクリタキセル+ペバシズマブ併用療法とシスプラチン+ペメトレキセド+ペバシズマブ併用療法のランダム化第II相臨床試験 &lt;倫理審査委員会の審査に付す&gt;</li> <li>⑥ 収縮脳が保持された心不全 (Heart failure with Preserved Ejection Fraction : HFPEF) 患者を対象としたトルバプタンの短期および長期投与の有用性の検討-多施設共同、ランダム化、非盲検試験- &lt;倫理審査委員会の審査に付す&gt;</li> <li>⑦ 経口薬による標準的治療法にデキサメタゾン鼓室内投与法を併用した顔面神経麻痺の治療の有効性と安全性の検討 &lt;倫理審査委員会の審査に付す&gt;</li> <li>⑧ 非弁膜症性心房細動患者の急性脳梗塞/TIA におけるリバーロキサバンの投与開始時期に関する観察研究 &lt;承認&gt;</li> </ul>
2014年6月4日	<p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 予後調査精度が放射線治療患者の粗生存率に与える影響 &lt;承認&gt;</li> <li>② 診断参考レベル設定のためのエックス線CT検査に関する被ばく実態調査及び線量評価 &lt;承認&gt;</li> <li>③ 小児の母親の訴えと児の状態に関わる研究 &lt;承認&gt;</li> <li>④ 保存期慢性腎臓病患者を対象とした臨床研究-ダルベポエチン アルファ製剤低反応に関する検討- &lt;承認&gt;</li> <li>⑤ 先天異常症候群の包括的遺伝子診断システムの構築 &lt;倫理審査委員会の審査に付す&gt;</li> </ul>
2014年7月2日	<p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 脳転移に対する放射線治療成績 &lt;承認&gt;</li> <li>② 再発子宮頸がんにおけるプラチナ製剤 free 期間が化学療法の効果に及ぼす影響の後方視的検討 &lt;承認&gt;</li> <li>③ 多発性骨髄腫に関する多施設共同後方視的調査研究 &lt;承認&gt;</li> <li>④ 糖尿病網膜症合併高コレステロール血症患者を対象としたスタチンによるLDL-C 低下療法(通常治療/強化治療)の比較研究 &lt;[変更申請]承認&gt;</li> <li>⑤ 肺扁平上皮癌に対する初回カルボプラチン・S-1 併用療法施行後のS-1 維持療法の第II相試験 &lt;[変更申請]承認&gt;</li> </ul>

2014年9月3日	<p>第4回</p> <p>① EGFR TKI 初期治療後に再発を来したEGFR 遺伝子変異陽性非小細胞肺癌に対するカルボプラチン+ペメトレキセド+ベバシズマブ療法の臨床第Ⅱ相試験 &lt;倫理審査委員会の審査に付す&gt;</p> <p>② BIM 遺伝子多型を有するEGFR 変異肺がんの臨床的特徴を明らかにする多施設共同研究 &lt;承認&gt;</p> <p>③ 口腔外科疾患に関する症例調査 &lt;承認&gt;</p> <p>④ 脳卒中患者の早期経腸栄養における栄養剤選択に関する研究 &lt;倫理審査委員会の審査に付す&gt;</p> <p>⑤ 非切除悪性中下部胆道閉塞に対する Fully Covered Metallic Stent の外径別臨床成績の多施設共同無作為化比較試験 &lt;倫理審査委員会の審査に付す&gt;</p> <p>⑥ NICUにおける末梢穿刺中心静脈カテーテル関連血液感染症のリスク因子調査 &lt;承認&gt;</p> <p>⑦ 重症及び最重症再生不良性貧血患者に対するウサギ抗胸腺細胞グロブリン(サイモグロブリン®)前方視的ランダム化用量比較多施設共同研究 &lt;倫理審査委員会の審査に付す&gt;</p> <p>⑧ 小児急性骨髄性白血病を対象とした初回寛解導入療法におけるシトラビン投与方法についてランダム化比較検討、および寛解導入後早期の微小残存病変の意義を検討する多施設共同シームレス第Ⅱ～Ⅲ相臨床試験 &lt;倫理審査委員会の審査に付す&gt;</p> <p>⑨ 高リスク成人骨髄異形成症候群を対象としたアザシチジン投与方法に関する臨床第Ⅲ相試験 - 検体集積事業に基づく遺伝子解析研究を含む - JALSG MDS 212 studyおよび厚生労働科学研究費補助金による検体集積事業との合同研究 - JALSG MDS212(MDS212) - &lt;倫理審査委員会の審査に付す&gt;</p> <p>⑩ 成人Burkitt白血病に対する多剤併用化学療法による第Ⅱ相臨床試験(JALSG Burkitt-ALL213) &lt;倫理審査委員会の審査に付す&gt;</p>
2014年10月29日	<p>第5回</p> <p>① 子宮体部漿液性腺癌と明細胞腺癌に関する後方的研究 &lt;承認&gt;</p> <p>② がん診療体験調査 &lt;承認&gt;</p>
2014年12月3日	<p>第6回</p> <p>① 多施設共同観察研究「早期慢性膵炎および慢性膵炎疑診例の前向き予後調査」 &lt;承認&gt;</p> <p>② 透析患者における感染症の疫学研究 &lt;承認&gt;</p> <p>③ National Clinical Database を利用した日本脳神経外科学会手術症例登録事業 &lt;承認&gt;</p>
2015年1月7日	<p>第7回</p> <p>① アザシチジン投与骨髄異形成症候群患者における骨髄 p 53 陽性細胞割合を含めた新しい予後予測モデルの検討 &lt;承認&gt;</p> <p>② すべての患者が最適な造血幹細胞移植を受けられることができる体制整備のための理論的背景の構築 &lt;承認&gt;</p> <p>③ I型糖尿病患者の患者背景に関する東海臨床多施設共同研究 &lt;承認&gt;</p> <p>④ WT1成人 ALL 臨床性能試験 WT1 m RNA 測定キットの成人急性リンパ性白血病 (ALL) における臨床性能試験 &lt;承認&gt;</p> <p>⑤ 隋芽腫に対する新リスク分類を用いた集学的治療のパイロット試験&lt;倫理審査委員会の審査に付す&gt;</p> <p>⑥ 固形腫瘍における遺伝子異常の網羅的解析 &lt;倫理審査委員会の審査に付す&gt;</p> <p>⑦ 小児急性前勝髄球性白血病に関する多施設共同第Ⅱ相臨床試験 AML-P13 &lt;倫理審査委員会の審査に付す&gt;</p> <p>⑧ 慢性骨髄性白血病患者におけるチロシンキナーゼ阻害薬による出血性腸炎の病態の解明 &lt;承認&gt;</p>



2015年2月26日	<p>第8回</p> <p>① 腹部手術におけるポビドンヨードアプリケーション1回消毒の安全性と有効性についての評価 &lt;倫理審査委員会の審査に付す&gt;</p> <p>② 希少小児遺伝性血液疾患における原因遺伝子の探索研究 &lt;承認&gt;</p> <p>③ JASTRO 放射線治療症例全国登録事業 &lt;承認&gt;</p> <p>④ 本邦における肺切除術後脳梗塞に関する周術期、手術因子の解析：多施設共同研究 &lt;承認&gt;</p> <p>⑤ レセプト等情報を用いた脳卒中救急疫学調査 &lt;承認&gt;</p> <p>⑥ 早産児晩期循環不全（早産児急性期離脱後循環不全）の実態調査 &lt;承認&gt;</p>
------------	--

## 6. 接遇委員会

日付	内容等
2014年11月18日	<p>2014年度第1回</p> <p>① 接遇研修について</p>

### 6-1. 患者満足度調査検討会

日付	内容等
2014年5月23日	<p>2014年度第1回</p> <p>① 2013年度 患者満足度調査結果による今後の課題</p> <p>② 基本的な考え方について</p> <p>③ 調査スケジュールについて</p> <p>④ 調査項目について</p> <p>&lt;入院患者への調査&gt; 2014年7月7日～22日（16日間）</p> <p>&lt;外来患者への調査&gt; 2014年7月7日～11日（5日間）</p>

## 7. 災害対策委員会

日付	内容等
2014年8月19日	<p>2014年度第1回</p> <p>① 2014年度中部ブロックDMAT実動訓練について</p> <p>② 2014年度災害対策訓練について</p> <p>③ 災害対応講演会の開催について</p>

### 7-1. DMAT運営部会

日付	内容等
2014年5月20日	<p>第1回</p> <p>① 会議・研修等状況、今後の予定</p> <p>② 災害対応講演会の開催について</p> <p>③ 2014年度中部ブロックDMAT実動訓練について</p> <p>④ その他</p>

2014年7月8日	第2回 ① 会議・研修等状況、今後の予定 ② 災害対応講演会の開催について ③ その他
2014年9月2日	第3回 ① 会議・研修等状況、今後の予定 ② 災害対応講演会の開催について ③ 中部ブロックDMA T実動訓練 ④ その他
2014年11月11日	第4回 ① 会議・研修等状況、今後の予定 ② その他
2015年1月13日	第5回 ① 会議・研修等状況、今後の予定 ② 災害時におけるDMA Tの対応について(案) ③ その他
2015年3月10日	第6回 ① 会議・研修等状況、今後の予定 ② 災害時におけるDMA Tの対応について(案) ③ 災害対応講演会 ④ 2014年度中部ブロックDMA T実動訓練実施結果 2015年度中部ブロックDMA T実動訓練概要 ⑤ その他

## 8. 年報編集委員会

日付	内容等
2014年5月30日	2014年度第1回 ① 病院年報第23巻(2013年版)の編集方針について ② 2013年版作成スケジュール(案) ③ 病院年報第23巻(2013年版)の原稿依頼(案)について ④ 編集後記執筆者について ⑤ 年報編集委員名簿 ⑥ その他

## 9. 広報紙編集委員会

日付	内容等
2014年4月30日	2014年度第1回 ① 青竹第61号の編集について
2014年8月6日	第2回 ① 青竹第62号の編集について
2014年11月7日	第3回 ① 青竹第63号の編集について
2015年2月4日	第4回 ① 青竹第64号の編集について

## 10. 院内感染対策委員会

[定期報告事項]

MRSA検出状況

MRSA病棟別・材料別一覧 感染症情報 監視 耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) (月・基幹定点)

病原体サーベイランス報告 [メチシリン耐性黄色ブドウ球菌:MRSA]

耐性菌 一覧表 (ESBL等)

感染症情報 インフルエンザウイルス抗原検査 ※シーズン中のみ報告

日付	内容等
2014年4月15日	第223回 ① EPI-Net 報告書 A 針刺し・切創 集計レポート ② 職員健康外来 2013年度実績 ③ 抗菌薬使用ガイドライン 第3版(案) ④ 院内感染対策マニュアル 第6版(案) ⑤ 豊橋市民病院 新型インフルエンザ等発生時における診療継続計画(案)について
2014年5月20日	第224回 ① セフェム1gの品薄について ② 抗菌薬使用ガイドライン第3版, 院内感染対策マニュアル第6版の進捗状況について
2014年6月17日	第225回 ① 年度別 手指消毒薬使用量の調査結果 ② 新生児医療センターのMRSAアウトブレイク ③ 2014年度 第1回 院内感染対策講習会について ④ ICT 定期ラウンドについて
2014年7月15日	第226回 ① 西病棟2階のMRSAアウトブレイク ② 感染防止対策地域連携加算の連携施設相互訪問評価結果について(加算1対加算1) ③ 東日新聞記事「クローズアップ 病棟への生花持ち込み規制」
2014年8月19日	第227回 ① 特定抗菌薬使用届集計(2013.7.1～2014.6.30) ② 2013年度 結核接触者調査状況報告 ③ 速乾性手指消毒剤の検討 ④ ICTNewsの発行について ⑤ 2014年度 第1回 院内感染対策講習会
2014年9月16日	第228回 ① 2014年度 第1回 院内感染対策講習会 ② N95マスクについて ③ 輸液セットについて
2014年10月21日	第229回 ① 2014年度 第1回 院内感染対策講習会 伝達講習会状況報告 ② 電動ファン付き呼吸用保護具について ③ 輸液セットについて
2014年11月18日	第230回 ① ステラッド・サイクルシユア®24供給不足解消のご案内 ② 気管挿管時の吸引(急性期, 慢性期を含む) ③ インフルエンザについて

2014年12月16日	第 231 回 ① 院内インフルエンザワクチン接種状況 ② 新型インフルエンザ等対策研修会(報告) ③ エボラ出血熱模擬患者の合同搬送訓練(報告)
2015年 1 月20日	第 232 回 ① 病院立入検査の指示事項等への対応について ② 患者パネルへの感染症アイコン表示機能について ③ 輸液ラインセット化について
2015年 2 月17日	第 233 回 ① 2014 年度 第 2 回 院内感染対策講習会
2015年 3 月17日	第 234 回 ① 2014 年度 第 2 回 院内感染対策講習会参加状況 ② 2014 年度 愛知県 H I V 感染症カンファレンス参加報告 ～抗 H I V 薬更新～ ③ 2015 年度 院内感染対策委員会について ④ 風しん患者の発生届と検体採取について ⑤ 輸液セットライン化について

## 11. 脳死判定委員会

日 付	内容等
2015年 3 月19日	2014 年度第 1 回
2015年 3 月19日	第 2 回
2015年 3 月20日	第 3 回

## 12. 救命救急委員会

日 付	内容等
2014年 5 月20日	第 112 回 ① 2013 年度救命救急センター患者取扱状況 ② ヘリポート使用記録 ③ 内科輪番当番表 ④ E R 直業務について ⑤ 2013 年度 西 3 当直医対応事例 ⑥ その他
2014年 7 月 8 日	第 113 回 ① 2014 年度救命救急センター患者取扱状況 ② ヘリポート使用記録 ③ 内科輪番当番表 ④ 研修医の救急外来当直体制の適正化について ⑤ E R 受診後帰宅患者のフォローアップ規定(案) ⑥ 頻度の多い疾患名と該当科 ⑦ その他

2014年9月2日	第114回 ① 2014年度救命救急センター患者取扱状況 ② ヘリポート使用記録 ③ 内科輪番当番表 ④ ER受診後帰宅患者のフォローアップ規定(案) ⑤ その他
2014年11月11日	第115回 ① 2014年度救命救急センター患者取扱状況 ② ヘリポート使用記録 ③ 内科輪番当番表 ④ その他
2015年1月13日	第116回 ① 2014年度救命救急センター患者取扱状況 ② ヘリポート使用記録 ③ 内科輪番当番表 ④ 4月からの専攻医ERローテーションの概要について ⑤ その他
2015年3月10日	第117回 ① 2014年度救命救急センター患者取扱状況 ② ヘリポート使用記録 ③ 内科輪番当番表 ④ 4月からの専攻医ERローテーションの概要について ⑤ その他

### 13. 集中治療室運営委員

日付	内容等
2014年5月20日	第15回 ① 2013年度西病棟3階患者統計 ② 特定集中治療室用の重症度、医療・看護必要度について ③ その他
2014年7月8日	第16回 ① 2014年度西病棟3階患者統計 ② その他
2014年9月2日	第17回 ① 2014年度西病棟3階患者統計 ② その他
2014年11月11日	第18回 ① 2014年度西病棟3階患者統計 ② PADガイドラインに沿ったICU患者の「痛み・不穏・せん妄管理」について ③ その他
2015年1月13日	第19回 ① 2014年度西病棟3階患者統計 ② その他
2015年3月10日	第20回 ① 2014年度西病棟3階患者統計 ② その他

## 14. 診療材料選定委員会

日付	内容等
2014年7月14日	2014年度第1回 ・ディーシービーズ（エーザイ）
2014年8月11日	第2回 ・リストアセンサー（日本メドトロニック） ・シンクロメッドⅡポンプ20ml（日本メドトロニック）
2014年9月1日	第3回 ・手指消毒剤「ヒビスコールフォーム(サラヤ)」・「ラビジェル(健栄製薬)」
2014年9月8日	第4回 【人工血管】 T r i p l e x 【機械弁】 A T Sバイリーフレット人工心臓弁 【生体弁】 M i t r o f l o w・エドワーズ牛心のう膜生体弁マグナマイトラル E A S E T F X 【その他】 バイオグルー外科用接着剤・H y d r o f i t
2014年9月22日	第5回 ・i D r i v eウルトラパワードステープリングシステム（コヴィディエンジャパン）
2014年12月22日	第6回 ・フロシール（日本メドトロニック） ・ポビドンヨード液10%消毒用アプリーケータ 25ml（大塚製薬）
2015年1月26日	第7回 ・R e s o n a n c eメタリック尿管ステントイントロデューサーセット（C O O K） ・クリアタッチ（メドライン）

## 15. 手術センター運営委員会

日付	内容等
2014年4月28日	2014年度第1回 ① 2013年度 第12回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について（3月手術件数・年間報告等） ③ 2014年度手術センター運営委員会名簿について ④ ダヴィンチスケジュール（婦人科関連）について ⑤ 手術センター電気設備工事について ⑥ その他
2014年5月26日	第2回 ① 2014年度 第1回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について（4月手術件数等） ③ 手術センター内噴霧処理について ④ 針刺し事故について ⑤ ダヴィンチスケジュール（婦人科関連）について ⑥ その他

2014年6月23日	<p>第3回</p> <p>① 第2回手術センター運営委員会議事録について</p> <p>② 定例報告について（5月手術件数等）</p> <p>③ バイオロジカルインディケーター供給状況について</p> <p>④ その他</p>
2014年7月28日	<p>第4回</p> <p>① 第3回手術センター運営委員会議事録について</p> <p>② 定例報告について（6月手術件数等）</p> <p>③ 単回使用医療機器の取り扱いについて</p> <p>④ タイムアウトの徹底について</p> <p>⑤ その他</p>
2014年8月25日	<p>第5回</p> <p>① 第4回手術センター運営委員会議事録について</p> <p>② 定例報告について（7月手術件数等）</p> <p>③ 単回使用医療機器の取り扱いについて</p> <p>④ その他</p>
2014年9月22日	<p>第6回</p> <p>① 第5回手術センター運営委員会議事録について</p> <p>② 定例報告について（8月手術件数等）</p> <p>③ 単回使用医療機器の取り扱いについて</p> <p>④ 手術器械等破損・破棄報告書について</p> <p>⑤ その他</p>
2014年10月27日	<p>第7回</p> <p>① 第6回手術センター運営委員会議事録について</p> <p>② 定例報告について（9月手術件数等）</p> <p>③ 年末・年始の手術制限と申し込みについて</p> <p>④ 男女更衣室の噴霧処理について</p> <p>⑤ 手術センター看護師負担軽減対策について</p> <p>⑥ 単回使用医療機器の取り扱いについて</p> <p>⑦ その他</p>
2014年11月17日	<p>第8回</p> <p>① 第7回手術センター運営委員会議事録について</p> <p>② 定例報告について（10月手術件数等）</p> <p>③ その他</p>
2014年12月22日	<p>第9回</p> <p>① 第8回手術センター運営委員会議事録について</p> <p>② 定例報告について（11月手術件数等）</p> <p>③ 手術中の私語について</p> <p>④ ダヴィンチワーキング結果報告</p> <p>⑤ その他</p>
2015年1月26日	<p>第10回</p> <p>① 第9回手術センター運営委員会議事録について</p> <p>② 定例報告について（12月手術件数・年間手術件数等）</p> <p>③ 試用する医療器械、診療材料に関する申請について</p> <p>④ 新規採用の消毒剤について</p> <p>⑤ その他</p>

2015年2月23日	第11回 ① 第10回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について（1月手術件数・年間手術件数等） ③ 手術室内 電源設備取替及び点検について ④ その他
2015年3月23日	第12回 ① 第11回手術センター運営委員会議事録について ② 定例報告について（2月手術件数・年間手術件数等） ③ 弾性ストッキングのサンプル使用について ④ 対極板「サーモガード」の欠品に伴う代替品使用について ⑤ その他

## 16. 医療器械・備品機種選定委員会

日付	内容等
2014年6月9日	2014年度第1回 ・神経機能検査装置 1式（脳神経外科） ・腹腔鏡用モルセレータ（女性内視鏡外科）
2014年7月7日	第2回 ・汎用型放射線治療装置 1式（放射線科） ・強度変調放射線治療装置 1式（放射線科）
2014年7月28日	第3回 ・デジタル式コンピュータ画像診断装置 1式（放射線技術室）
2014年8月11日	第4回 ・バーチャルスライドシステム 1式（病理診断科）
2014年9月1日	第5回 ・超音波診断装置 1式（中央臨床検査室）
2014年10月27日	第6回 ・3D対応移動型X線透視装置 1式（脊椎外科）
2014年12月1日	第7回 ・遠心型血液成分分離装置 1式（血液・腫瘍内科）
2014年12月15日	第8回 ・広画角デジタル眼撮影装置 1式（眼科）
2015年3月2日	第9回 ・腔内照射装置 1式（放射線科）

## 17. 図書委員会

日付	内容等
2014年8月8日	2014年度第1回 ① 2013年度決算報告について ② 2014年度予算の執行状況について ③ 2015年度予算について ④ 購読雑誌の変更について ⑤ 雑誌の廃棄について



## 18. 研修委員会

日付	内容等
2014年5月14日	2014年度第1回 ① 研修委員会名簿について ② ローテート表について ③ オリエンテーション評価について ④ 研修医の評価について ⑤ 東海北陸地区臨床研修病院合同説明会について（報告）
2014年7月2日	第2回 ① 研修医の評価について ② 研修医（修了者）の評価集計について ③ 第1回研修医ミーティング内容について ④ 病院説明会について
2014年9月10日	第3回 ① 研修医の評価について ② 病院見学アンケート集計について
2014年11月12日	第4回 ① 研修医の評価について ② マッチング結果について ③ ローテート作成について
2015年2月18日	第5回 ① 研修医の評価について ② ローテート作成について ③ オリエンテーションについて

## 19. 研修管理委員会

日付	内容等
2015年3月11日	2014年度第1回 ① 2013年卒 研修医（2年次研修医）について ② 2014年卒 研修医（1年次研修医）について ③ 2015年卒 採用予定研修医について

## 20. 安全衛生委員会（労働安全）

日付	内容等
2014年4月24日	2014年度第1回 ① 4月の実施状況について ② 5月の実施目標について ③ 2013年度事業及び活動報告 ④ 2014年度交通事故削減目標について ⑤ 労働基準監督署による訪問調査について ⑥ その他（災害発生状況等）

2014年5月22日	<p>第2回</p> <p>① 5月の実施状況について</p> <p>② 6月の実施目標について</p> <p>③ 2013年度事業及び活動報告</p> <p>④ 全国安全週間に伴う交通安全標語募集について</p> <p>⑤ 労働基準監督署による訪問調査後の指導について</p> <p>⑥ 手術センター運営委員会での医師に対する針刺し注意喚起について</p> <p>⑦ その他（災害発生状況等）</p>
2014年6月26日	<p>第3回</p> <p>① 6月の実施状況について</p> <p>② 7月の実施目標について</p> <p>③ 2013年度指導区分修正・追加決定報告について</p> <p>④ 労働基準監督署への報告書について</p> <p>⑤ 交通安全標語優秀作品の選考について</p> <p>⑥ 9月安全衛生委員会開催日変更について</p> <p>⑦ その他（災害発生状況等）</p>
2014年7月24日	<p>第4回</p> <p>① 7月の実施状況について</p> <p>② 8月の実施目標について</p> <p>③ 院内インフルエンザワクチン接種対象者について</p> <p>④ 重複する交通事故・違反者に対する啓発活動について</p> <p>⑤ 職場巡視方法変更案について</p> <p>⑥ その他（災害発生状況等）</p>
2014年8月28日	<p>第5回</p> <p>① 8月の実施状況について</p> <p>② 9月の実施目標について</p> <p>③ 病院近郊等における交通安全啓発について</p> <p>④ 針刺し等事例対応について（針刺したより作成）</p> <p>⑤ その他（災害発生状況等）</p>
2014年9月25日	<p>第6回</p> <p>① 9月の実施状況について</p> <p>② 10月の実施目標について</p> <p>③ 院内インフルエンザワクチン接種募集について</p> <p>④ エピネット報告書 管理者意見様式について</p> <p>⑤ その他（災害発生状況等）</p>
2014年10月23日	<p>第7回</p> <p>① 10月の実施状況について</p> <p>② 11月の実施目標について</p> <p>③ 作業環境測定結果報告について</p> <p>④ その他（災害発生状況等）</p>
2014年11月27日	<p>第8回</p> <p>① 11月の実施状況について</p> <p>② 12月の実施目標について</p> <p>③ 人間ドックを院内健診に置き替える方法案について</p> <p>④ 結核菌感染検査におけるハイリスク部署対象者について</p> <p>⑤ その他（災害発生状況等）</p>

2014年12月25日	第9回 ① 12月の実施状況について ② 1月の実施目標について ③ 院内トイレへの禁煙シール表示について ④ その他（災害発生状況等）
2015年1月22日	第10回 ① 1月の実施状況について ② 2月の実施目標について ③ 院内インフルエンザワクチン接種状況報告について ④ 長時間労働者に対する医師の面接指導について ⑤ その他（災害発生状況等）
2015年2月26日	第11回 ① 2月の実施状況について ② 3月の実施目標について ③ 労働基準監督署への報告書について ④ その他（災害発生状況等）
2015年3月19日	第12回 ① 3月の実施状況について ② 2015年度委員会年間計画について ③ 4月の実施目標について ④ 院内健診と人間ドックの取扱いについて ⑤ ストレスチェック検査について ⑥ その他（災害発生状況等）

## 21. 教育・研究委員会

日付	内容等
2014年10月8日	2014年度第1回 ① 各科共通の研究研修費について ② 全国自治体病院学会報告会の開催について

## 22. 省エネルギー推進委員会

日付	内容等
2014年7月22日	2014年度第1回省エネルギー推進委員会開催 ① 2013年度のエネルギー使用量報告 ② 省エネの取組の実績について ③ 今年度の省エネ取組について

## 23. 情報セキュリティ委員会

日付	内容等
2014年5月26日	第18回 ① 2014年度情報セキュリティポリシー強化・支援業務スケジュールについて ② 情報セキュリティポリシー実施手順書の改訂案について
2014年12月5日	第19回 ① 放射線技術室及び中央臨床検査室のIT-BCP行動計画について ② 2014年度情報セキュリティ監査について ③ スマートフォン等の接続制御について
2015年3月17日	第20回 ① 2014年度情報セキュリティ内部監査報告について ② 放射線技術室と中央臨床検査室の訓練結果に基づくIT-BCPの改定について ③ 2014年度情報セキュリティインシデント報告 ④ 2014年度院内グループウェア院外接続状況報告 ⑤ インターネット通信の暗号化方式「SSL3.0」の脆弱性対策について

### 情報セキュリティ研修の実施（全8回開催）

日付	内容等
2014年6月13日	第1回 13:30～14:30 受講者 240人
2014年6月13日	第2回 17:30～18:30 受講者 180人
2014年6月16日	第3回 13:30～14:30 受講者 173人
2014年6月16日	第4回 17:30～18:30 受講者 146人
2014年7月22日	第5回 13:30～14:30 受講者 156人
2014年7月22日	第6回 17:30～18:30 受講者 76人
2014年7月30日	第7回 13:30～14:30 受講者 145人
2014年7月30日	第8回 17:30～18:30 受講者 65人
	合計 1,181人

## 24. 医療情報委員会

日付	内容等
2014年7月11日	2014年度第1回 ① システム開発について ② 院外参照カルテシステムについて ③ 次期システムについて ④ その他
2014年9月26日	第2回 ① 薬剤アレルギーチェックについて ② 薬剤コメントの運用について ③ 患者メモの取り扱い・表示について ④ 今年度システム開発（追加案件）について ⑤ 2015年度システム関連予算について ⑥ 次期システム作業部会について ⑦ その他

2014年12月18日	第3回 ① 持参薬未指示チェック機能の解除について ② 薬剤アレルギーチェック設定変更について ③ 感染症情報の項目追加・表示方法の変更について ④ 医事会計システムの処理遅延について ⑤ 電子カルテのアクセスログの管理について ⑥ C l a i o への動画の保存について ⑦ 地域医療連携システム（東三河ほいっぷネットワーク）の利用について ⑧ 次期システム今年度スケジュール報告について ⑨ その他
-------------	--

## 24-1. 診療記録管理部会

日付	内容等
2014年8月22日	2014年度第1回 ① 2014年度 第1回カルテ監査 結果について ② 2014年度診療録（過去の紙カルテ）の廃棄について ③ その他
2014年11月28日	第2回 ① 2014年度 第2回診療記録監査 結果報告について ② その他
2015年3月20日	第3回 ① 第3回診療記録監査の結果報告について ② 退院時サマリについて ③ その他

## 24-2. 医師事務作業補助業務検討部会

【未開催】

## 25. がん診療委員会

日付	内容等
2014年8月13日	第7回 ① P D C Aサイクルの運用について がん診療委員会教育部会において、院内・院外の医療関係者等を対象に「豊橋がん診療フォーラム」を開催した。

### 2014年度豊橋がん診療フォーラム

日付	内容等	参加人数
2014年5月15日	第41回 ① がん臨床医が知っておくべき臨床免疫学の基礎知識 ② 緩和ケアでの薬物療法	74人
2014年7月31日	第42回 ① タキサン系抗悪性腫瘍剤の製剤特性に関する検討 ② 静岡がんセンターにおけるチーム医療の実際	62人

2014年9月18日	第43回 ① 当院における胃がんの統計、MRI で見る胃がんの深達度 ② 胃癌治療に関する最新の話題	参加人数 63人
2014年11月20日	第44回 ① 超音波内視鏡下穿刺吸引生検（EUS-FNA）における細胞診検査の役割とその細胞像について ② TAE をめぐる最近の話題	参加人数 83人
2015年1月15日	第45回 ① 中枢神経原発悪性リンパ腫症例の作業療法について ② 骨髄異形成症候群の分子病態と治療	参加人数 68人
2015年3月19日	第46回 ① がんと診断された時からの緩和ケア ② 膀胱癌化学療法 ～最近の話題～	参加人数 76人
		参加人数計 426人

## 26. 保険診療委員会

日付	内容等
2014年5月21日	第122回 ① 査定状況について ② D P C 請求状況について ③ その他 ・2014年度D P C 係数の各医療機関の状況
2014年7月16日	第123回 ① 査定状況について ② D P C 請求状況について ③ その他 ・病名登録について
2014年9月17日	第124回 ① 査定状況について ② D P C 請求状況について ③ その他 ・後発医薬品指数について
2014年11月19日	第125回 ① 査定状況について ② D P C 請求状況について ③ その他
2015年1月21日	第126回 ① 査定状況について ② D P C 請求状況について ③ その他
2015年3月18日	第127回 ① 査定状況について ② D P C 請求状況について ③ その他 ・2015年度D P C 機能評価係数について ・転院時の退院時処方算定について

## 27. クリニカル・パス委員会

日付	内容等
2015年3月24日	第17回 ① バスの整理状況について ② がんに関するクリニカル・パスの整備・実施状況について

## 28. 健康診断事業運営委員会

【未開催】

## 29. 患者総合支援センター福祉相談部門運営委員会

日付	内容等
2014年6月12日	2014年度第1回 ① 医療福祉相談部門の概要 ② 業務報告 ③ 今年度の取組
2014年8月14日	第2回 ① 退院支援における最近の課題 ② 今年度の取組経過報告
2014年10月9日	第3回 ① 退院支援における最近の課題 ② 精神・身体合併症連携推進事業について ③ 認知症対応病院モデル事業について
2014年12月11日	第4回 ① 地域医療支援病院について ② 東三河ほいっぷネットワークについて ③ 患者総合支援センターだよりについて
2015年2月12日	第5回 ① 東三河ほいっぷネットワークについて ② 精神・身体合併症連携推進事業について ③ 患者総合支援センターだよりについて

## 30. 児童虐待対策委員会

- (1) 虐待通告 12回
- (2) 個別ケースカンファレンス 18回開催
- (3) 児童虐待セミナー 受講者 96人

2015年1月30日開催「子ども虐待 医療機関に求められる対応」

## 31. 退院調整検討委員会

長期入院患者カンファレンス、病棟ラウンド 12回開催

### 32. 呼吸療法運営委員会

日付	内容等
2014年6月4日	第7回 ① 呼吸療法に関する診療報酬について ② R S T活動状況について ③ 人工呼吸器周辺の件について
2015年3月12日	第8回 ① 呼吸ケアチーム運営要領の改定について ② 2014年度R S T活動報告 ③ 呼吸ケアチーム加算算定実績について ④ 来年度の活動について

### 33. 医療安全管理委員会・リスクマネジメント部会

日付	内容等
2014年4月3日	2014年度第1回 ① 2014年度委員会委員について ② 2014年2月分インシデント報告について ③ 2013年度重点目標の達成度調査について ④ 2014年度年間計画について ⑤ 医療安全管理の動向について
2014年5月1日	第2回 ① 2014年度委員会委員について ② 2014年3月分インシデント報告について ③ 2013年度インシデント年間集計について ④ 2014年度院内安全ラウンドについて ⑤ 2014年度重点目標について ⑥ 医療安全管理の動向について
2014年6月5日	第3回 ① 2014年4月分インシデント報告について ② リスクマネジメント講習会（薬剤）について ③ 医療安全管理の動向について
2014年7月3日	第4回 ① 2014年5月分インシデント報告について ② リスクマネジメント講習会（薬剤）について ③ 医療安全管理の動向について
2014年8月7日	第5回 ① 2014年6月分インシデント報告について ② 医療安全講習会の開催について ③ 医療安全管理の動向について
2014年9月4日	第6回 ① 2014年7月分インシデント報告について ② 医療安全講習会の開催について ③ 医療安全管理の動向について



2014年10月2日	第7回 ① 2014年8月分インシデント報告について ② 医療安全管理の動向について ③ 医療安全標語募集について
2014年11月6日	第8回 ① 2014年9月分インシデント報告について ② 2014年度上半期(4月～9月)インシデント集計について ③ リスクマネジメント講習会(医療機器)について ④ 院内監査について ⑤ 医療安全に関する標語の一次審査について ⑥ 医療安全管理の動向について
2014年12月4日	第9回 ① 2014年10月分インシデント報告について ② 2014年度内部監査について ③ 医療安全に関する標語の二次審査について ④ 医療安全管理の動向について
2015年1月8日	第10回 ① 2014年11月分インシデント報告について ② 内部監査の結果について ③ 医療安全講習会の開催について ④ 医療安全管理の動向について
2015年2月5日	第11回 ① 2014年12月分インシデント報告について ② 医療安全管理の動向について
2015年3月5日	第12回 ① 2015年1月分インシデント報告について ② 医療安全管理の動向について

#### 医療安全研修会の実施

日付	内容等	
2014年7月14日	リスクマネジメント講習会(薬剤)	受講者 146人
2014年7月15日	リスクマネジメント講習会(薬剤)	受講者 132人
2014年8月26日	医療安全講習会	受講者 207人
2014年9月2日	医療安全講習会	受講者 82人
2014年11月2日	リスクマネジメント講習会(医療機器)	受講者 104人
2014年11月10日	リスクマネジメント講習会(医療機器)	受講者 79人
2014年11月11日	リスクマネジメント講習会(医療機器)	受講者 81人
2015年2月24日	医療安全講習会	受講者 127人
2015年2月25日	医療安全講習会	受講者 57人
		合計 1,015人

## 34. 医療機器安全管理委員会

日付	内容等
2014年8月1日	第4回 ① 医療機器研修報告と2014年度計画 ② 2013年度医療機器保守点検状況及び2014年度点検計画 ③ AED使用状況 ④ 医療機器廃棄時期について ⑤ 単回使用医療機器の取り扱い等の周知について
2014年10月3日	第5回 ① 単回使用医療機器の取り扱い等の周知徹底について ② 院内取扱い規約
2015年3月11日	第6回 ① 2014年度医療機器研修報告と2015年度計画 ② 2014年度医療機器保守点検状況及び2015年度点検計画 ③ AED使用状況 ④ 薬事法改正「医薬品・医療機器等の品質、有効性及び安全性確保等に関する法律」に伴う医療機器安全管理体制の確認 ⑤ 単回医療機器の滅菌申請について

### 34-1. 透析機器安全管理部会

日付	内容等
2014年9月3日	2014年度第1回 ① 水質管理・検査報告 ② 透析機器管理報告 ③ 透析機器管理・水質管理に関する予定報告（2014年度下半期） ④ その他 血液浄化センター臨床工学より
2015年2月25日	第2回 ① 水質管理・検査報告 ② 透析機器管理報告 ③ 透析機器管理・水質管理に関する予定報告（2015年度計画） ④ その他 血液浄化センター臨床工学より

## 35. 栄養管理委員会

日付	内容等
2014年5月28日	第19回 ① 2014年度栄養管理委員会名簿について ② 2013年度食事アンケートの結果について ③ 病院給食の改善について ④ 病院給食改善スケジュールについて
2015年2月4日	第20回 ① 2014年度患者満足度調査（入院中の食事）の結果について ② 2014年度食事アンケート調査について ③ 病院給食改善について

## 36. NST運営委員会

日付	内容等
2014年5月14日	第27回 ① 2014年度NST運営委員会名簿について ② 2013年度NST活動実績について ③ 栄養管理計画書について ④ 栄養サポートチーム加算について ⑤ 2014年度NST教育カリキュラムの実施について ⑥ NST年間計画について
2015年3月4日	第28回 ① 栄養管理計画書について ② 栄養サポートチーム加算について ③ NST教育カリキュラムの実施について

## NST定期教育講演会

日付	内容等
2014年5月21日	第108回 臨床検査値の見方について 講師 小島克枝 (中央臨床検査室) 栄養管理計画書とNST回診依頼について 講師 山田恭子 (看護局)
2014年6月18日	第109回 当院の輸液製剤について 講師 坂部米治 (薬局) 当院提供の患者食について 講師 藤田克宣 (栄養管理室)
2014年7月28日	第110回 胃瘻からの半固形化栄養剤短時間注入法 講師 合田文則 (香川大学医学部附属病院)
2014年9月17日	第111回 Total nutritional therapy (TNT) 研修会報告 講師 伊藤 剛 (小児科第二部長)
2014年10月15日	第112回 高齢者の摂食嚥下の問題とその対応 講師 浅田美江 (愛知県看護協会)
2015年1月21日	第113回 今年度の学会発表報告 講師 神谷 猛 (リハビリテーション技術室) 柴田佳久 (一般外科第三部長兼肛門外科部長)
2015年2月25日	第114回 チーム医療における口腔機能管理の実践 講師 寺沢史誉 (歯科口腔外科医長) 嚥下の評価について 講師 黒木聡子 (看護局)
2015年3月18日	第115回 がん治療中の生活と栄養を考える 講師 下山理史 (愛知県がんセンター中央病院)

### 37. 褥瘡対策委員会

日付	内容等
2014年7月9日	第26回 ① 褥瘡対策に関する活動状況について ・2013年度褥瘡に関するデータ ・2013年度及び2014年度(4～6月)診療計画、ハイリスク件数、体圧分散マットレスのデータ ② 褥瘡に関する診療報酬について ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定実績 ・2014年度診療報酬改定 ③ 褥瘡対策の院内フローに関する検討事項について
2015年3月6日	第27回 ① 褥瘡対策委員会要綱改定と褥瘡対策チーム運営要領の制定について ② 褥瘡対策に関する活動状況について ・今年度の褥瘡発生状況 ・褥瘡対策チームの活動状況 ・体圧分散寝具について ③ 褥瘡対策に関する診療報酬について ・診療計画書作成状況と褥瘡ハイリスク対応状況 ・褥瘡対策に関する施設基準の届出状況と算定状況 ④ その他 ・医療機器関連圧迫創傷について ・来年度の活動について

### 38. 薬事委員会

日付	内容等
2014年5月28日	2014年度第1回 ① 前回議事録について報告 ② 試用薬品4品目について審議 ③ 試用薬品14品目について審議 ④ 変更薬品について審議 ⑤ 試用薬品の延長について審議 ⑥ 後発医薬品への変更について審議 ⑦ その他
2014年6月25日	臨時開催 ① 後発医薬品への変更について審議 ② ノバルティス社への対応について審議 ③ その他
2014年8月27日	第2回 ① 前回議事録について報告 ② 採用薬品48品目について審議 ③ 試用薬品12品目について審議 ④ 変更薬品について審議 ⑤ 中止薬品について審議 ⑥ その他

2014年9月24日	臨時開催 ① 試用薬品3品目について審議 ② 後発医薬品への変更について審議 ③ その他
2014年11月26日	第3回 ① 前回議事録について報告 ② 試用薬品48品目について審議 ③ 試用薬品12品目について審議 ④ 変更薬品について審議 ⑤ 中止薬品について審議 ⑥ 試用薬品の延長について審議 ⑦ その他
2015年1月28日	臨時開催 ① 試用薬品6品目について審議 ② 変更薬品について審議 ③ 後発医薬品への変更について審議 ④ その他
2015年2月25日	第4回 ① 前回議事録について報告 ② 新規採用薬品48品目について審議 ③ 新規試用薬品9品目について審議 ④ 変更薬品について審議 ⑤ 中止薬品について審議 ⑥ 院内製剤の承認について審議 ⑦ その他
2015年3月25日	臨時開催 ① 後発医薬品への変更について審議 ② その他

### 39. 治験審査委員会

日付	内容等
2014年5月28日	2014年度第1回 ① 前回議事録について報告 ② 2013年度 治験・フェイズIV実施状況の報告 ③ 実施中の治験の安全性について審議 ④ 重篤な有害事象に関する報告 ⑤ 実施中の治験実施計画および概要書等の変更について審議 ⑥ 治験の迅速審査について報告 ⑦ 製造販売後調査の迅速審査について報告 ⑧ その他
2014年6月25日	第2回 ① 前回議事録について報告 ② 治験の審査 ③ 実施中の治験の安全性について審議 ④ 重篤な有害事象に関する報告 ⑤ 実施中の治験実施計画および概要書等の変更について審議 ⑥ 製造販売後調査の迅速審査について報告 ⑦ その他

2014年8月27日	<p>第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 前回議事録について報告</li> <li>② 実施中の治験の安全性について審議</li> <li>③ 重篤な有害事象に関する報告</li> <li>④ 実施中の治験実施計画および概要書等の変更について審議</li> <li>⑤ 治験実施状況について審議</li> <li>⑥ 治験の終了について報告</li> <li>⑦ 治験の開発中止等について報告</li> <li>⑧ 製造販売後調査の迅速審査について報告</li> <li>⑨ その他</li> </ul>
2014年9月24日	<p>第4回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 前回議事録について報告</li> <li>② 治験の審査</li> <li>③ 実施中の治験の安全性について審議</li> <li>④ 重篤な有害事象に関する報告</li> <li>⑤ 実施中の治験実施計画および概要書等の変更について審議</li> <li>⑥ 治験実施状況について審議</li> <li>⑦ 治験の迅速審査について報告</li> <li>⑧ 製造販売後調査の迅速審査について報告</li> </ul>
2014年11月26日	<p>第5回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 前回議事録について報告</li> <li>② 治験の審査</li> <li>③ 実施中の治験の安全性について審議</li> <li>④ 重篤な有害事象に関する報告</li> <li>⑤ 実施中の治験実施計画および概要書等の変更について審議</li> <li>⑥ 治験実施状況について審議</li> <li>⑦ 治験の終了について報告</li> <li>⑧ 治験の開発中止等について報告</li> <li>⑨ 治験の迅速審査について報告</li> <li>⑩ 製造販売後調査の迅速審査について報告</li> </ul>
2015年1月28日	<p>第6回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 前回議事録について報告</li> <li>② 治験の審査</li> <li>③ 実施中の治験の安全性について審議</li> <li>④ 重篤な有害事象に関する報告</li> <li>⑤ 実施中の治験実施計画および概要書等の変更について審議</li> <li>⑥ 治験実施状況について審議</li> <li>⑦ 治験の迅速審査について報告</li> <li>⑧ 製造販売後調査について報告</li> </ul>
2015年2月25日	<p>第7回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 前回議事録について報告</li> <li>② 実施中の治験の安全性について審議</li> <li>③ 重篤な有害事象に関する報告</li> <li>④ 実施中の治験実施計画および概要書等の変更について審議</li> <li>⑤ 治験の終了について報告</li> <li>⑥ 製造販売後調査について報告</li> </ul>

2015年3月25日	<p>第8回</p> <p>① 前回議事録について報告</p> <p>② 治験の審査</p> <p>③ 実施中の治験の安全性について審議</p> <p>④ 重篤な有害事象に関する報告</p> <p>⑤ 実施中の治験実施計画および概要書等の変更について審議</p> <p>⑥ 治験実施状況について審議</p> <p>⑦ 治験の終了について報告</p> <p>⑧ 製造販売後調査について報告</p>
------------	---

#### 40. 輸血療法委員会

日付	内容等
2014年4月8日	<p>第118回</p> <p>① 前回議事録の確認</p> <p>② RBC、FFP、ALBの使用量推移と輸血管管理料</p> <p>③ 廃棄率集計報告</p> <p>④ 血液製剤の使用量、廃棄量の年次推移</p> <p>⑤ 輸血副作用集計報告</p> <p>⑥ 製剤大量使用・ノークロス依頼事例</p> <p>⑦ クリオプレシピテート使用状況</p> <p>⑧ アルブミン製剤管理状況について</p> <p>⑨ 専用メッセンジャーによる血液製剤の配達について</p> <p>⑩ その他</p>
2014年6月17日	<p>第119回</p> <p>① 前回議事録の確認</p> <p>② RBC、FFP、ALBの使用量推移と輸血管管理料</p> <p>③ 廃棄率集計報告</p> <p>④ 輸血副作用集計報告</p> <p>⑤ 製剤大量使用・ノークロス依頼事例</p> <p>⑥ クリオプレシピテート使用状況</p> <p>⑦ 専用メッセンジャーによる血液製剤の配達について</p> <p>⑧ 輸血センター名称変更について</p> <p>⑨ その他</p>
2014年8月19日	<p>第120回</p> <p>① 前回議事録の確認</p> <p>② RBC、FFP、ALBの使用量推移と輸血管管理料</p> <p>③ 廃棄率集計報告</p> <p>④ 輸血副作用集計報告</p> <p>⑤ 製剤大量使用・ノークロス依頼事例</p> <p>⑥ クリオプレシピテート使用状況</p> <p>⑦ 血液製剤名称変更について</p> <p>⑧ 輸血前・輸血後感染症検査について</p> <p>⑨ 自己血について</p> <p>⑩ 製剤運用について</p> <p>⑪ その他</p>

2014年10月14日	<p>第 121 回</p> <p>① 前回議事録の確認</p> <p>② RBC、FFP、ALB の使用量推移と輸血管管理料</p> <p>③ 廃棄率集計報告</p> <p>④ 輸血副作用集計報告</p> <p>⑤ 製剤大量使用・ノークロス依頼事例</p> <p>⑥ クリオプレシピテート使用状況</p> <p>⑦ 委員の追加および変更</p> <p>⑧ その他</p>
2014年12月16日	<p>第 122 回</p> <p>① 前回議事録の確認</p> <p>② RBC、FFP、ALB の使用量推移と輸血管管理料</p> <p>③ 廃棄率集計報告</p> <p>④ 輸血副作用集計報告</p> <p>⑤ 製剤大量使用・ノークロス依頼事例</p> <p>⑥ クリオプレシピテート使用状況</p> <p>⑦ 日赤年末年始血液製剤供給状況</p> <p>⑧ 副作用報告について</p> <p>⑨ その他</p>
2015年 2 月10日	<p>第 123 回</p> <p>① 前回議事録の確認</p> <p>② RBC、FFP、ALB の使用量推移と輸血管管理料</p> <p>③ 廃棄率集計報告</p> <p>④ 輸血副作用集計報告</p> <p>⑤ 製剤大量使用・ノークロス依頼事例</p> <p>⑥ クリオプレシピテート使用状況</p> <p>⑦ クリオプレシピテート在庫状況</p> <p>⑧ 副作用報告について</p> <p>⑨ 委員の確認について</p> <p>⑩ その他</p>

#### 41. 臨床検査連絡委員会

日 付	内容等
2014年 8 月 1 日	<p>第 43 回</p> <p>① 検査実施状況について</p> <p>② 2014 年度機器等更新について</p> <p>③ 2014 年度新規業務について</p> <p>④ 自費検査登録申請について</p> <p>⑤ パニック値報告の運用変更について</p> <p>⑥ 血算（CBC/5DIFF）結果報告について</p> <p>⑦ その他</p>



## 42. 剖検・CPC委員会

日付	内容等
2014年5月29日	2014年度第1回 ① 慰霊祭について ② 2013年度解剖数について ③ 病理解剖結果報告について ④ その他

## 43. 放射線技術室連絡委員会

日付	内容等
2014年6月19日	第14回 ① 委員会要綱と2014年度委員会名簿の確認 ② デジタルX線撮影システムの推薦機種について ③ 2015年度の放射線機器の要求について ④ 条件付きMRI対応神経刺激システムの対応について ⑤ 血管撮影装置のバックアップ電源の対応について ⑥ 同日に2件のCTオーダーがある場合の検査の一本化について ⑦ CTコロノグラフィー検査について

## 44. リハビリテーションセンター運営委員会

【未開催】

## 45. 放射線安全委員会

日付	内容等
2014年6月3日	2014年度第1回 ① 2014年度放射線安全委員について ② 豊橋市民病院放射線障害予防規定の変更について ③ 2013年度 従事者登録と教育および健康診断の実施状況報告 ④ 2013年度 管理状況報告書の提出について ⑤ 2014年度保管線源の登録について

## 46. 医療ガス安全・管理委員会

日付	内容等
2015年3月10日	2014年度第1回 ① 液化酸素ガス保有状況、笑気ガスボンベ交換状況について ② 医療ガス設備の保守点検状況、整備の計画について

## 47. 豊橋市医師会・豊橋市民病院病診連携協議会

【V 診療業務概要、活動報告 患者総合支援センターに記載】

## 48. 地域医療支援委員会

日付	内容等
2014年6月12日	2014年度第1回 ① 地域医療支援病院の取り組み状況について ・2013年度紹介率・逆紹介率の状況 ・2014年5月末現在の地域連携登録医の状況 ・2014年5月末現在の地域連携登録医による共同利用等の状況 ・2014年度地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修計画 ・2013年の地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修実績 ② その他
2014年8月21日	第2回 ① 地域医療支援病院の承認スケジュールについて ② 地域医療支援病院の取り組み状況について ・2014年度紹介率・逆紹介率の状況 ・2014年7月末現在の地域連携登録医の状況 ・2014年7月末現在の地域連携登録医による共同利用等の状況 ・2014年度後期の研修日程について ③ その他 ・在宅療養支援診療所の施設基準届出に関する連携について
2014年11月20日	第3回 ① 地域医療支援病院の名称承認について ② 地域医療支援病院の取り組み状況について ・2014年度紹介率・逆紹介率の状況 ・2014年10月末現在の地域連携登録医の状況 ・2014年度の地域連携登録医による共同利用等の状況 ・2014年度前期の研修実績について ③ その他 ・新たな委員の選出について ・東三河ほいっぷネットワークへの参加について
2015年2月5日	第4回開催 ① 地域医療支援病院の取り組み状況について ・2014年度紹介率・逆紹介率の状況 ・2014年12月末現在の地域連携登録医の状況 ・2014年度の地域連携登録医による共同利用等の状況 ・2014年度の研修実績について ② その他 ・当院における東三河ほいっぷネットワーク電子連絡帳の運用開始について ・次年度の委員選出について

### 48-1. 共同利用運営委員会

【未開催】

### 48-2. 地域医療従事者研修委員会

【未開催】

#### 49. 総合周産期母子医療センター運営委員会

日付	内容等
2014年8月29日	2014年度第1回 ① 委員会設置要綱及び委員名簿 ② 2014年度総合周産期母子医療センター活動状況 ③ 症例検討 ④ その他
2014年12月12日	第2回 ① 2014年度総合周産期母子医療センター活動状況 ② 症例検討 ③ その他（パースセンター症例）

#### 50. 豊橋市民病院院外処方連絡協議会

日付	内容等
2015年3月16日	2014年度第1回 ① 前回議事録について報告 ② 調剤過誤について ③ 後発医薬品について ④ 薬薬連携について ⑤ その他

# 編集後記

今年もようやく昨年度の病院年報を完成することができた。現在の編集方法の基本は2011年版から始めている。最も大きな変更点は、病院全体および各科の診療実績のとりまとめを各部署および各科に依頼していたものを、電子カルテに保存された一次診療情報から医療情報課において一定の様式で集計することにしたことである。また、学会等の学術活動の実績も医療情報課で日頃からデータベース作成をおこない年報編集にあわせて抽出整理を可能にした。結局、年報の完成時期が大きく早まることはなかったが、これまでとりまとめに関わった、特に医師の負担は減り本来の診療の妨げになることは無くなったと考える。これらの作業に多くのドクタークラーク（医師事務作業補助者）が関わられるようになったことも大きい。

この編集方法は4年目にしてそれなりの完成度に到達したと言えるが、次の段階の問題に取り組む時期にあることも明らかとなってきた。それは一次診療情報の精度を高めることである。電子カルテに残された一次診療情報の精度が低ければ、これにもとづく二次利用にあたる年報の精度も低いことになる。現状ではこの問題を早急に解決することは難しいが、粘り強く取り組んでいきたいと考えている。

年報編集委員会委員長 杉浦 勇

## 編 集 委 員

2015年4月現在

区 分	職 名	氏 名
委 員 長	副院長 兼医局血液・腫瘍内科部長 兼輸血・細胞治療センター長 兼外来治療センター長 兼卒後臨床研修センター長	杉 浦 勇
編 集 委 員	医局循環器内科第二部長	成 瀬 賢 伸
編 集 委 員	医局消化器内科部長	浦 野 文 博
編 集 委 員	医局一般外科第四部長	吉 原 基
編 集 委 員	医局小児科第二部長	伊 藤 剛
編 集 委 員	医局産婦人科第一部長 兼周産期母子医療センター長（母体・胎児部門）	河 井 通 泰
編 集 委 員	診療技術局放射線技術室長補佐 兼医療安全管理室長補佐	平 田 政 和
編 集 委 員	診療技術局中央臨床検査室長補佐 兼医療安全管理室長補佐	三ツ矢 康 乃
編 集 委 員	薬局製剤調製グループ主査	菰 田 容 子
編 集 委 員	看護局人事科長	間 瀬 有 奈
編 集 委 員	事務局管理課長補佐	中 野 浩 二
編 集 委 員	事務局医事課長補佐	渡 會 善 信
編 集 委 員	事務局医療情報課長補佐	鈴 木 康 弘
オブザーバー	院長	岡 村 正 造

事 務 局	医療情報課企画推進グループ主査	原 瀬 正 敏
事 務 局	医療情報課企画推進グループ	天 野 磨 美 子

## 豊橋市民愛市憲章

わたくしたち豊橋市民は

1. 心をあわせ美しい町をつくりましょう
1. よく働き豊かな町をつくりましょう
1. 愛情をもちあたたかい町をつくりましょう
1. きまりを守り明るい町をつくりましょう
1. 教養をたかめ文化の町をつくりましょう

---

## 病院年報 第24巻

平成 27(2015)年 12 月 発刊

発 刊：豊橋市民病院

〒441-8570

豊橋市青竹町字八間西50番地

TEL (0532) 33-6111 (代表) FAX (0532) 33-6177

編 集：年報編集委員会

印 刷：有限会社 伊藤印刷

---



## 豊橋市民病院

〒441-8570 豊橋市青竹町字八間西50番地

TEL 〈0532〉 33-6111

FAX 〈0532〉 33-6177

インターネットホームページ

<http://www.municipal-hospital.toyohashi.aichi.jp/>